

小平市政に関する世論調査報告書

第 18 回

平成 25 年 3 月

小 平 市

目 次

調査実施の概要	3
調査回答者の属性	7
調査結果の分析	13
1 定住志向について	13
（1）居住年数	13
（2）市の住みよさ	14
（3）市の定住意向	17
（3-1）住み続けたい理由	20
（3-2）転居したい理由	24
2 生活環境について	28
（1）生活環境評価	28
3 地域社会について	37
（1）現在参加している地域活動	37
（2）協働のまちづくりに向けて必要なこと	40
（3）地域センターの利用状況	43
4 安全・安心について	46
（1）居住地域の治安について	46
（2）日頃の地震対策	49
（2-1）日頃の地震対策の内容	52
（3）参加した防災活動の内容	55
5 市民相談について	58
（1）市が実施している相談窓口の認知状況	58
6 文化・歴史について	61
（1）文化・芸術活動の鑑賞頻度	61
（2）市の歴史的遺産に対する関心	63
7 環境・ごみ処理について	66
（1）地球環境保全に対する関心	66
（2）地球環境に配慮した行動の有無	68
（3）ごみと資源の分別方法と出し方の認知状況	71
8 多様な生き方の尊重について	74
（1）男女平等社会の実現度	74
9 健康・高齢者福祉について	76
（1）健康に対する意識	76
（2）運動を行う頻度	78
（3）健康診断の受診状況	81
（3-1）健康診断を受けなかった理由	84
（4）高齢者が安心して暮らすために必要な施策	87

10	教育について	90
(1)	教育環境の充実度	90
(2)	学校支援ボランティアへの参加状況	93
11	生涯学習について	96
(1)	公民館の利用状況	96
(2)	図書館の利用状況	99
(3)	生涯学習活動の頻度	102
12	景観について	105
(1)	居住地の景観について	105
13	交通安全について	108
(1)	市内の交通ルールやマナーについて	108
14	商業について	111
(1)	市内での買い物状況	111
(1-1)	市内で買い物をしない理由	114
15	農業について	117
(1)	小平産農産物の購入状況	117
(1-1)	小平産農産物を購入しない理由	120
16	観光について	123
(1)	おすすめする小平市の見どころ	123
(2)	小平市をPRするために必要な取り組み	126
17	情報提供について	129
(1)	市の情報の公開、提供状況	129
(2)	市政情報の入手方法	132
(3)	情報提供のわかりやすさ	136
18	公共施設について	139
(1)	市内の公共施設の今後のあり方	139
19	行政サービスの向上・改善について	154
(1)	市職員への評価	154
(2)	市職員に必要な能力・資質	157
(3)	市が提供するサービスの向上や改善状況	159
20	市議会について	161
(1)	市議会の傍聴経験の有無	161
(1-1)	市議会の傍聴をしたことがない理由	164
(2)	市議会のインターネット録画中継の視聴状況	167
21	今後の市政について	170
(1)	市の将来都市像実現のための政策	170
(2)	自由意見	174
	調査票	179
	調査結果の集計表	199

調査実施の概要

調査実施の概要

1 調査目的

市民の生活意識と、市政に対する市民の意向・要望を把握し、行政全般にわたる施策遂行上の参考資料を得ることを目的とする。

2 調査設計

- (1) 調査地域 小平市全域
- (2) 調査対象 小平市在住の満18歳以上の男女個人
- (3) 標本数 2,000人
- (4) 標本抽出 住民基本台帳からの無作為抽出
- (5) 調査方法 郵送法（郵送配布 - 郵送回収・はがき督促を1回）
- (6) 調査期間 平成24年7月26日（木）～8月13日（月）

3 調査実施機関

一般社団法人 中央調査社

4 調査内容

- (1) 定住志向について
- (2) 生活環境について
- (3) 地域社会について
- (4) 安全・安心について
- (5) 市民相談について
- (6) 文化・歴史について
- (7) 環境・ごみ処理について
- (8) 多様な生き方の尊重について
- (9) 健康・高齢者福祉について
- (10) 教育について
- (11) 生涯学習について
- (12) 景観について
- (13) 交通安全について
- (14) 商業について
- (15) 農業について
- (16) 観光について
- (17) 情報提供について
- (18) 公共施設について
- (19) 行政サービスの向上・改善について
- (20) 市議会について
- (21) 今後の市政について
- (22) あなたご自身のこと（回答者属性）について

5 回収結果

- (1) 標本数 2,000人
- (2) 有効回収数 1,009人
- (3) 有効回収率 50.5%

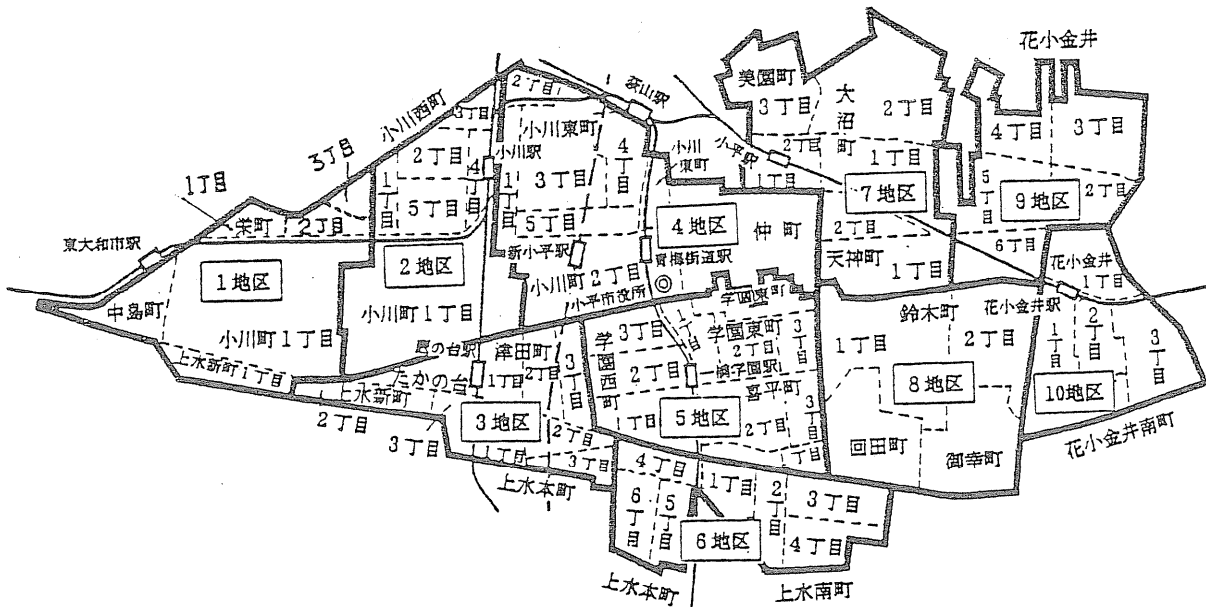
6 地区区分

地域的特性を把握するために、小平市内を10地区に分けた。この地区区分は、行政区分と市民の生活圏を重視し、利用交通機関などを参考にしている。

(1) 地区内の該当町丁目

地区区分	該当町丁目
第1地区	中島町、栄町1～3丁目、小川町1丁目73～741・2488～2599、上水新町1丁目
第2地区	小川西町1～5丁目、小川町1丁目(上記以外の地区)
第3地区	たかの台、津田町1～3丁目、上水新町2・3丁目、上水本町1～3丁目
第4地区	小川東町及び小川東町1～5丁目、小川町2丁目、仲町
第5地区	学園西町1～3丁目、学園東町及び学園東町1～3丁目、喜平町1～3丁目
第6地区	上水本町4～6丁目、上水南町1～4丁目
第7地区	美園町1～3丁目、大沼町1・2丁目、天神町1・2丁目
第8地区	鈴木町1・2丁目、回田町、御幸町
第9地区	花小金井2～6丁目
第10地区	花小金井1丁目・花小金井南町1～3丁目

(2) 地区区分図



7 報告書の見方

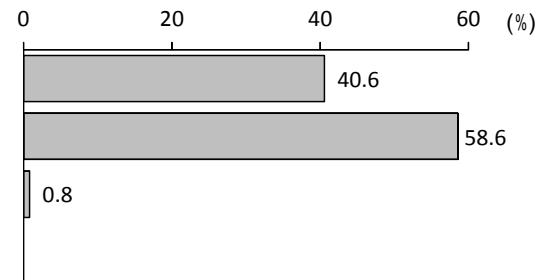
- (1) 集計は、小数点第2位を四捨五入してある。したがって、数値の合計が100.0%ちょうどにならない場合がある。
- (2) 回答の比率(%)は、その質問の回答者数を基数として算出した。したがって、複数回答の設問はすべての比率を合計すると100.0%を超えることがある。
- (3) 基数となるべき実数は、(n)として表示した。その比率は、件数を100%として算出した。
- (4) 本文や図表中の選択肢表記は、場合によっては語句を短縮・簡略化している場合がある。
- (5) 図中の比率の小さい項目については、省略しているところもある。

調査回答者の属性

調査回答者の属性

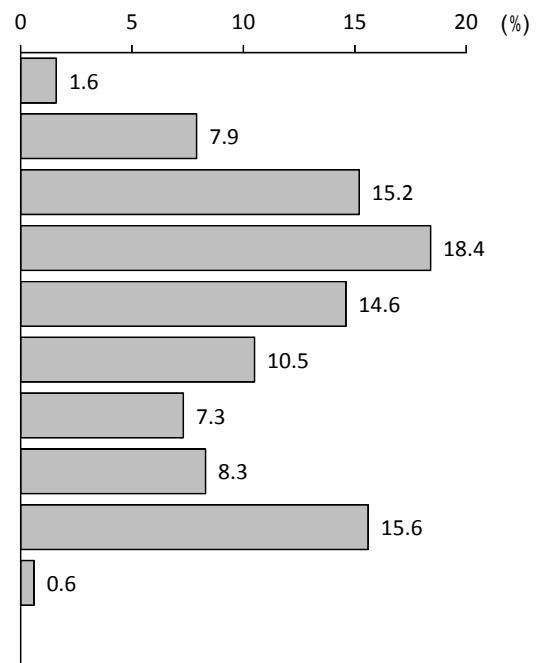
F 1 性別

	基数	構成比
男性	410	40.6%
女性	591	58.6%
無回答	8	0.8%
全体	1,009	100.0%



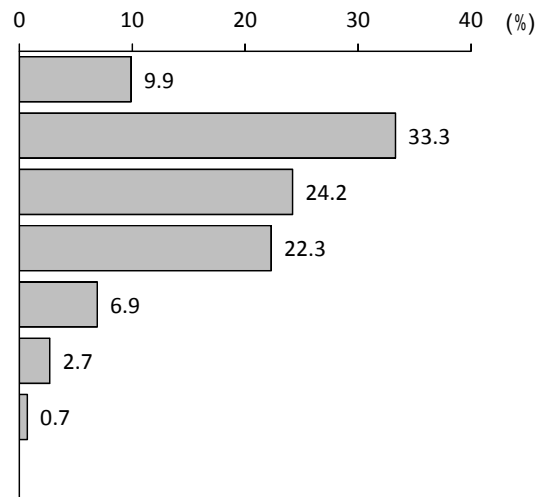
F 2 年齢

	基数	構成比
18～19歳	16	1.6%
20～29歳	80	7.9%
30～39歳	153	15.2%
40～49歳	186	18.4%
50～59歳	147	14.6%
60～64歳	106	10.5%
65～69歳	74	7.3%
70～74歳	84	8.3%
75歳以上	157	15.6%
無回答	6	0.6%
全体	1,009	100.0%



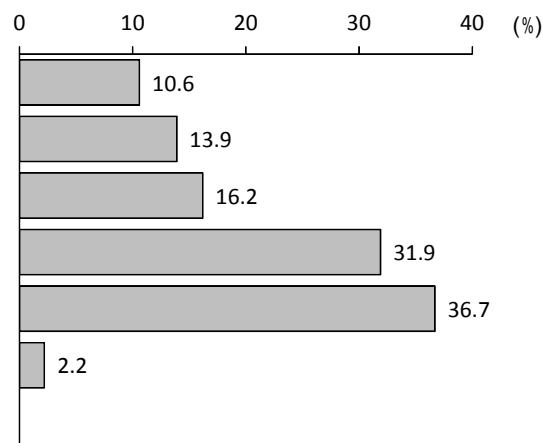
F 3 家族人数

	基数	構成比
1人	100	9.9%
2人	336	33.3%
3人	244	24.2%
4人	225	22.3%
5人	70	6.9%
6人以上	27	2.7%
無回答	7	0.7%
全体	1,009	100.0%



F 4 同居家族

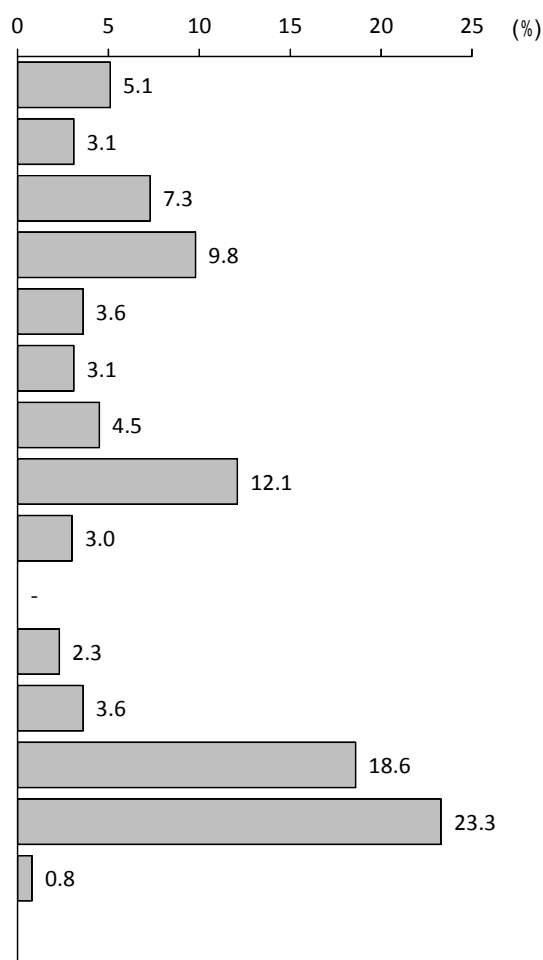
	基数	構成比
1 同居の乳幼児・未就学児	107	10.6%
2 同居の小学生・中学生	140	13.9%
3 同居の高校生・大学生	163	16.2%
4 同居の65歳以上の高齢者	322	31.9%
1~4の該当者はいない	370	36.7%
無回答	22	2.2%
全体	1,009	111.5%



複数回答のため、構成比は100%を超える。

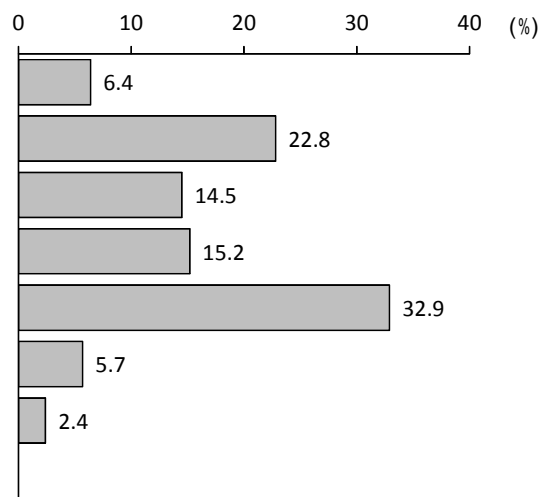
F 5 職業

	基数	構成比
自営業(農林業、商工サービス業)	51	5.1%
自由業(開業医、弁護士、作家、芸術家など)	31	3.1%
事務職(一般事務、オペレーターなど)	74	7.3%
専門技術職(勤務医師、研究者、技術者、教員など)	99	9.8%
生産工程・技術職(技能工、運転手、美容師など)	36	3.6%
販売・サービス業(店員・外交員など)	31	3.1%
役員・管理職	45	4.5%
パート・アルバイト・臨時雇用	122	12.1%
派遣社員・契約社員	30	3.0%
内職	0	0.0%
その他	23	2.3%
学生	36	3.6%
専業主婦	188	18.6%
無職(年金生活者を含む)	235	23.3%
無回答	8	0.8%
全体	1,009	100.0%



F 6 勤務先、通学先

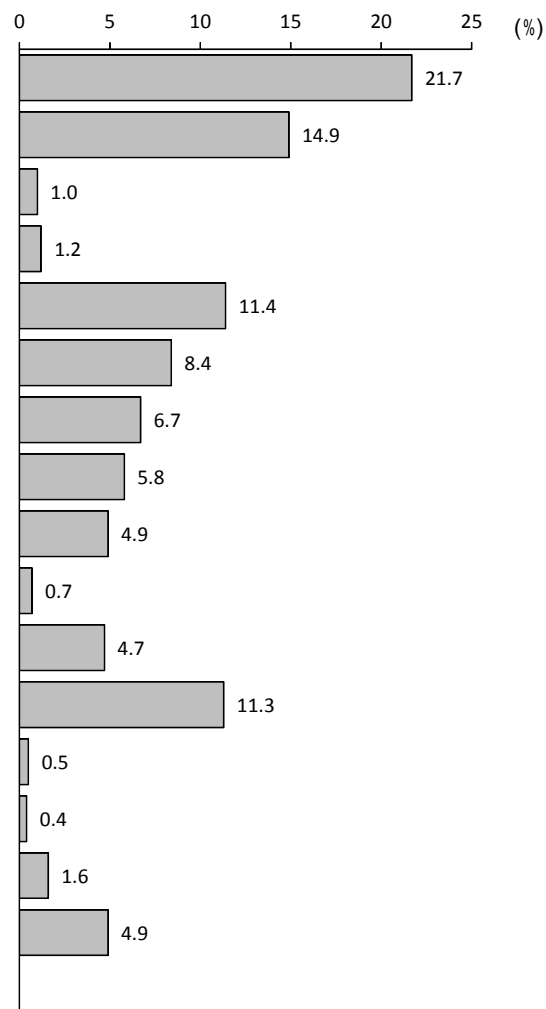
	基数	構成比
1 自宅	37	6.4%
2 小平市内	132	22.8%
3 小平市の隣接市	84	14.5%
1～3以外の都内市町村	88	15.2%
東京23区	190	32.9%
その他	33	5.7%
無回答	14	2.4%
該当者	578	100.0%



「専業主婦」及び「無職(年金生活者)」は非該当設問としている。

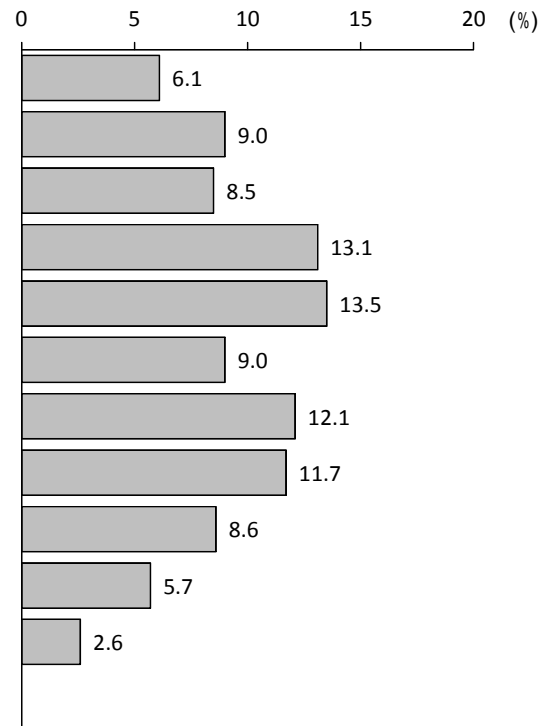
F 7 鉄道の最寄り駅

	基数	構成比
花小金井駅	219	21.7%
小平駅	150	14.9%
萩山駅	10	1.0%
青梅街道駅	12	1.2%
一橋学園駅	115	11.4%
鷹の台駅	85	8.4%
小川駅	68	6.7%
新小平駅	59	5.8%
東大和市駅	49	4.9%
八坂駅	7	0.7%
武蔵小金井駅	47	4.7%
国分寺駅	114	11.3%
立川駅	5	0.5%
その他	4	0.4%
鉄道は利用しない	16	1.6%
無回答	49	4.9%
全体	1,009	100.0%



F 8 居住地区

	基数	構成比
第1地区	62	6.1%
第2地区	91	9.0%
第3地区	86	8.5%
第4地区	132	13.1%
第5地区	136	13.5%
第6地区	91	9.0%
第7地区	122	12.1%
第8地区	118	11.7%
第9地区	87	8.6%
第10地区	58	5.7%
無回答	26	2.6%
全体	1,009	100.0%



調査結果の分析

調査結果の分析

1 定住志向について

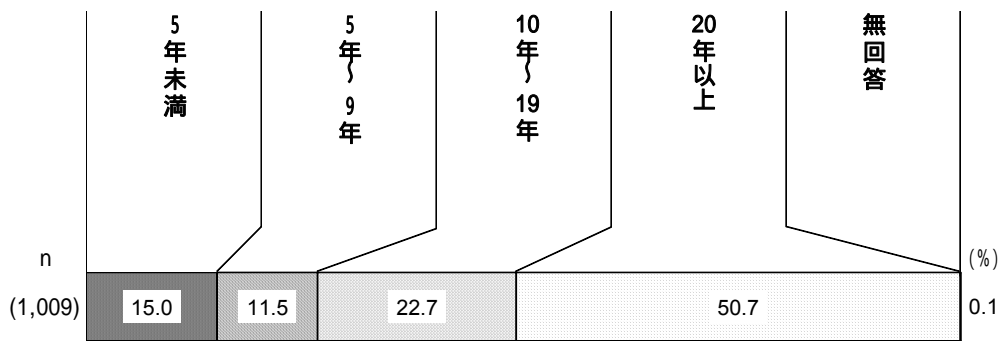
(1) 居住年数

「20年以上」の長期居住者が50.7%。

問1 あなたは、小平市に住んで何年になりますか。(は1つ)			
〔n=1,009〕			
1. 5年未満	15.0%	3. 10年～19年	22.7
2. 5年～9年	11.5	4. 20年以上	50.7
		(無回答)	0.1

居住年数は、「20年以上」の長期居住者が50.7%で多く、「10年～19年」も22.7%と比較的多くなっている。(図1-1)

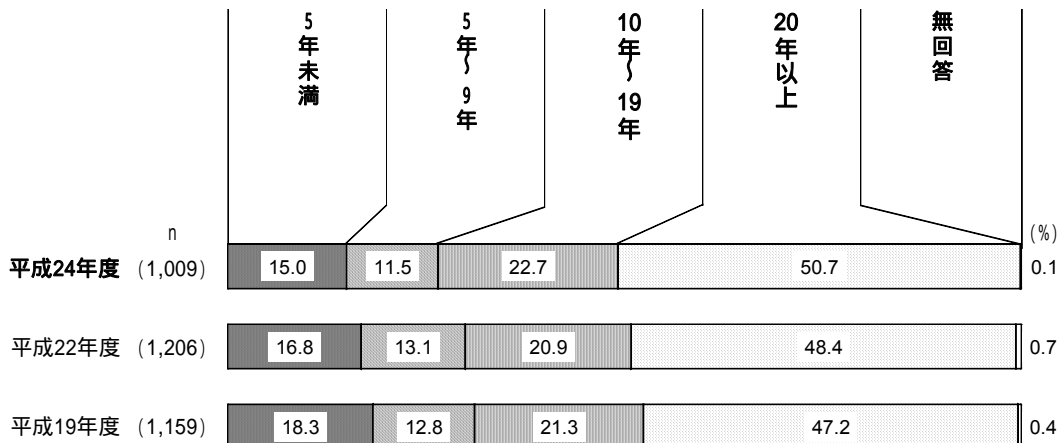
<図1-1> 居住年数



【時系列比較】

時系列の比較では、特に大きな差はみられない。(図1-2)

<図1-2> 時系列比較



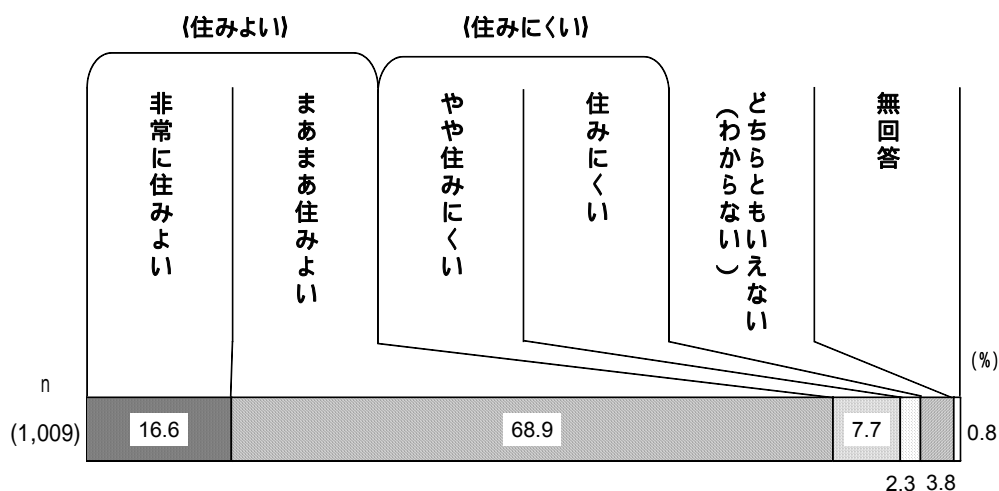
(2) 市の住みよさ

《住みよい》は85.5%。

問2 あなたは、現在の小平市を住みよいと思いますか。(は1つ)			
〔n=1,009〕			
1. 非常に住みよい	16.6%	3. やや住みにくい	7.7
2. まあまあ住みよい	68.9	4. 住みにくい	2.3
		5. どちらともいえない(わからない)	3.8
		(無回答)	0.8

小平市の住みよさは、「非常に住みよい」が16.6%、「まあまあ住みよい」が68.9%で、これをあわせた《住みよい》は85.5%となっている。一方、《住みにくい》(「住みにくい」+「やや住みにくい」)は10.0%となっている。(図1-3)

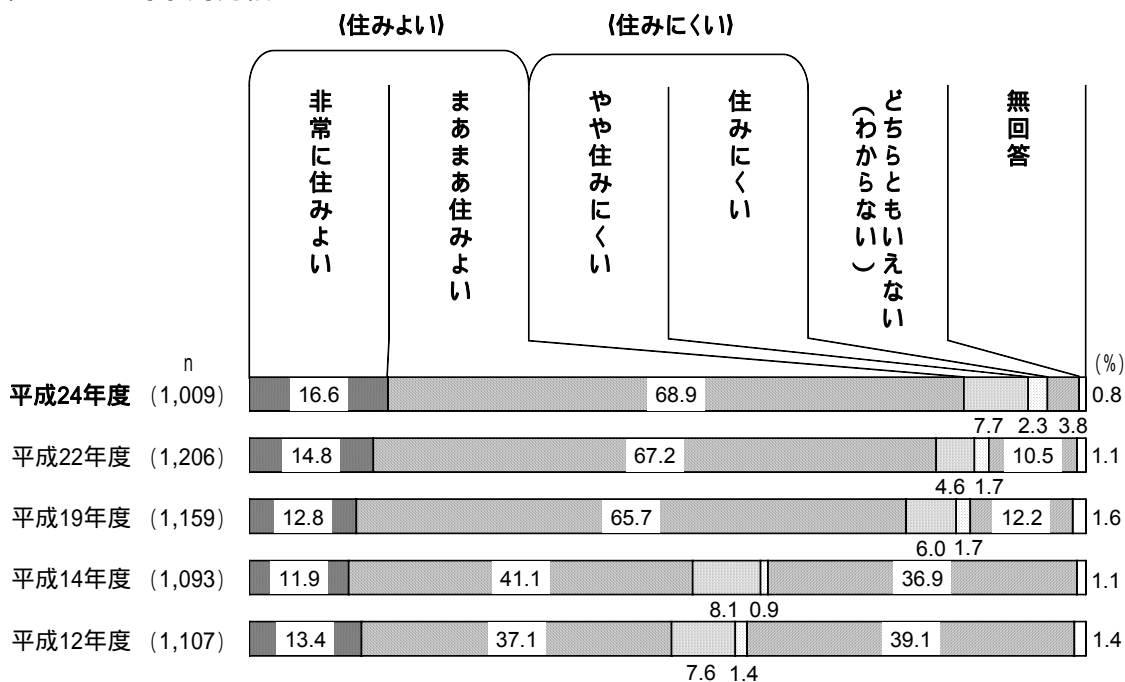
<図1-3> 市の住みよさ



【時系列比較】

時系列で比較すると、《住みよい》は調査ごとに増加し、前回(平成22年度)調査(82.0%)と比較して今回調査(85.5%)は3.5ポイント増加している。(図1-4)

<図1-4> 時系列比較



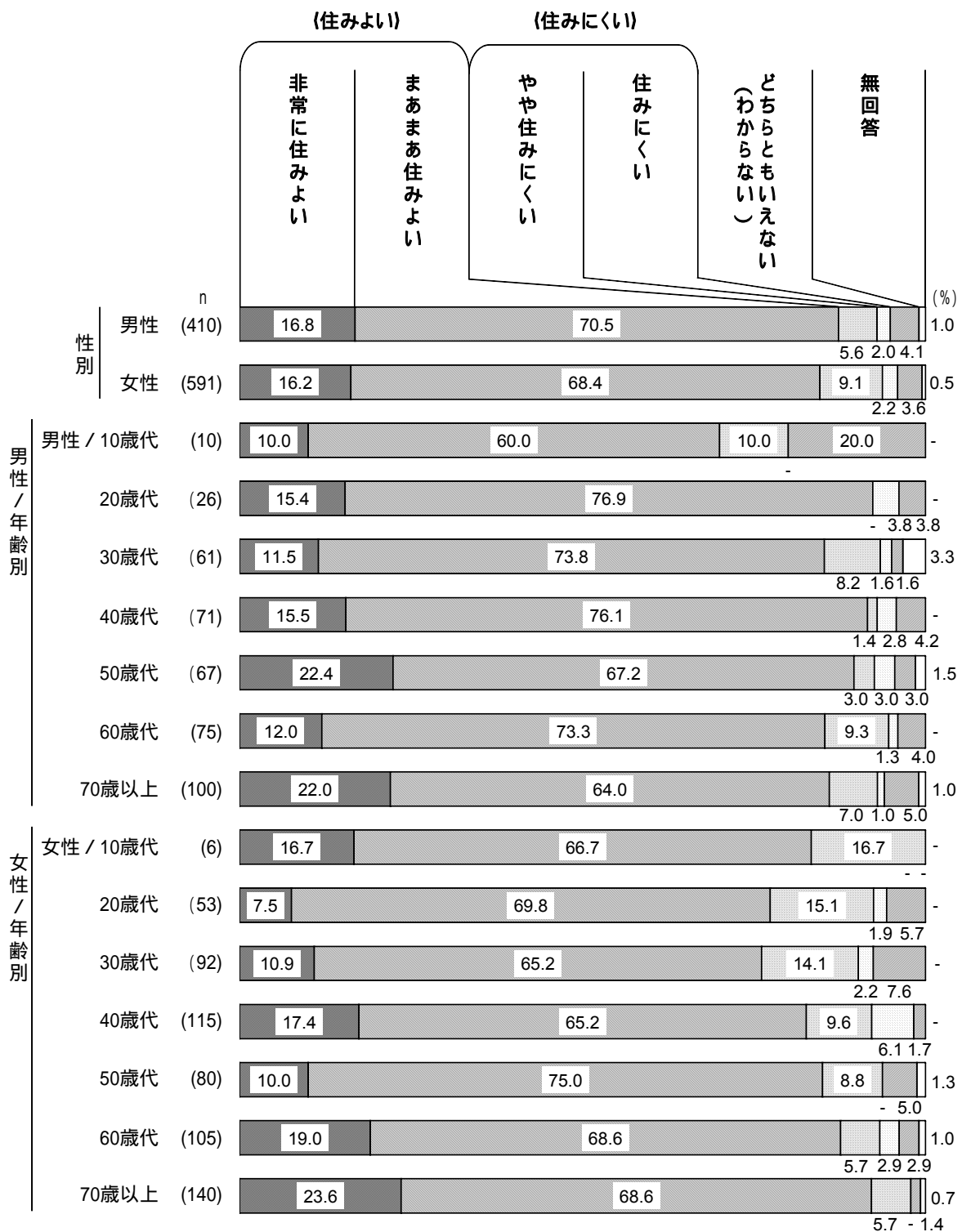
【性別・性 / 年齢別】

性別にみると、《住みよい》は男性が87.3%、女性が84.6%となっており、いずれも8割台と多くなっている。その差はわずかであるが、男性が2.7ポイント上回っており、男性の方が住みよさを感じていることがわかる。

性・年齢別にみると、《住みよい》は男性の20歳代でもっとも多く92.3%、次に40歳代が91.6%となっており9割台で続く。なお、30歳代(85.3%)、50歳代(89.6%)、60歳代(85.3%)、70歳以上(86.0%)についても8割台となっており、全体的に《住みよい》が多くを占める。

女性は70歳以上が92.2%でもっとも多く、次に10歳代(83.4%)、40歳代(82.6%)、50歳代(85.0%)、60歳代(87.6%)が8割台で続く。なお、もっとも少ないのは30歳代の76.1%(僅差で20歳代が77.3%)となっており、70歳以上とは16.1ポイントの差がみられる。(図1-5)

< 図1-5 > 性別・性 / 年齢別

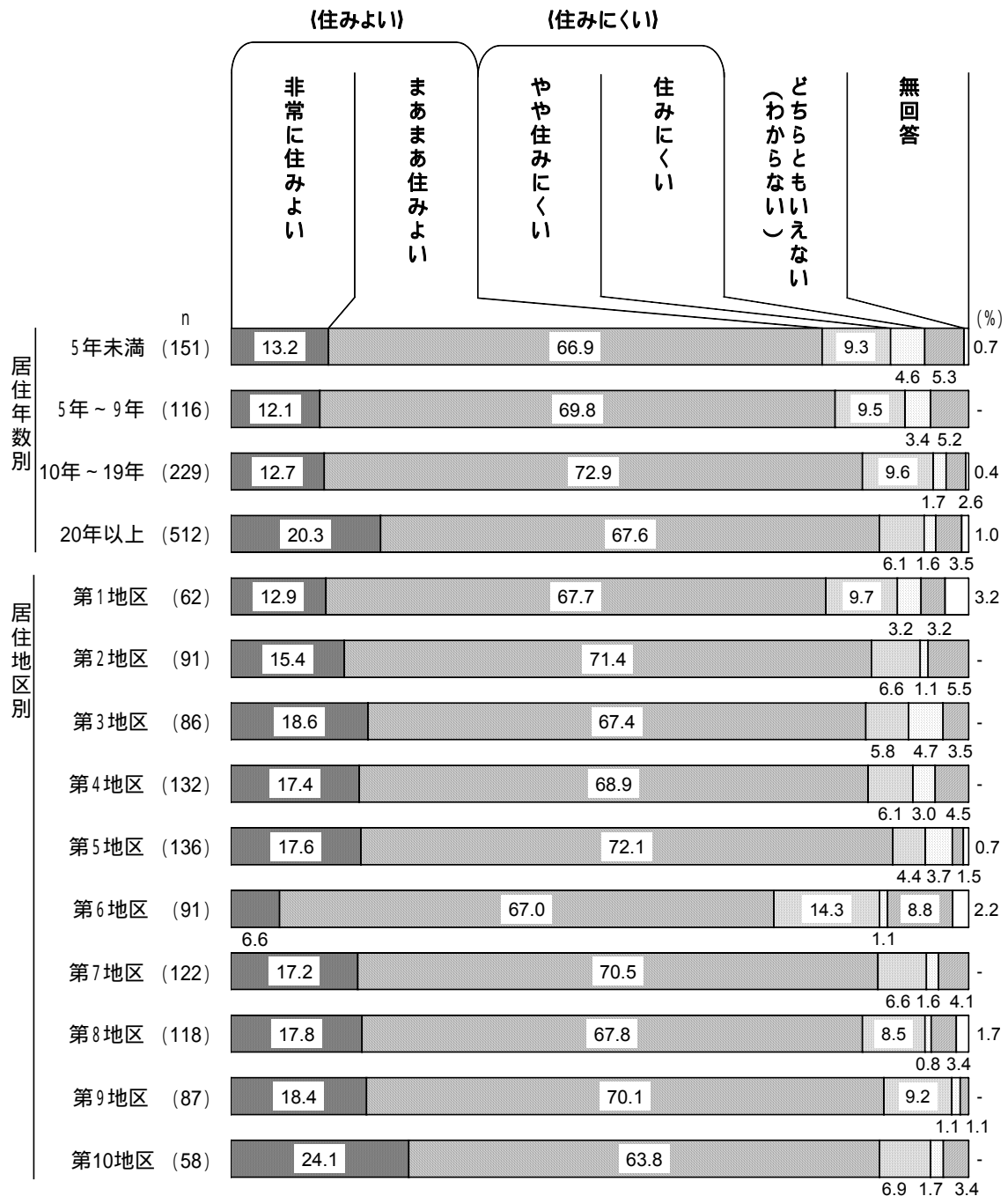


【居住年数別・居住地区別】

居住年数別にみると、《住みよい》は20年以上の87.9%がもっとも多く、5年未満でもっとも少ない80.1%となっているが、いずれの居住年数においても8割台となっており、その住みよさがうかがえる。

居住地区別にみると、《住みよい》はほとんどの地区で8割台と多くを占め、もっとも多いのが第5地区の89.7%で、次に第9地区（88.5%）、第10地区（87.9%）、第7地区（87.7%）が続いている。もっとも少ないのは第6地区の73.6%で唯一の7割台となっており、第5地区とは16.1ポイントの差がある。（図1-6）

< 図1-6 > 居住年数別・居住地区別



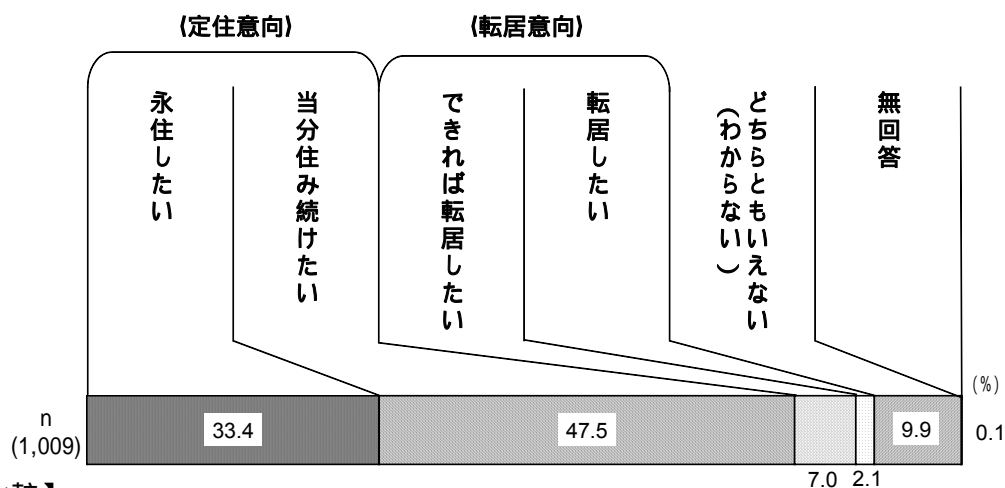
(3) 市の定住意向

《定住意向》が80.9%。

問3 あなたは、これからも小平市にお住まいになりますか。(住み続けたいと思いますか。)			
			(は1つ)
[n=1,009]			
1. 永住したい	33.4%	4. 転居したい	2.1
2. 当分住み続けたい	47.5	5. どちらともいえない(わからない)	9.9
3. できれば転居したい	7.0	(無回答)	0.1

今後の小平市への定住意向では、「永住したい」が33.4%、「当分住み続けたい」が47.5%で、これをあわせた《定住意向》は80.9%と多くなっている。また、《転居意向》(「転居したい」+「できれば転居したい」)は9.1%で1割未満となっている。(図1-7)

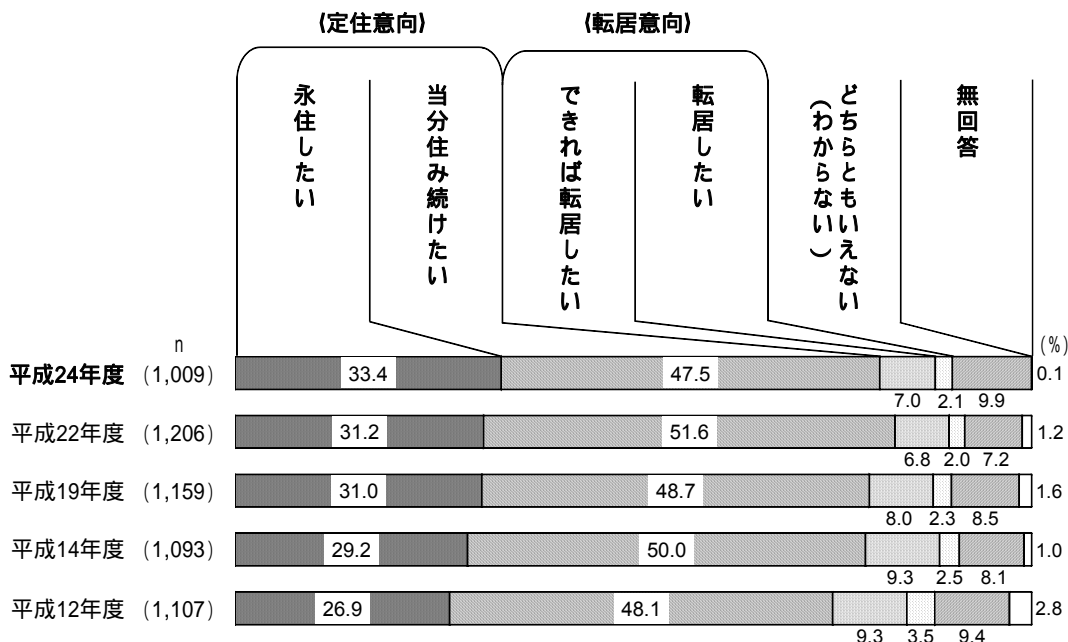
<図1-7> 市の定住意向



【時系列比較】

時系列で比較すると、《定住意向》は平成22年度までは、調査ごとに増加していたが、前回(平成22年度)調査(82.8%)と比較して今回調査(80.9%)は1.9ポイント減少している。なお、「どちらともいえない(わからない)」が2.7ポイント増加する結果となっている。(図1-8)

<図1-8> 時系列比較

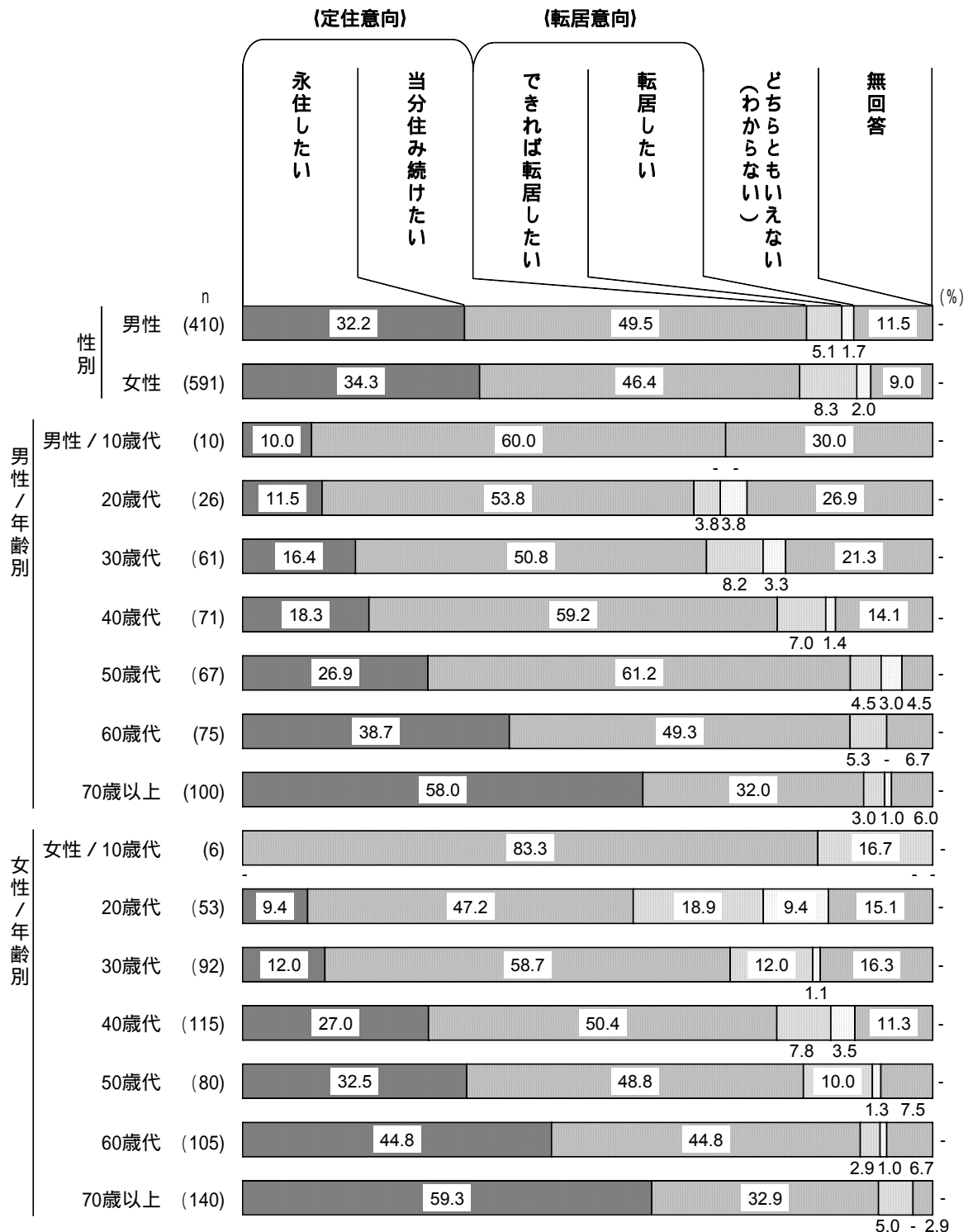


【性別・性 / 年齢別】

性別にみると、《定住意向》は男性が81.7%、女性が80.7%となっており、いずれも8割台と多くなっている。

性・年齢別にみると、《定住意向》は男性が70歳以上で90.0%と唯一の9割台でもっとも多く、次に50歳代が88.1%、僅差で60歳代が88.0%で続き、8割台となっている。もっとも少ないのは20歳代の65.3%（同程度で30歳代が67.2%）となっており、70歳以上とは24.7ポイントの差がある。女性は70歳以上がもっとも多く92.2%となっており、次に60歳代の89.6%が続く。もっとも少ないのは20歳代の56.6%で70歳以上とは35.6ポイントの差がある。（図1 - 9）

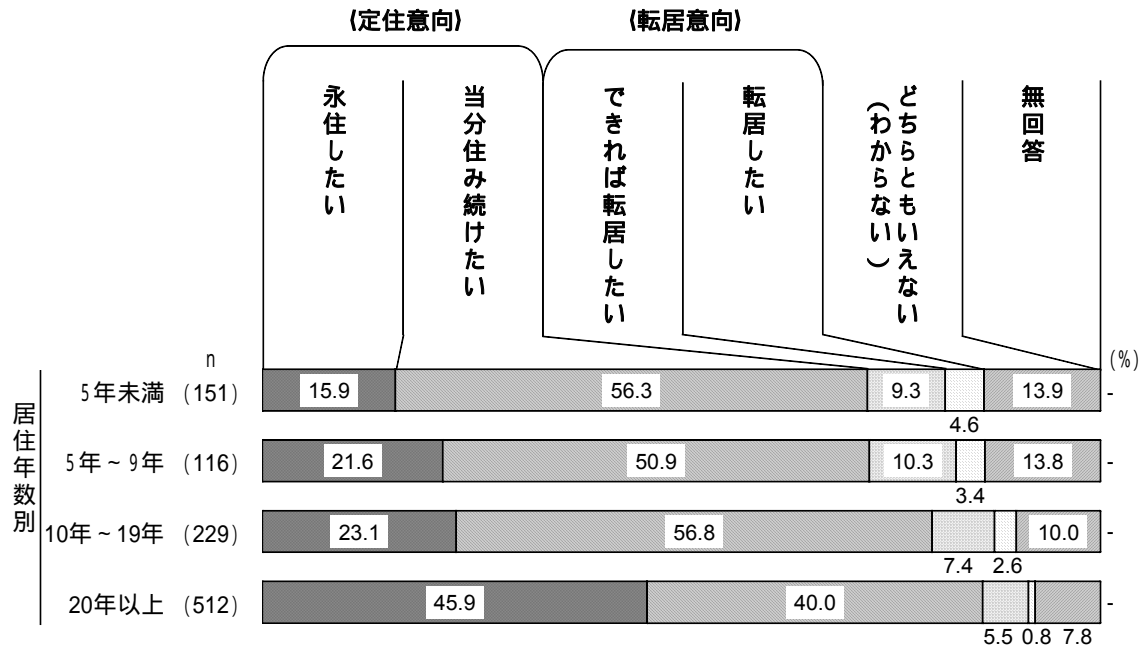
< 図1 - 9 > 性別・性 / 年齢別



【居住年数別】

居住年数別にみると、《定住意向》は20年以上が85.9%でもっとも多くなっている。《転居意向》は5年未満（13.9%）と5年～9年（13.7%）でやや多くなっている。（図1 - 10）

< 図1 - 10 > 居住年数別



(3 - 1) 住み続けたい理由

「自然環境がよい」が58.1%でもっとも多い。

(問3で「1 永住したい」「2 当分住み続けたい」と答えた方におたずねします。)

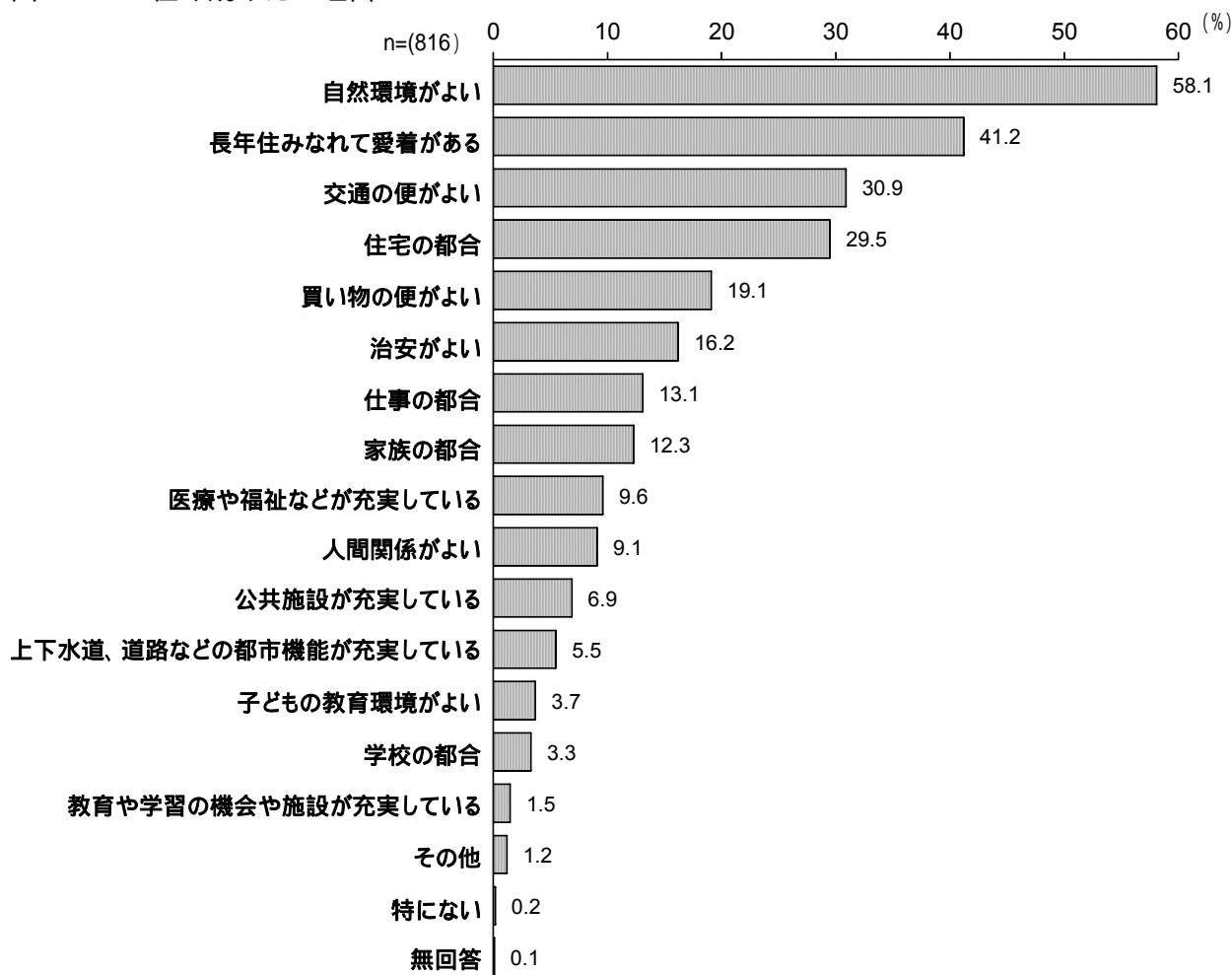
問3 - 1 あなたが、そう思う理由は何ですか。(は3つまで)

[n=816]

1. 自然環境がよい	58.1%	9. 子どもの教育環境がよい	3.7
2. 公共施設が充実している	6.9	10. 人間関係がよい	9.1
3. 交通の便がよい	30.9	11. 長年住みなれて愛着がある	41.2
4. 治安がよい	16.2	12. 仕事の都合	13.1
5. 買い物の便がよい	19.1	13. 学校の都合	3.3
6. 医療や福祉などが充実している	9.6	14. 家族の都合	12.3
7. 上下水道、道路などの都市機能が充実している	5.5	15. 住宅の都合	29.5
8. 教育や学習の機会や施設が充実している	1.5	16. その他	1.2
		17. 特にない	0.2
		(無回答)	0.1

問3で《定住意向》のある人の理由は、「自然環境がよい」が58.1%でもっとも多く、以下、「長年住みなれて愛着がある」(41.2%)、「交通の便がよい」(30.9%)、「住宅の都合」(29.5%)、「買い物の便がよい」(19.1%)が続いている。(図1 - 11)

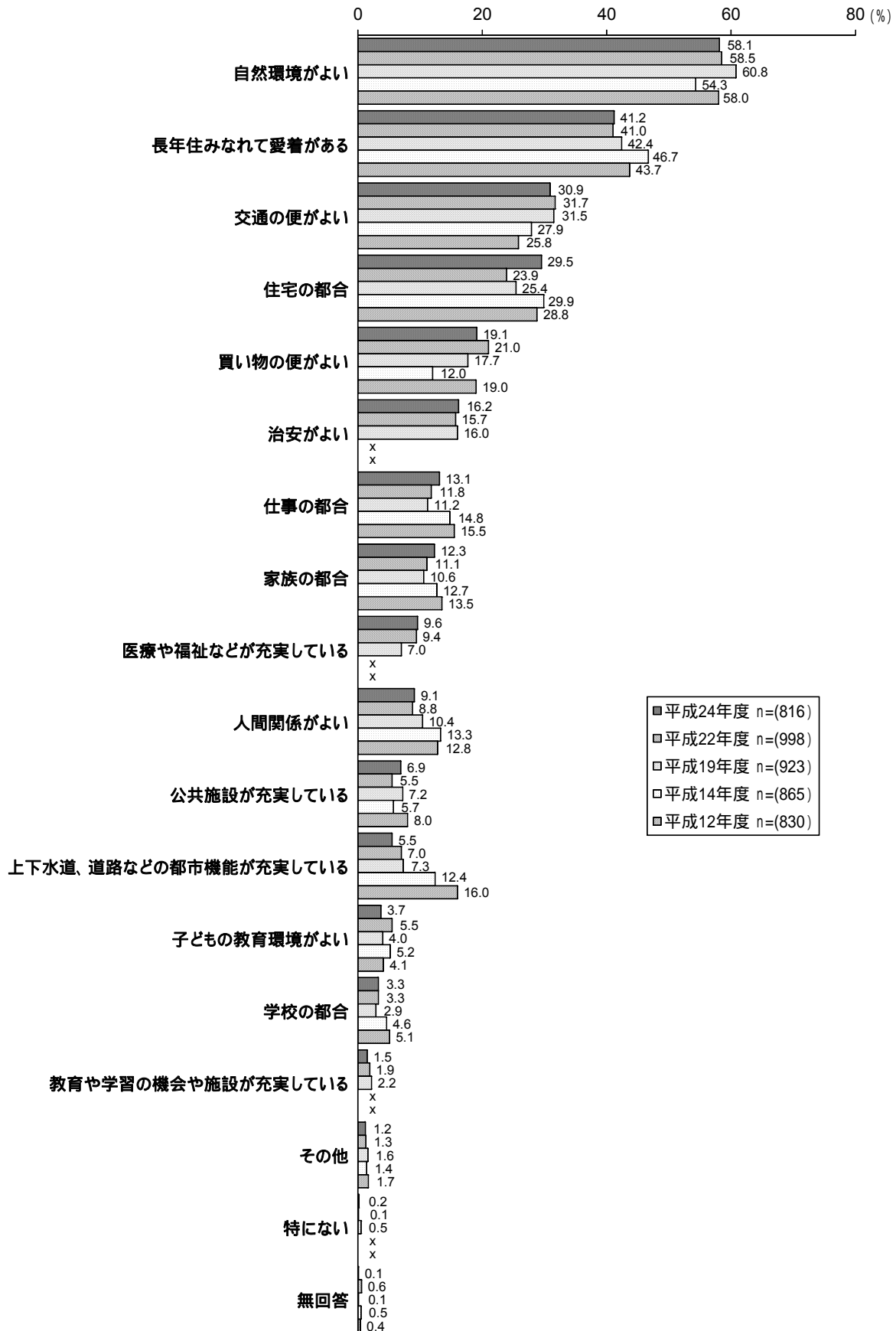
< 図1 - 11 > 住み続けたい理由



【時系列比較】

時系列で比較すると、前回(平成22年度)調査から大きな変化はみられないが、「住宅の都合」(29.5%)は前回調査(23.9%)より5.6ポイント増加し、「買い物の便がよい」が1.9ポイント、「子どもの教育環境がよい」が1.8ポイントそれぞれ減少している。(図1-12)

<図1-12>時系列比較

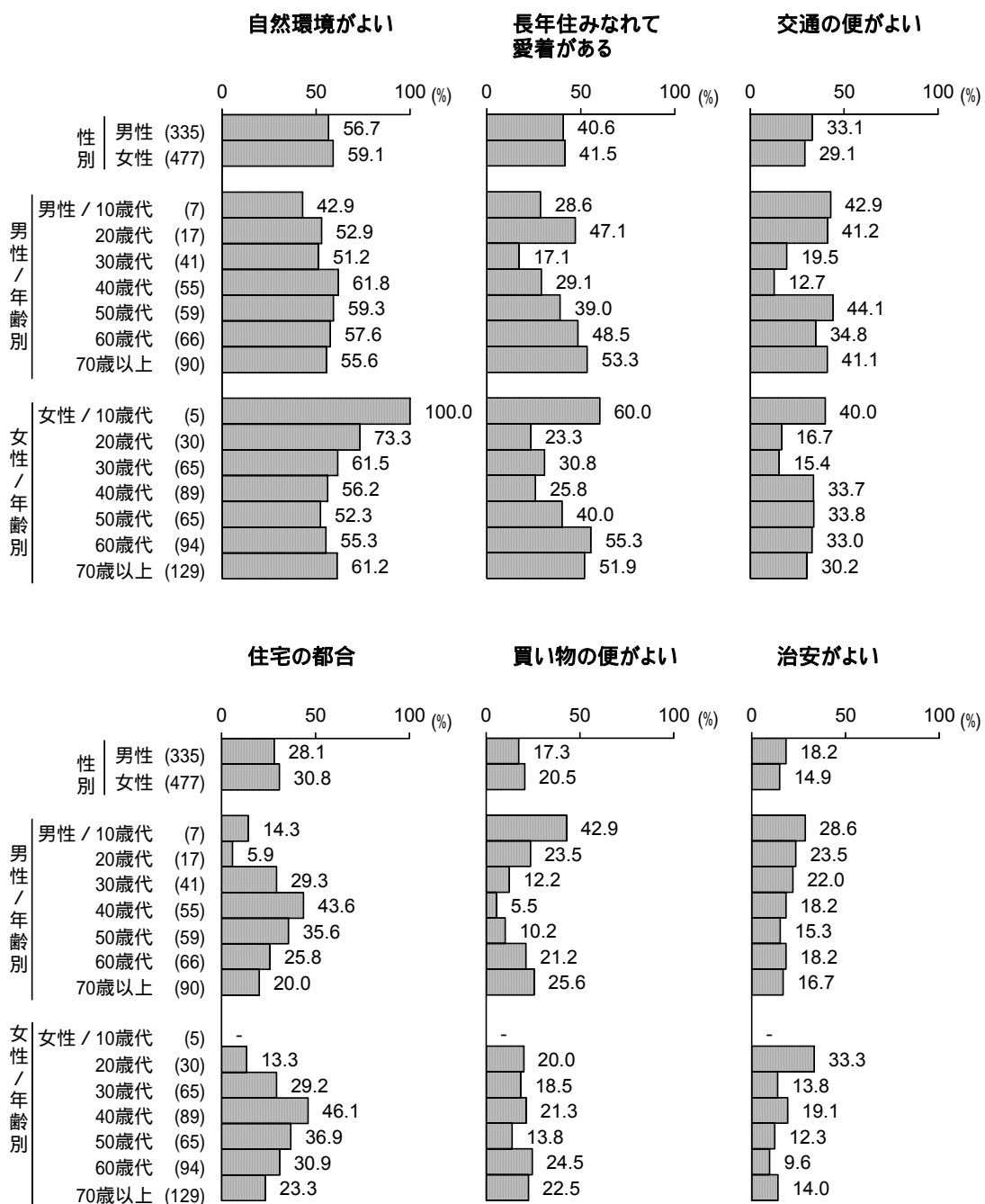


【性別・性 / 年齢別】

上位6項目のうち、性別にみると、「自然環境がよい」と「長年住みなれて愛着がある」は男性、女性ともに同順となっているが、次に続くものとして、男性は「交通の便がよい」、女性は「住宅の都合」をあげている。なお、6項目で大きな差がみられるものはないが、「交通の便がよい」は男性が4.0ポイント、「買い物の便がよい」は女性が3.2ポイント、それぞれ上回る。

性・年齢別にみると、「自然環境がよい」は男性では40歳代が61.8%でもっとも多く、女性では20歳代の73.3%が多くなっている。「長年住みなれて愛着がある」は男性では70歳以上が53.3%で多く、女性では60歳代が55.3%が多くなっている。「交通の便がよい」は男性の40歳代が44.1%で多く、「住宅の都合」は男性、女性ともに40歳代が多く、男性は43.6%、女性は46.1%で4割台となっている。なお「買い物の便がよい」について、女性は年齢間での分布が平均的となっているが、男性は特徴的な分布となっている。(男女とも10歳代は回答者数が少ないため参考とする。)(図1 - 13)

< 図1 - 13 > 性別・性 / 年齢別

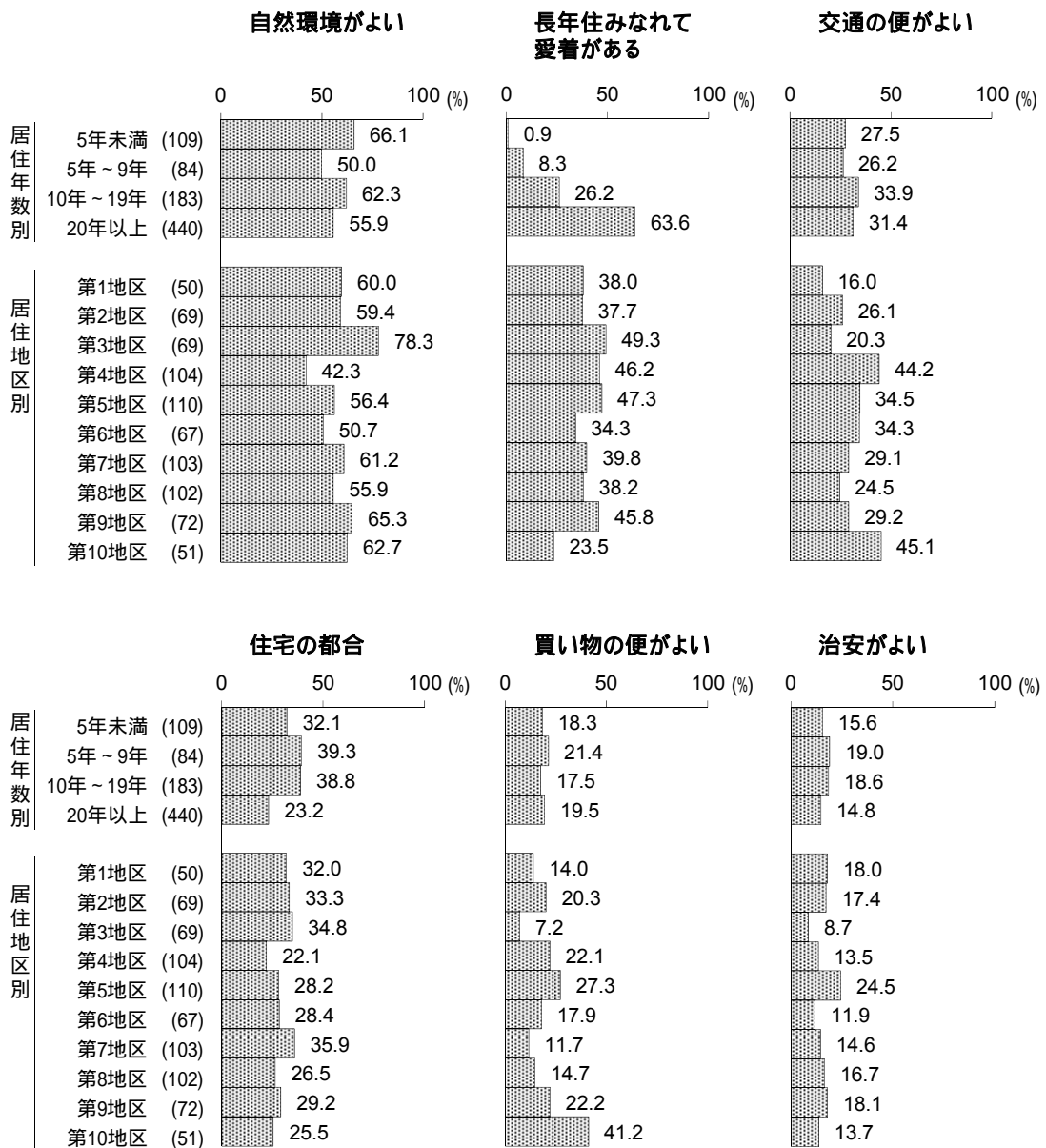


【居住年数別・居住地区別】

居住年数別にみると、「自然環境がよい」はいずれの年数でも5割以上となっており、5年未満でもっとも多く66.1%となっている。5年～9年では「住宅の都合」(39.3%)、「買い物の便がよい」(21.4%)、「治安がよい」(19.0%)が他の居住年数にくらべ多くなっている。

居住地区別にみると、「自然環境がよい」は第3地区で78.3%ともっとも多く、もっとも少ないのは第4地区の42.3%となっており、その差は36.0ポイントになっている。「長年住みなれて愛着がある」は第3地区の49.3%がもっとも多く、次に第4地区の46.2%、第5地区の47.3%、第9地区の45.8%が4割台で多くなっている。もっとも少ないのは第10地区の23.5%で第3地区との差は25.8ポイントになっている。「交通の便がよい」は第10地区の45.1%がもっとも多く、僅差で第4地区が44.2%で続き、もっとも少ない第1地区の16.0%と第10地区との差は29.1ポイントとなっている。この他、「買い物の便がよい」では第10地区の41.2%、「治安がよい」は第5地区の24.5%が他の地区にくらべ多くなっている。(図1-14)

< 図1-14 > 居住年数別・居住地区別



(3 - 2) 転居したい理由

「交通の便が悪い」が41.3%でもっとも多い。

(問3で「3 できれば転居したい」「4 転居したい」と答えた方におたずねします。)

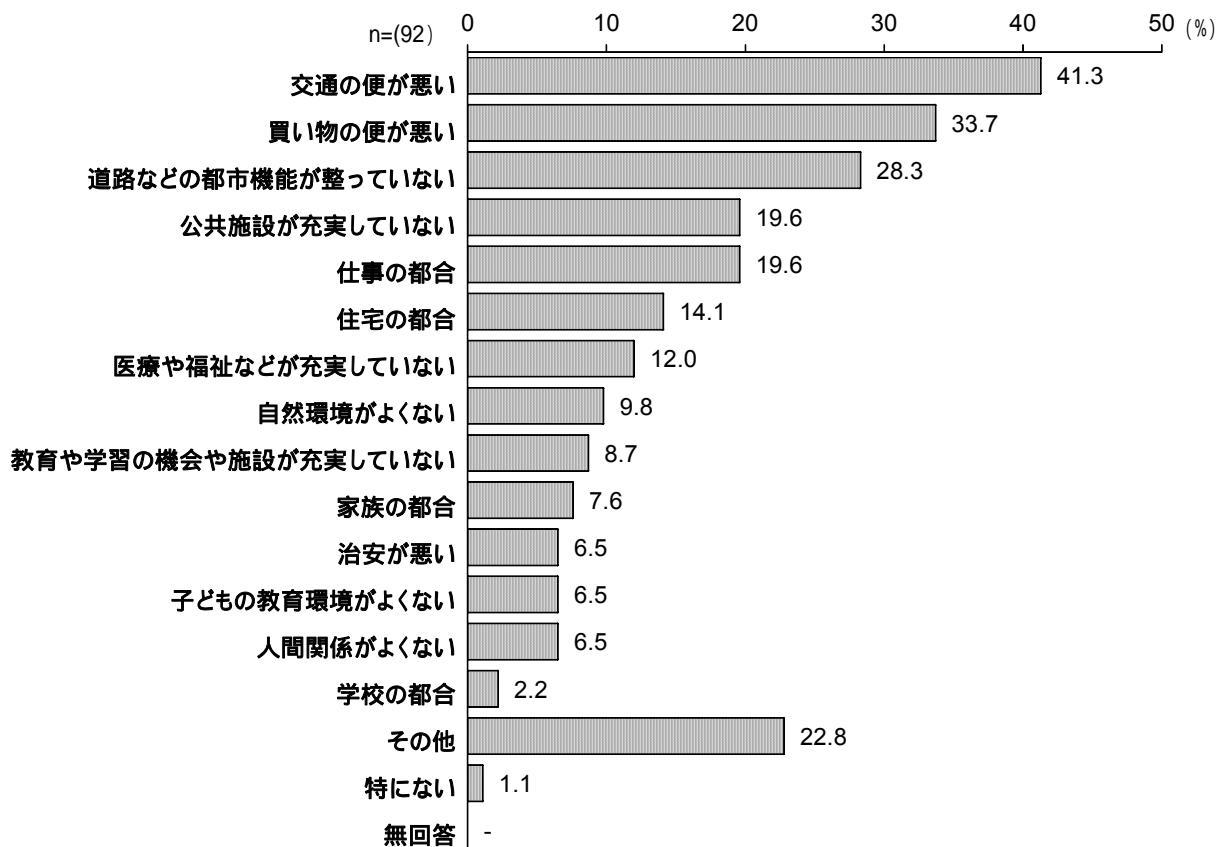
問3 - 2 あなたが、そう思う理由は何ですか。(は3つまで)

[n=92]

1. 自然環境がよくない	9.8%	9. 子どもの教育環境がよくない	6.5
2. 公共施設が充実していない	19.6	10. 人間関係がよくない	6.5
3. 交通の便が悪い	41.3	11. 仕事の都合	19.6
4. 治安が悪い	6.5	12. 学校の都合	2.2
5. 買い物の便が悪い	33.7	13. 家族の都合	7.6
6. 医療や福祉などが充実していない	12.0	14. 住宅の都合	14.1
7. 道路などの都市機能が整っていない	28.3	15. その他	22.8
8. 教育や学習の機会や施設が充実していない	8.7	16. 特にない	1.1
		(無回答)	0.0

問3で《転居意向》のある人の理由は、住み続けたい理由の上位にもあげられていた「交通の便が悪い」(41.3%)、「買い物の便が悪い」(33.7%)の2項目が多くなっている。以下、「道路などの都市機能が整っていない」(28.3%)、「公共施設が充実していない」、「仕事の都合」(ともに19.6%)、「住宅の都合」(14.1%)、「医療や福祉などが充実していない」(12.0%)と続いている。(図1 - 15)

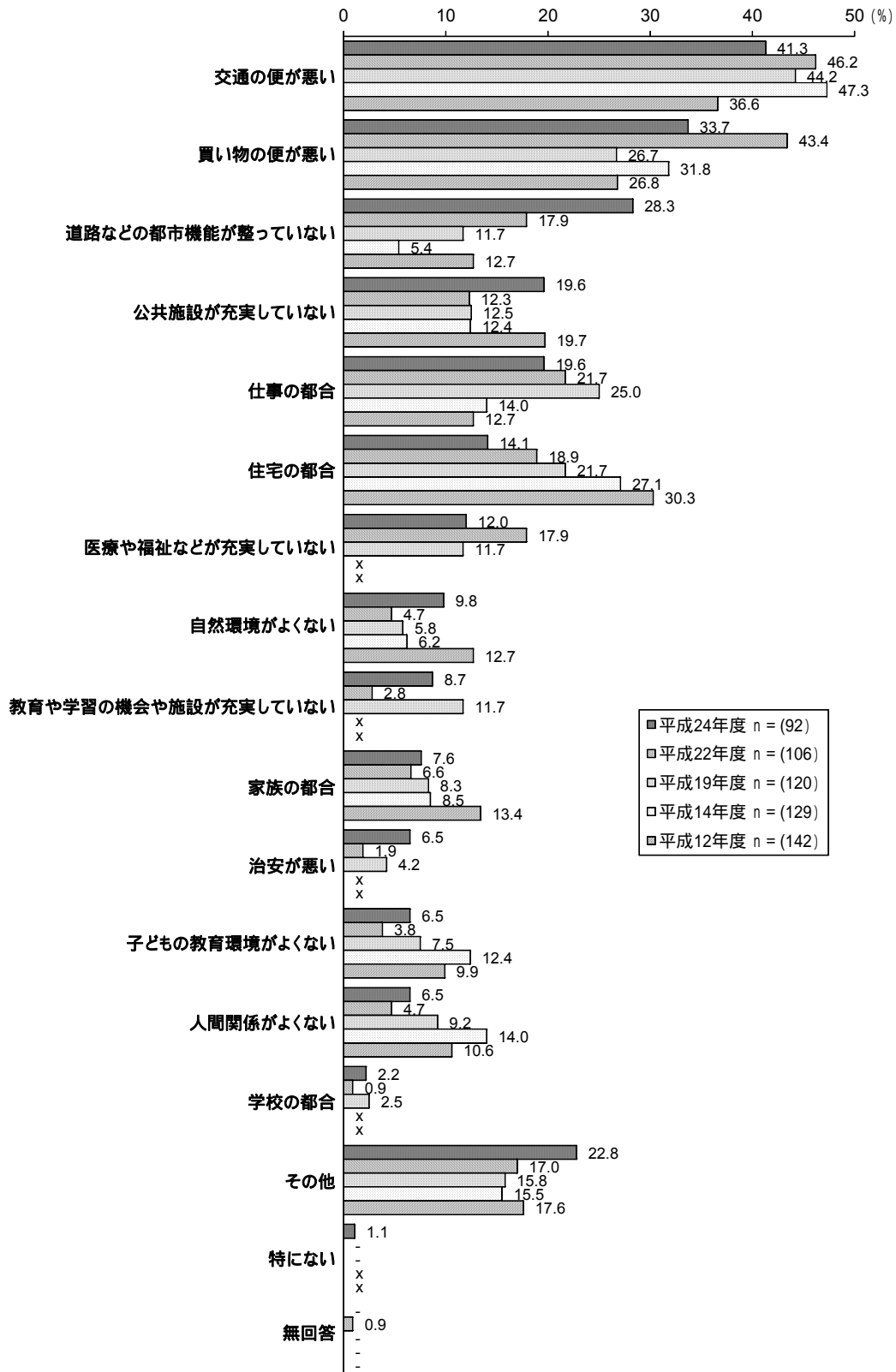
< 図1 - 15 > 転居したい理由



【時系列比較】

時系列で比較すると、「道路などの都市機能が整っていない」(28.3%)は、前回(平成22年度)調査(17.9%)から10.4ポイント、「公共施設が充実していない」(19.6%)は、前回(平成22年度)調査(12.3%)から7.3ポイント、それぞれ増加している。一方、「買い物の便が悪い」(33.7%)は、前回調査(43.4%)から9.7ポイント、「医療や福祉などが充実していない」は5.9ポイント、「交通の便が悪い」は4.9ポイント、それぞれ減少し改善されていることがわかる。(図1-16)

< 図1-16 > 時系列比較

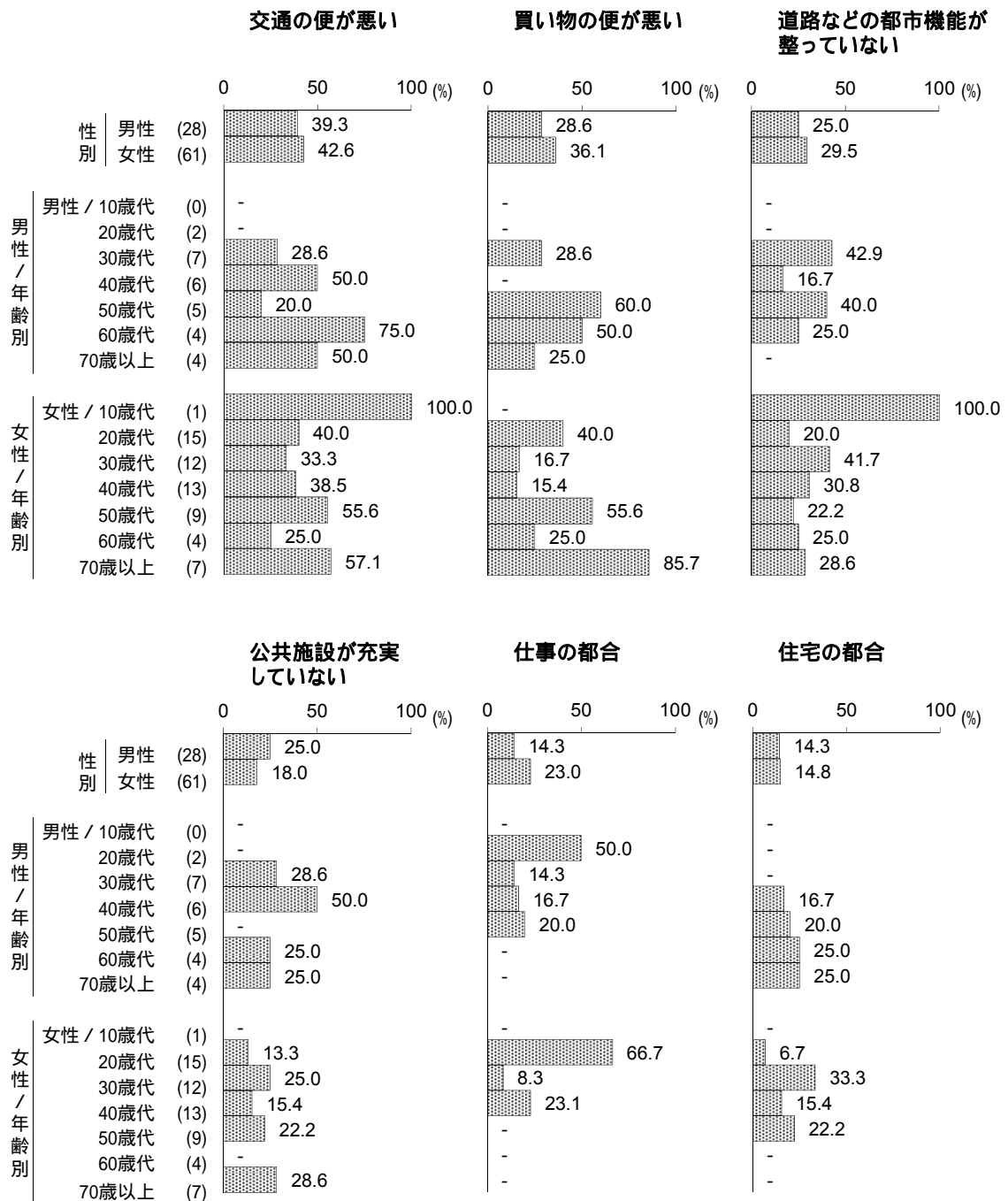


【性別・性/年齢別】

性別にみると、6項目のうち5項目で女性が上回っており、「仕事の都合」は8.7ポイント、「買い物の便が悪い」では7.5ポイント、「道路などの都市機能が整っていない」は4.5ポイントの差がある。なお、唯一男性が上回っている項目は「公共施設が充実していない」で、その差は7.0ポイントになっている。

性・年齢別は回答者数が少ないため、参考とする。(図1-17)

<図1-17> 性別・性/年齢別

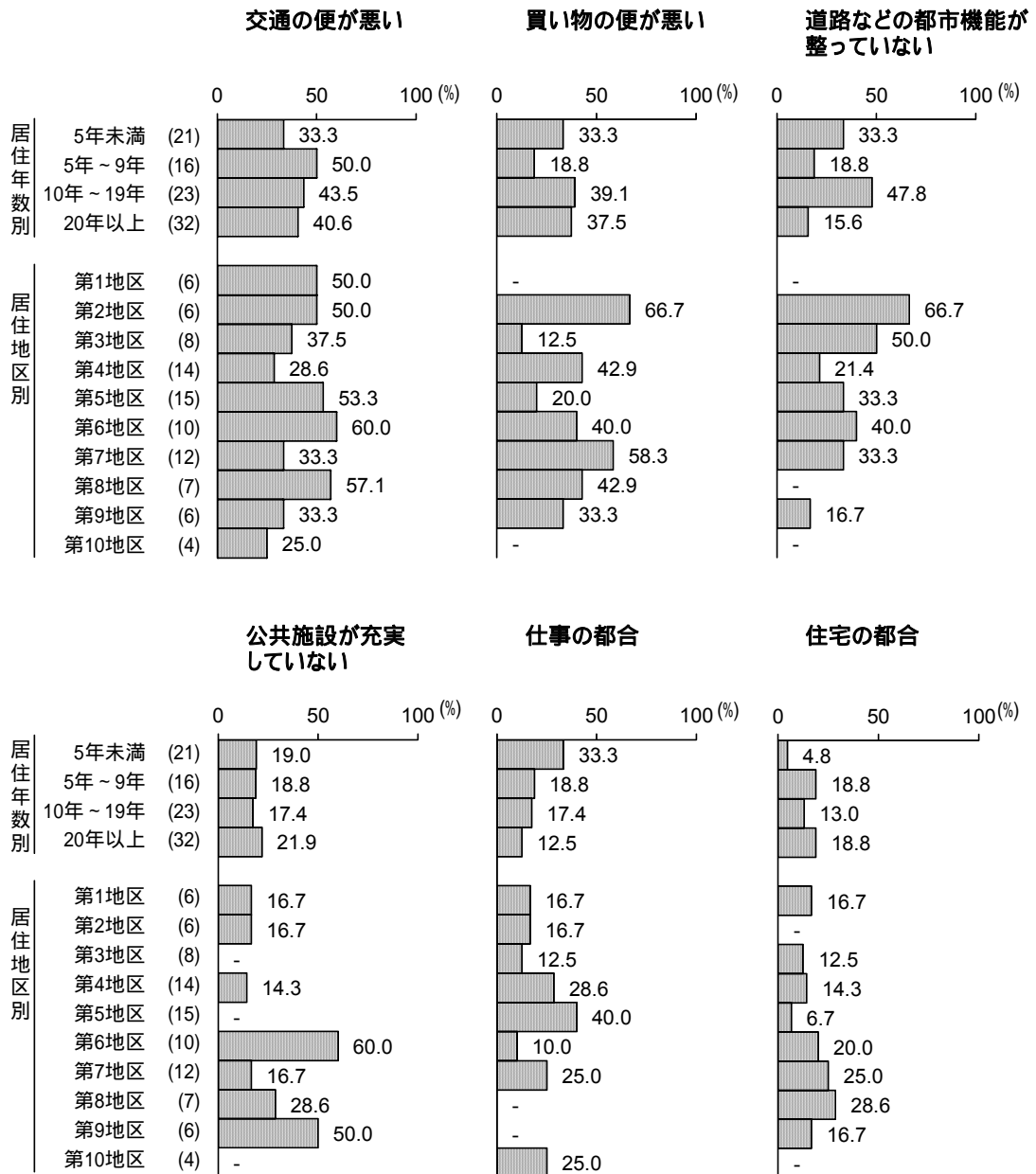


【居住年数別・居住地区別】

居住年数別にみると、「交通の便が悪い」は5年～9年が50.0%で多く、「道路などの都市機能が整っていない」は10年～19年で47.8%と多くなっている。この他、「買い物の便が悪い」は10年～19年（39.1%）と僅差で20年以上（37.5%）が、「仕事の都合」は5年未満（33.3%）でそれぞれ他の居住年数より多くなっている。

居住地区別は回答者数が少ないため、参考とする。（図1 - 18）

< 図1 - 18 > 居住年数別・居住地区別



2 生活環境について

(1) 生活環境評価

「緑の豊かさ」、「ごみの処理・収集」の《満足》が高い

問4 あなたのお住まいの周辺の環境について、どの程度満足していますか。(は各設問に1つ)

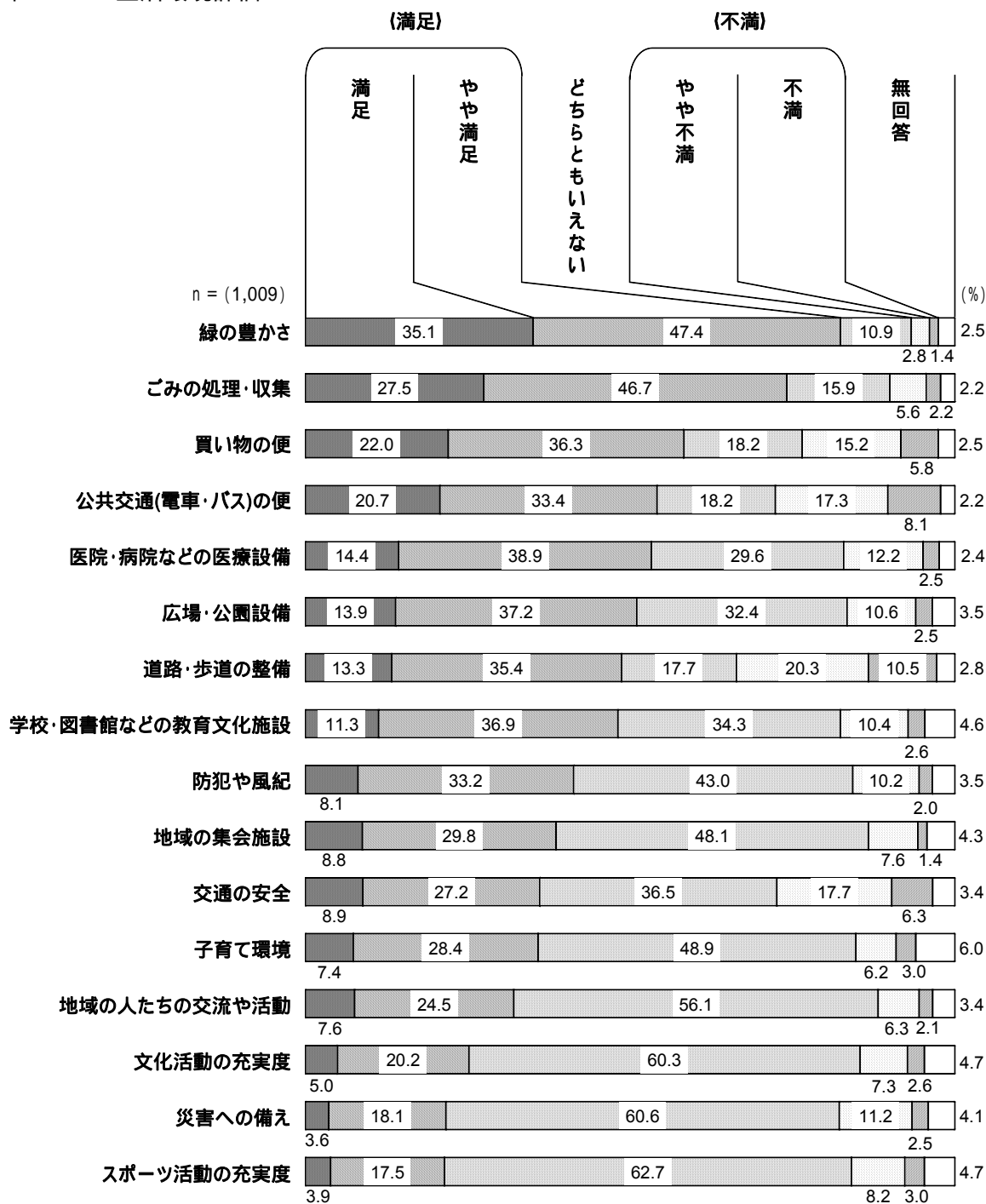
[n=1,009]

	満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満	無回答
(1) 道路・歩道の整備	13.3%	35.4	17.7	20.3	10.5	2.8
(2) 買い物の便	22.0	36.3	18.2	15.2	5.8	2.5
(3) 公共交通(電車・バス)の便	20.7	33.4	18.2	17.3	8.1	2.2
(4) 交通の安全	8.9	27.2	36.5	17.7	6.3	3.4
(5) 災害への備え	3.6	18.1	60.6	11.2	2.5	4.1
(6) 防犯や風紀	8.1	33.2	43.0	10.2	2.0	3.5
(7) ごみの処理・収集	27.5	46.7	15.9	5.6	2.2	2.2
(8) 医院・病院などの医療設備	14.4	38.9	29.6	12.2	2.5	2.4
(9) 広場・公園設備	13.9	37.2	32.4	10.6	2.5	3.5
(10) 子育て環境	7.4	28.4	48.9	6.2	3.0	6.0
(11) 地域の集会施設	8.8	29.8	48.1	7.6	1.4	4.3
(12) 学校・図書館などの教育文化施設	11.3	36.9	34.3	10.4	2.6	4.6
(13) 文化活動の充実度	5.0	20.2	60.3	7.3	2.6	4.7
(14) スポーツ活動の充実度	3.9	17.5	62.7	8.2	3.0	4.7
(15) 緑の豊かさ	35.1	47.4	10.9	2.8	1.4	2.5
(16) 地域の人たちの交流や活動	7.6	24.5	56.1	6.3	2.1	3.4

地域の生活環境を16の項目に分け、それぞれの評価をたずねた。

図2-1は、《満足》(「満足」+「やや満足」)との評価が高い順に、項目を並べ替えたものである。

< 図2-1 > 生活環境評価



「満足」と「やや満足」の合計を《満足》、「やや不満」と「不満」の合計を《不満》として、それぞれの上位5項目を列挙すると次のようになる。

順位	《満足》	順位	×《不満》
1	緑の豊かさ 82.5	1	道路・歩道の整備 30.8
2	ごみの処理・収集 74.2	2	公共交通(電車・バス)の便 25.4
3	買い物の便 58.3	3	交通の安全 24.0
4	公共交通(電車・バス)の便 54.1	4	買い物の便 21.0
5	医院・病院などの医療設備 53.3	5	医院・病院などの医療設備 14.7

特記すべきこととして、“買い物の便”、“公共交通（電車・バス）の便”及び“医院・病院などの医療設備”は《満足》でも、《不満》でも上位5項目にあげられている。つまり、《満足》と《不満》の判断が明確であり、評価が分かれていると考えられる。

【評価点（加重平均値）】

生活環境の評価を比率でみるのとは別に、その比較をより明確にするために、加重平均値による数量化を試みた。これは、下記の計算式にあるように、評価にそれぞれ点数を与え、評価点を算出する方法である。

$$\text{評価点} = \frac{\text{「満足」の回答者数} \times 10 \text{点} + \text{「やや満足」の回答者数} \times 5 \text{点} + \text{「やや不満」の回答者数} \times 5 \text{点} + \text{「不満」の回答者数} \times 10 \text{点}}{\text{回答者数（無回答を除く。）}}$$

この算出方法では、評価点は+10.00点～ -10.00点の間に分布し、中間点の0.00点を境に、+10.00点に近くなるほど「満足」との評価は高くなり、逆に、-10.00点に近くなるほど「不満」との評価が高くなる。（表1）

これによる評価点の高いものと、低いもの上位5項目は次のようになっている。

順位	高いもの		順位	低いもの	
1	緑の豊かさ	+5.74	1	災害への備え	+0.48
2	ごみの処理・収集	+4.68	2	スポーツ活動の充実度	+0.58
3	買い物の便	+2.74	3	交通の安全	+0.75
4	医院・病院などの医療設備	+2.59	4	文化活動の充実度	+0.93
5	広場・公園設備	+2.56	5	道路・歩道の整備	+1.06

16項目の合計点を地区別に比較すると次のようになる。

順位		
1	第10地区	54.58
2	第5地区	41.72
3	第9地区	37.51
4	第3地区	35.61
5	第7地区	32.76
6	第2地区	32.52
7	第8地区	32.05
8	第4地区	29.95
9	第6地区	24.32
10	第1地区	21.16
	市全体	33.46

【評価点（加重平均値）】

<表1> 時系列比較・性別・性/年齢別・居住地区別

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	
		道路・歩道の整備	買い物の便	公共交通（電車・バス）の便	交通の安全	災害への備え	防犯や風紀	ごみの処理・収集	医院・病院などの医療設備	広場・公園設備	子育て環境	地域の集会施設	学校・図書館などの教育文化施設	文化活動の充実度	スポーツ活動の充実度	緑の豊かさ	地域の人たちの交流や活動	
平成24年度		1.06	2.74	2.11	0.75	0.48	1.83	4.68	2.59	2.56	1.66	1.94	2.30	0.93	0.58	5.74	1.51	
平成22年度		0.82	2.38	2.39	0.93	0.92	1.68	4.39	2.23	2.54	1.88	2.03	2.84	0.96	0.77	6.08	1.58	
平成19年度		0.49	2.31	1.90	0.52	0.40	1.36	4.40	1.99	2.01	1.66	2.01	2.80	1.18	0.88	5.84	1.60	
性別	男性	1.40	2.80	2.29	0.89	0.86	2.21	4.83	2.65	2.68	1.66	1.60	2.47	0.66	0.24	5.38	1.26	
	女性	0.85	2.75	1.99	0.71	0.24	1.60	4.66	2.60	2.50	1.68	2.21	2.21	1.14	0.85	6.02	1.73	
性/年齢別	男性	10歳代	3.50	6.50	6.00	1.50	3.50	3.50	7.50	5.50	6.50	3.50	3.00	5.00	4.50	3.00	7.00	3.50
		20歳代	2.50	5.00	3.46	2.50	1.73	3.85	4.62	3.27	3.08	1.35	1.54	1.73	0.19	0.58	5.19	0.38
		30歳代	0.74	1.89	0.90	0.90	0.00	1.31	4.43	2.87	3.11	1.56	0.41	1.75	0.08	0.49	5.57	0.66
		40歳代	0.93	1.69	0.07	0.42	0.85	1.90	4.30	1.97	2.46	0.63	1.34	2.32	0.56	0.28	5.07	0.85
		50歳代	0.15	1.82	2.69	0.45	0.00	2.05	4.17	2.08	2.12	1.67	1.29	1.29	0.15	0.76	4.62	1.06
		60歳代	1.10	3.72	3.47	0.54	0.88	2.07	4.20	2.36	2.00	1.76	1.82	2.84	0.60	0.93	5.73	0.93
		70歳以上	2.77	3.21	3.02	1.94	1.51	2.69	6.21	3.16	2.97	2.38	2.50	3.57	1.68	0.87	5.64	2.34
	女性	10歳代	0.83	0.83	4.17	1.67	0.00	0.83	1.67	5.00	2.50	4.17	5.83	3.33	1.67	3.33	10.00	6.67
		20歳代	1.70	1.79	0.78	0.75	0.75	1.89	4.25	2.55	3.40	1.42	1.60	2.45	1.25	0.85	5.94	2.08
		30歳代	0.22	2.77	1.52	0.11	0.49	0.76	3.63	1.52	1.92	1.11	0.93	0.93	0.33	0.00	6.03	1.21
		40歳代	0.13	3.09	2.22	0.09	0.22	1.68	4.13	2.87	2.19	1.83	2.09	2.39	1.09	0.83	5.87	1.70
		50歳代	1.27	2.50	1.00	0.06	0.38	0.69	4.50	1.38	1.84	1.58	1.94	1.31	0.25	0.06	5.13	0.94
		60歳代	0.34	3.22	2.04	1.14	0.71	1.63	4.47	2.86	2.28	1.60	2.83	2.55	1.19	1.07	5.91	1.16
		70歳以上	3.61	2.70	3.11	2.07	1.06	2.62	6.45	3.59	3.46	2.12	3.05	3.18	2.31	1.78	6.64	2.73
居住地区別	第1地区	0.85	2.58	0.82	0.78	0.34	0.68	3.73	1.44	2.24	0.61	1.53	1.72	0.00	0.00	6.53	1.19	
	第2地区	0.79	0.98	1.35	0.34	0.86	1.72	5.00	1.89	2.70	2.05	2.06	3.18	1.65	1.41	6.53	2.27	
	第3地区	0.30	0.73	0.60	0.49	0.38	1.79	5.42	2.29	4.01	2.65	2.75	2.68	1.95	1.95	7.07	2.13	
	第4地区	0.98	3.08	3.28	1.38	0.39	1.86	4.66	2.10	0.98	1.21	1.38	2.16	0.36	0.31	4.31	1.51	
	第5地区	1.41	4.31	3.38	1.03	0.72	2.69	4.47	2.97	2.56	1.64	2.42	3.61	1.83	1.26	5.60	1.82	
	第6地区	0.05	2.28	1.21	0.06	0.00	1.85	4.50	1.70	2.69	1.74	1.40	0.79	0.28	0.00	5.11	0.78	
	第7地区	1.81	1.38	1.51	0.84	0.51	1.48	5.04	3.43	2.94	1.61	1.96	1.78	0.92	0.25	6.05	1.25	
	第8地区	1.10	3.18	2.12	0.81	0.76	1.86	3.76	2.54	2.09	1.37	2.03	2.35	0.90	0.04	5.85	1.37	
	第9地区	2.47	3.24	2.56	1.81	0.36	1.96	5.47	3.61	2.83	2.16	1.36	1.59	0.55	0.55	5.60	1.39	
	第10地区	3.25	6.90	6.05	3.39	1.09	1.91	5.44	4.73	4.36	2.17	3.27	2.87	0.74	0.46	5.95	2.00	

【市全体と地区別の評価点（加重平均値）】

次に16項目の評価点を地区ごとに、市全体と対比させてグラフを表示する。ここでは、地区の値を印で示し、市全体の値を 印で示してある。

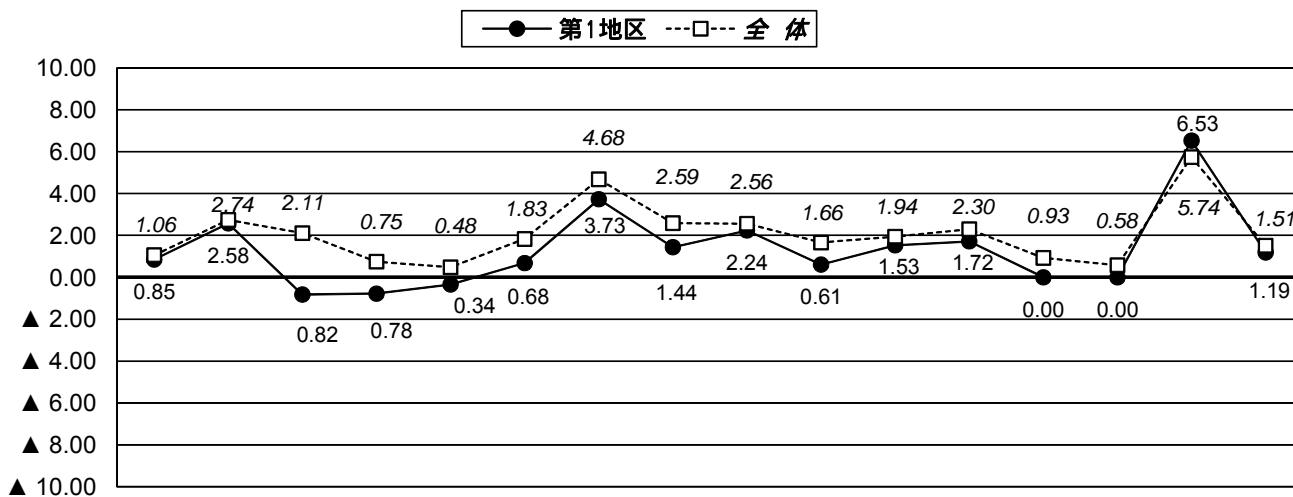
<第1地区>

市全体を上回るもの----16項目中で1項目と少なく、「緑の豊かさ」が0.79点上回っている。
市全体を下回るもの----比較的差が目立つものは、「公共交通（電車・バス）の便」が2.93点、
「交通の安全」が1.53点下回る。（図2 - 2）

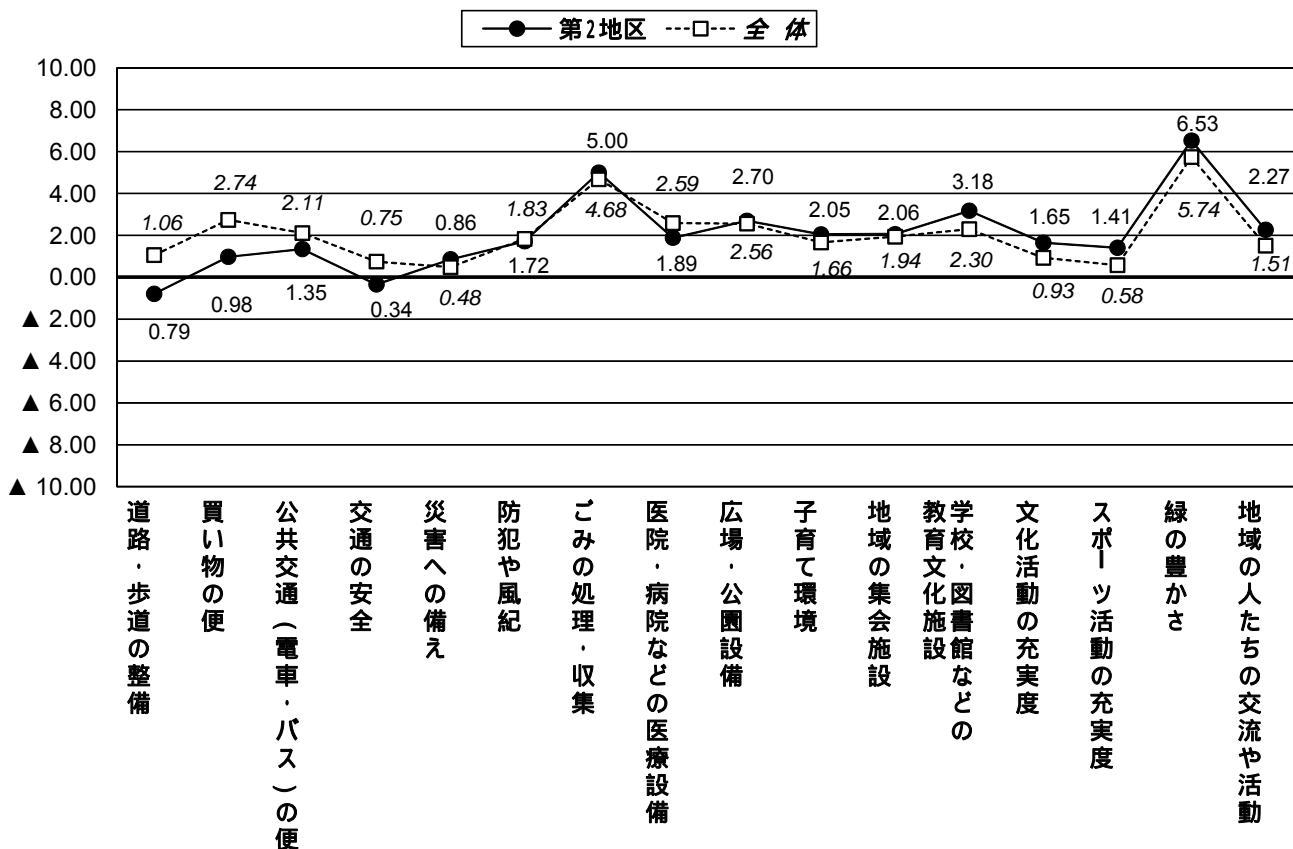
<第2地区>

市全体を上回るもの----16項目中で10項目が僅差で上回っている。
市全体を下回るもの----比較的差が目立つものでは、「道路・歩道の整備」が1.85点、「買い物の便」
が1.76点、「交通の安全」が1.09点下回る。（図2 - 3）

<図2 - 2> 第1地区



<図2 - 3> 第2地区



<第3地区>

市全体を上回るもの----16項目中で9項目と多くなっており、「広場・公園設備」が1.45点、「スポーツ活動の充実度」が1.37点、「緑の豊かさ」が1.33点、「文化活動の充実度」が1.02点上回っている。

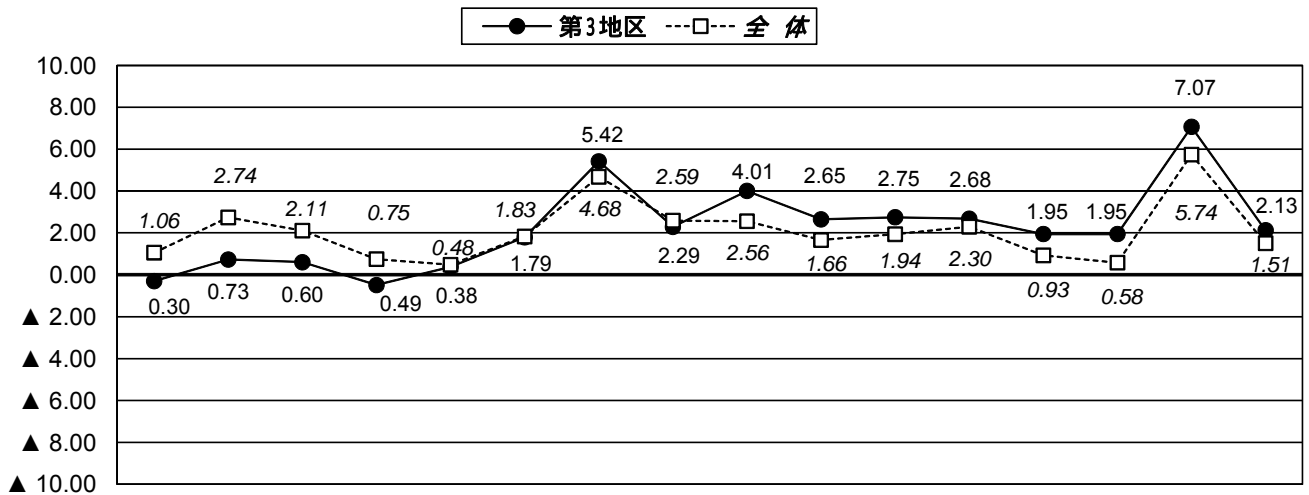
市全体を下回るもの----比較的差が目立つものでは、「買い物の便」が2.01点、「公共交通（電車・バス）の便」が1.51点、「道路・歩道の整備」が1.36点、「交通の安全」が1.24点下回る。（図2 - 4）

<第4地区>

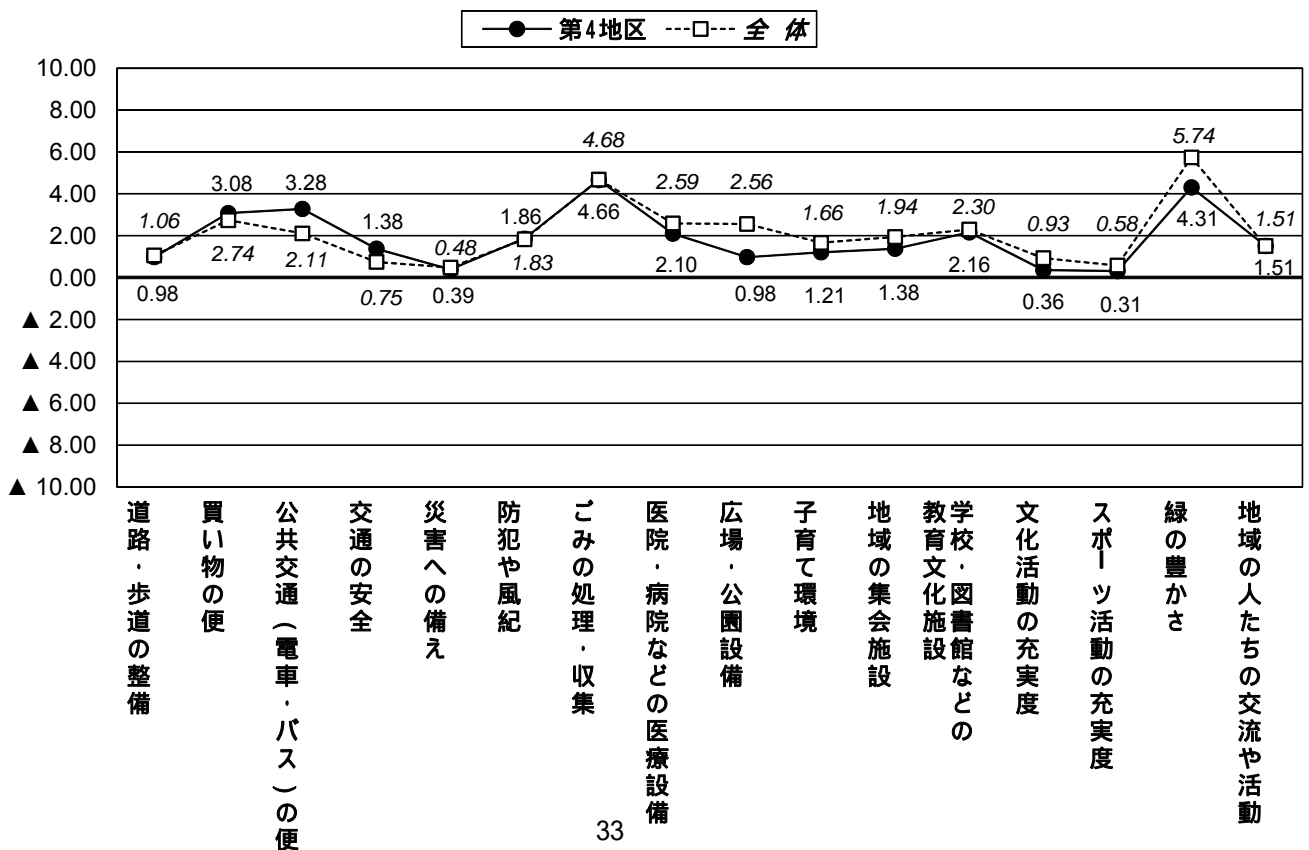
市全体を上回るもの----16項目中で4項目となっており、「公共交通（電車・バス）の便」が1.17点上回り、その他の項目では、僅差の上回りとなっている。

市全体を下回るもの----比較的差が目立つものでは、「広場・公園設備」が1.58点、「緑の豊かさ」が1.43点下回る。（図2 - 5）

<図2 - 4> 第3地区



<図2 - 5> 第4地区



<第5地区>

市全体を上回るもの----16項目中12項目となっており、「買い物の便」が1.57点、「学校・図書館などの教育文化施設」が1.31点、「公共交通（電車・バス）の便」が1.27点上回っている。

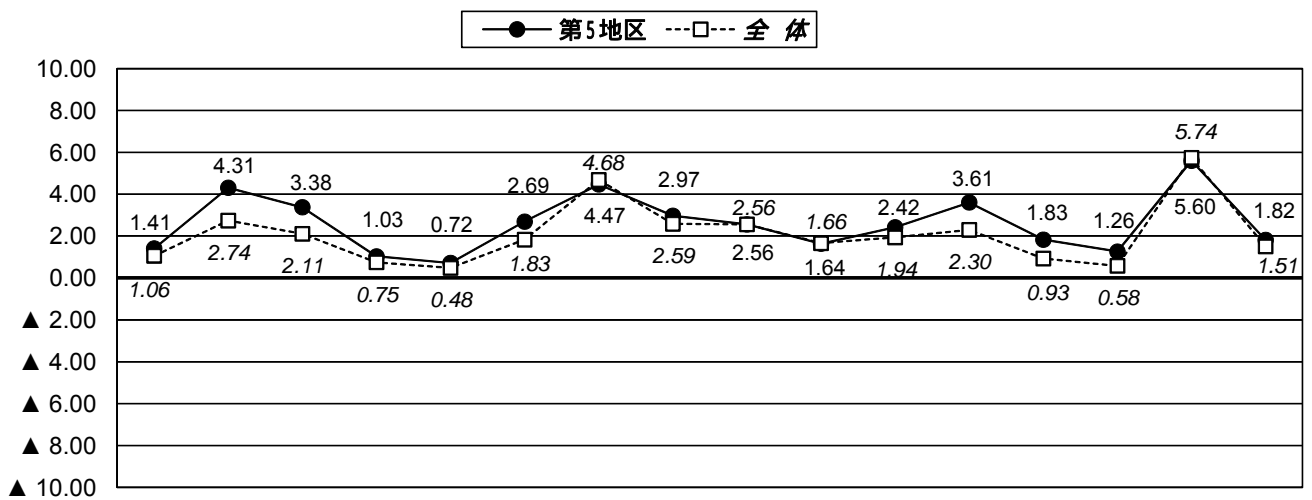
市全体を下回るもの----特に目立って下回るものはない。（図2 - 6）

<第6地区>

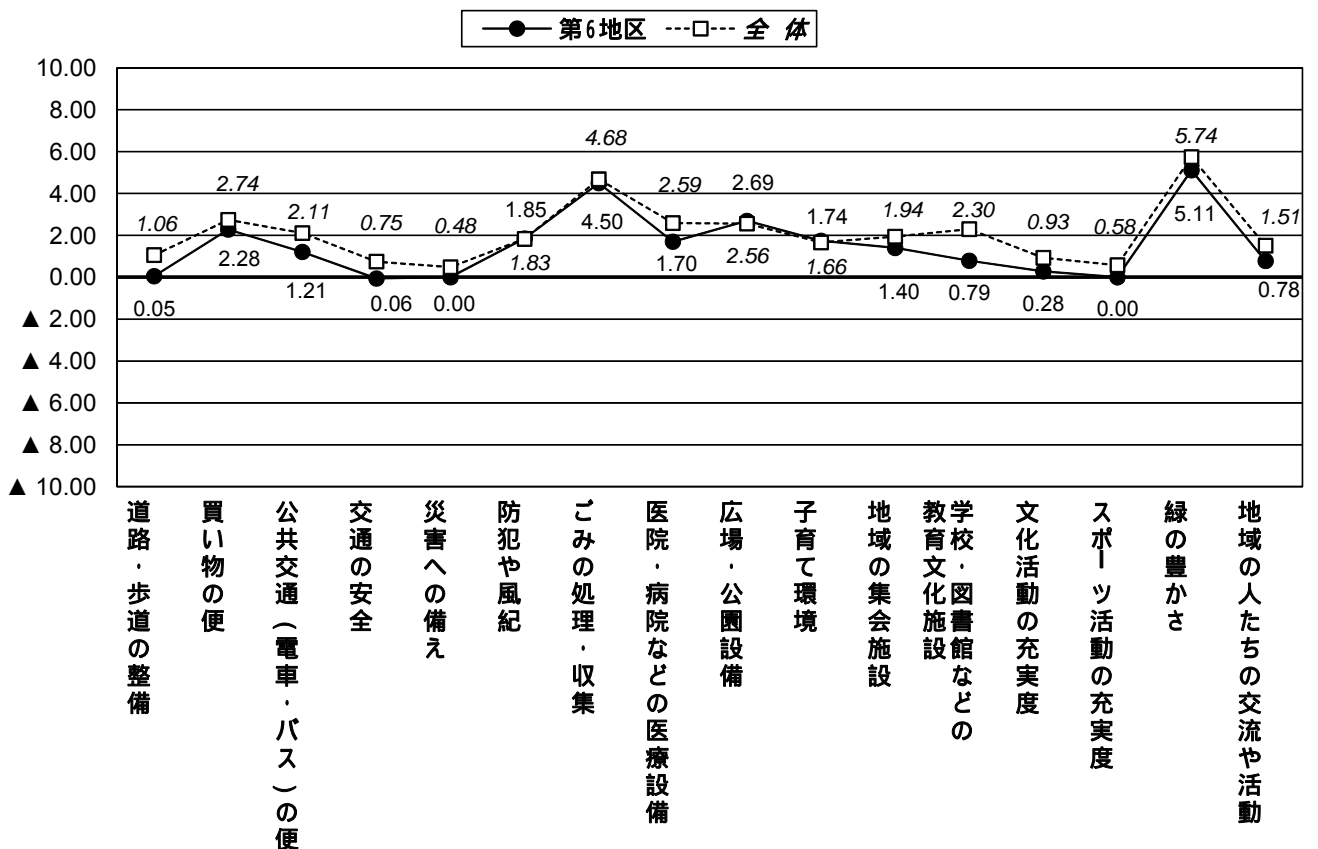
市全体を上回るもの----16項目中3項目となっており、「広場・公園設備」や「子育て環境」といった項目が市全体にくらべ上回っている。

市全体を下回るもの----比較的差が目立つものでは、「学校・図書館などの教育文化施設」が1.51点、「道路・歩道の整備」が1.01点下回る。（図2 - 7）

<図2 - 6> 第5地区



<図2 - 7> 第6地区



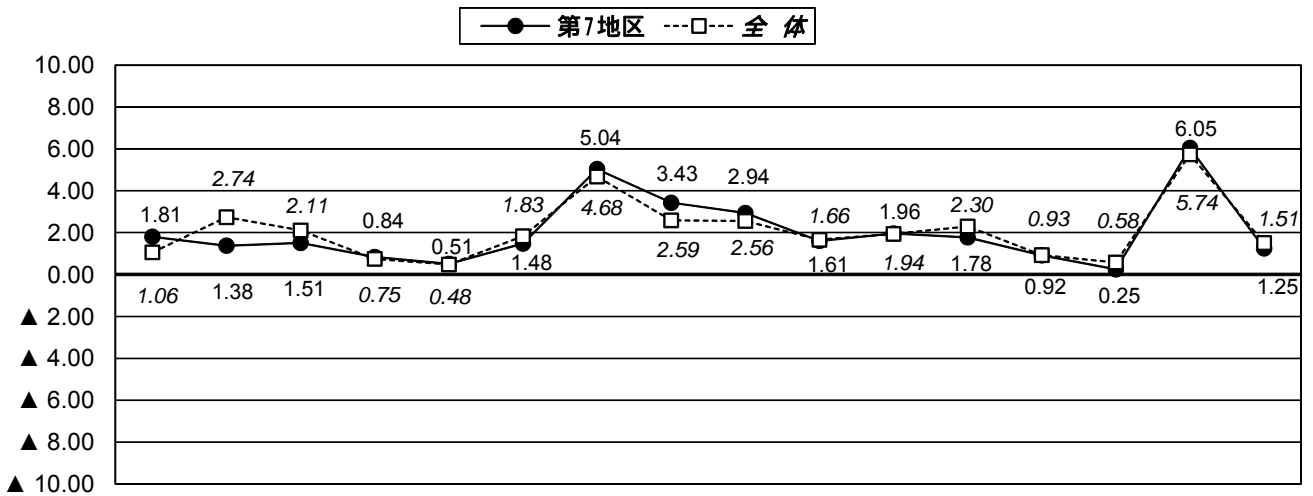
<第7地区>

市全体を上回るもの----16項目中8項目となっており、「医院・病院などの医療設備」が0.84点、「道路・歩道の整備」が0.75点上回っている。
市全体を下回るもの----比較的差が目立つものでは、「買い物の便」が1.36点下回る。(図2-8)

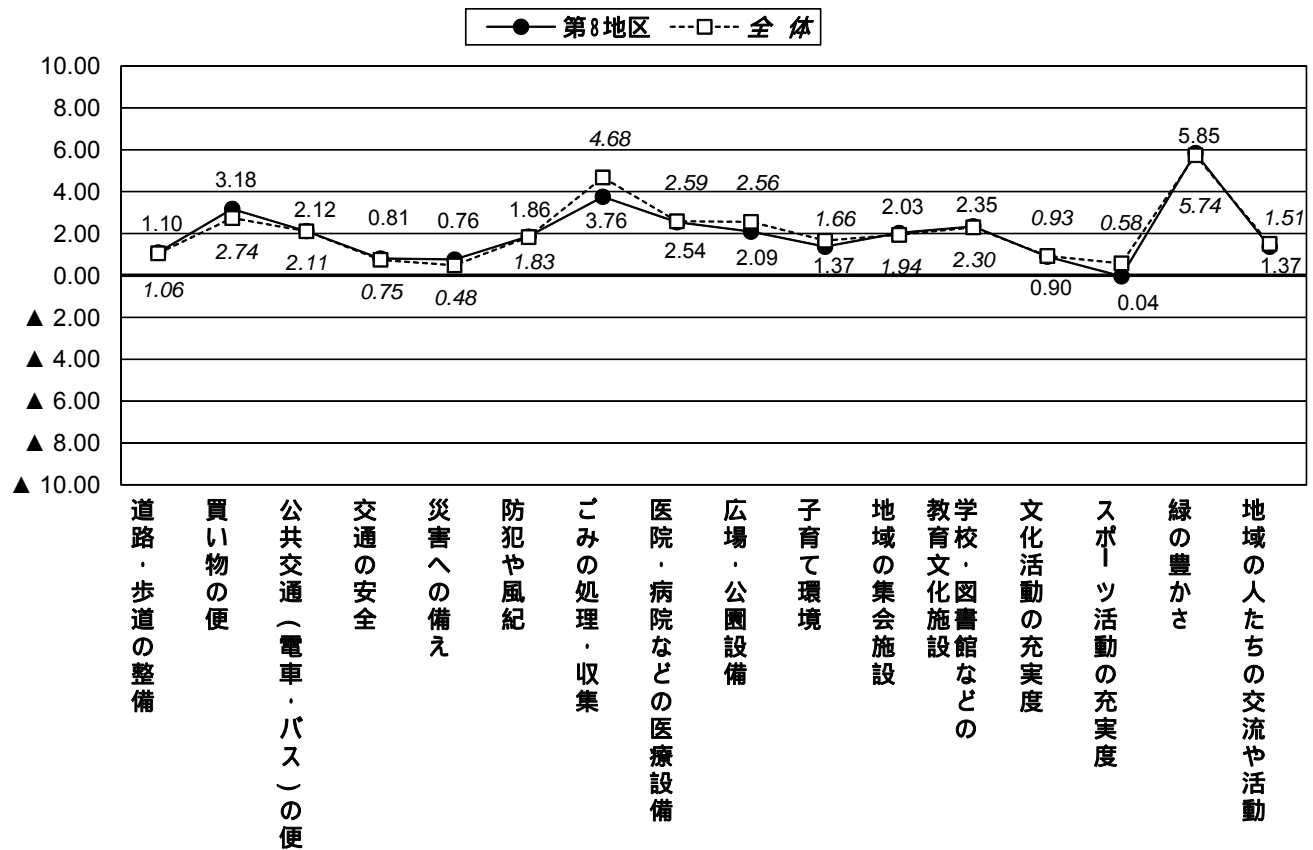
<第8地区>

市全体を上回るもの----16項目中で9項目となっており、「買い物の便」が0.44点、「災害への備え」が0.28点上回っている。
市全体を下回るもの----特に目立って下回るものはない。(図2-9)

<図2-8>第7地区



<図2-9>第8地区



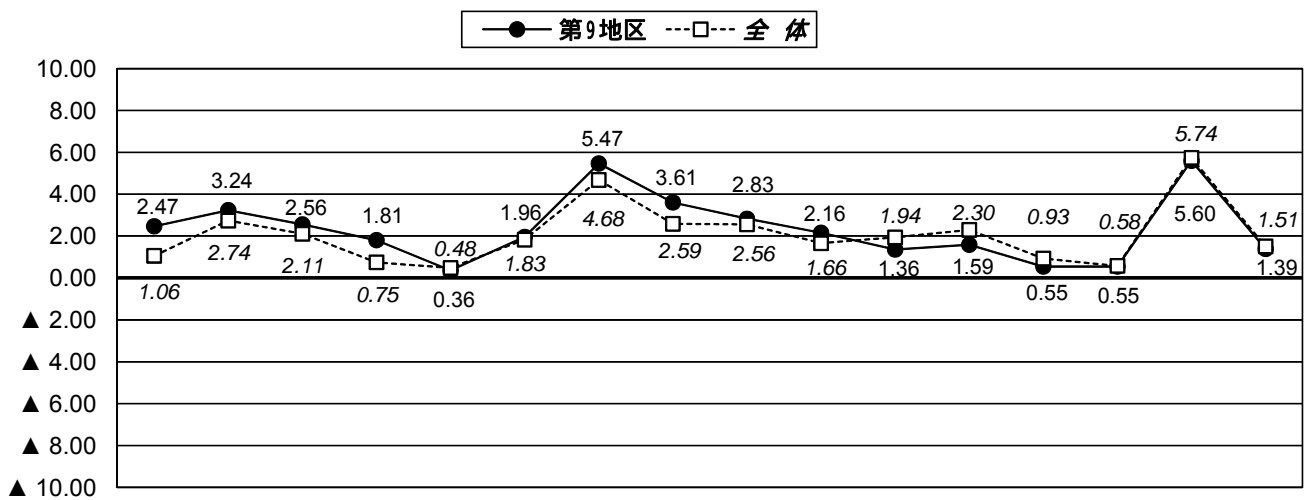
<第9地区>

市全体を上回るもの----16項目中で9項目となっており、「道路・歩道の整備」が1.41点、「交通の安全」が1.06点、「医院・病院などの医療設備」が1.02点上回っている。
市全体を下回るもの----特に目立って下回るものはない。(図2-10)

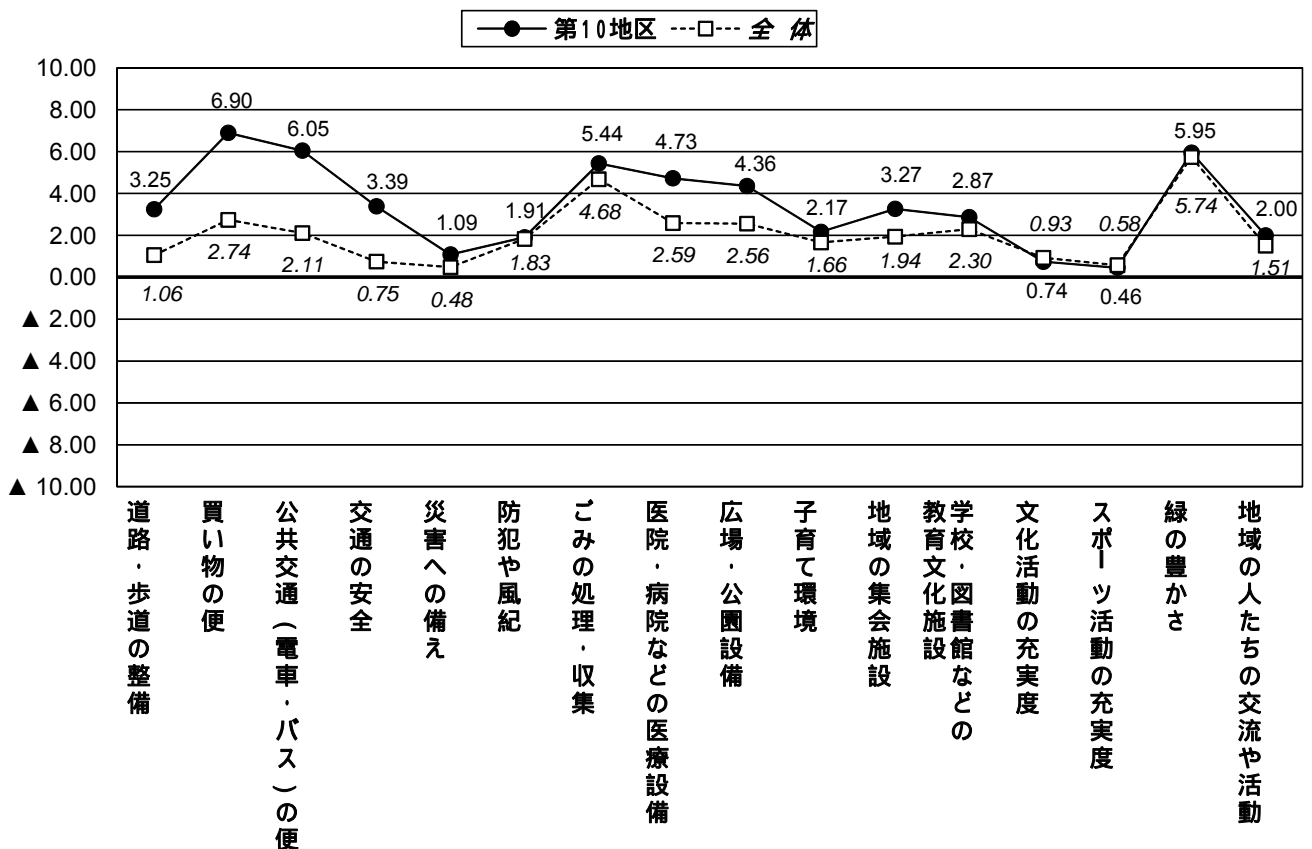
<第10地区>

市全体を上回るもの----16項目中で14項目となっており、「買い物の便」が4.16点、「公共交通(電車・バス)の便」が3.94点、「交通の安全」が2.64点、「道路・歩道の整備」が2.19点、「医院・病院などの医療設備」が2.14点上回っている。
市全体を下回るもの----「文化活動の充実度」が0.19点、「スポーツ活動の充実度」が0.12点となり、2項目が僅かに下回っている。(図2-11)

<図2-10> 第9地区



<図2-11> 第10地区



3 地域社会について

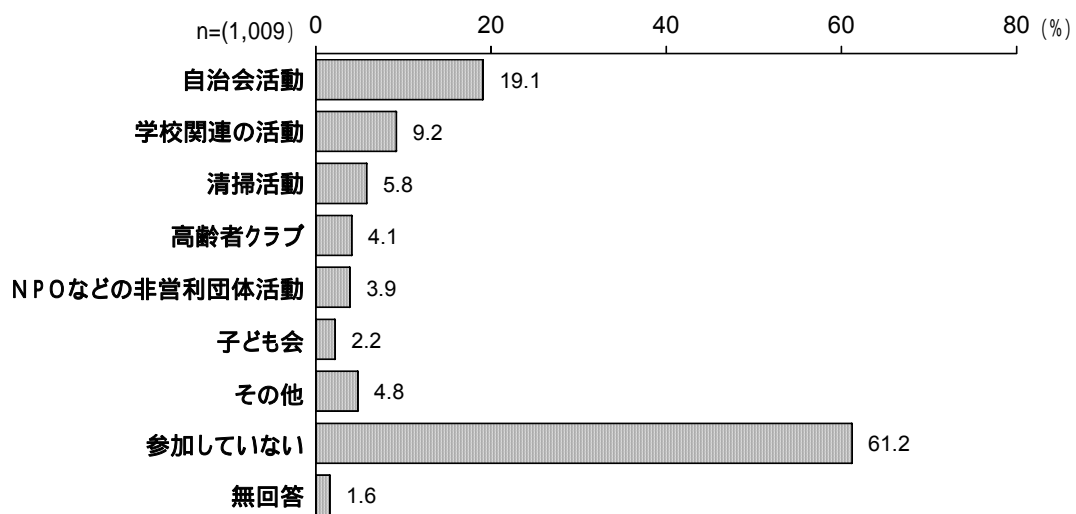
(1) 現在参加している地域活動

「参加していない」が61.2%で多く、取り組んでいるなかでは「自治会活動」が19.1%。

問5 あなたは、現在、どのような地域活動に参加していますか。(はいくつでも可)			
[n=1,009]			
1. 清掃活動	5.8%	5. 子ども会	2.2
2. 学校関連の活動	9.2	6. 高齢者クラブ	4.1
3. 自治会活動	19.1	7. その他	4.8
4. NPOなどの非営利団体活動	3.9	8. 参加していない (無回答)	61.2 1.6

現在参加している地域活動は、「参加していない」が61.2%で多くなっている。取り組んでいるなかでは、「自治会活動」(19.1%)がもっとも多く、その他の項目では「学校関連の活動」(9.2%)が比較的多いものの1割弱となっている。(図3-1)

<図3-1> 現在参加している地域活動

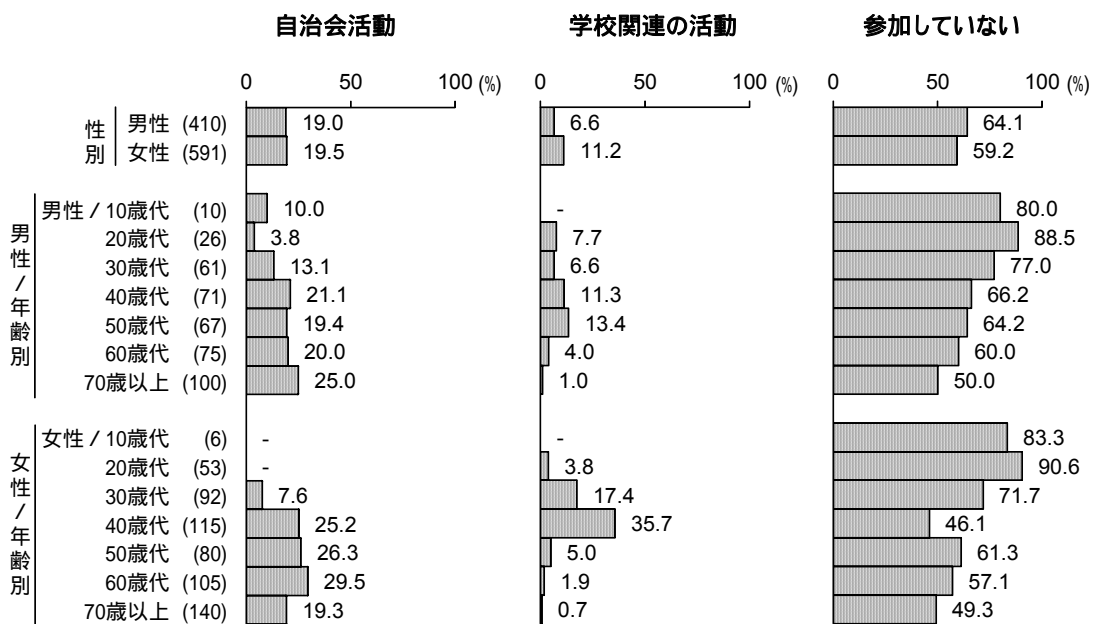


【性別・性 / 年齢別】

性別にみると、「参加していない」は男性が64.1%、女性が59.2%となっており、すべての項目の中で多くを占めている。また、その差は男性が4.9ポイント上回っている。取り組んでいるなかでは、「自治会活動」が男性は19.0%、女性は19.5%となっており、大きな差はみられない。次に「学校関連の活動」が続き、男性は6.6%、女性は11.2%となっており、女性が4.6ポイント上回り、女性の参加が多くみられる。

性・年齢別にみると、男性、女性ともに30歳代までの年齢で「参加していない」が7割以上と多く、女性の20歳代では90.6%と唯一の9割台となっている。取り組んでいるなかでは、「自治会活動」が男性の70歳以上で25.0%、女性は60歳代の29.5%で多くなっている。「学校関連の活動」は男性では40歳（11.3%）と50歳代（13.4%）、女性では40歳代（35.7%）が多くなっており、全体として男性、女性ともに40歳代以上で地域活動に取り組んでいる割合が多くみられる。（図3 - 2）

< 図3 - 2 > 性別・性 / 年齢別



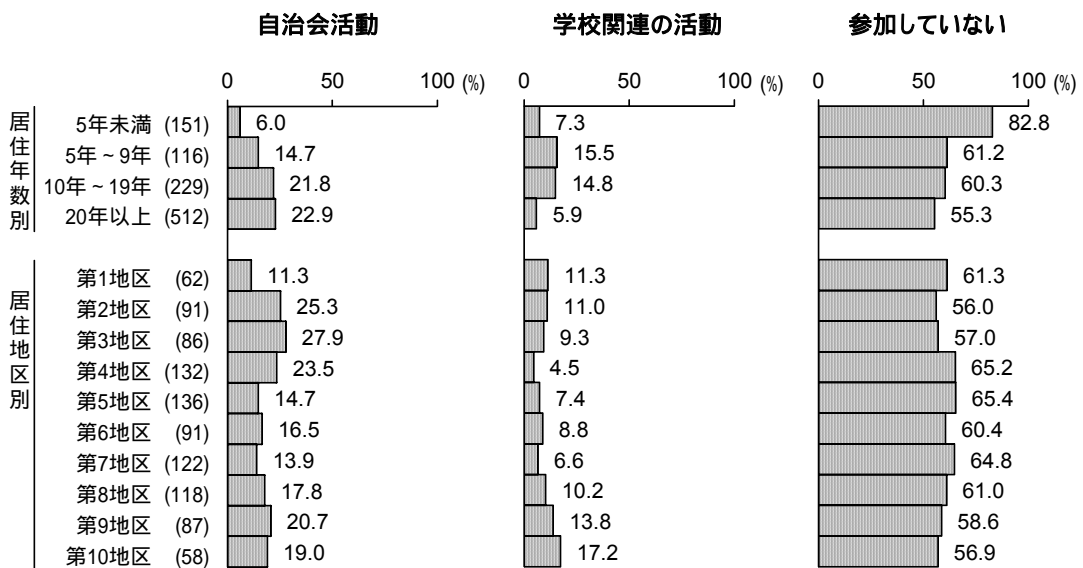
【居住年数別・居住地区別】

居住年数別にみると、いずれの居住年数でも「参加していない」の割合が高く、5年未満では82.8%と特に多くなっている。取り組んでいるなかでは、「自治会活動」は20年以上で22.9%（同程度で10年～19年で21.8%）、「学校関連の活動」では5年～9年（15.5%）、10年～19年（14.8%）で多くなっている。

居住地区別にみると、いずれの居住地区でも「参加していない」が多くなっている。取り組んでいるなかでは、「自治会活動」は第2地区（25.3%）第3地区（27.9%）第4地区（23.5%）第9地区（20.7%）が他の地区にくらべ多く、「学校関連の活動」については、第1地区（11.3%）第2地区（11.0%）第8地区（10.2%）第9地区（13.8%）第10地区（17.2%）で比較的に多くなっており、もっとも多い第10地区ともっとも少ない第4地区（4.5%）では、12.7ポイントの差がある。

（図3 - 3）

< 図3 - 3 > 居住年数別・居住地区別



(2) 協働のまちづくりに向けて必要なこと

「市民がまちづくりに関心を持つ」が38.0%で多い。

問6 あなたは、市民と行政の協働のまちづくりに向けて必要なことは何だと思えますか。

(は1つ)

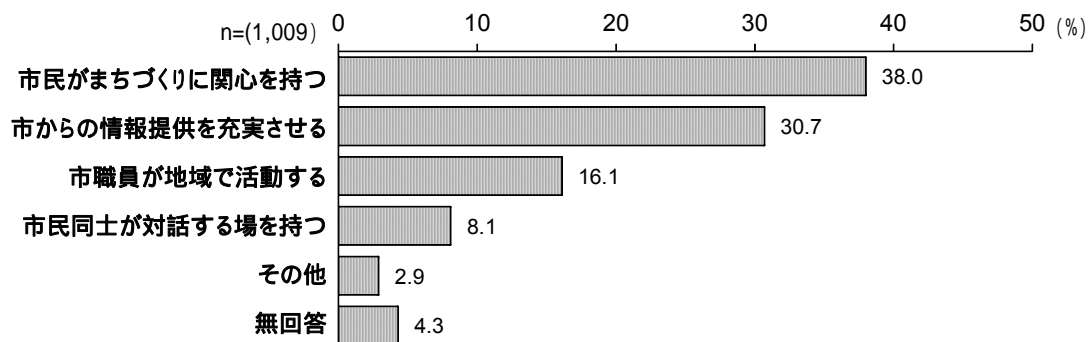
協働とは、地域の様々な課題を解決するため、市民等と行政が、それぞれのできることを役割分担し、公共的サービスの提供を協力して行うことです。

[n=1,009]

1. 市民がまちづくりに関心を持つ	38.0%
2. 市からの情報提供を充実させる	30.7
3. 市民同士が対話する場を持つ	8.1
4. 市職員が地域で活動する	16.1
5. その他	2.9
(無回答)	4.3

協働のまちづくりに向けて必要なことは、「市民がまちづくりに関心を持つ」が38.0%で多く、以下、「市からの情報提供を充実させる」(30.7%)、「市職員が地域で活動する」(16.1%)と続き、「市民同士が対話する場を持つ」(8.1%)は1割を下回っている。(図3-4)

<図3-4> 協働のまちづくりに向けて必要なこと

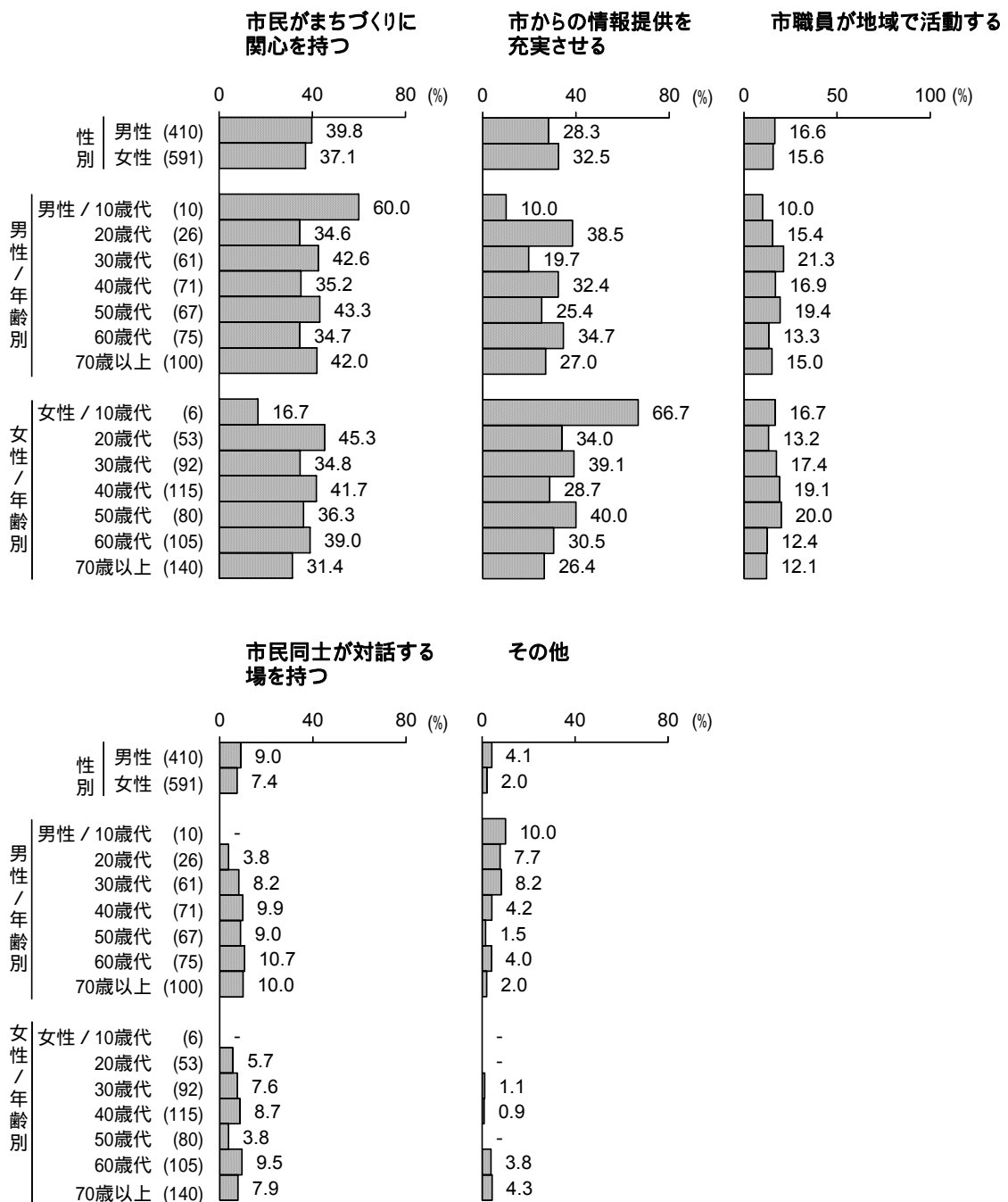


【性別・性 / 年齢別】

性別にみると、男性、女性ともに「市民がまちづくりに関心を持つ」と「市からの情報提供を充実させる」の2項目を多くあげている。男女間で大きく差がひらく項目は特にみられないが、「市からの情報提供を充実させる」は女性が4.2ポイント上回っている。

性・年齢別にみると、「市民がまちづくりに関心を持つ」は男性の30歳代(42.6%)、50歳代(43.3%)、70歳以上(42.0%)、女性の20歳代(45.3%)、40歳代(41.7%)が4割台で多くなっている。「市からの情報提供を充実させる」では男性の20歳代(38.5%)、女性の30歳代(39.1%)、50歳代(40.0%)が他の年齢に比べ多くあげられている。また、「市職員が地域で活動する」については、男性の30歳代と女性の50歳代が唯一の2割台となっており若干多くなっている。(男女とも10歳代は回答者数が少ないため参考とする。)(図3-5)

< 図3-5 > 性別・性 / 年齢別

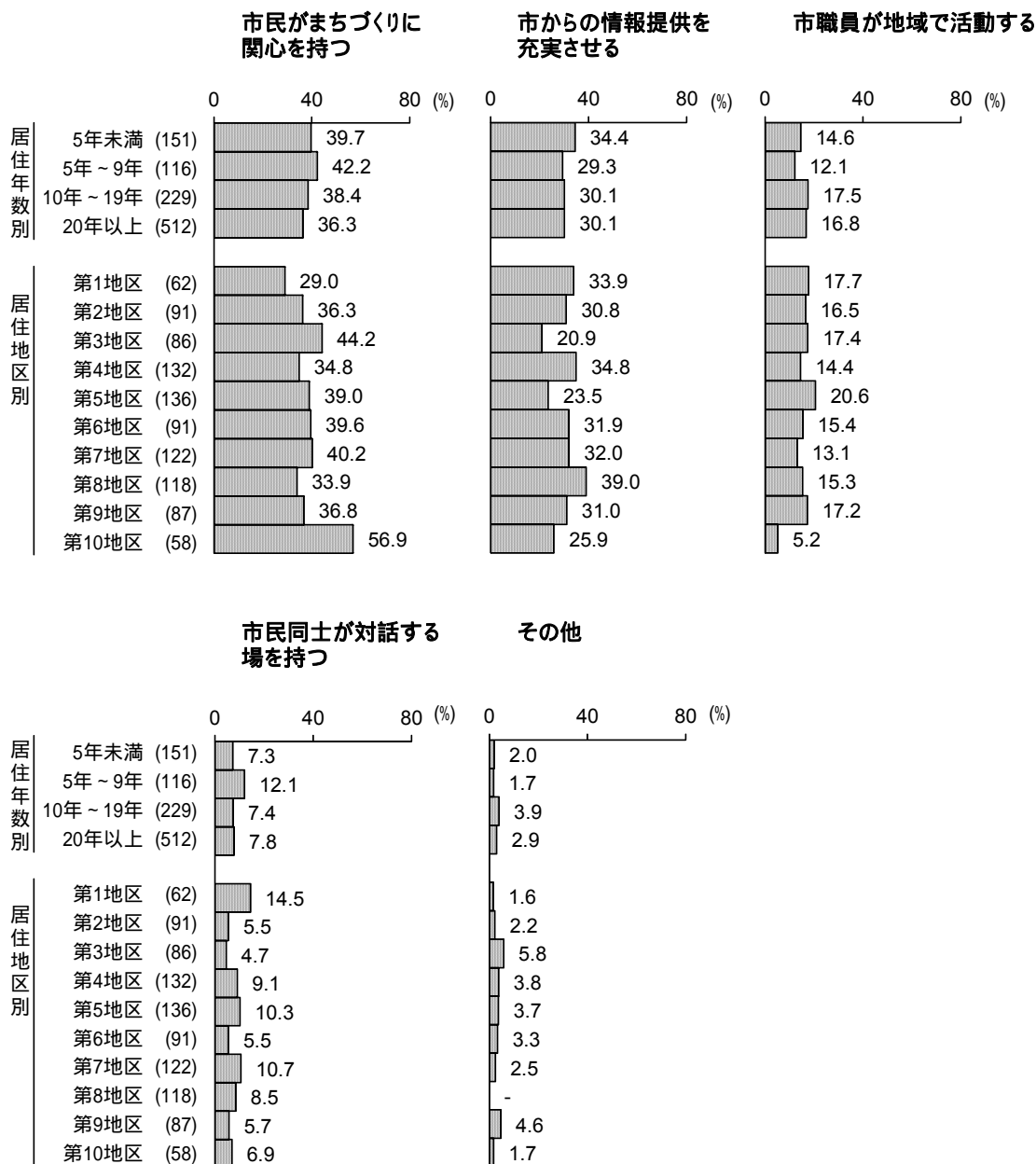


【居住年数別・居住地区別】

居住年数別にみると、「市民がまちづくりに関心を持つ」は5年～9年で42.2%と他に比べて多く、「市からの情報提供を充実させる」は5年未満で34.4%と比較的多くなっている。

居住地区別にみると、「市民がまちづくりに関心を持つ」は第10地区（56.9%）が5割台、第3地区（44.2%）と第7地区（40.2%）が4割台で他の地区より多くなっている。もっとも少ないのは第1地区の29.0%で、第10地区とは27.9ポイントの差がある。「市からの情報提供を充実させる」は第8地区の39.0%でもっとも多く、もっとも少ない第3地区（20.9%）とは18.1ポイントの差がある。「市職員が地域で活動する」については第5地区が20.6%で唯一の2割台となっている。（図3 - 6）

< 図3 - 6 > 居住年数別・居住地区別



(3) 地域センターの利用状況

「ほとんど又はまったく利用しない」が60.5%。「年1回程度」が12.8%で続く。

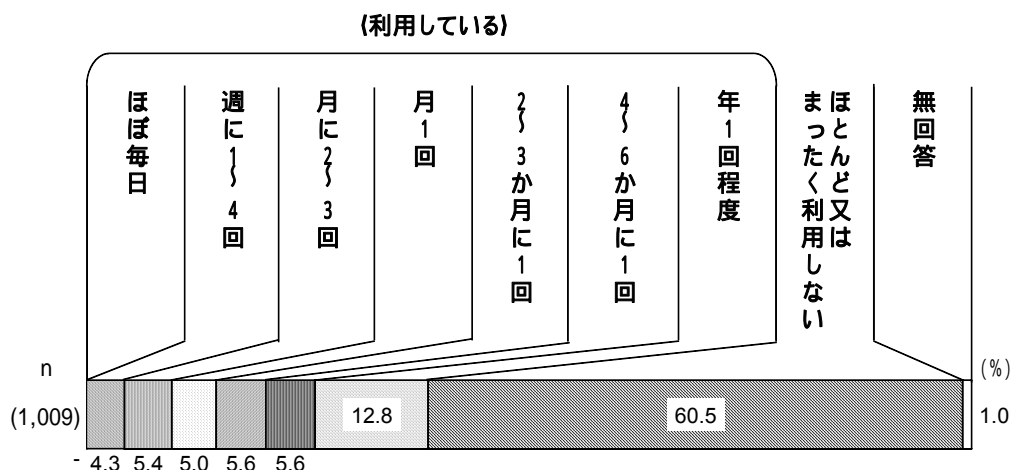
問7 あなたは、お住まいの地域にある地域センターを、どのくらいの頻度で利用していますか。
(は1つ)

[n=1,009]

1. ほぼ毎日	0.0%	5. 2～3か月に1回	5.6
2. 週に1～4回	4.3	6. 4～6か月に1回	5.6
3. 月に2～3回	5.4	7. 年1回程度	12.8
4. 月1回	5.0	8. ほとんど又はまったく利用しない	60.5
		(無回答)	1.0

居住地域にある地域センターの利用状況は、「ほとんど又はまったく利用しない」が60.5%、「年1回程度」が12.8%となっている。一方、それ以下の項目については1割を下回る結果となっている。(図3-7)

<図3-7> 地域センターの利用状況

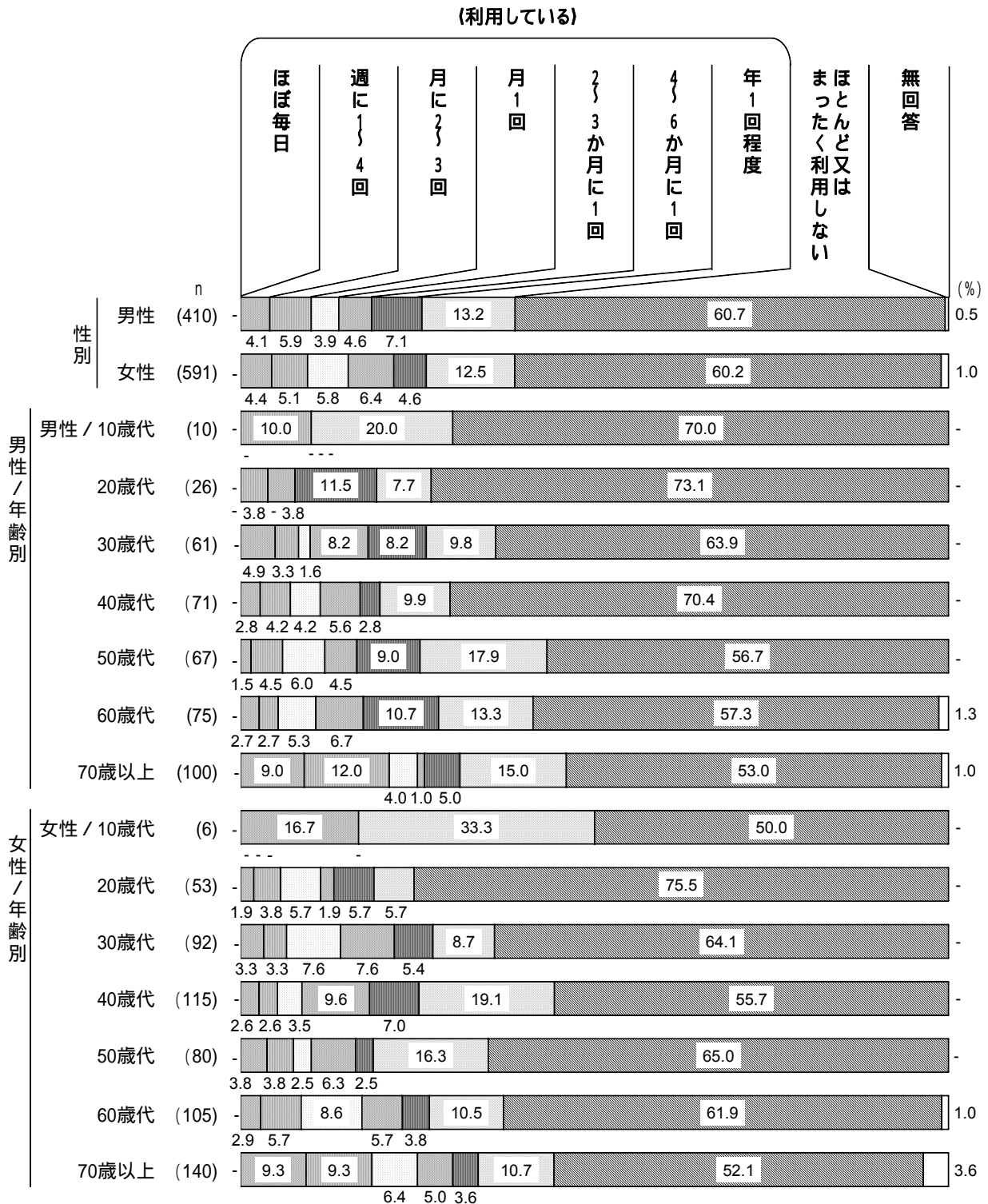


【性別・性 / 年齢別】

性別にみると、男性、女性ともに「ほとんど又はまったく利用しない」がもっとも多く、男性が60.7%、女性が60.2%となっている。また、利用している は、男性、女性ともに38.8%となっており差はみられない。

性・年齢別にみると、利用している は男性の50歳代が43.4%、60歳代が41.4%、70歳以上が46.0%、女性では40歳代が44.4%、70歳以上が44.3%で4割台となっており、他の年齢別にくらべて多くなっている。なお、女性の10歳代は50.0%で唯一の5割台となっているが、回答者数が少ないため参考とする。(図3 - 8)

< 図3 - 8 > 性別・性 / 年齢別

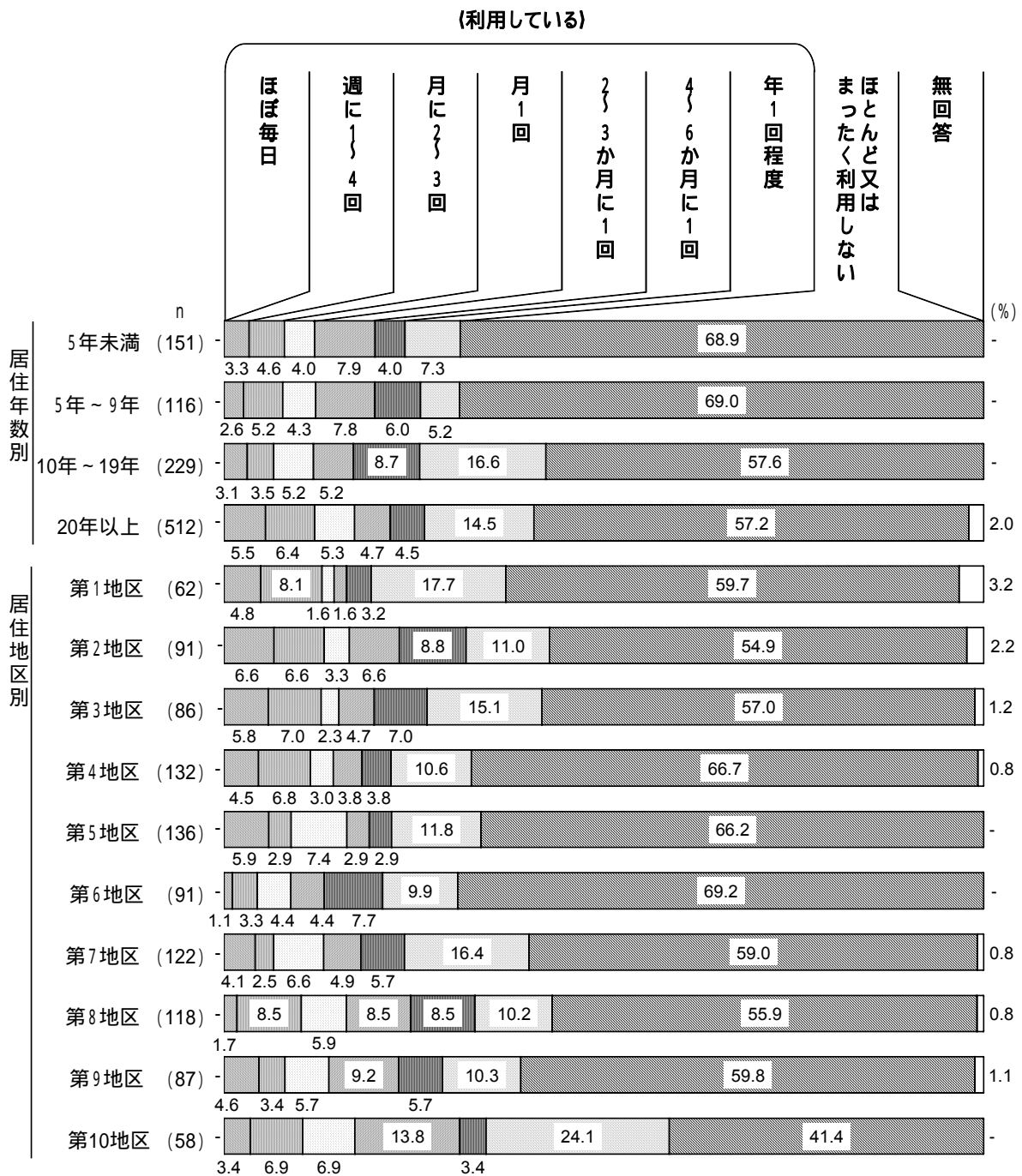


【居住年数別・居住地区別】

居住年数別にみると、利用しているは、「10年～19年」(42.4%)と「20年以上」(40.8%)が、4割台と多くっており、「5年未満」と「5年～9年」(ともに31.1%)とはそれぞれ10ポイント程度の差がある。

居住地区別にみると、利用しているは第10地区の58.5%がもっとも多く、第2地区(42.9%)、第3地区(41.9%)、第7地区(40.2%)、第8地区(43.3%)が4割台と比較的に多くなっている。もっとも少ないのは第6地区の30.8%で、第10地区とは27.7ポイントの差がみられる。(図3-9)

<図3-9> 居住年数別・居住地区別



4 安全・安心について

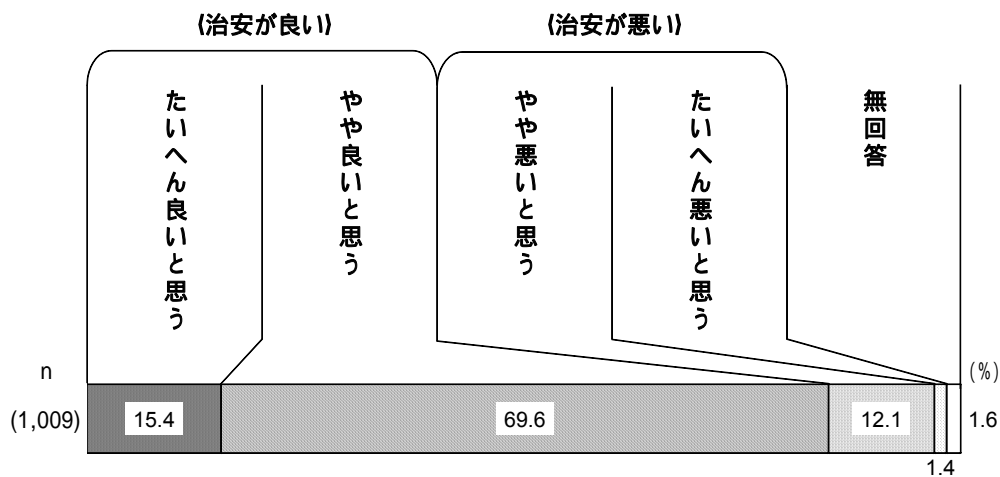
(1) 居住地域の治安について

《治安が良い》は85.0%。

問8 あなたが、お住まいの地域の治安は良いと思いますか。(は1つ)			
[n=1,009]			
1. たいへん良いと思う	15.4%	3. やや悪いと思う	12.1
2. やや良いと思う	69.6	4. たいへん悪いと思う	1.4
		(無回答)	1.6

小平市における居住地域の治安については、「たいへん良いと思う」が15.4%、「やや良いと思う」が69.6%で、これをあわせた《治安が良い》は85.0%となっている。一方、《治安が悪い》(「たいへん悪いと思う」+「やや悪いと思う」)は13.5%となっている。(図4-1)

<図4-1> 居住地域の治安について

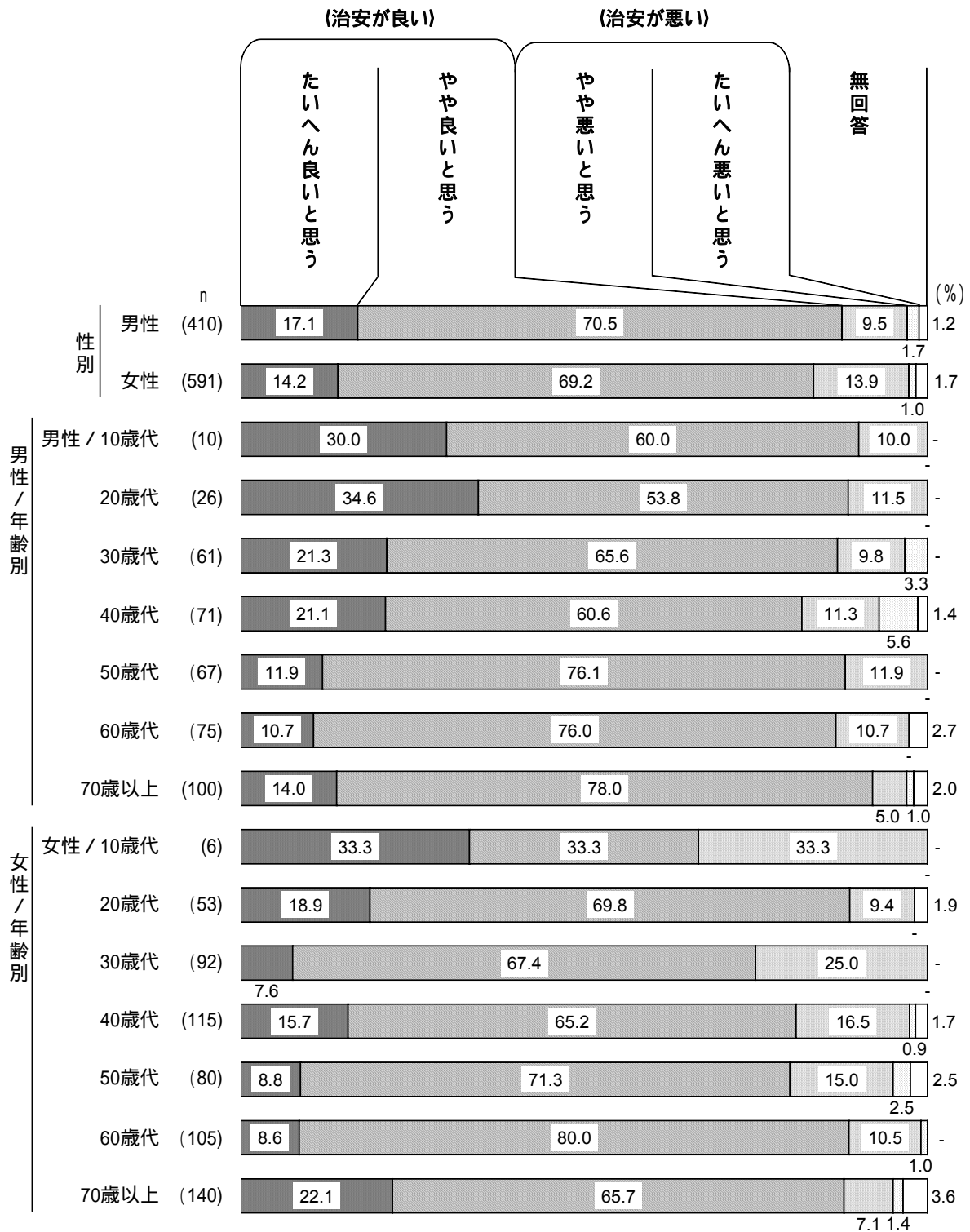


【性別・性 / 年齢別】

性別にみると、《治安が良い》は男性が87.6%、女性が83.4%となっており、ともに8割台と多くなっている。なお、治安の良さは男性の方が感じており、その差は4.2ポイント上回る結果となっている。

性・年齢別にみると、《治安が良い》は男性では70歳以上が92.0%で多く、もっとも少ないのは40歳代で81.7%となっている。女性では20歳代が88.7%と60歳代が88.6%、僅差で70歳以上が87.8%で多くなっている。少ないのは30歳代で75.0%となっている。(10歳代については、《治安が良い》は男性が90.0%で70歳以上の次に多く回答し、女性は66.6%でもっとも少ない回答となっているが、回答者数が少ないため参考とする。)(図4 - 2)

< 図4 - 2 > 性別・性 / 年齢別

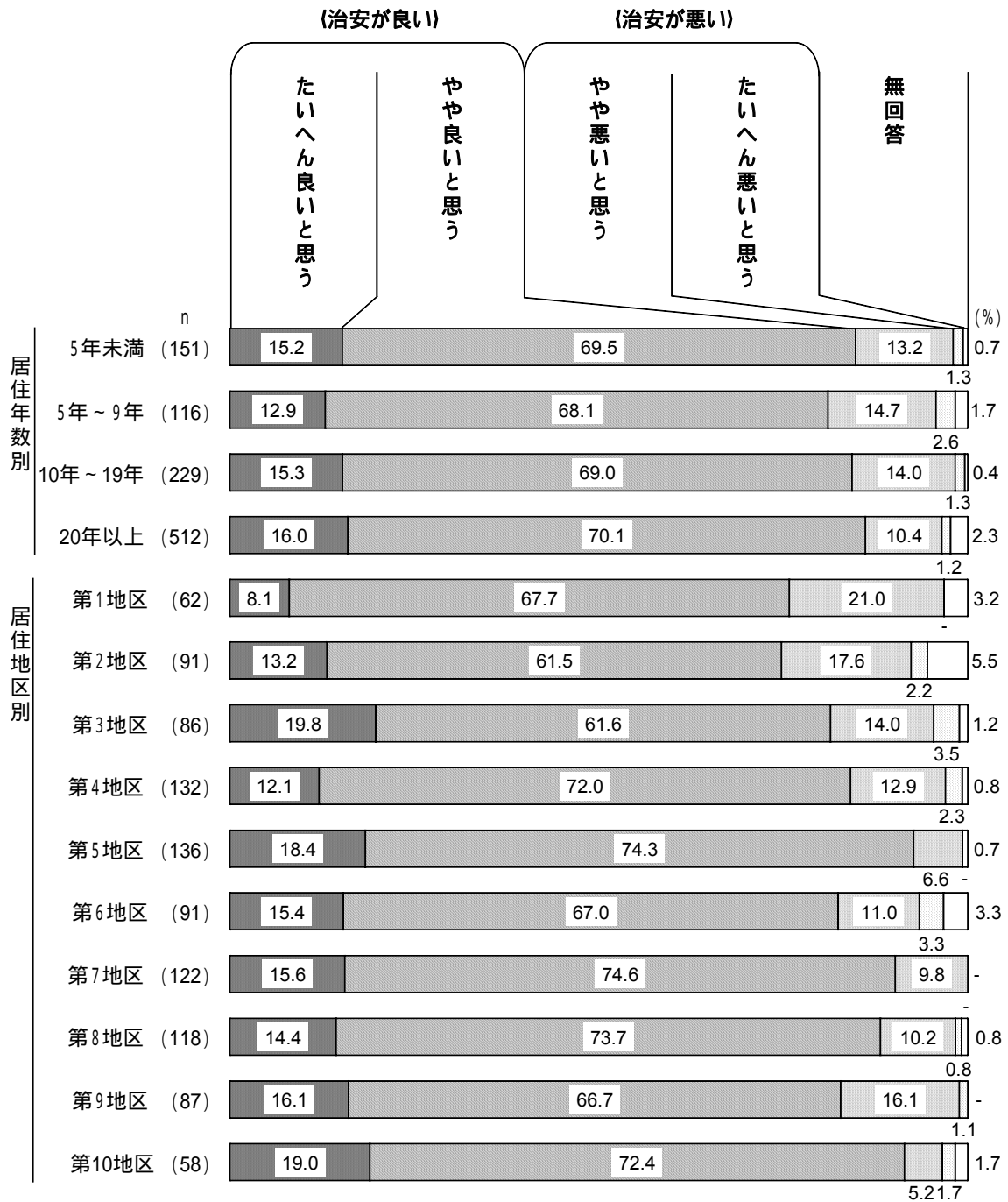


【居住年数別・居住地区別】

居住年数別にみると、《治安が良い》はすべての年数で8割台となっており、20年以上で86.1%ともっとも多くなっている。

居住地区別にみると、《治安が良い》は第5地区(92.7%)、第7地区(90.2%)、第10地区(91.4%)が9割台で他の居住地区にくらべて多く、もっとも少ないのは第2地区で74.7%となっており、第5地区とは18.0ポイントの差がある。一方、《治安が悪い》は第1地区で21.0%と唯一2割台となっている。(図4-3)

<図4-3> 居住年数別・居住地区別



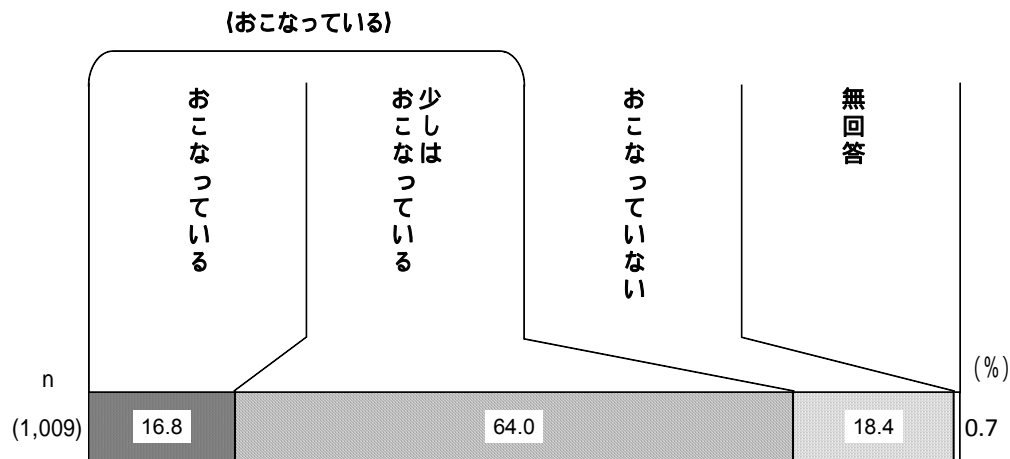
(2) 日頃の地震対策

80.8%の人が大地震への備えや対策をおこなっている。

問9 あなたのご家庭では、大地震が起きた際に、ご自分たちの身を守るため、日頃、何か備えや対策をおこなっていますか。(は1つ)			
[n=1,009]			
1. おこなっている	16.8%	3. おこなっていない	18.4%
2. 少しはおこなっている	64.0	(無回答)	0.7

大地震が起きた際への備えや対策については、「おこなっている」が16.8%、「少しはおこなっている」が64.0%で、これをあわせた《おこなっている》は80.8%となっており、多くの人が大地震への備えや対策を行っている。(図4 - 4)

< 図4 - 4 > 日頃の地震対策

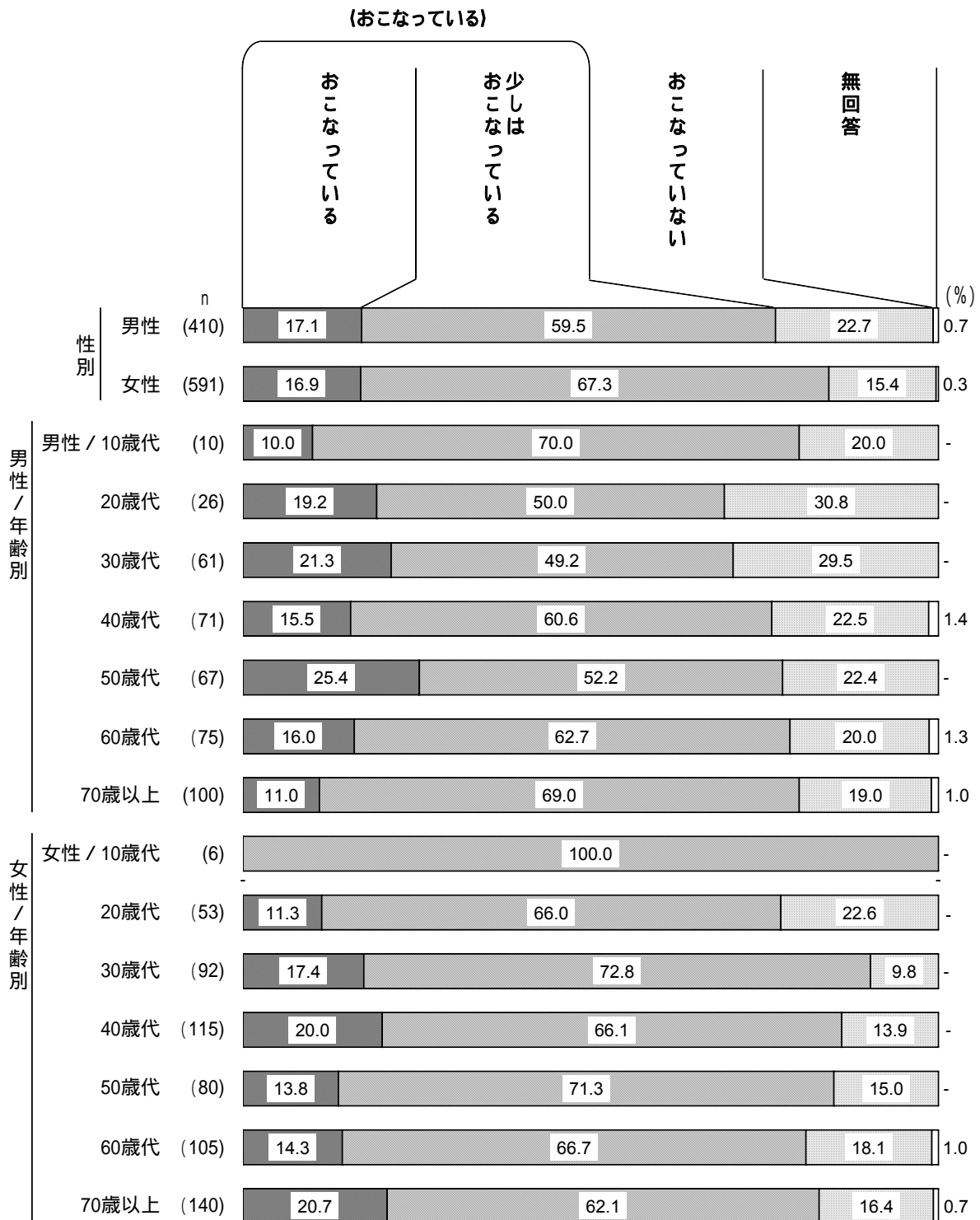


【性別・性 / 年齢別】

性別にみると、《おこなっている》は男性が76.6%、女性が84.2%となっており、女性が男性を7.6ポイント上回っており、女性の意識の高さがうかがえる。

性・年齢別にみると、《おこなっている》は男性の10歳代と70歳以上がともに80.0%と多く、次に60歳代の78.7%、50歳代の77.6%、40歳代の76.1%が僅差で続く。女性は30歳代が90.2%で多くなっており、20歳代(77.3%)を除き8割を上回る結果となっている。(なお、女性の10歳代については全数(100.0%)の回答となっているが、回答者数が少ないため参考とする。)(図4 - 5)

< 図 4 - 5 > 性別・性 / 年齢別

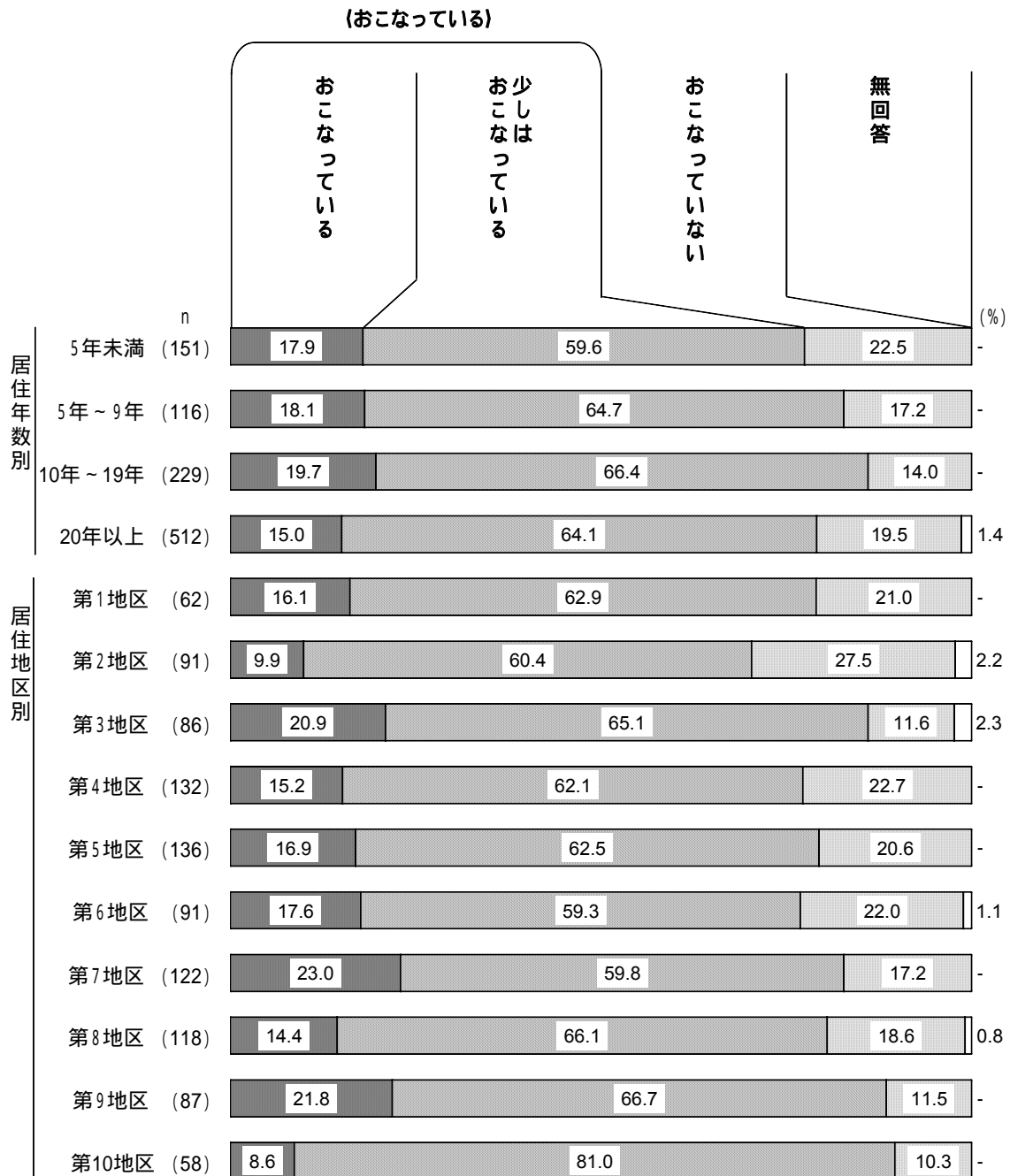


【居住年数別・居住地区別】

居住年数別にみると、《おこなっている》が8割前後で多くなっているが、「10年～19年」(86.1%)と「5年未満」(77.5%)では8.6ポイントの差がある。

居住地区別にみると、《おこなっている》は、第10地区がもっとも多く89.6%となっており、次に第9地区が88.5%の僅差で続く。もっとも少ないのは第2地区の70.3%で、第10地区とは19.3ポイントの差がある結果となっている。(図4-6)

< 図4-6 > 居住年数別・居住地区別



(2 - 1) 日頃の地震対策の内容

「非常持ち出し品(携帯ラジオ、医療品、飲料水及び非常食など)の準備」が83.1%で最も多い。

(問9で「1 おこなっている」「2 少しはおこなっている」と答えた方におたずねします。)

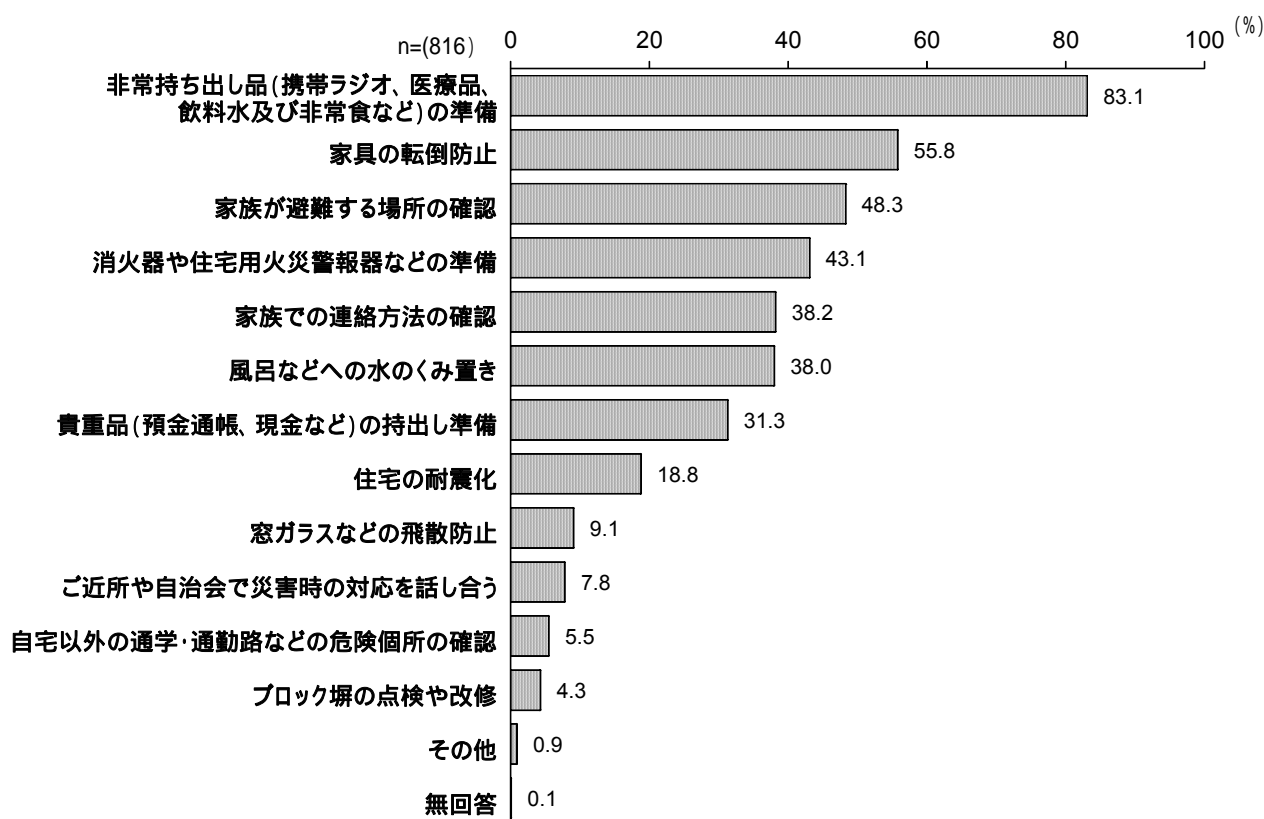
問9 - 1 それは、どのような備えや対策ですか。(はいくつでも可)

[n=816]

1. 非常持ち出し品(携帯ラジオ、医療品、飲料水及び非常食など)の準備	83.1%
2. 消火器や住宅用火災警報器などの準備	43.1
3. 風呂などへの水のくみ置き	38.0
4. 貴重品(預金通帳、現金など)の持出し準備	31.3
5. 窓ガラスなどの飛散防止	9.1
6. 家具の転倒防止	55.8
7. 住宅の耐震化	18.8
8. ブロック塀の点検や改修	4.3
9. 家族が避難する場所の確認	48.3
10. 家族での連絡方法の確認	38.2
11. 自宅以外の通学・通勤路などの危険個所の確認	5.5
12. ご近所や自治会で災害時の対応を話し合う	7.8
13. その他	0.9
(無回答)	0.1

日頃からの地震対策では、「非常持ち出し品(携帯ラジオ、医療品、飲料水及び非常食など)の準備」が83.1%で特に多くなっている。以下、「家具の転倒防止」(55.8%)、「家族が避難する場所の確認」(48.3%)、「消火器や住宅用火災警報器などの準備」(43.1%)と続いている。(図4 - 7)

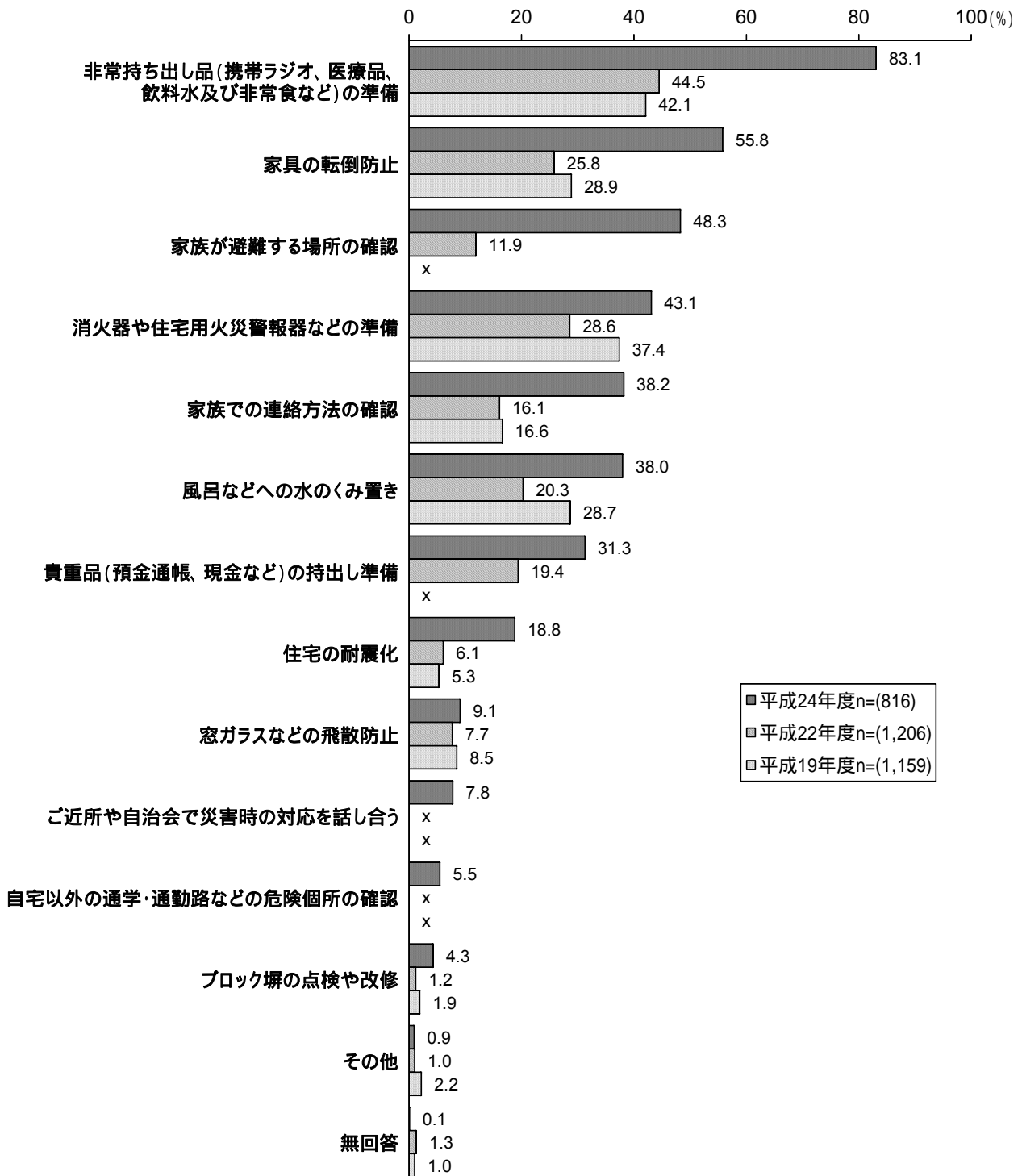
< 図4 - 7 > 日頃の地震対策の内容



【時系列比較】

時系列で比較すると、震災の影響により、多くの項目で前回（平成22年度）調査から増加傾向となっており、「非常持ち出し品（携帯ラジオ、医療品、飲料水及び非常食など）の準備」が38.6ポイント、「家族が避難する場所の確認」が36.4ポイント、「家具の転倒防止」が30.0ポイントの増加で特に多く、「家族での連絡方法の確認」で22.1ポイントの増加、「風呂などへの水のくみ置き」（17.7ポイント）、「消火器や住宅用火災警報器などの準備」（14.5ポイント）、「住宅の耐震化」（12.7ポイント）、「貴重品（預金通帳、現金など）の持出し準備」（11.9ポイント）が10ポイント以上の増加となっている。（図4 - 8）

< 図4 - 8 > 時系列比較

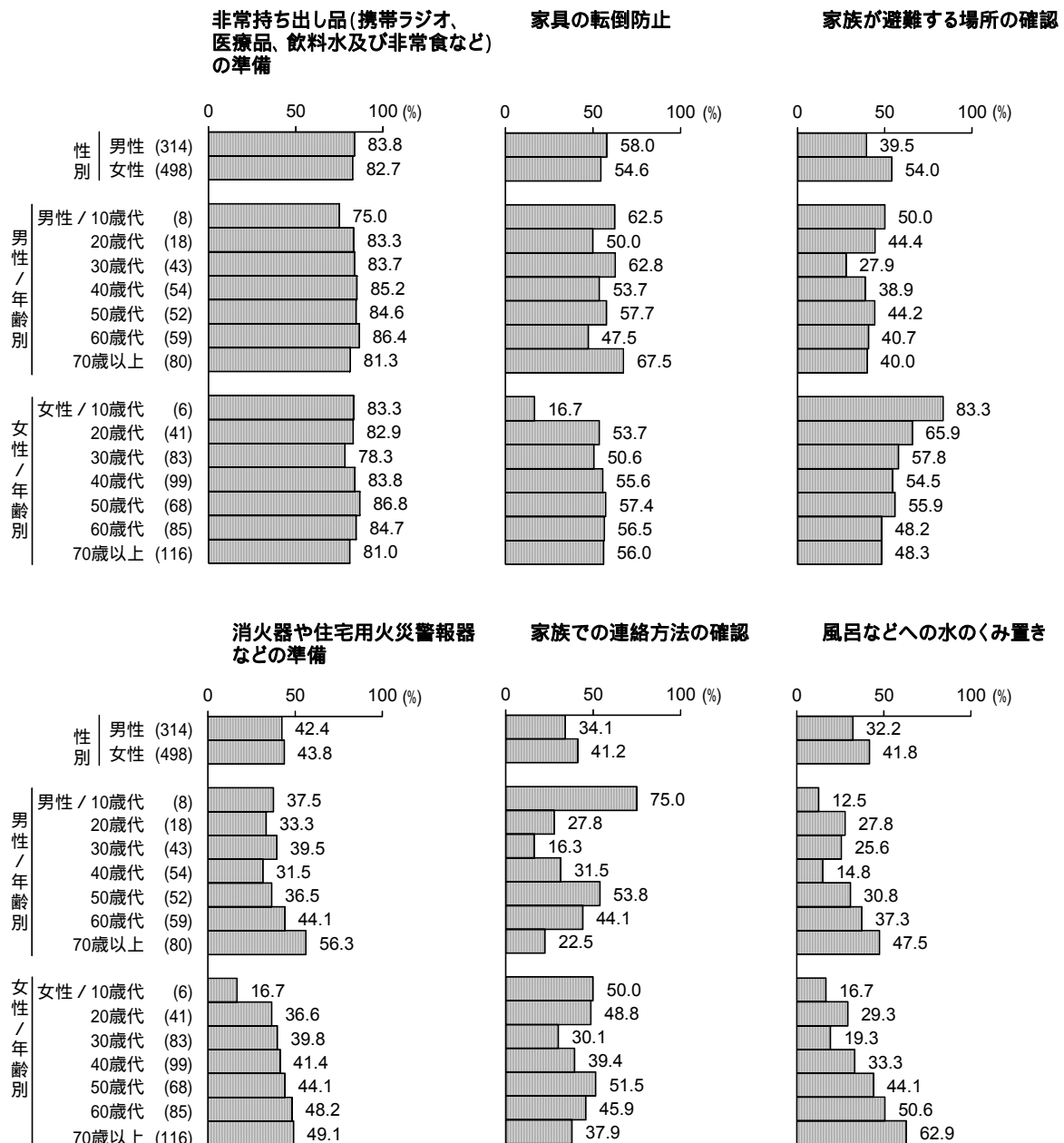


【性別・性／年齢別】

性別にみると、「非常持ち出し品（携帯ラジオ、医療品、飲料水及び非常食など）の準備」が男性、女性ともに8割台で多くを占める結果となっている。上位6項目の中で男性、女性の差が大きいものとして、「家族が避難する場所の確認」は男性が39.5%、女性が54.0%で、女性が14.5ポイント上回る。「風呂などへの水のくみ置き」についても女性（41.8%）が男性（32.2%）を9.6ポイント上回っている。なお、6項目のうち4項目で女性が男性を上回る結果となっている。

性・年齢別にみると、「非常持ち出し品（携帯ラジオ、医療品、飲料水及び非常食など）の準備」は、男性、女性ともにすべての年齢で多くを占めており、「家具の転倒防止」は男性の70歳以上（67.5%）でもっとも多く、もっとも少ない160歳代（47.5%）とは20.0ポイントの差がみられる。女性はほとんどで5割台となっており、年齢による差はあまりみられない。「家族が避難する場所の確認」については男性の30歳代で27.9%と少ないが、その他の年齢層では4割前後となっている。女性では20歳代が65.9%で多く、年齢層が高くなるにつれて減少していく傾向がみられる。この他「消火器や住宅用火災警報器などの準備」と「風呂などへの水のくみ置き」は男性、女性ともに70歳以上、「家族での連絡方法の確認」は男性、女性ともに50歳代で他の年齢より多くなっている。（男女とも10歳代は回答者数が少ないため参考とする。）（図4 - 9）

< 図4 - 9 > 性別・性／年齢別



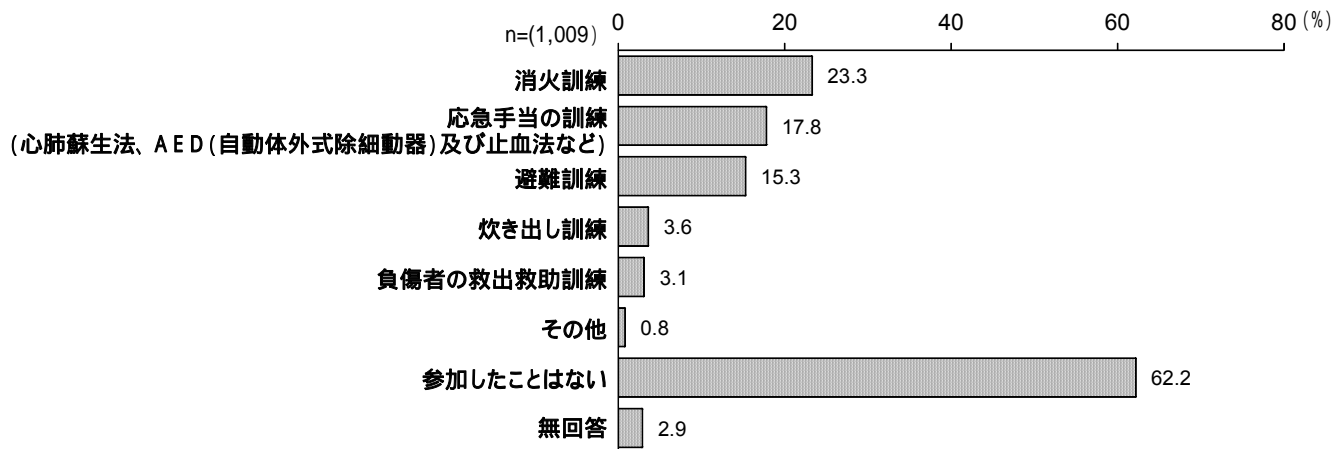
(3) 参加した防災活動の内容

「参加したことはない」が62.2%でもっとも多い。

問10 あなたは、自主防災組織や地域の防災活動等に参加したことがありますか。 参加したことがある活動は、どのような内容ですか。(はいくつでも可) [n=1,009]	
1. 消火訓練	23.3%
2. 応急手当の訓練 (心肺蘇生法、A E D (自動体外式除細動器) 及び止血法など)	17.8
3. 負傷者の救出救助訓練	3.1
4. 炊き出し訓練	3.6
5. 避難訓練	15.3
6. その他	0.8
7. 参加したことはない (無回答)	62.2 2.9

参加経験がある防災活動の中では、「消火訓練」が23.3%と多くなっている。以下、「応急手当の訓練 (心肺蘇生法、A E D (自動体外式除細動器) 及び止血法など) 」(17.8%)、「避難訓練」(15.3%) が続いている。(図 4 - 10)

< 図 4 - 10 > 参加した防災活動の内容

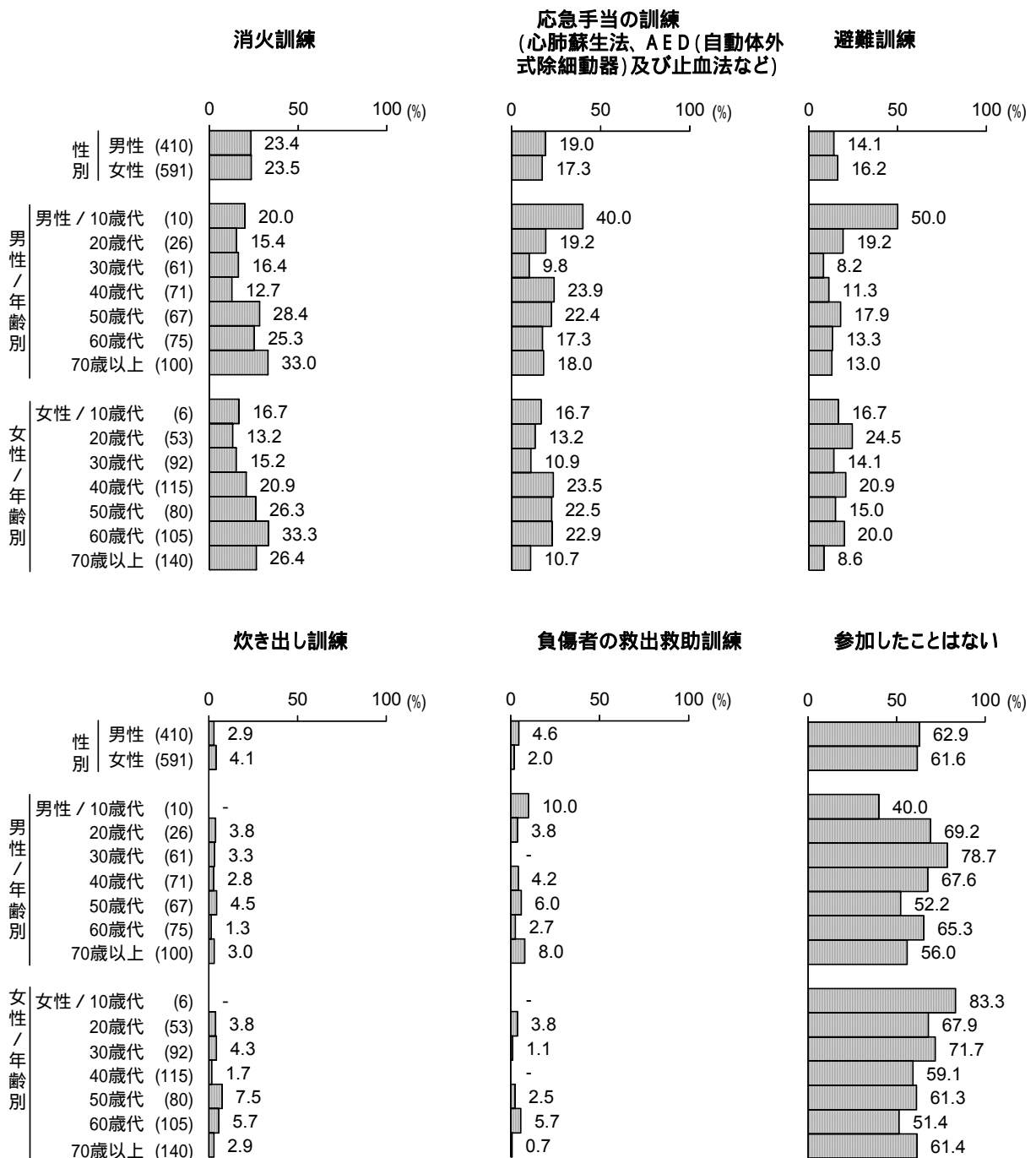


【性別・性 / 年齢別】

性別にみると、参加経験がある防災活動の中では、「消火訓練」が男性、女性ともに多くなっている。また、「応急手当の訓練（心肺蘇生法、AED（自動体外式除細動器）及び止血法など）」や「負傷者の救出救助訓練」は男性が女性を上回り、「炊き出し訓練」や「避難訓練」は女性が男性を上回っている。

性・年齢別にみると、「消火訓練」は、男性の70歳以上が33.0%、女性の60歳代が33.3%で、3割台と多くなっており、「応急手当の訓練（心肺蘇生法、AED（自動体外式除細動器）及び止血法など）」は、男性の40歳代と50歳代、女性の40歳代から60歳代で2割台と多くなっている。（男女とも10歳代は回答者数が少ないため参考とする。）（図4 - 11）

< 図4 - 11 > 性別・性 / 年齢別

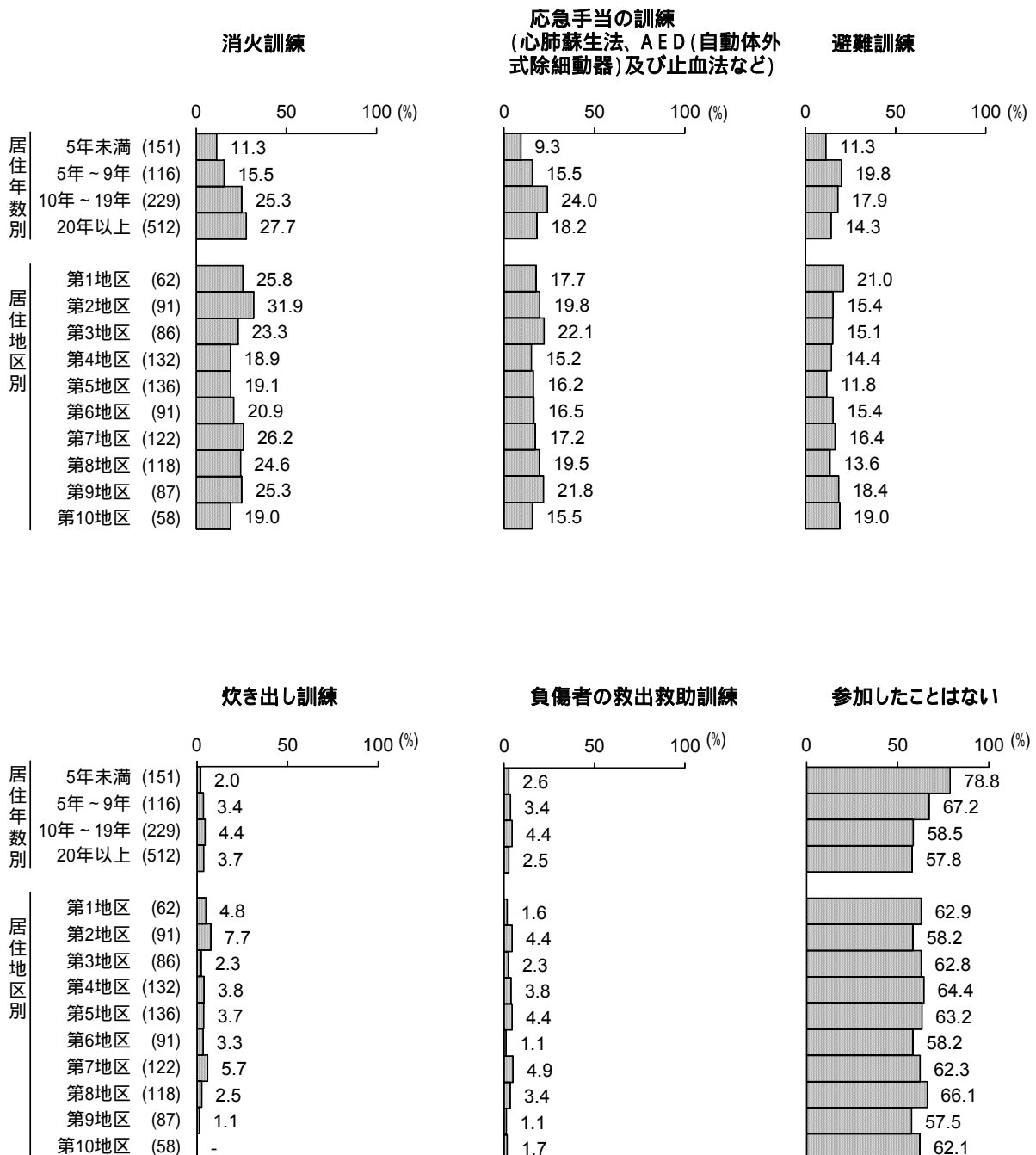


【居住年数別・居住地区別】

居住年数別にみると「消火訓練」は居住年数が多いほど割合も多くなり、20年以上で27.7%となっており、もっとも少ない5年未満(11.3%)とは16.4ポイントの差がある。「応急手当の訓練(心肺蘇生法、AED(自動体外式除細動器)及び止血法など)」は10年~19年(24.0%)、「避難訓練」は5年~9年(19.8%)でそれぞれ多くなっている。

居住地区別にみると、「消火訓練」では第2地区が31.9%で唯一の3割台となっており、もっとも少ない第4地区(18.9%)(同程度で第10地区が19.0%)とは13.0ポイントの差がある。「応急手当の訓練(心肺蘇生法、AED(自動体外式除細動器)及び止血法など)」では、第3地区(22.1%)と第9地区(21.8%)が2割台で他に比べて多く、「避難訓練」では、第1地区が21.0%で唯一の2割台となっている。(図4-12)

<図4-12> 居住年数別・居住地区別



5 市民相談について

(1) 市が実施している相談窓口の認知状況

「知っている」が77.0%。

問11 あなたは、小平市で行っている「市民相談窓口」「暮らしの相談窓口」などの相談窓口があることを知っていますか。(は1つ)

市民相談窓口とは、法律相談、税務相談、登記相談、交通事故相談、住宅・不動産相談、相続等手続き相談、年金・労務相談、行政相談、家庭相談、人権等相談があります。

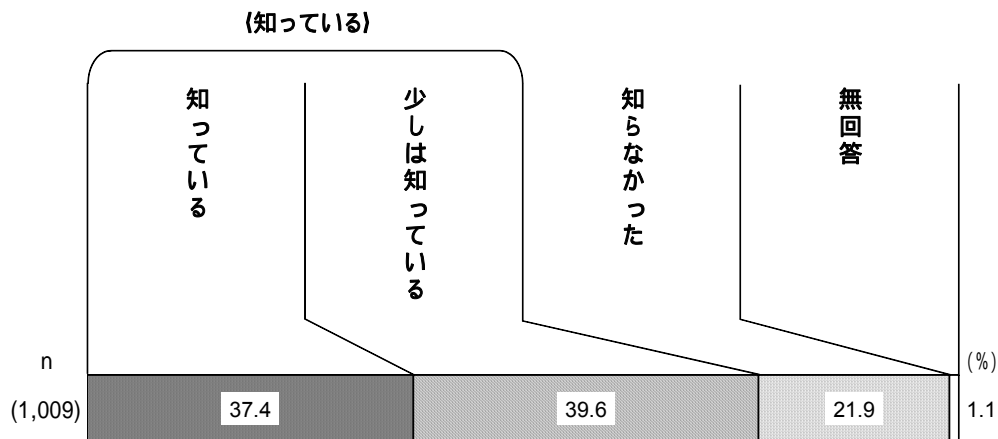
暮らしの相談窓口とは、消費生活相談、健康相談、教育相談、子育て相談、女性相談などがあります。

[n=1,009]

1. 知っている	37.4%	3. 知らなかった	21.9
2. 少しは知っている	39.6	(無回答)	1.1

市民を対象にした相談窓口（法律相談、消費生活相談等）を市が行っていることを「知っている」が37.4%、「少しは知っている」が39.6%で、これをあわせた《知っている》は77.0%となっており、多くの人が相談窓口を市が行っていることを知っている。（図5 - 1）

<図5 - 1> 市が実施している相談窓口の認知状況

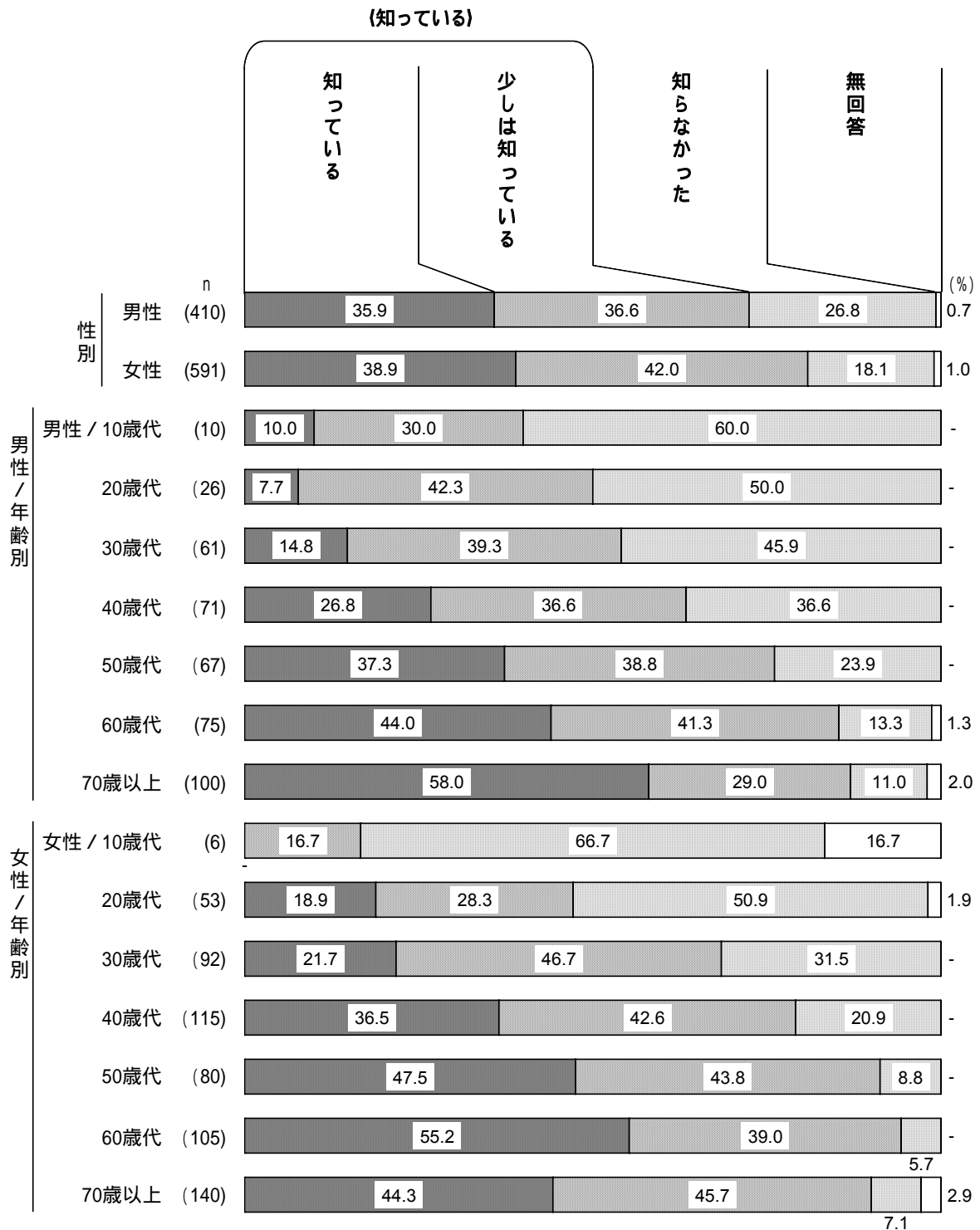


【性別・性 / 年齢別】

性別にみると、《知っている》は男性が72.5%、女性が80.9%となっており、女性が8.4ポイント上回り、認知度は女性の方が高い。

性・年齢別にみると、《知っている》は男性が70歳以上で87.0%と多く、次に60歳代が85.3%で続く。女性は60歳代が94.2%でもっとも多く、次に50歳代が91.3%、70歳以上が90.0%となっており9割台で続く。(10歳代は《知っている》について、男性(40.0%)、女性(16.7%)でもっとも少なくなっているが回答者数が少ないため参考とする。)(図5 - 2)

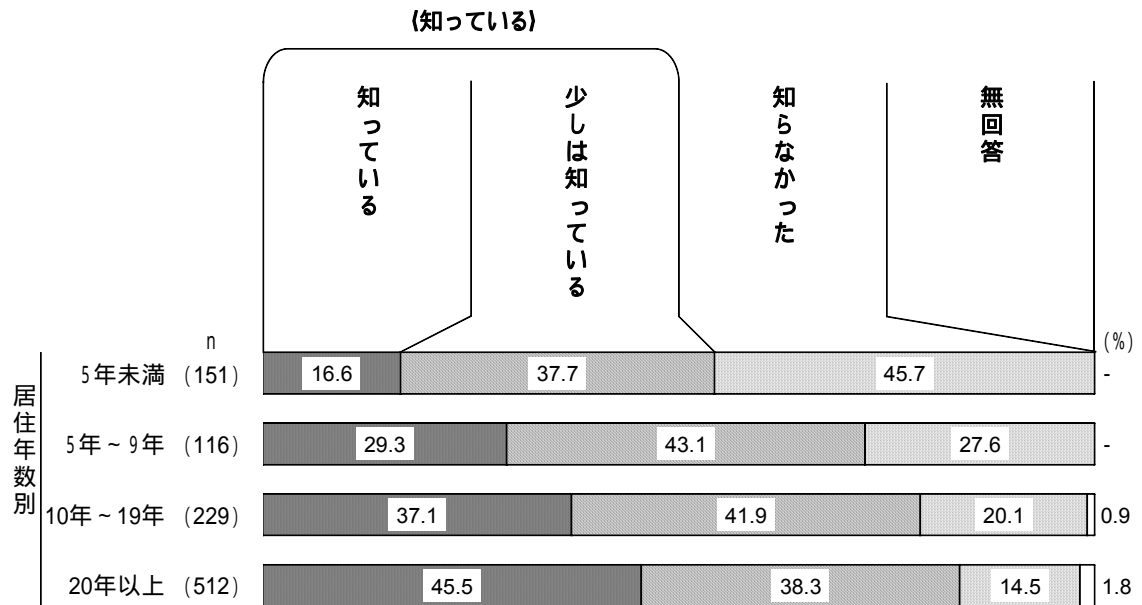
< 図5 - 2 > 性別・性 / 年齢別



【居住年数別】

居住年数別にみると、《知っている》は20年以上で83.8%ともっとも多く、もっとも少ない5年未満（54.3%）と20年以上とは29.5ポイントの差がある。（図5 - 3）

< 図5 - 3 > 居住年数別



6 文化・歴史について

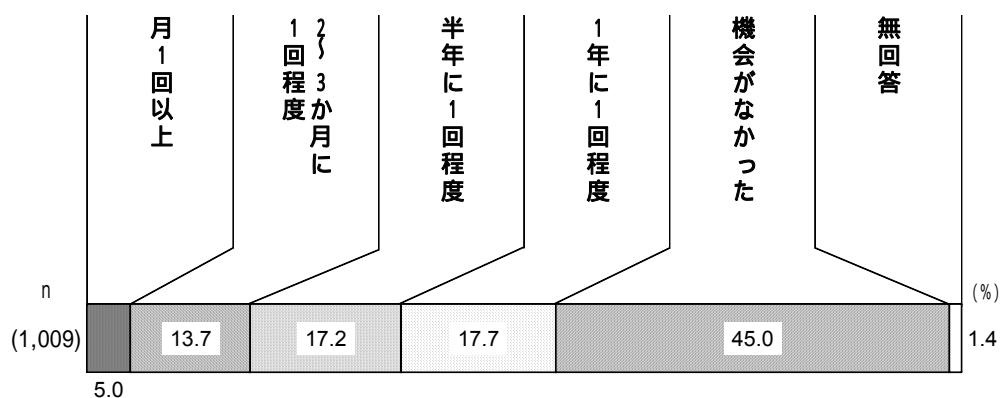
(1) 文化・芸術活動の鑑賞頻度

「機会がなかった」が45.0%。

問12 あなたは、この1年間に文化・芸術活動を鑑賞する機会がどのくらいありましたか。			
(は1つ)			
〔n=1,009〕			
1. 月1回以上	5.0%	4. 1年に1回程度	17.7
2. 2～3か月に1回程度	13.7	5. 機会がなかった	45.0
3. 半年に1回程度	17.2	(無回答)	1.4

文化・芸術活動を鑑賞する機会は、「機会がなかった」が45.0%でもっとも多く、続いて「1年に1回程度」が17.7%、「半年に1回程度」が17.2%となっている。一方、「月1回以上」は5.0%となっている。(図6-1)

<図6-1>文化・芸術活動の鑑賞頻度

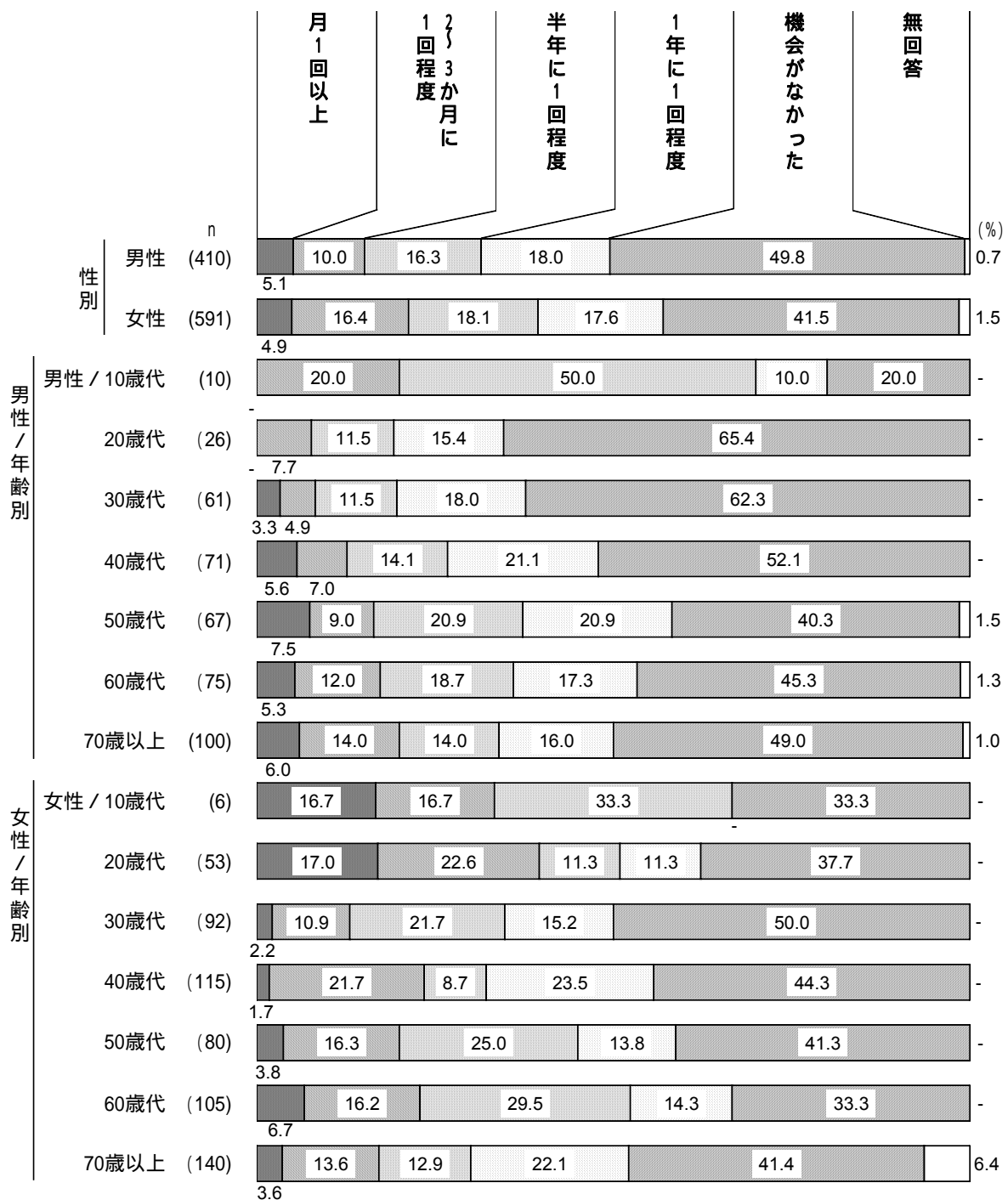


【性別・性 / 年齢別】

性別にみると、男性、女性ともに「機会がなかった」が4割台と多く、鑑賞する機会があったものとして多いのは、男性が「1年に1回程度」で18.0%、女性が「半年に1回程度」で18.1%となっている。

性・年齢別にみると、鑑賞する機会があったものとして多いのは、男性の40歳代で「1年に1回程度」が21.1%、同程度で50歳代が20.9%となっており、50歳代は「半年に1回程度」も20.9%で同じになっている。女性は「1年に1回程度」が40歳代で23.5%、70歳以上で22.1%と多く、「半年に1回程度」では60歳代の29.5%、50歳代の25.0%が2割台で多くなっている。また「2～3か月に1回程度」では女性の20歳代（22.6%）と40歳代（21.7%）で唯一の2割台となっている。（男女とも10歳代は回答者数が少ないため参考とする。）（図6 - 2）

< 図6 - 2 > 性別・性 / 年齢別



(2) 市の歴史的遺産に対する関心

関心がある 50.6%。 関心がない 48.7%

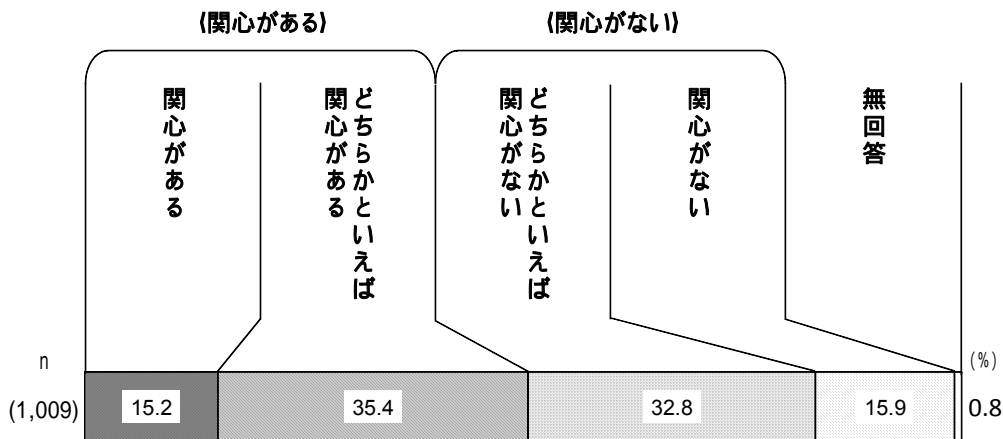
問13 あなたは、小平ふるさと村、鈴木遺跡、鈴木ばやしといった小平市の歴史的遺産に関心がありますか。(は1つ)

[n=1,009]

1. 関心がある	15.2%	3. どちらかといえば関心がない	32.8
2. どちらかといえば関心がある	35.4	4. 関心がない	15.9
		(無回答)	0.8

歴史的遺産について、「関心がある」は15.2%、「どちらかといえば関心がある」は35.4%で、これをあわせた《関心がある》は50.6%となっている。一方、《関心がない》(「どちらかといえば関心がない」+「関心がない」)は48.7%となっている。(図6-3)

<図6-3> 市の歴史的遺産に対する関心

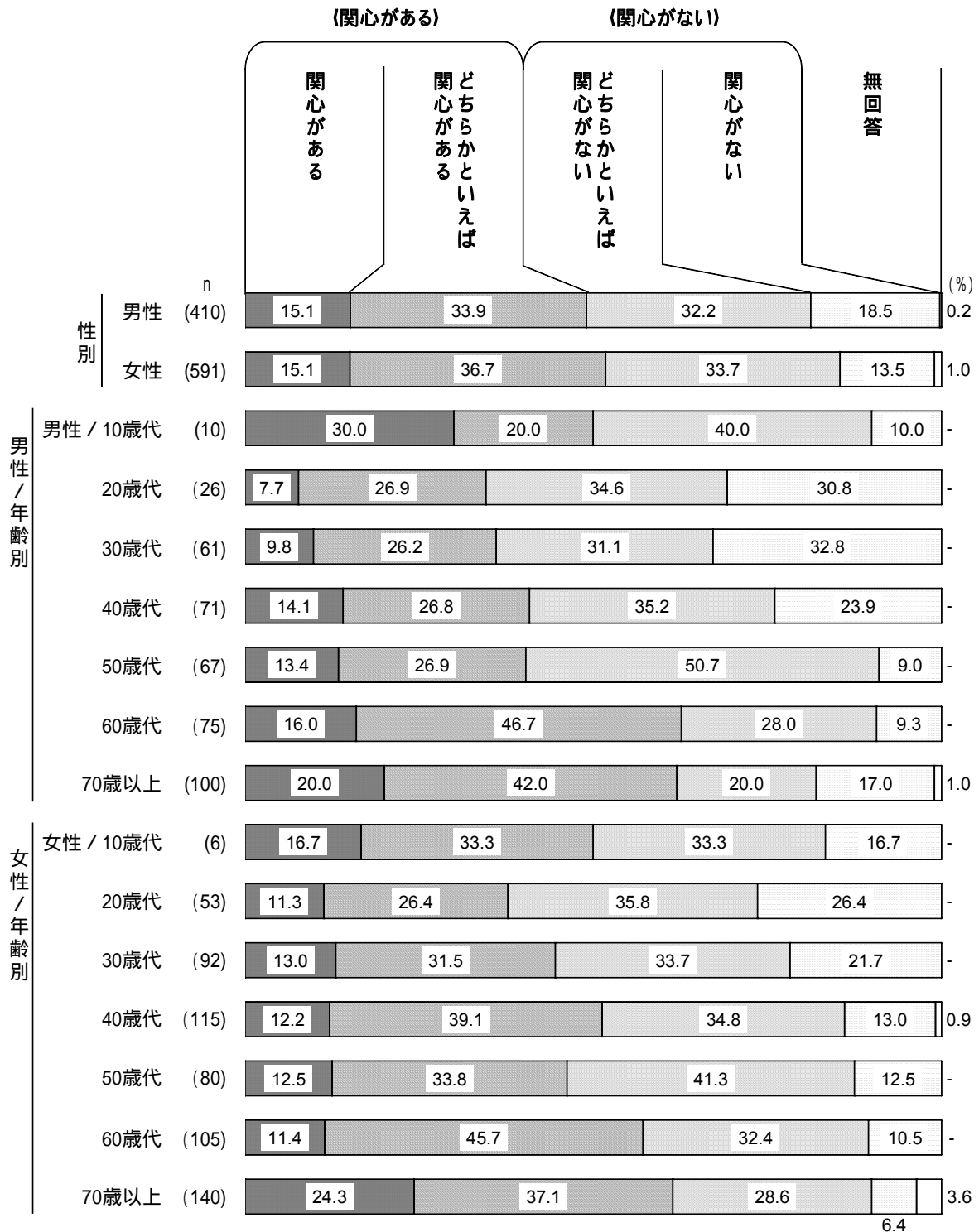


【性別・性 / 年齢別】

性別にみると、《関心がある》は男性が49.0%、女性が51.8%でともに5割前後となっている。その差は、女性の方が2.8ポイント上回っており、関心が高いことがわかる。

性・年齢別にみると、《関心がある》は男性の60歳代以上で特に多くなり、60歳代で62.7%、70歳以上で62.0%となっている。もっとも少ないのは20歳代の34.6%で、60歳代との差は28.1ポイントとなっている。女性は70歳以上でもっとも多く61.4%となっており、もっとも少ない20歳代の37.7%とは23.7ポイントの差がある。(男女とも10歳代は回答者数が少ないため参考とする。)(図6 - 4)

< 図6 - 4 > 性別・性 / 年齢別



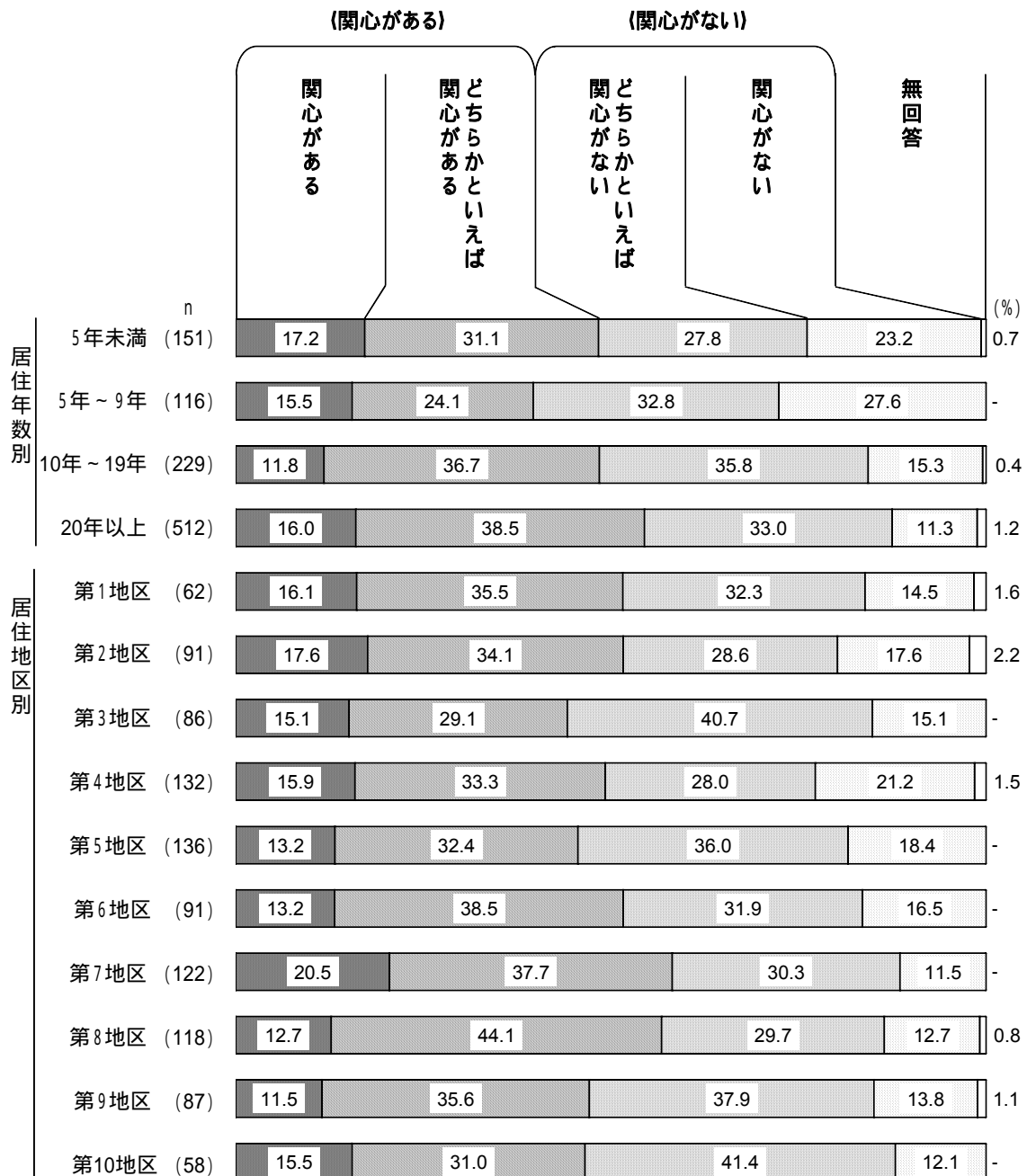
【居住年数別・居住地区別】

居住年数別にみると、 関心がある は20年以上で54.5%となっており、もっとも少ない5年～9年の39.6%とは14.9ポイントの差となっている。

居住地区別にみると、 関心がある はいずれの地区でも4割から5割台となっているが、もっとも多い第7地区の58.2%ともっとも少ない第3地区の44.2%では14.0ポイントの差がある。

(図6-5)

<図6-5> 居住年数別・居住地区別



7 環境・ごみ処理について

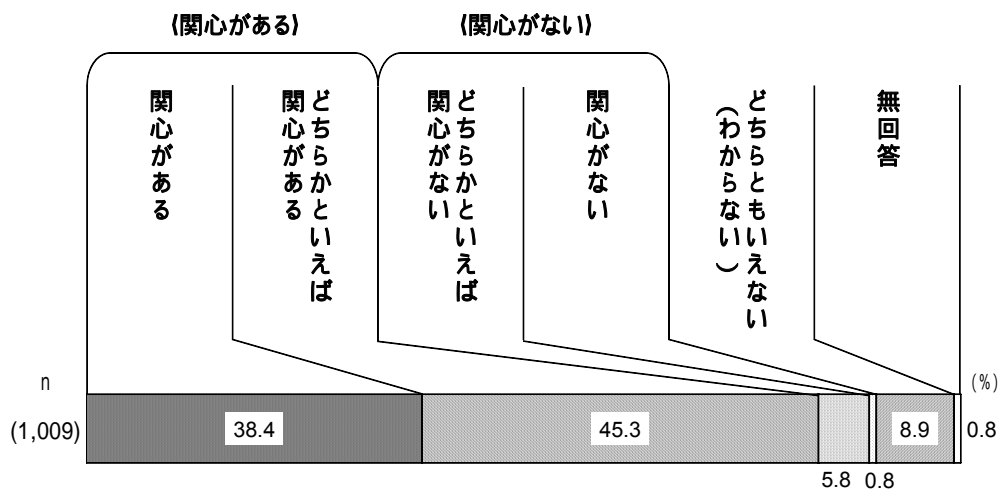
(1) 地球環境保全に対する関心

《関心がある》が83.7%、《関心がない》が6.6%。

問14 あなたは、地球環境の保全に対して関心がありますか。(は1つ)			
[n=1,009]			
1. 関心がある	38.4%	3. どちらかといえば関心がない	5.8
2. どちらかといえば関心がある	45.3	4. 関心がない	0.8
		5. どちらともいえない(わからない)	8.9
		(無回答)	0.8

地球環境保全に対して関心があるか聞いたところ、「関心がある」が38.4%、「どちらかといえば関心がある」が45.3%で、これをあわせた《関心がある》は83.7%、《関心がない》(「関心がない」+「どちらかといえば関心がない」)は6.6%となっており、地球環境保全に対して、多くが関心を示している。(図7-1)

< 図7-1 > 地球環境保全に対する関心



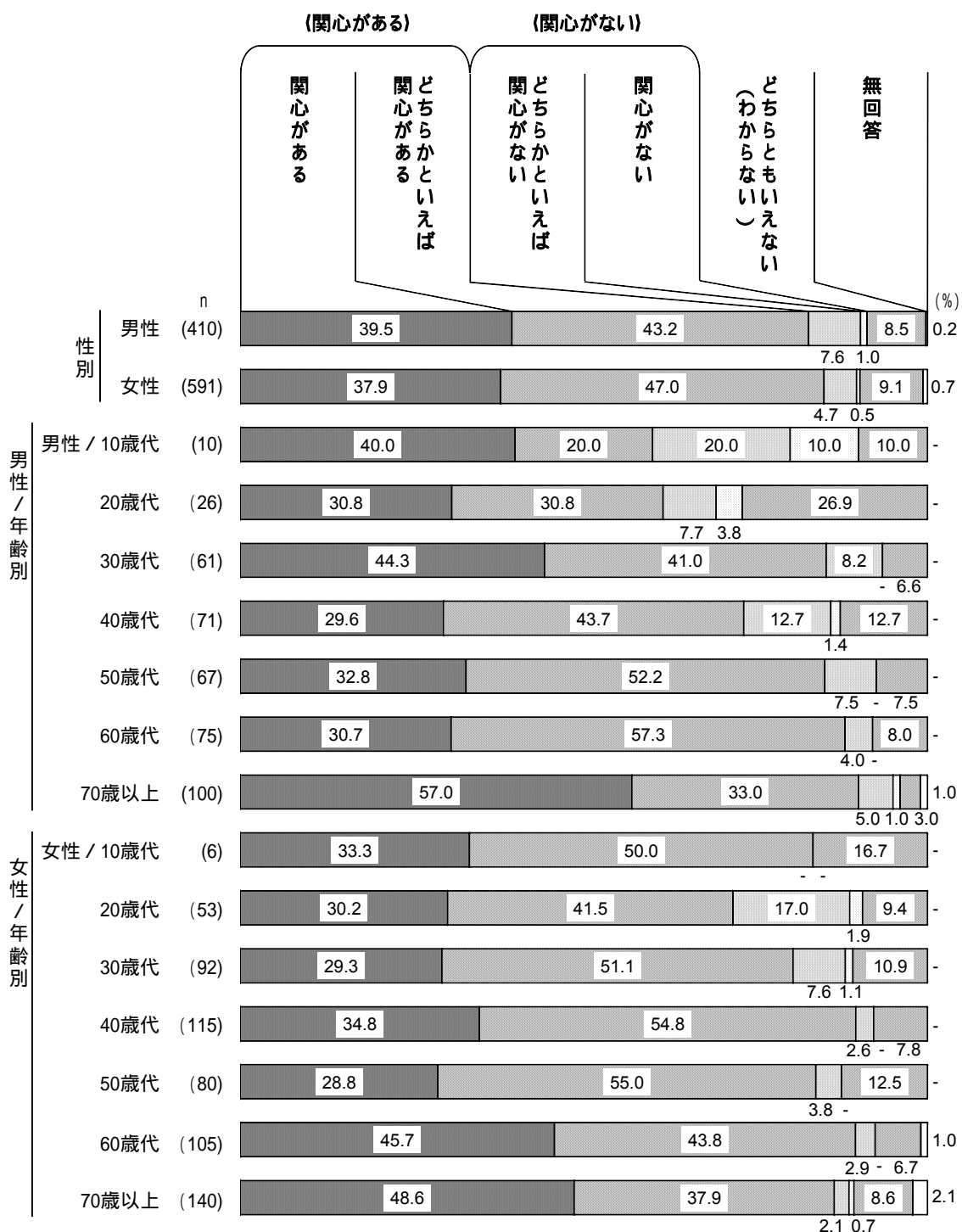
【性別・性 / 年齢別】

性別にみると、《関心がある》は男性が82.7%、女性が84.9%で、男性、女性ともに8割台となっており高い関心があることがわかる。また、その差は女性が2.2ポイントと上回っているが、大きな差はみられない。

性・年齢別にみると、《関心がある》は男性の70歳以上が90.0%でもっとも多く、次に60歳代が88.0%、30歳代が85.3%、同程度で50歳代が85.0%で続く。女性は40歳代で89.6%、同程度で60歳代が89.5%となっており、続いて70歳以上で86.5%、50歳代で83.8%となっている。なお、女性では20歳代で《関心がない》が18.9%となっており、他にくらべ多くなっている。(10歳代については回答者数が少ないため参考とするが、《関心がある》について男性はもっとも少ない160.0%、女性は50歳代と同程度の83.8%となっており、同年代でも性別でその意識の違いがわかる結果となっている。)

(図7 - 2)

<図7 - 2> 性別・性 / 年齢別



(2) 地球環境に配慮した行動の有無

《取り組んでいる》が90.9%。《取り組んでいない》が8.6%。

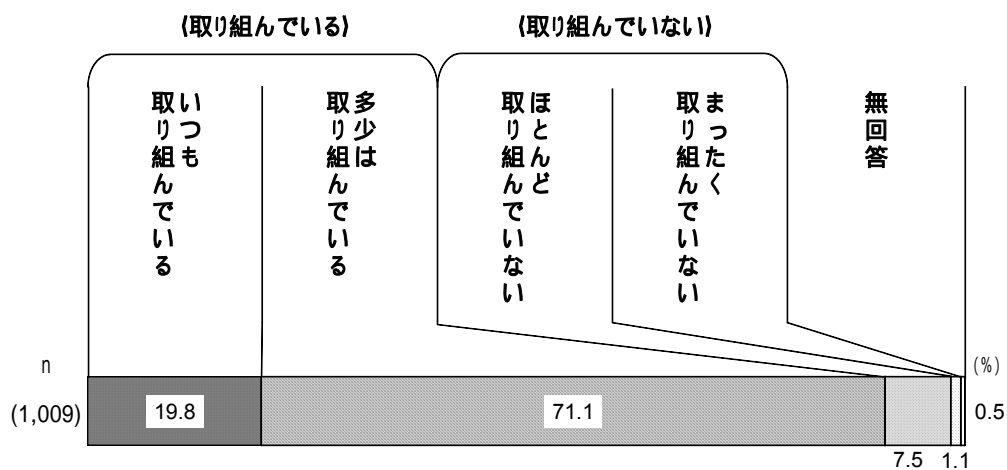
問15 あなたは、日常的に地球環境に配慮した取り組み（環境負荷の少ない製品の購入、節電など）を行っていますか。（ は1つ）

[n=1,009]

1. いつも取り組んでいる	19.8%	3. ほとんど取り組んでいない	7.5
2. 多少は取り組んでいる	71.1	4. まったく取り組んでいない	1.1
		(無回答)	0.5

地球環境に配慮した行動は、「いつも取り組んでいる」が19.8%、「多少は取り組んでいる」が71.1%で、これをあわせた《取り組んでいる》は90.9%となっている。一方、《取り組んでいない》（「ほとんど取り組んでいない」+「まったく取り組んでいない」）は8.6%となっている。（図7-3）

< 図7-3 > 地球環境に配慮した行動の有無

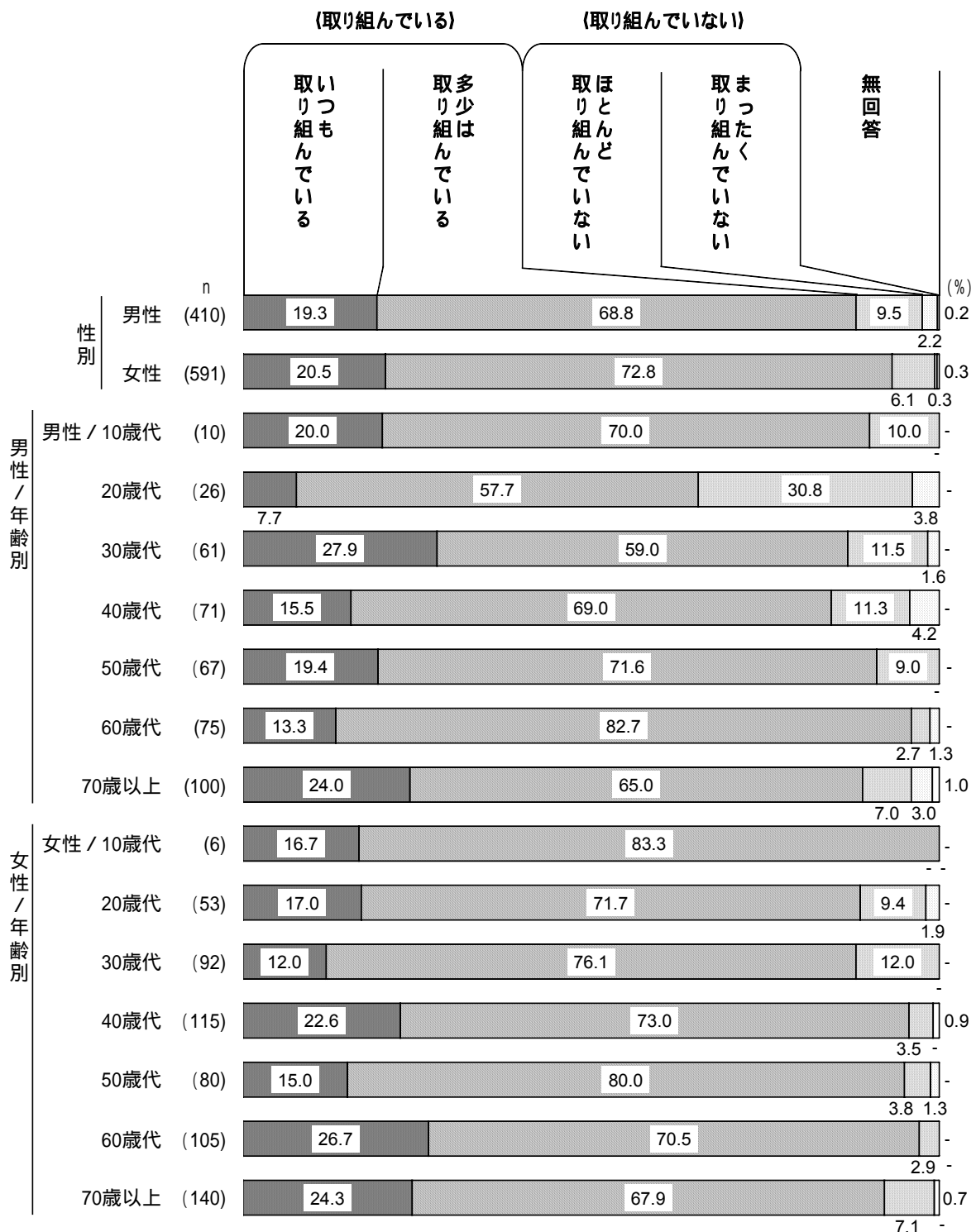


【性別・性 / 年齢別】

性別にみると、《取り組んでいる》は男性が88.1%、女性が93.3%となっており、女性が男性を5.2ポイント上回っており、差は大きくないが、女性が高い意識をもっていることがわかる。

性・年齢別にみると、《取り組んでいる》は男性では60歳代が96.0%でもっとも多く、もっとも少ないのは20歳代の65.4%となっており、60歳代とは30.6ポイントの差がある。女性は60歳代が97.2%で多く、もっとも少ない30歳代の88.1%とは9.1ポイントの差となっているが、全体として意識の高さがうかがえる。(なお、女性の10歳代は全数(100.0%)となっているが、回答者数が少ないため参考とする。)また、《取り組んでいる》について年齢区分での比較では、すべてにおいて女性の方が男性を上回っている。(図7-4)

< 図7-4 > 性別・性 / 年齢別

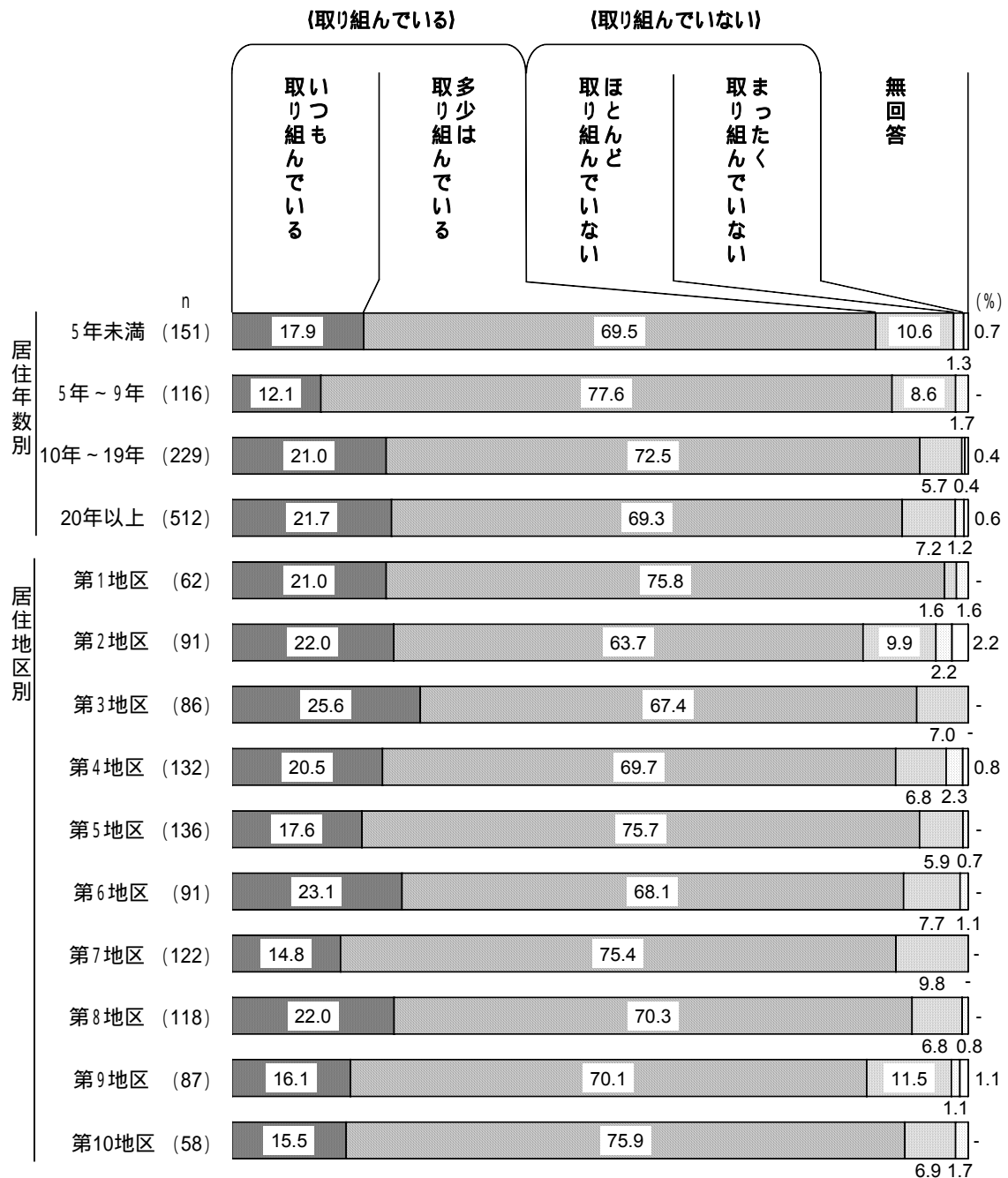


【居住年数別・居住地区別】

居住年数別にみると、 取り組んでいる は10年～19年でもっとも多く93.5%となっており、20年以上で91.0%、5年～9年で89.7%、5年未満が87.4%と続き、いずれにおいても多くなっている。

居住地区別にみると、 取り組んでいる は2つの居住地区を除き、9割台となっており、第1地区の96.8%がもっとも多い。なお、第2地区（85.7%）と第9地区（86.2%）において唯一の8割台となっている。（図7 - 5）

< 図7 - 5 > 居住年数別・居住地区別



(3) ごみと資源の分別方法と出し方の認知状況

「全部又はほぼ知っている」が73.6%。

問16 小平市では、次のとおりごみと資源の分別収集を行っていますが、あなたは、それぞれの分別方法と出し方をどの程度ご存じですか。(は1つ)

ごみの種類： 燃えるごみ、 燃えないごみ

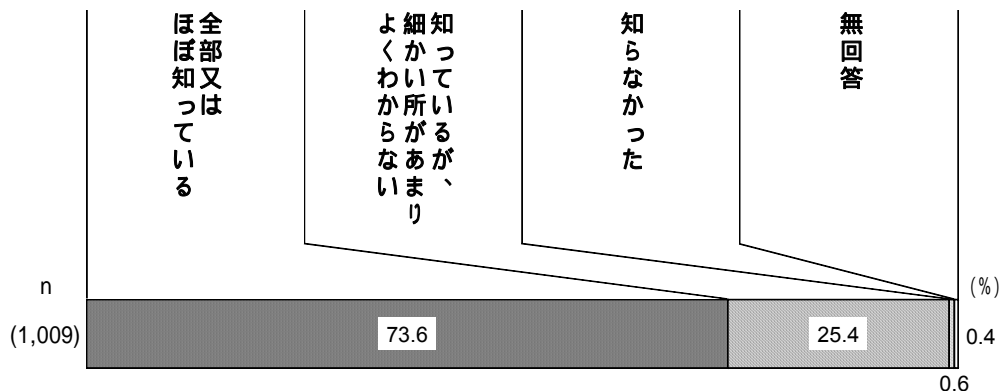
資源の種類： ビン・カン・ペットボトル・プラスチック容器などの不燃性資源
雑誌・新聞紙・段ボール・古布・綿ふとんなどの可燃性資源
電池・蛍光管・水銀体温計の有害性資源

[n=1,009]

1. 全部又はほぼ知っている	73.6%
2. 知っているが、細かい所があまりよくわからない	25.4
3. 知らなかった	0.6
(無回答)	0.4

ごみと資源の分別方法と出し方の認知状況は、「全部又はほぼ知っている」が73.6%と多いが、「知っているが、細かい所があまりよくわからない」も25.4%となっており比較的多くなっている。
(図7-6)

<図7-6> ごみと資源の分別方法と出し方の認知状況

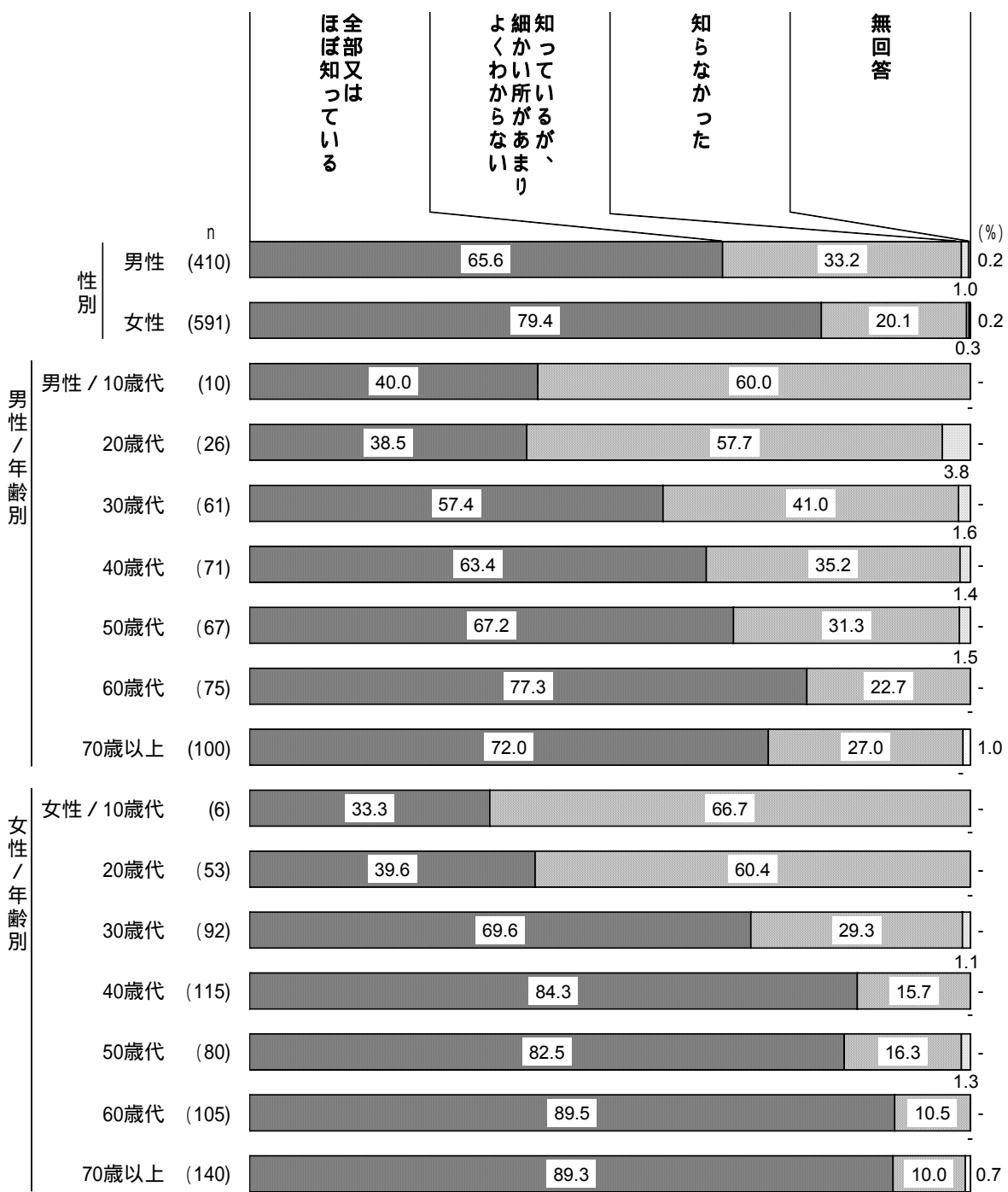


【性別・性 / 年齢別】

性別にみると、男性、女性ともに「全部又はほぼ知っている」は、男性が65.6%、女性が79.4%となっており、女性が男性を13.8ポイント上回る。また、「知っているが、細かい所があまりよくわからない」は、男性が33.2%、女性が20.1%となっており、男性が13.1ポイント上回る結果となり、認知状況は女性の方が高いことがわかる。

性・年齢別にみると、「全部又はほぼ知っている」は男性では60歳代(77.3%)と70歳以上(72.0%)で7割台と多く、50歳代が67.2%、40歳代が63.4%と続く。女性は60歳代(89.5%)と70歳以上(89.3%)で多く、40歳代(84.3%)、50歳代(82.5%)も8割台と多くなっているが、30歳代以下では少なくなり、30歳代(69.6%)は、40歳代とくらべ14.7ポイントの差がある。なお、男性、女性ともに20歳代以下では「知っているが、細かい所があまりよくわからない」が「全部又はほぼ知っている」を上回る結果となっている。(図7-7)

< 図7-7 > 性別・性 / 年齢別

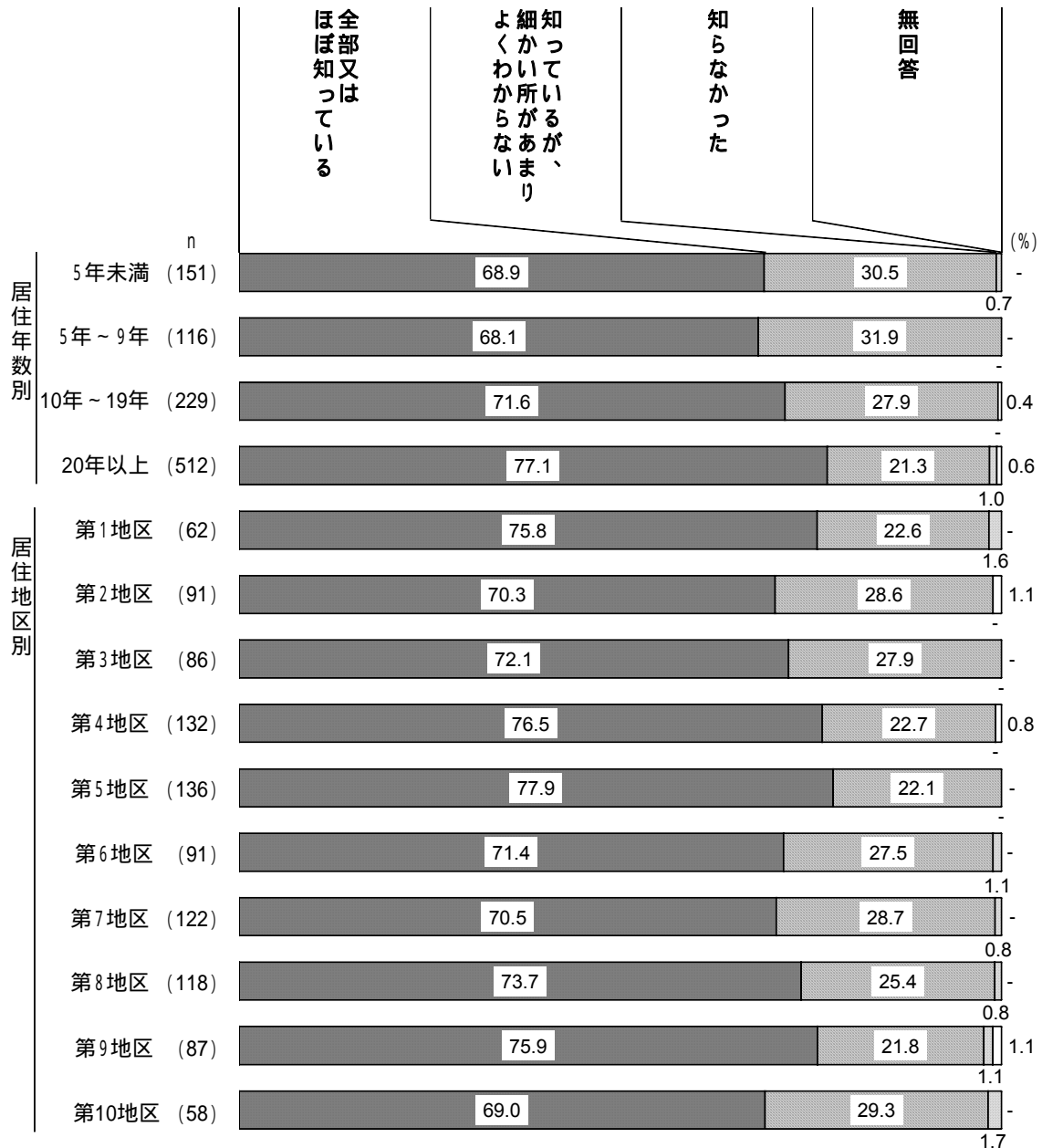


【居住年数別・居住地区別】

居住年数別にみると、「全部又はほぼ知っている」は20年以上でもっとも多く77.1%となっており、もっとも少ない5年～9年(68.1%)と9.0ポイントの差がある。なお「知っているが、細かい所があまりよくわからない」については、5年～9年でもっとも多く31.9%となっており、5年未満の30.5%と2つの居住年数区分で3割台となっている。

居住地区別にみると、「全部又はほぼ知っている」は唯一の6割台である第10地区の69.0%を除き、その他の居住地区では7割台となっている。なお、もっとも多いのは第5地区の77.9%、次に第4地区の76.5%と僅差で続き大きな差はみられない。(図7-8)

< 図7-8 > 居住年数別・居住地区別



8 多様な生き方の尊重について

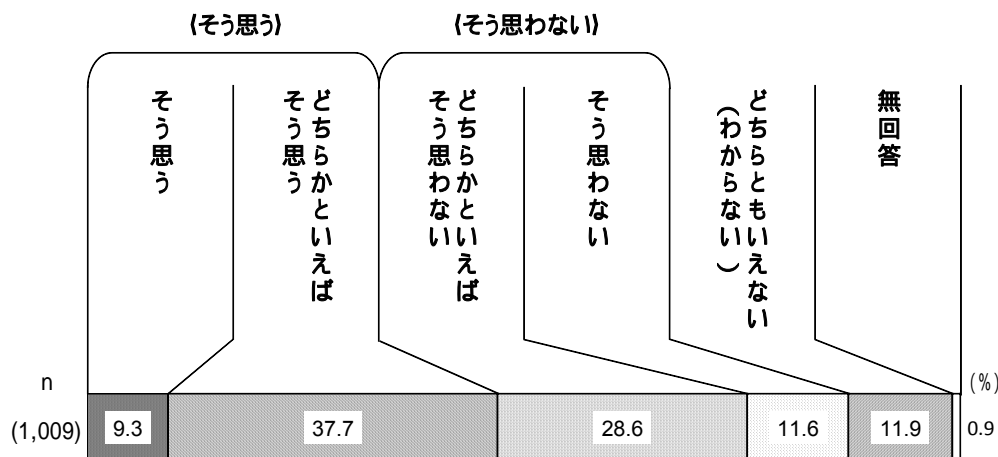
(1) 男女平等社会の実現度

《そう思う》が47.0%。《そう思わない》が40.2%。

問17 あなたは、男女平等社会が実現されていると思いますか。(は1つ)				
[n=1,009]				
1. そう思う	9.3%	3. どちらかといえばそう思わない	28.6	
2. どちらかといえばそう思う	37.7	4. そう思わない	11.6	
		5. どちらともいえない(わからない)	11.9	
		(無回答)	0.9	

男女平等社会が実現されているか聞いたところ、「そう思う」が9.3%、「どちらかといえばそう思う」が37.7%で、これをあわせた《そう思う》は47.0%となっており、《そう思わない》(「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」)も40.2%と比較的多くなっている。(図8-1)

<図8-1> 男女平等社会の実現度



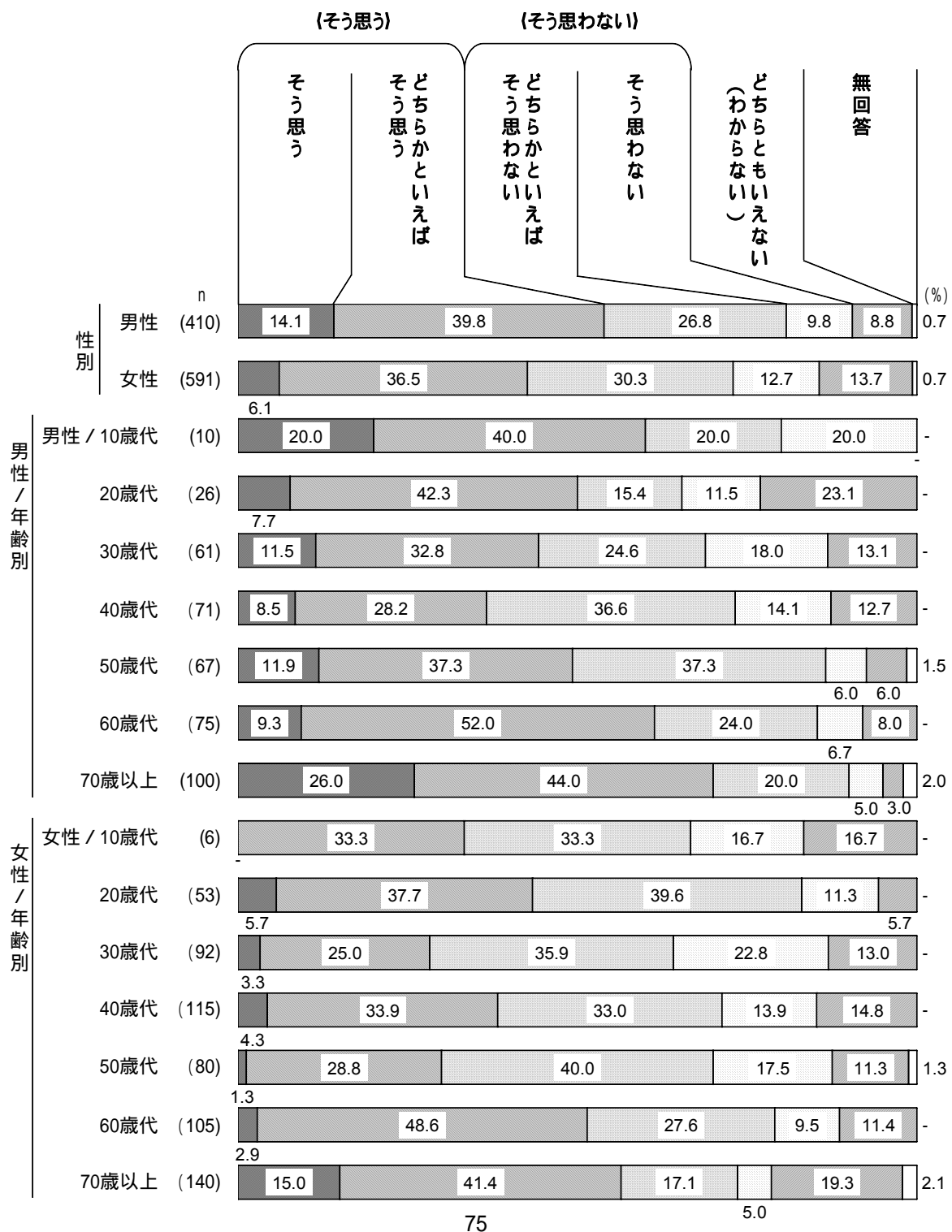
【性別・性 / 年齢別】

性別にみると、《そう思う》は男性で53.9%、女性で42.6%となっており、男性が女性を11.3ポイント上回っている。また、《そう思わない》では男性で36.6%、女性で43.0%となっており、女性が6.4ポイント上回る。

性・年齢別にみると、《そう思う》は男性の70歳以上でもっとも多く70.0%となっており、もっとも少ない40歳代（36.7%）とは、33.3ポイントの差がみられる。女性についても、もっとも多いのは70歳以上の56.4%となっており、60歳代も51.5%と5割台で他の年齢別に比べ多くなっている。またもっとも多い70歳以上と30歳代（28.3%）では28.1ポイントの差がみられる。一方、《そう思わない》は男性では40歳代（50.7%）、女性では30歳代（58.7%）と50歳代（57.5%）で多くなっている。

（図8 - 2）

< 図8 - 2 > 性別・性 / 年齢別



9 健康・高齢者福祉について

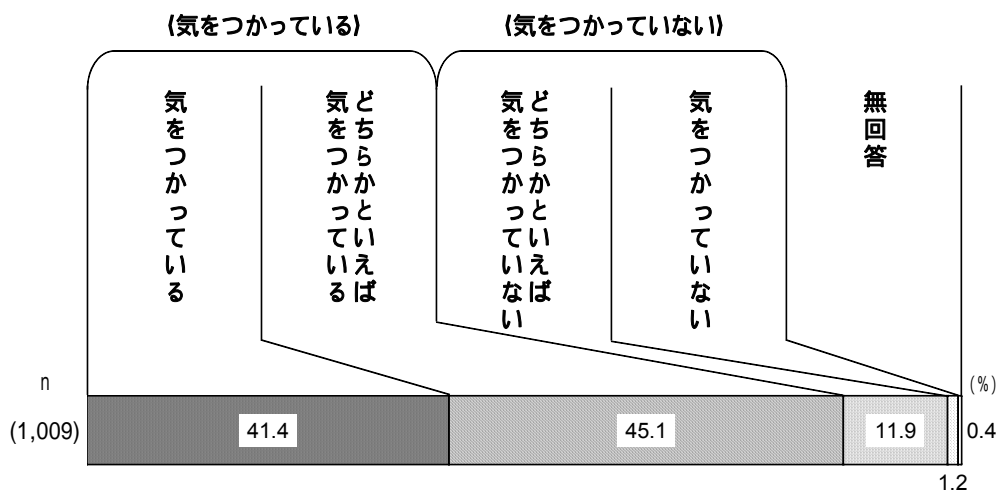
(1) 健康に対する意識

《気をつかっている》が86.5%。

問18 あなたは、日頃から、ご自分の健康に気をつけていますか。(は1つ)	
[n=1,009]	
1. 気をつかっている	41.4%
2. どちらかといえば気をつかっている	45.1
3. どちらかといえば気をつかっていない	11.9
4. 気をつかっていない	1.2
(無回答)	0.4

自分の健康状態に「気をつかっている」が41.4%、「どちらかといえば気をつかっている」が45.1%で、これをあわせた《気をつかっている》は86.5%、《気をつかっていない》(「気をつかっていない」+「どちらかといえば気をつかっていない」)は13.1%になっている。(図9-1)

<図9-1> 健康に対する意識

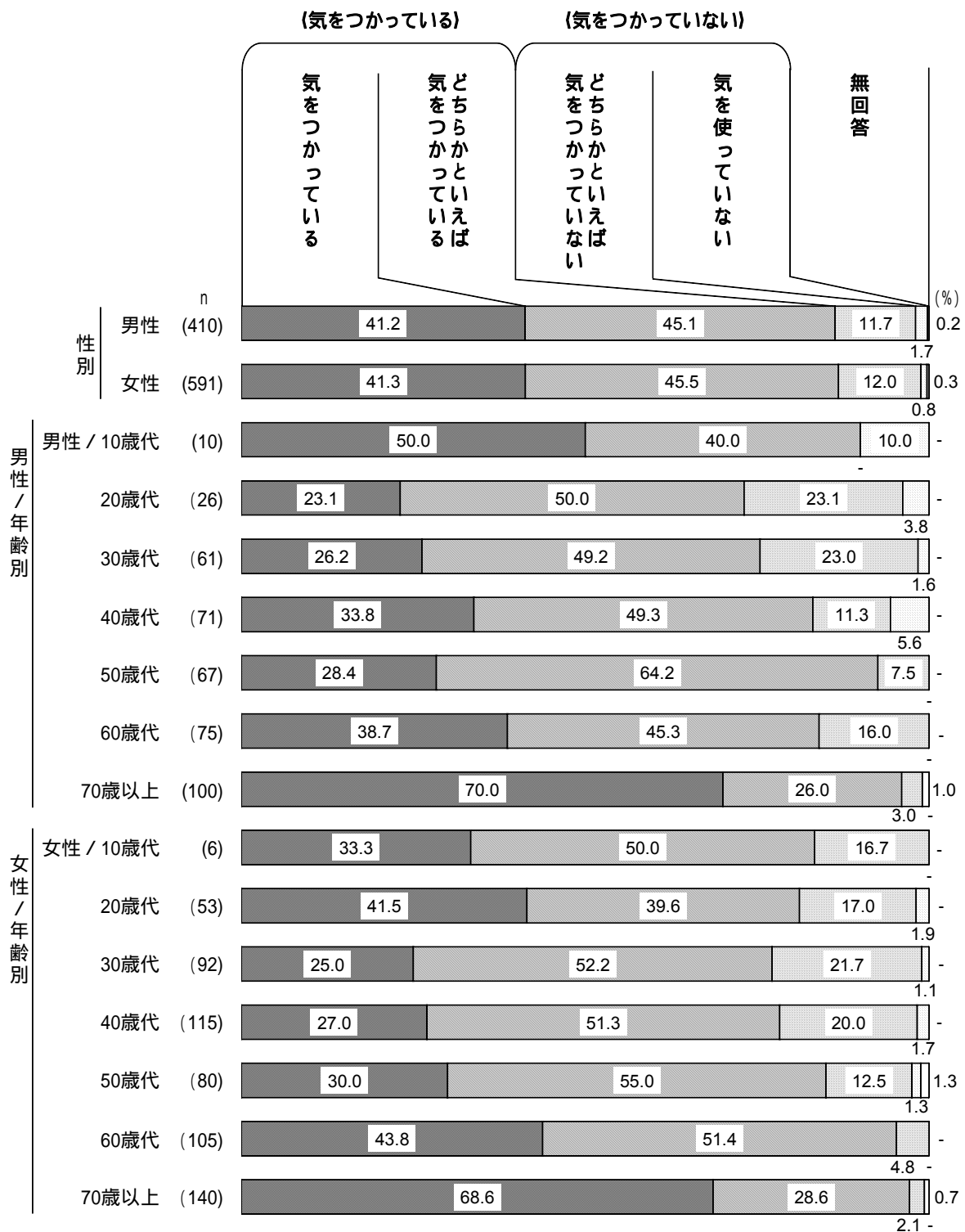


【性別・性 / 年齢別】

性別にみると、《気をつかっている》は男性（86.3%）、女性（86.8%）ともに8割台と多く、男女間での差はみられない。

性・年齢別にみると、《気をつかっている》は男性では70歳以上が96.0%でもっとも多く、50歳代が92.6%と続く。また、もっとも少ないのは20歳代（73.1%）、僅差で30歳代（75.4%）となっており7割台となっている。女性では70歳以上が97.2%でもっとも多く、次に多くなっているのが60歳代（95.2%）となっている。なお、《気をつかっていない》は男性では20歳代（26.9%）と30歳代（24.6%）、女性では30歳代（22.8%）と40歳代（21.7%）が2割台となっており、他の年齢別に比べ多くなっている。（図9 - 2）

< 図9 - 2 > 性別・性 / 年齢別



(2) 運動を行う頻度

「ほぼ毎日」は22.4%。「ほとんど又はまったく運動をしていない」は23.3%。

問19 あなたは、健康づくりのために、どのくらいの頻度で運動（軽い体操、散歩などを含む）を行っていますか。（ は1つ）

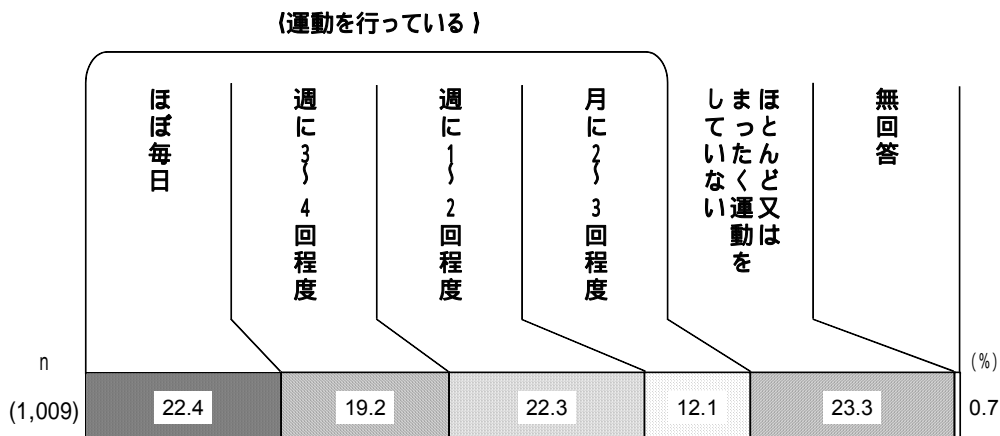
[n=1,009]

1. ほぼ毎日	22.4%	4. 月に2～3回程度	12.1
2. 週に3～4回程度	19.2	5. ほとんど又はまったく運動をしていない	23.3
3. 週に1～2回程度	22.3	(無回答)	0.7

運動を行う機会は、「ほぼ毎日」が22.4%、「週に3～4回程度」が19.2%、「週に1～2回程度」が22.3%、「月に2～3回程度」が12.1%となっており、これをあわせた《運動を行っている》は76.0%となっている。一方、「ほとんど又はまったく運動をしていない」は23.3%となっている。

(図9-3)

<図9-3> 運動を行う頻度

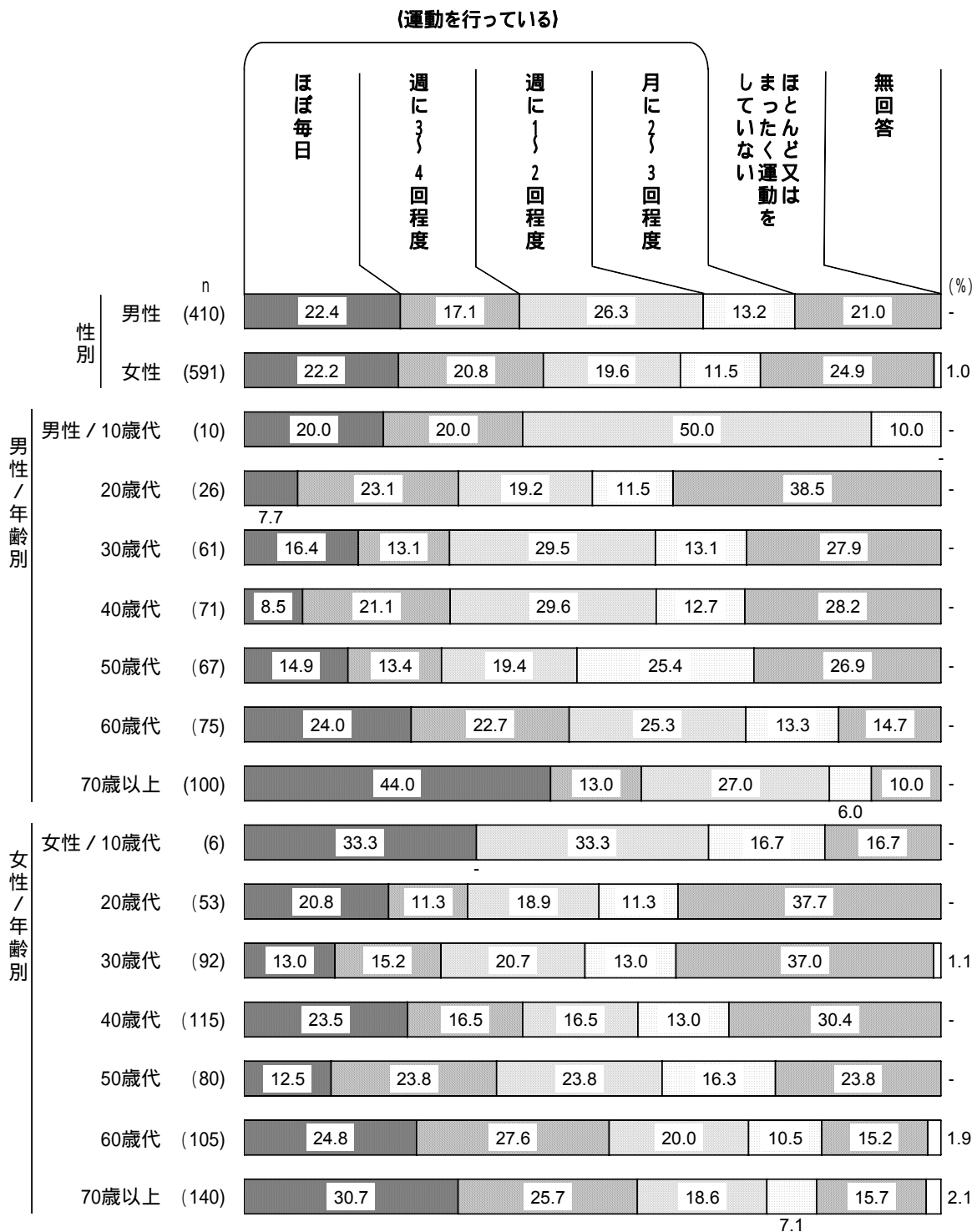


【性別・性 / 年齢別】

性別にみると、《運動を行っている》人は、男性が79.0%、女性が74.1%となっており、男性が4.9ポイント上回る。

性・年齢別にみると、《運動を行っている》は男性、女性ともに年齢が高くなるほど多くなる傾向があり、男性では70歳以上が90.0%ともっとも多く、もっとも少ない20歳代（61.5%）とは28.5ポイントの差となっている。女性では60歳代（82.9%）と70歳以上（82.1%）で多く、もっとも少ないのは30歳代で61.9%となっている。また、「ほとんど又はまったく運動をしていない」は、20歳代と50歳代を除き、男性より女性の方が多くなっている。（男女とも10歳代は回答者数が少ないため参考とする。）
（図9 - 4）

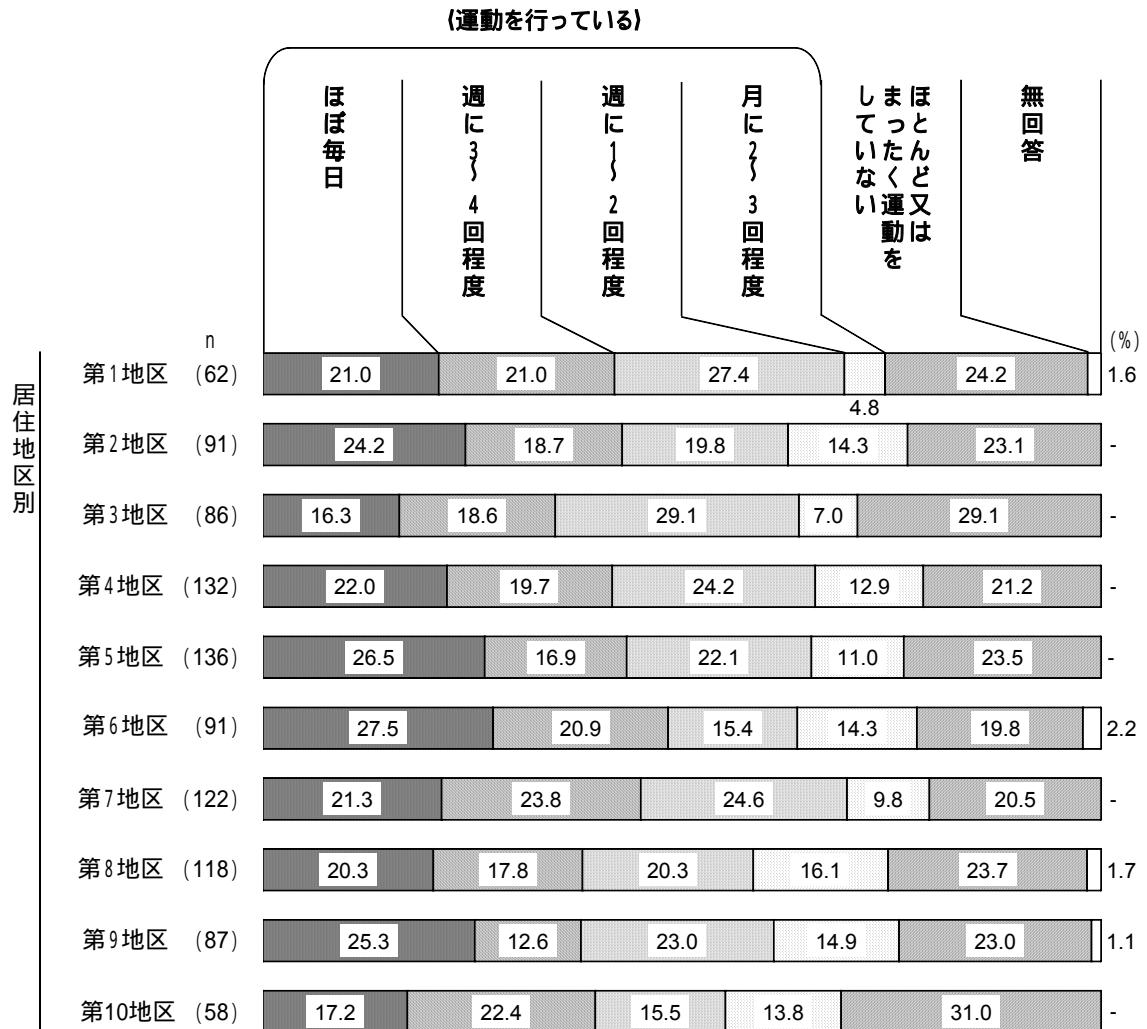
< 図9 - 4 > 性別・性 / 年齢別



【居住地区別】

居住地区別にみると、《運動を行っている》は、第10地区の68.9%を除き7割台となっている。また、もっとも多いのは第7地区の79.5%となっており、次に第4地区の78.8%、第6地区の78.1%が続く。なお、もっとも少ない第10地区と第7地区では10.6ポイントの差がある。(図9 - 5)

< 図9 - 5 > 居住地区別



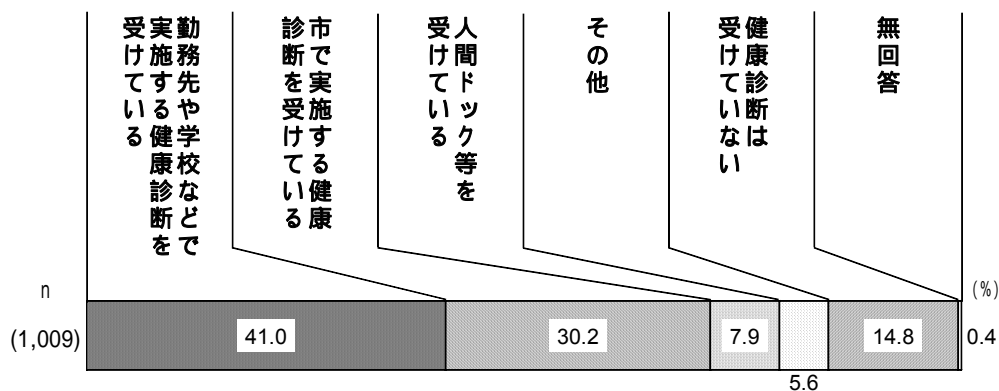
(3) 健康診断の受診状況

「勤務先や通学先などで実施する健康診断を受けている」が41.0%。

問20 あなたは、過去1年間に健康診断を受けたことがありますか。(は1つ)	
〔n=1,009〕	
1. 勤務先や学校などで実施する健康診断を受けている	41.0%
2. 市で実施する健康診断を受けている	30.2
3. 人間ドック等を受けている	7.9
4. その他	5.6
5. 健康診断は受けていない	14.8
(無回答)	0.4

過去1年間の健康診断の受診状況は、「勤務先や学校などで実施する健康診断を受けている」が41.0%と多く、「市で実施する健康診断を受けている」が30.2%となっている。一方、「健康診断は受けていない」についても14.8%で比較的多くなっている。(図9-6)

< 図9-6 > 健康診断の受診状況

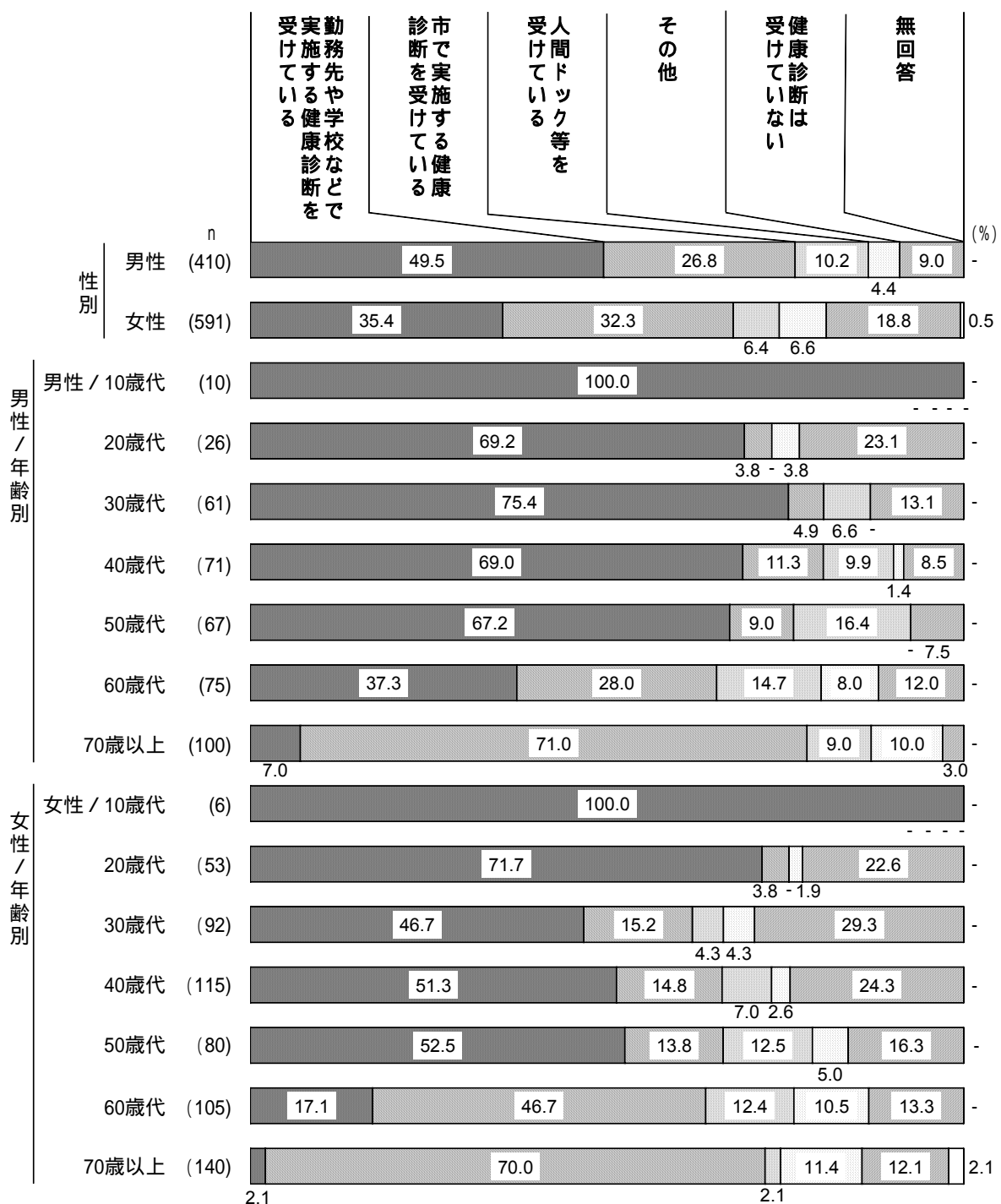


【性別・性/年齢別】

性別にみると、「勤務先や学校などで実施する健康診断を受けている」は男性が49.5%、女性が35.4%になっており、男性が14.1ポイント上回っている。女性では「市で実施する健康診断を受けている」についても多く32.3%となっており、男性（26.8%）を5.5ポイント上回る。また、「健康診断は受けていない」でみると、女性が18.8%で、男性（9.0%）を9.8ポイント上回る。

性・年齢別にみると、「勤務先や学校などで実施する健康診断を受けている」は男性、女性ともに、定年退職をする世代である60歳代から急激に減少する。「人間ドック等を受けている」では男性、女性ともに50歳代と60歳代で他年齢より多くなる。「市で実施する健康診断を受けている」は男性、女性ともに、70歳以上でもっとも多くなり、男性が71.0%、女性が70.0%で7割台となっている。また、「健康診断は受けていない」は男性の20歳代で23.1%と比較的に多いが全体のその割合は少なく、女性の30歳代（29.3%）、40歳代（24.3%）、20歳代（22.6%）で比較的多くなっている。（図9 - 7）

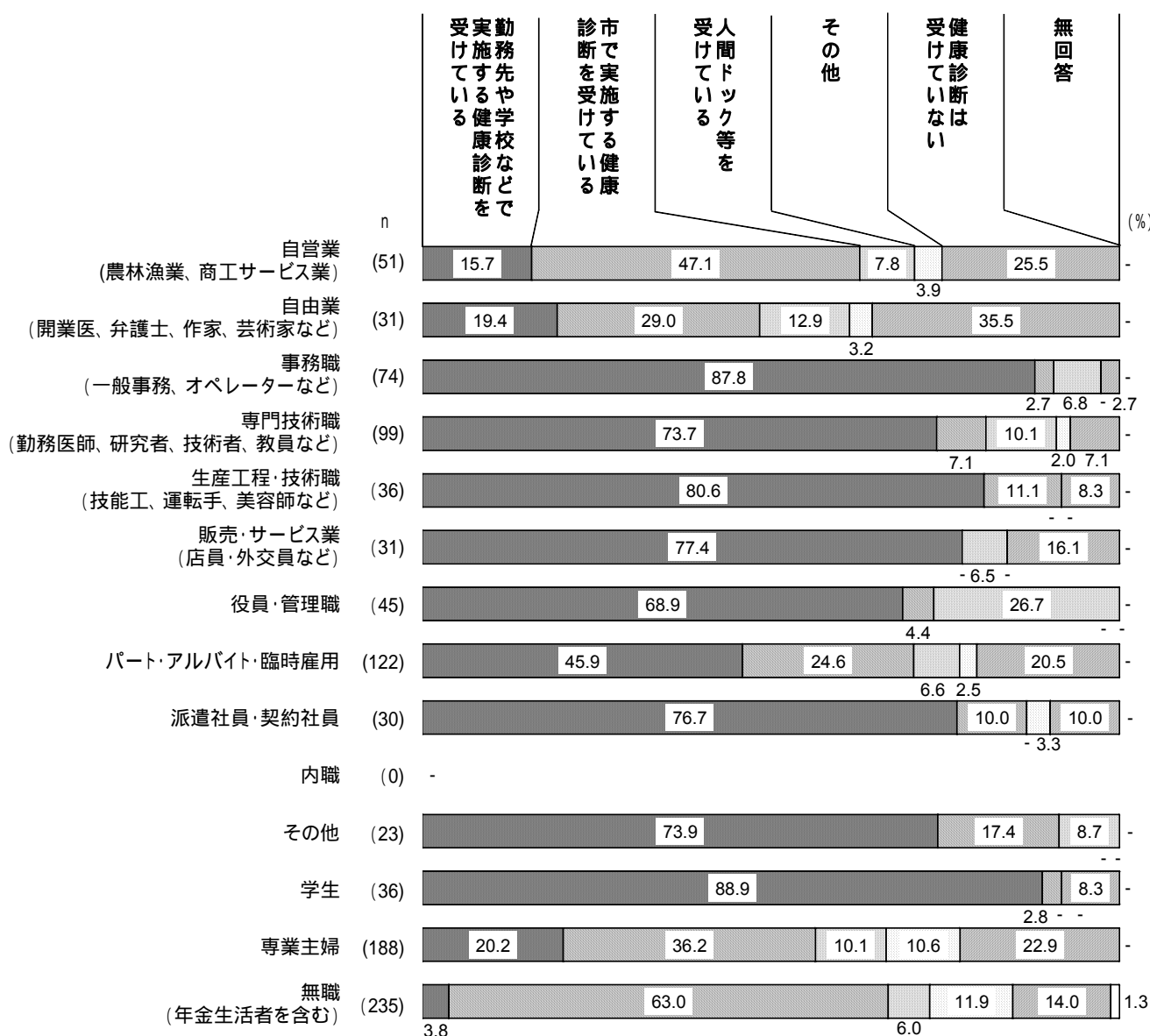
< 図9 - 7 > 性別・性/年齢別



【職業別】

職業別にみると、「勤務先や学校などで実施する健康診断を受けている」は学生（88.9%）、事務職（87.8%）、生産工程・技術職（80.6%）が8割台で多く、販売・サービス業（77.4%）、派遣社員・契約社員（76.7%）、専門技術職（73.7%）が7割台で続く。「市で実施する健康診断を受けている」は無職（年金生活者を含む）が63.0%でもっとも多く、次に自営業（47.1%）、専業主婦（36.2%）、自由業（29.0%）が続く。企業等に属していない職種で多くなっているが、「健康診断を受けていない」でも自由業（35.5%）が3割台、自営業（25.5%）、専業主婦（22.9%）パート・アルバイト・臨時雇用（20.5%）が2割台で比較的が多くなっている。（図9-8）

< 図9-8 > 職業別



(3 - 1) 健康診断を受けなかった理由

「忙しくて都合がつかない」が37.6%でもっとも多い。

(問20で「 5 健康診断は受けていない」と答えた方におたずねします。)

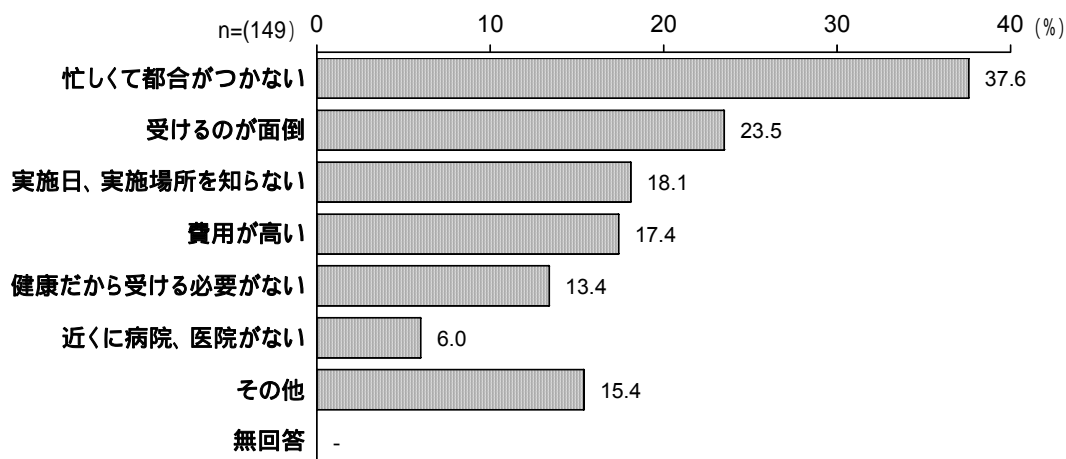
問20 - 1 受けなかった主な理由は何ですか。(は2つまで)

[n=149]

1 . 健康だから受ける必要がない	13.4%	5 . 費用が高い	17.4
2 . 忙しくて都合がつかない	37.6	6 . 受けるのが面倒	23.5
3 . 実施日、実施場所を知らない	18.1	7 . その他	15.4
4 . 近くに病院、医院がない	6.0	(無回答)	0.0

問20で「健康診断は受けていない」と回答した人の主な理由は、「忙しくて都合がつかない」が37.6%でもっとも多く、以下「受けるのが面倒」(23.5%)、「実施日、実施場所を知らない」(18.1%)、「費用が高い」(17.4%)と続いている。(図9 - 9)

< 図9 - 9 > 健康診断を受けなかった理由

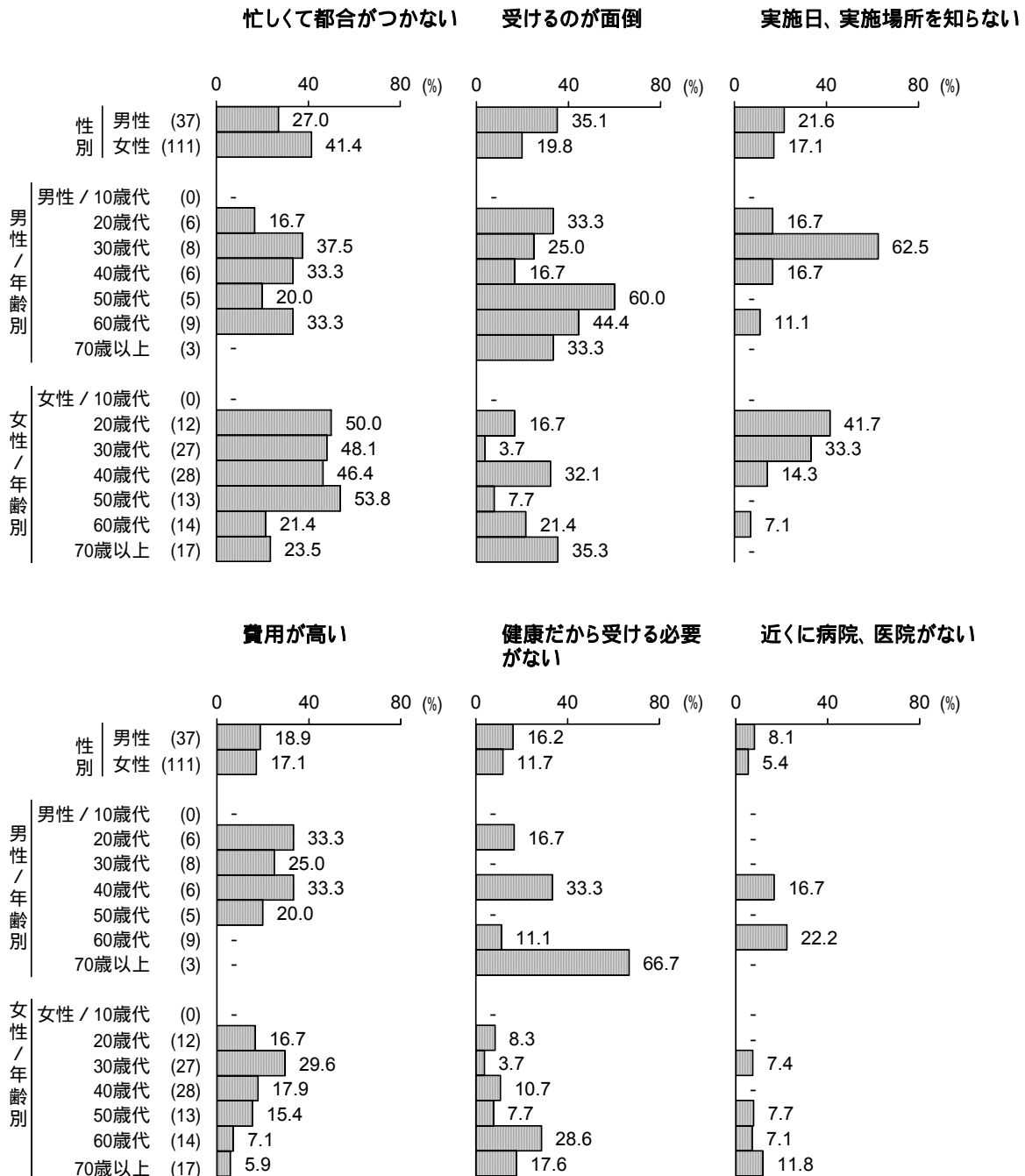


【性別・性 / 年齢別】

性別にみると、男性では「受けるのが面倒」が35.1%でもっとも多く、女性（19.8%）を15.3ポイント上回っている。女性では「忙しくて都合がつかない」が41.4%でもっとも多く、男性（27.0%）を14.4ポイント上回っている。

性・年齢別は、回答者数が少ないため、参考とする。（図9 - 10）

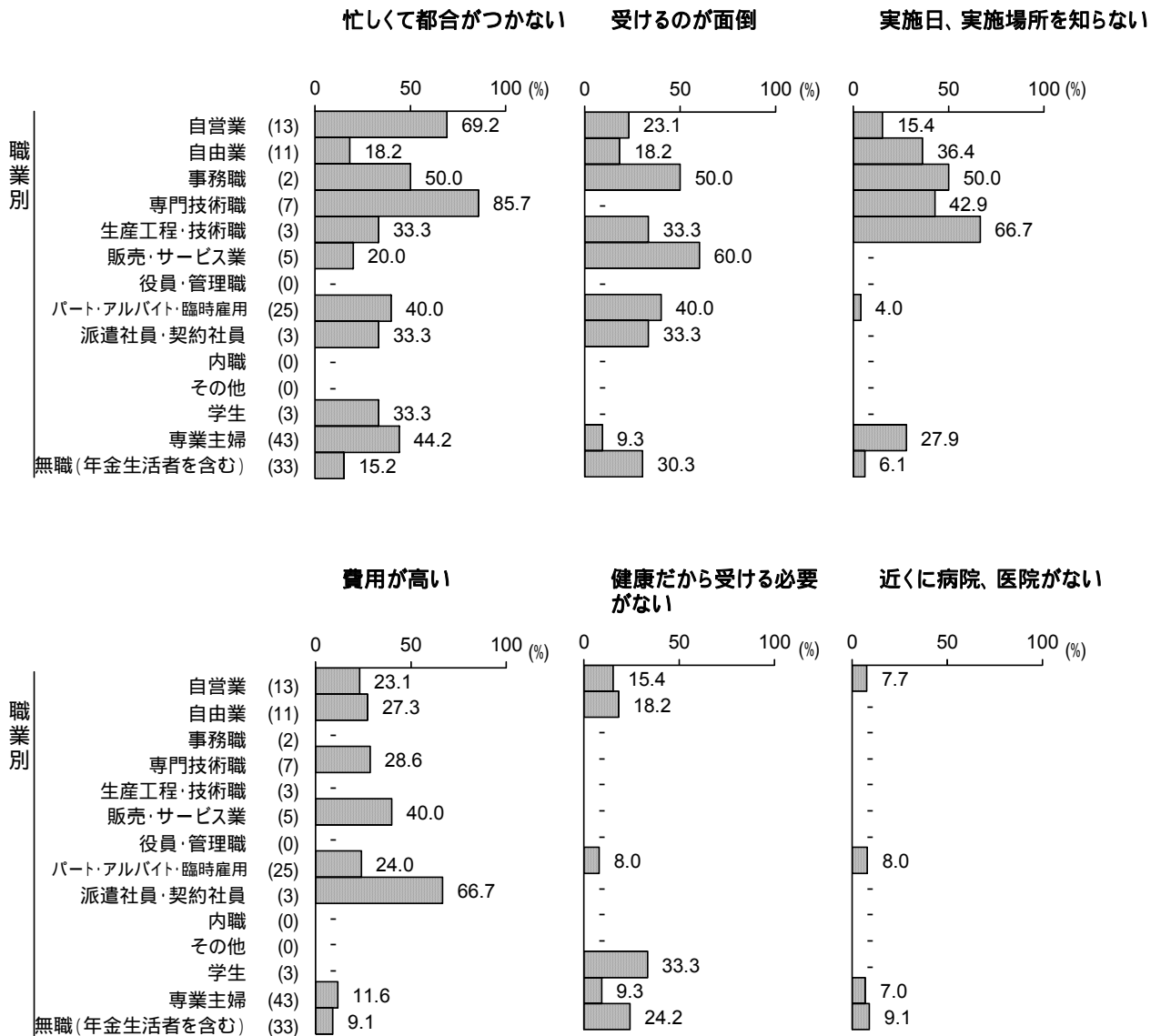
< 図9 - 10 > 性別・性 / 年齢別



【職業別】

職業別は、回答者数が少ないため、参考とする。(図9 - 11)

< 図9 - 11 > 職業別



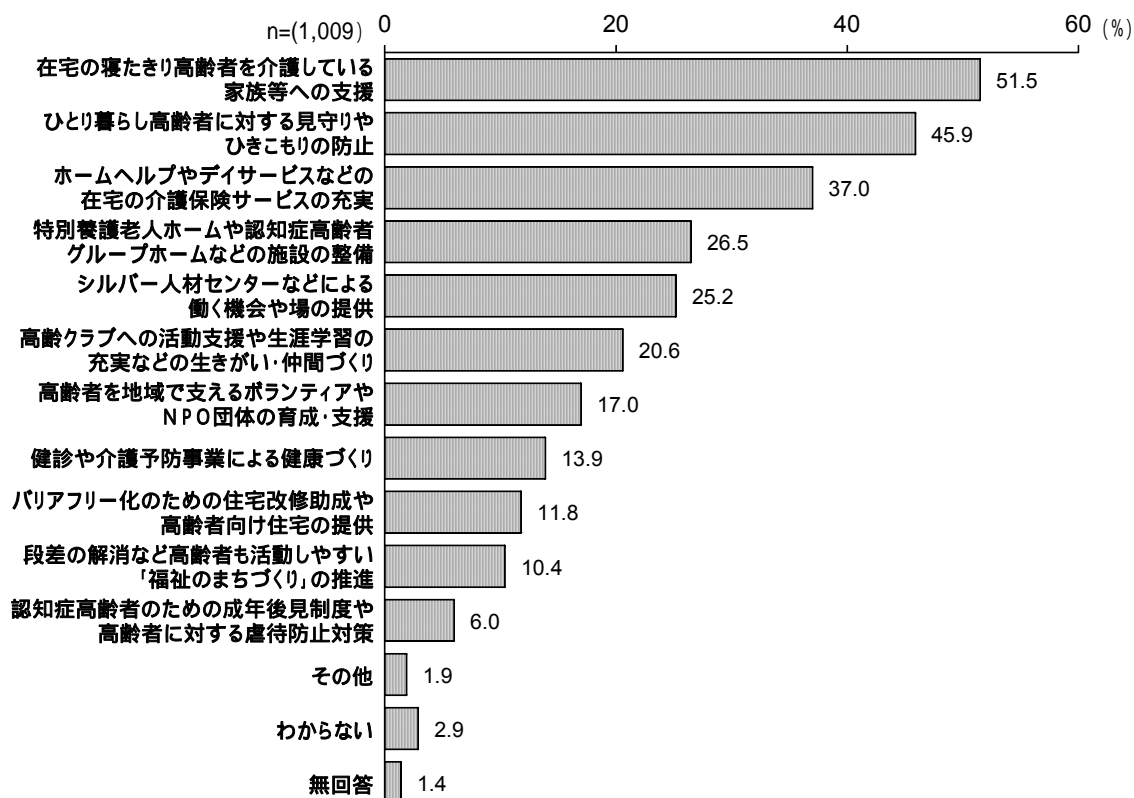
(4) 高齢者が安心して暮らすために必要な施策

「在宅の寝たきり高齢者を介護している家族等への支援」が51.5%。

問21 あなたは、高齢者の方が住みなれた地域で安心して暮らしていくために、特にどのような施策が必要だと思いますか。(は3つまで)	
[n=1,009]	
1. 在宅の寝たきり高齢者を介護している家族等への支援	51.5%
2. ひとり暮らし高齢者に対する見守りやひきこもりの防止	45.9
3. 高齢クラブへの活動支援や生涯学習の充実などの生きがい・仲間づくり	20.6
4. ホームヘルプやデイサービスなどの在宅の介護保険サービスの充実	37.0
5. シルバー人材センターなどによる働く機会や場の提供	25.2
6. 健診や介護予防事業による健康づくり	13.9
7. 特別養護老人ホームや認知症高齢者グループホームなどの施設の整備	26.5
8. 高齢者を地域で支えるボランティアやNPO団体の育成・支援	17.0
9. 段差の解消など高齢者も活動しやすい「福祉のまちづくり」の推進	10.4
10. バリアフリー化(高齢者や障がいのある方が生活を営む上での障壁(バリア)を取り除く考え方)のための住宅改修助成や高齢者向け住宅の提供	11.8
11. 認知症高齢者のための成年後見制度や高齢者に対する虐待防止対策	6.0
12. その他	1.9
13. わからない	2.9
(無回答)	1.4

高齢者の方が住みなれた地域で安心して暮らしていくために必要な施策は、「在宅の寝たきり高齢者を介護している家族等への支援」が51.5%、「ひとり暮らし高齢者に対する見守りやひきこもりの防止」が45.9%と多く、以下「ホームヘルプやデイサービスなどの在宅の介護保険サービスの充実」(37.0%)などが続いている。(図9-12)

<図9-12> 高齢者が安心して暮らすために必要な施策

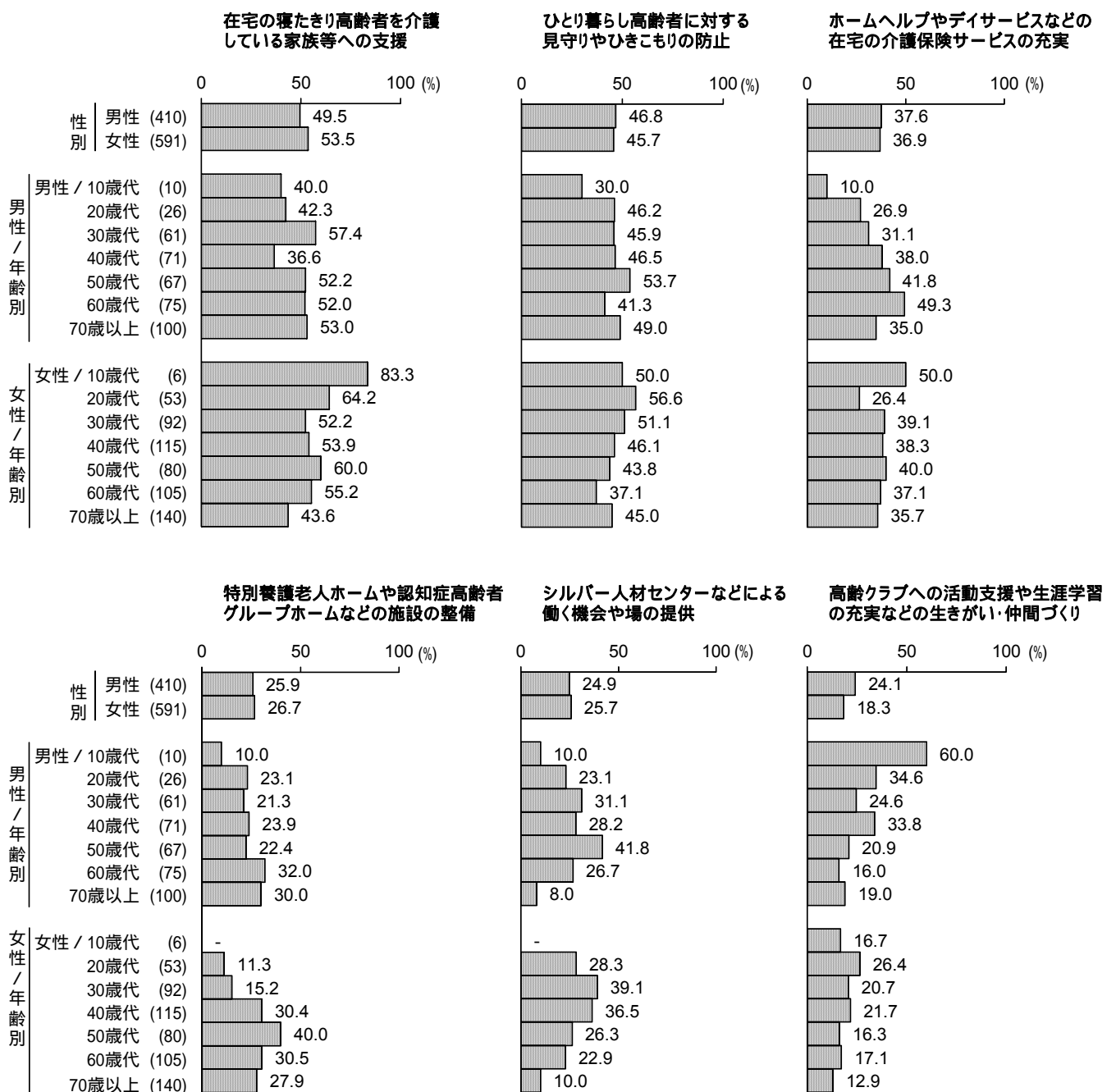


【性別・性 / 年齢別】

性別にみると、男女間で差がみられるものは「在宅の寝たきり高齢者を介護している家族等への支援」は女性（53.5%）が男性（49.5%）を4.0ポイント上回り、「高齢クラブへの活動支援や生涯学習の充実などの生きがい・仲間づくり」は男性（24.1%）が女性（18.3%）を5.8ポイント上回る。他の項目について差が顕著であるものはみあたらない。

性・年齢別にみると、「在宅の寝たきり高齢者を介護している家族等への支援」は男性の30歳代、50歳代以上が5割台と多くっており、女性は70歳以上を除く年齢別で5割以上となっている。「ひとり暮らし高齢者に対する見守りやひきこもりの防止」では男性の50歳代が53.7%で唯一の5割台、女性では20歳代が56.6%で多い。「特別養護老人ホームや認知症高齢者グループホームなどの施設の整備」では女性の50歳代が40.0%と多く、「シルバー人材センターなどによる働く機会や場の提供」では、男性の50歳代で41.8%と多くとなっている。（図9 - 13）

< 図9 - 13 > 性別・性 / 年齢別

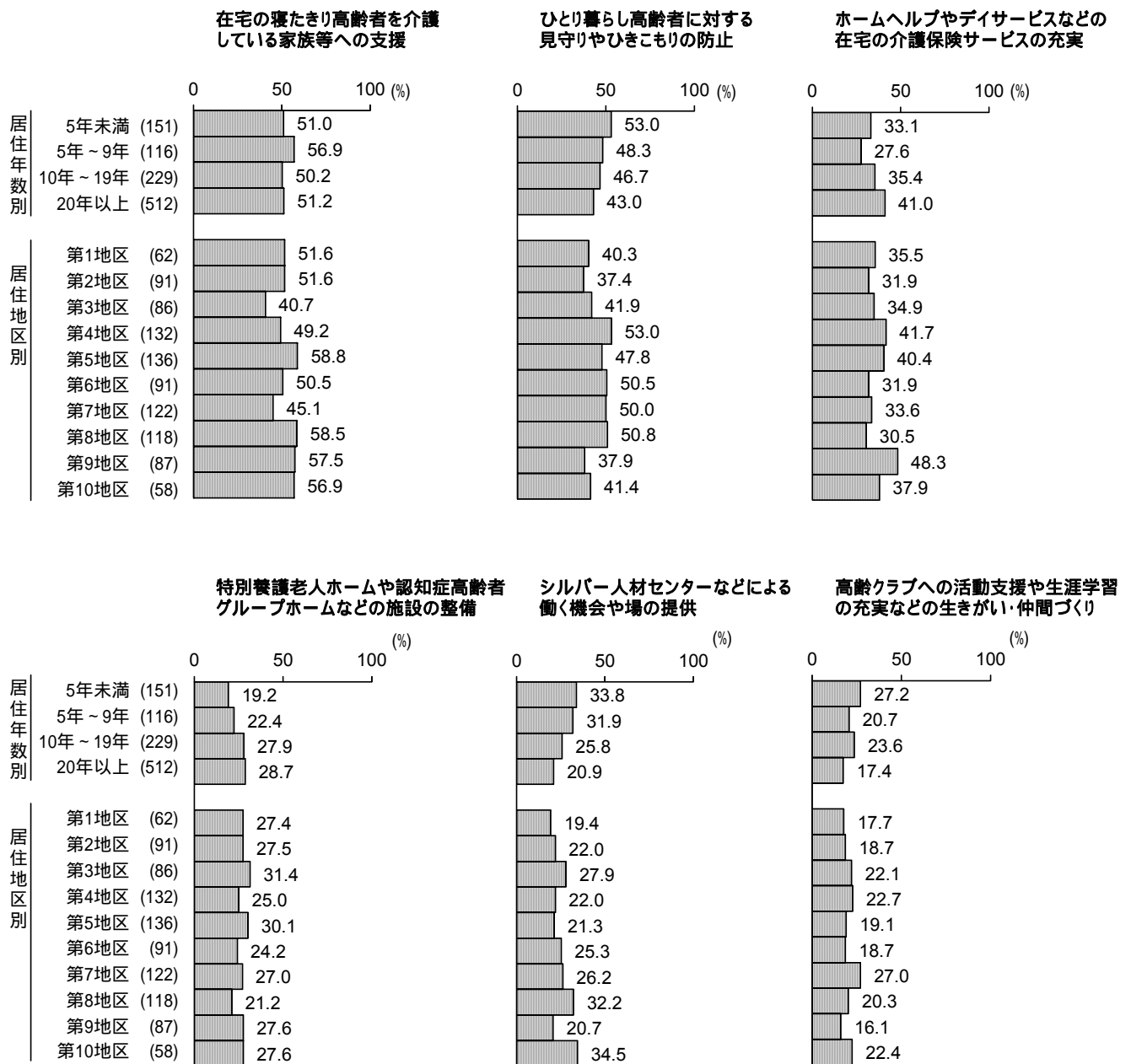


【居住年数別・居住地区別】

居住年数別にみると、「在宅の寝たきり高齢者を介護している家族等への支援」はいずれの居住年数別でもが5割台と多く、「ひとり暮らし高齢者に対する見守りやひきこもりの防止」についても、20年以上で43.0%と若干低いものの5割前後となっており、他の項目に比べ多くなっている。「ホームヘルプやデイサービスなどの在宅の介護保険サービスの充実」では20年以上で41.0%と多くなっている。

居住地区別にみると、「在宅の寝たきり高齢者を介護している家族等への支援」は第3地区(40.7%)と第7地区(45.1%)で若干低いものの5割前後と多くなっている。また、「ホームヘルプやデイサービスなどの在宅の介護保険サービスの充実」については、もっとも多い第9地区(48.3%)と、もっとも少ない第8地区(30.5%)では17.8ポイントの差がある。(図9-14)

< 図9-14 > 居住年数別・居住地区別



10 教育について

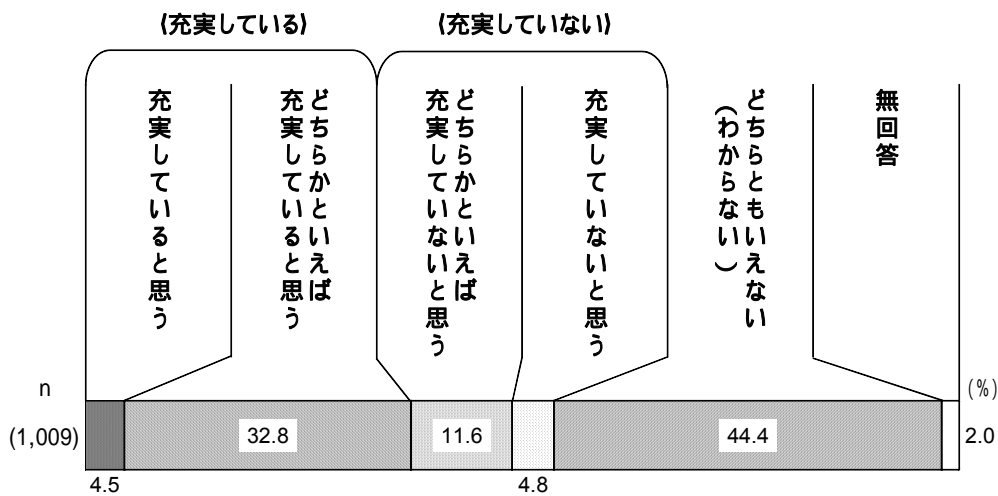
(1) 教育環境の充実度

《充実している》が37.3%。《充実していない》が16.4%。

問22 あなたは、小平市の小・中学校の教育環境が、充実していると思いますか。(は1つ)	
〔n=1,009〕	
1. 充実していると思う	4.5%
2. どちらかといえば充実していると思う	32.8
3. どちらかといえば充実していないと思う	11.6
4. 充実していないと思う	4.8
5. どちらともいえない(わからない)	44.4
(無回答)	2.0

小平市の小・中学校の教育環境が充実していると思うか聞いたところ、「充実していると思う」が4.5%、「どちらかといえば充実していると思う」が32.8%で、これをあわせた《充実している》は37.3%となっている。また、《充実していない》(「充実していないと思う」+「どちらかといえば充実していないと思う」)は16.4%となっている。(図10-1)

<図10-1> 教育環境の充実度

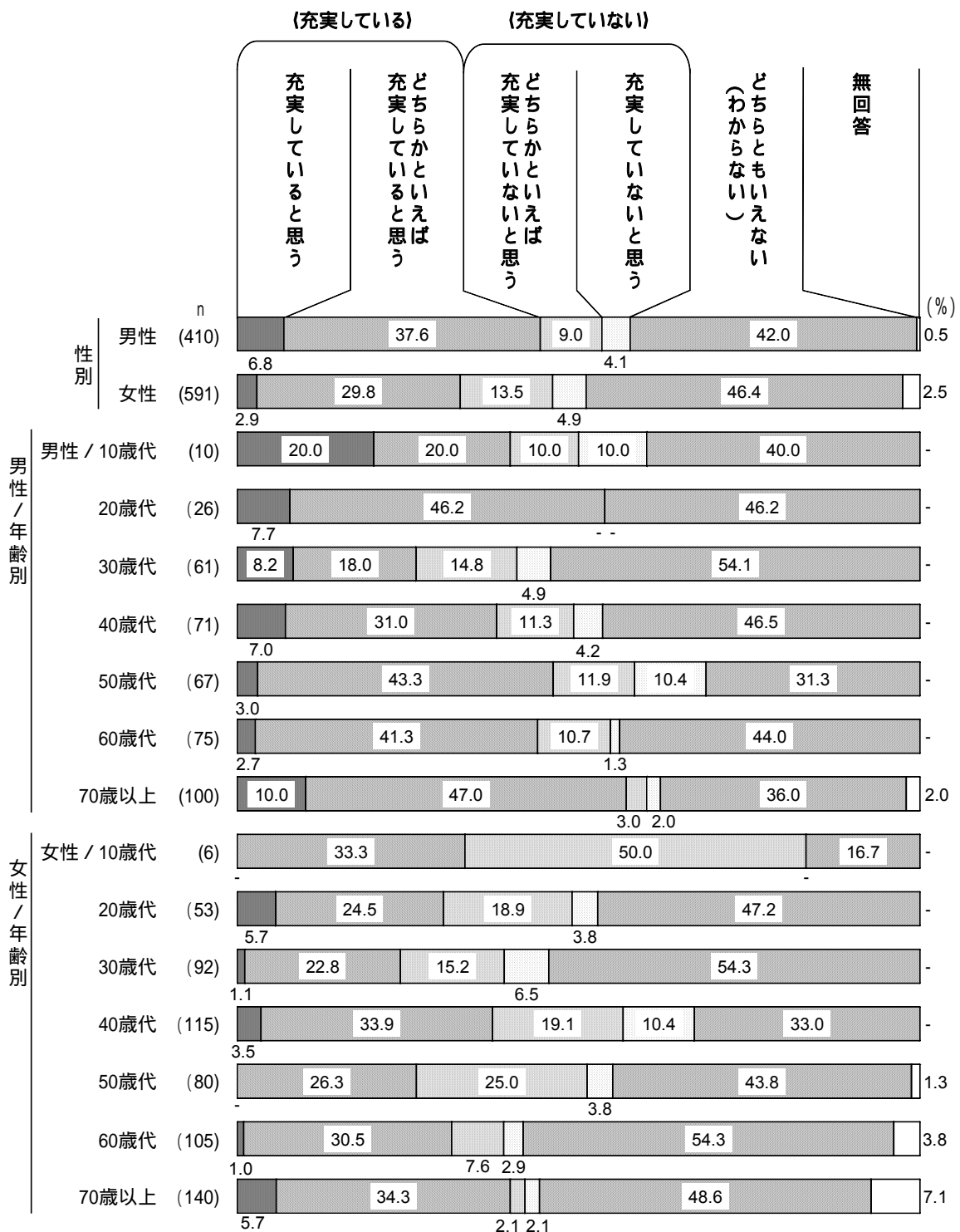


【性別・性 / 年齢別】

性別にみると、《充実している》は男性で44.4%、女性で32.7%となっており、11.7ポイントの差がある。《充実していない》は男性（13.1%）と女性（18.4%）の差は5.3ポイントとなっており、女性の評価が厳しくなっている。

性・年齢別にみると、《充実している》は男性の20歳代（53.9%）と70歳以上（57.0%）で5割台と多く、30歳代が26.2%と少ない。女性では70歳以上がもっとも多く40.0%で唯一の4割台となっている。《充実していない》は男性、女性ともに70歳以上で少なくなっており、男性の20歳代については《充実していない》の回答はなしとの結果となっている。（男女とも10歳代は回答者数が少ないため参考とする。）（図10 - 2）

< 図10 - 2 > 性別・性 / 年齢別

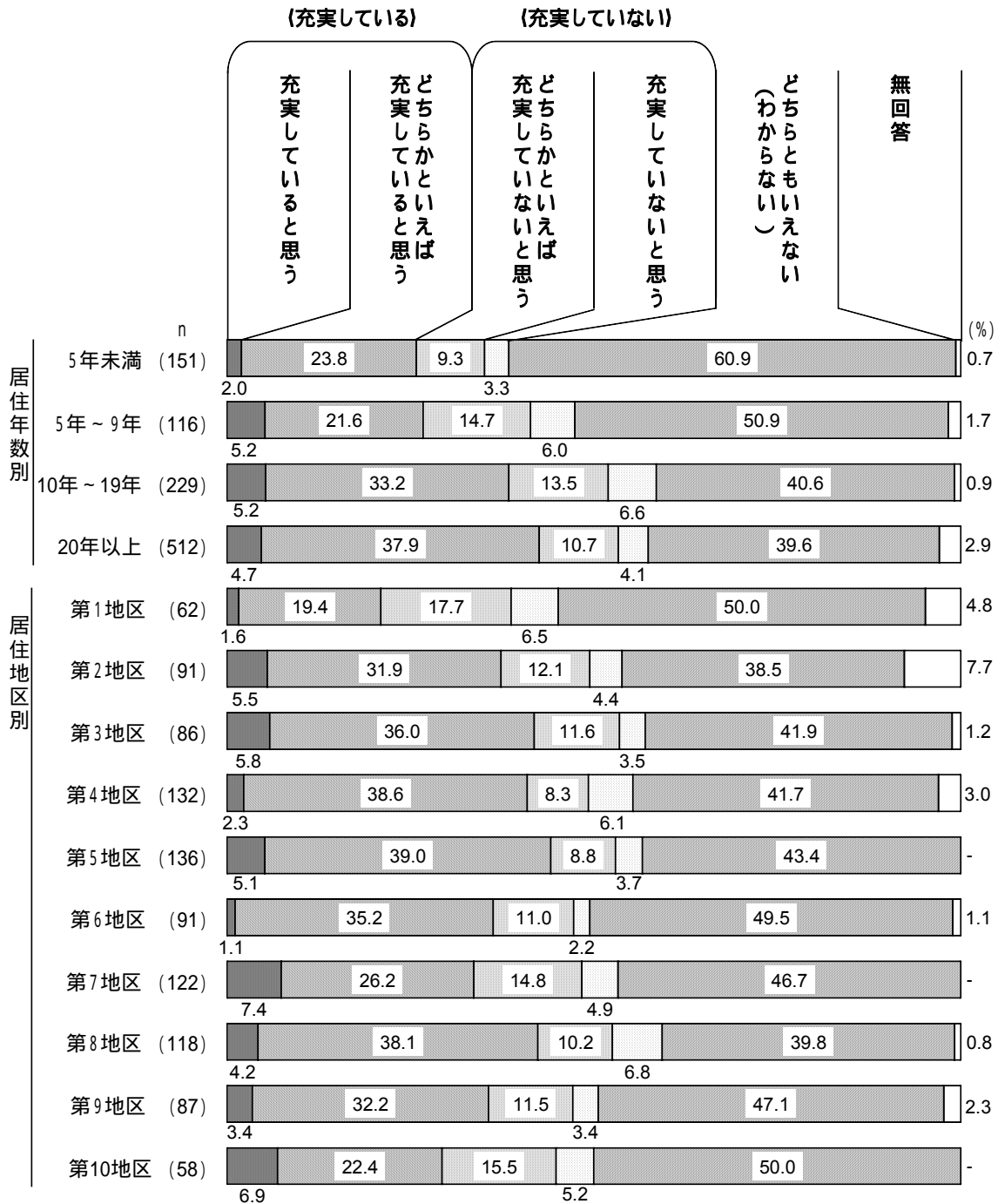


【居住年数別・居住地区別】

居住年数別にみると、《充実している》は居住年数が長くなるほど多く、10年～19年で38.4%、20年以上で42.6%と多くなっている。なお、《充実していない》は5年～9年（20.7%）と10年～19年（20.1%）の2区分で2割台と多くなっている。

居住地区別にみると、《充実している》は第3地区（41.8%）、第4地区（40.9%）、第5地区（44.1%）、第8地区（42.3%）が4割台と多くなっている。また、第1地区（21.0%）と第10地区（29.3%）では2割台となっており、もっとも多い第5地区ともっとも少ない第1地区では23.1ポイントの差がみられる。（図10-3）

< 図10-3 > 居住年数別・居住地区別



(2) 学校支援ボランティアへの参加状況

「すでに参加している」が4.9%。《参加してみたいと思う》が52.7%。

問23 あなたは、学校支援ボランティアに参加してみたいと思いますか。(は1つ)

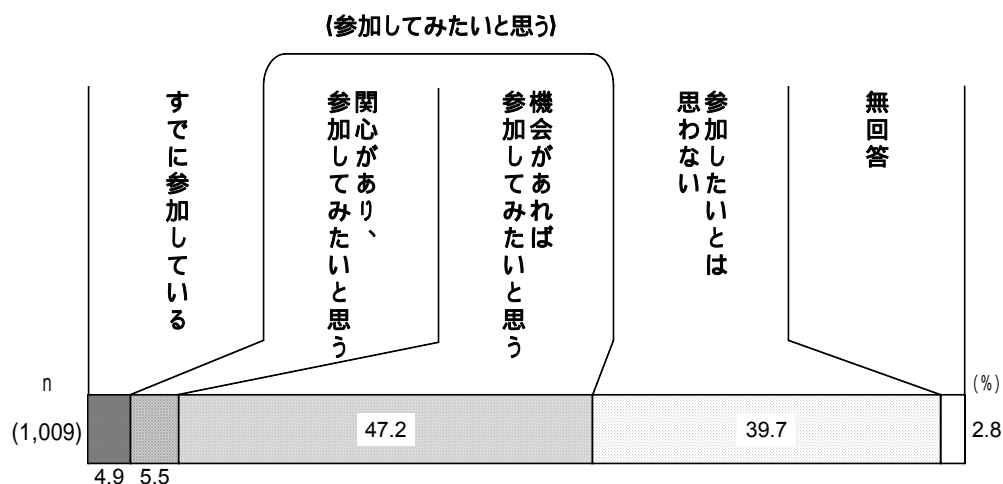
学校支援ボランティアとは、小・中学校の児童・生徒に対する学習支援、通学時の安全確保や図書室の本の整理など、学校の活動を支援する方のことです。

[n=1,009]

1. すでに参加している	4.9%
2. 関心があり、参加してみたいと思う	5.5
3. 機会があれば参加してみたいと思う	47.2
4. 参加したいとは思わない	39.7
(無回答)	2.8

学校支援ボランティアに参加しているか聞いたところ、「すでに参加している」が4.9%となっており、「関心があり、参加してみたいと思う」が5.5%、「機会があれば参加してみたいと思う」が47.2%で、これをあわせた《参加してみたいと思う》が52.7%となっている。また、「参加したいとは思わない」は39.7%となっている。(図10-4)

<図10-4> 学校支援ボランティアへの参加状況

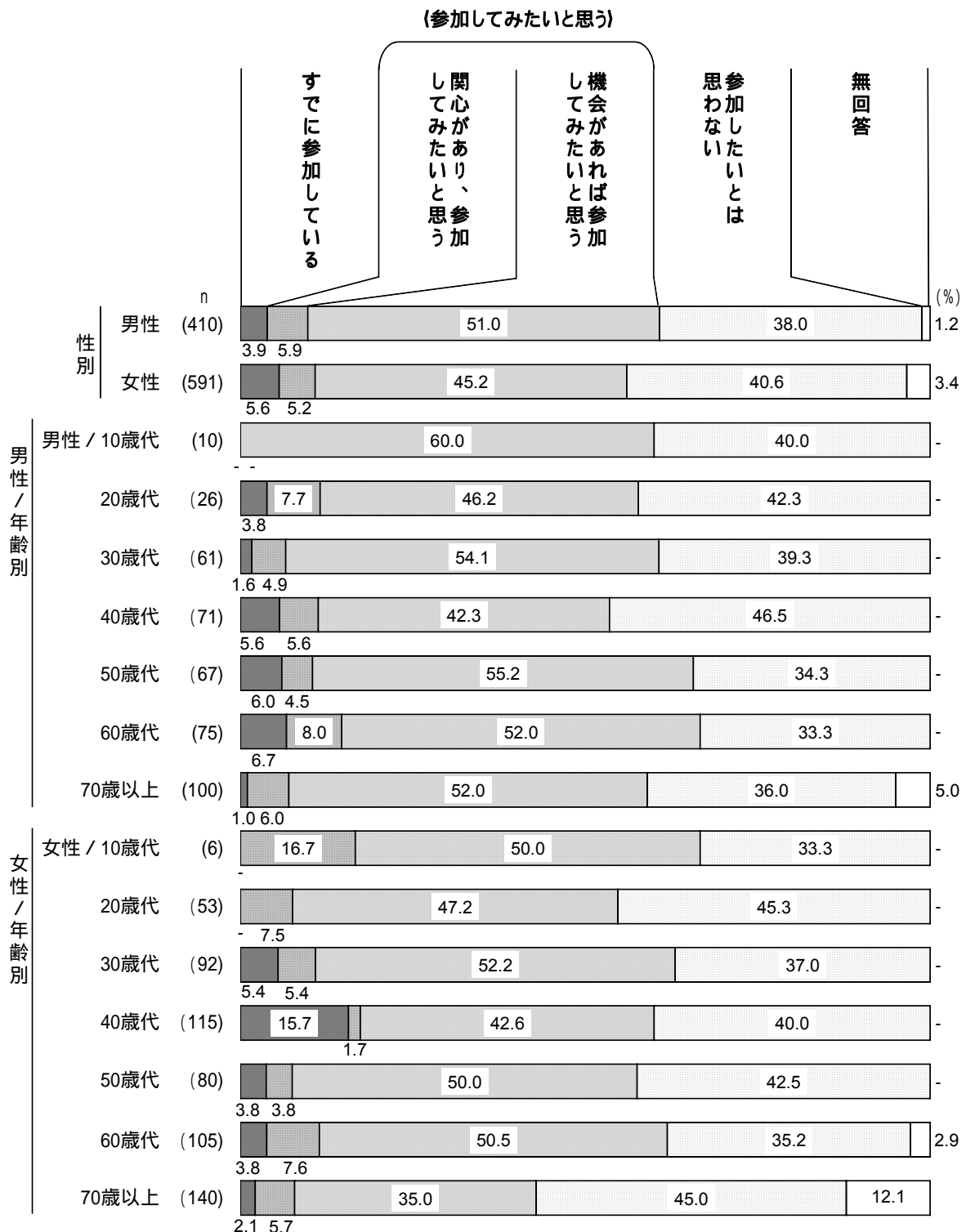


【性別・性 / 年齢別】

性別にみると、《参加してみたいと思う》は男性（56.9%）が、女性（50.4%）を6.5ポイント上回り、「すでに参加している」では女性（5.6%）が男性（3.9%）を1.7ポイント上回っている。一方、「参加したいとは思わない」は女性（40.6%）が男性（38.0%）を上回る結果となっている。

性・年齢別にみると、《参加してみたいと思う》は男性のほとんどの年代で6割前後となっているが、40歳代で47.9%と低くなっている。女性についてもほとんどの年代で5割台となっているが、40歳代（44.3%）と70歳以上（40.7%）では比較的少なくなっている。（10歳代は《参加してみたいと思う》が男性（60.0%）、女性（66.7%）ともに、もっとも多くなっているが回答者数が少ないため参考とする。）（図10 - 5）

< 図10 - 5 > 性別・性 / 年齢別

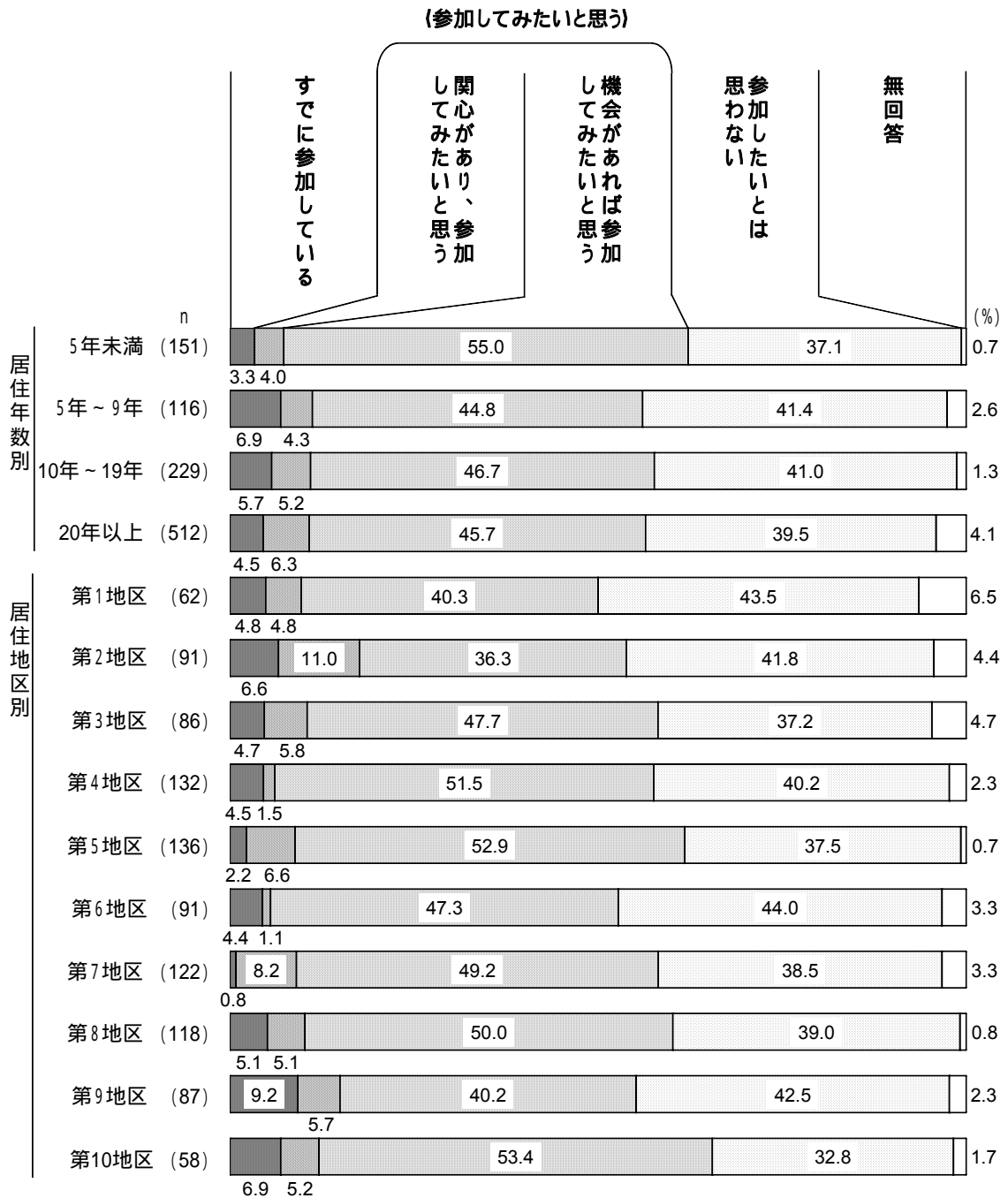


【居住年数別・居住地区別】

居住年数別にみると、《参加してみたいと思う》は5年未満でもっとも多く59.0%となっており、もっとも少ない5年～9年（49.1%）とは9.9ポイントの差がある。「すでに参加している」は5年～9年がもっとも多く6.9%となっている。

居住地区別にみると、《参加してみたいと思う》は第5地区でもっとも多く59.5%となっており、もっとも少ない第1地区（45.1%）との差は14.4ポイントになる。「すでに参加している」は第9地区の9.2%がもっとも多く、もっとも少ないのは第7地区ではわずか0.8%となっている。（図10 - 6）

< 図10 - 6 > 居住年数別・居住地区別



11 生涯学習について

(1) 公民館の利用状況

「ほとんど又はまったく利用しない」が68.2%で多く、「年1回程度」が12.5%で続く。

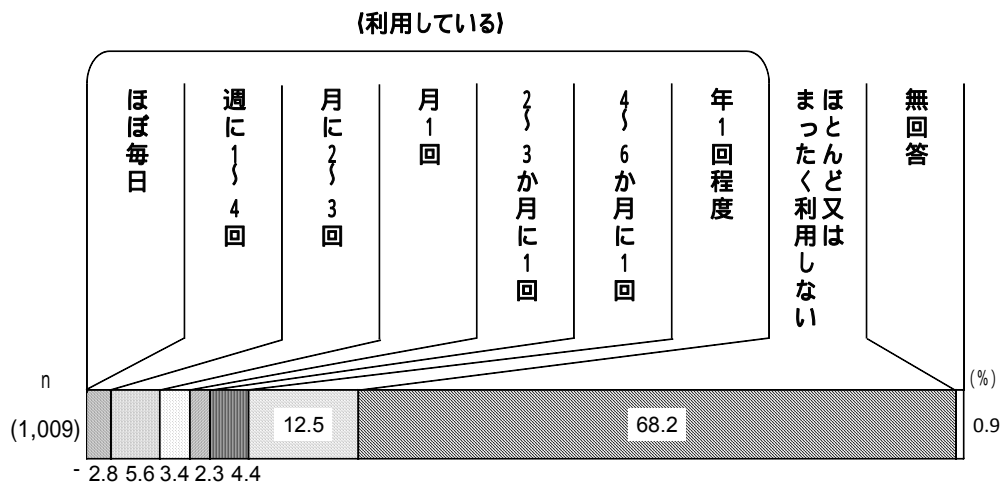
問24 あなたは、地域の公民館をどのくらいの頻度で利用していますか。(は1つ)

[n=1,009]

1. ほぼ毎日	0.0%	5. 2～3か月に1回	2.3
2. 週に1～4回	2.8	6. 4～6か月に1回	4.4
3. 月に2～3回	5.6	7. 年1回程度	12.5
4. 月1回	3.4	8. ほとんど又はまったく利用しない	68.2
		(無回答)	0.9

地域の公民館の利用状況は、「ほとんど又はまったく利用しない」が68.2%、「年1回程度」が12.5%、「月に2～3回」が5.6%、「月に1回」が3.4%と続き、《利用している》は31.0%となっている。(図11-1)

<図11-1> 公民館の利用状況

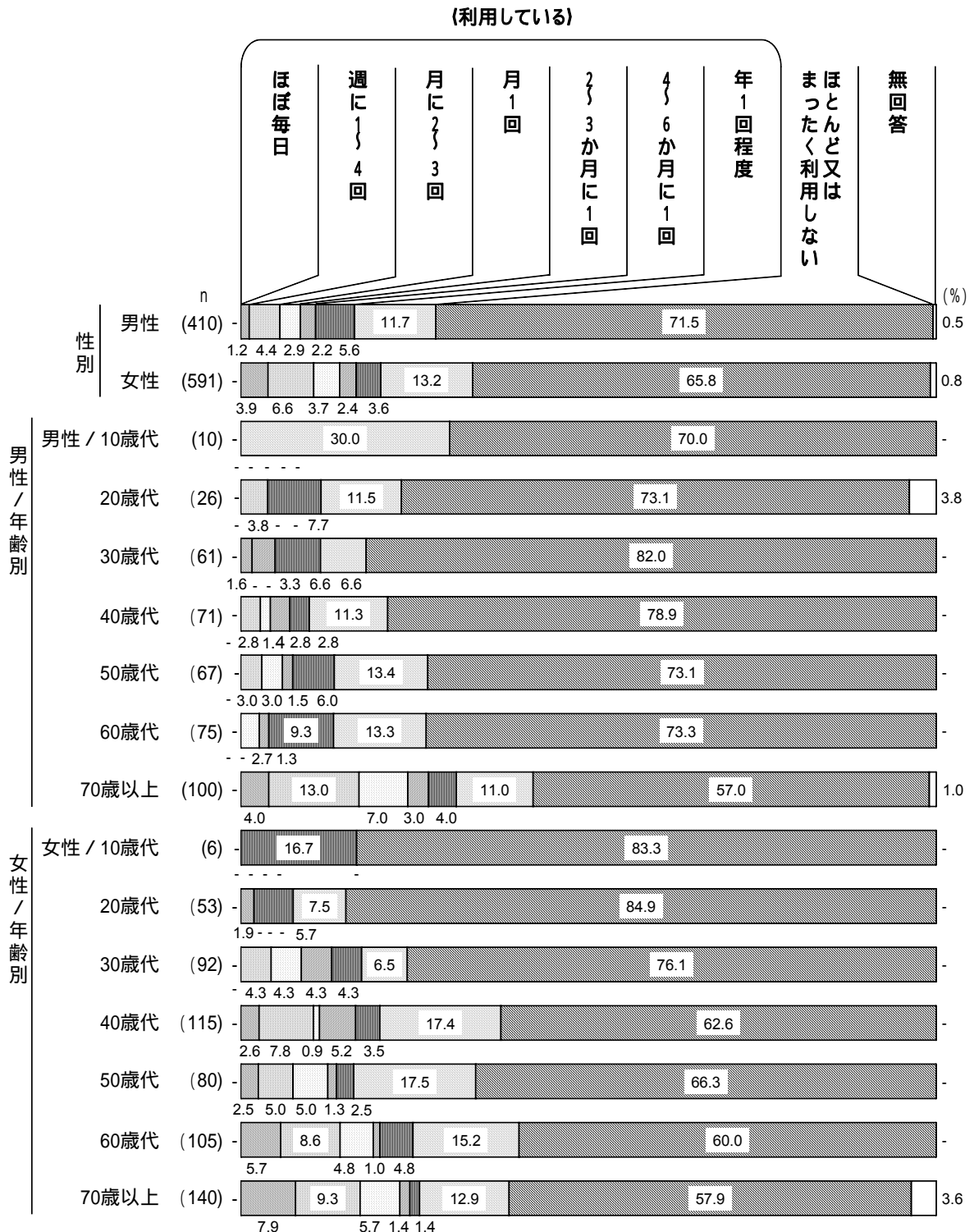


【性別・性／年齢別】

性別にみると、《利用している》は男性28.0%、女性33.4%となっており、女性が男性を5.4ポイント上回る。

性・年齢別にみると、《利用している》は男性では70歳以上が特に多く42.0%となっており、もっとも少ない30歳代（18.1%）とは23.9ポイントの差がある。なお、20歳代、40歳代から60歳代は2割台となっているため、70歳以上の利用状況の高さがわかる。女性では60歳代（40.1%）、70歳以上（38.6%）、40歳代（37.4%）で多く、20歳代の15.1%がもっとも少なくなっている。（男女とも10歳代は回答者数が少ないため参考とする。）（図11 - 2）

< 図11 - 2 > 性別・性／年齢別

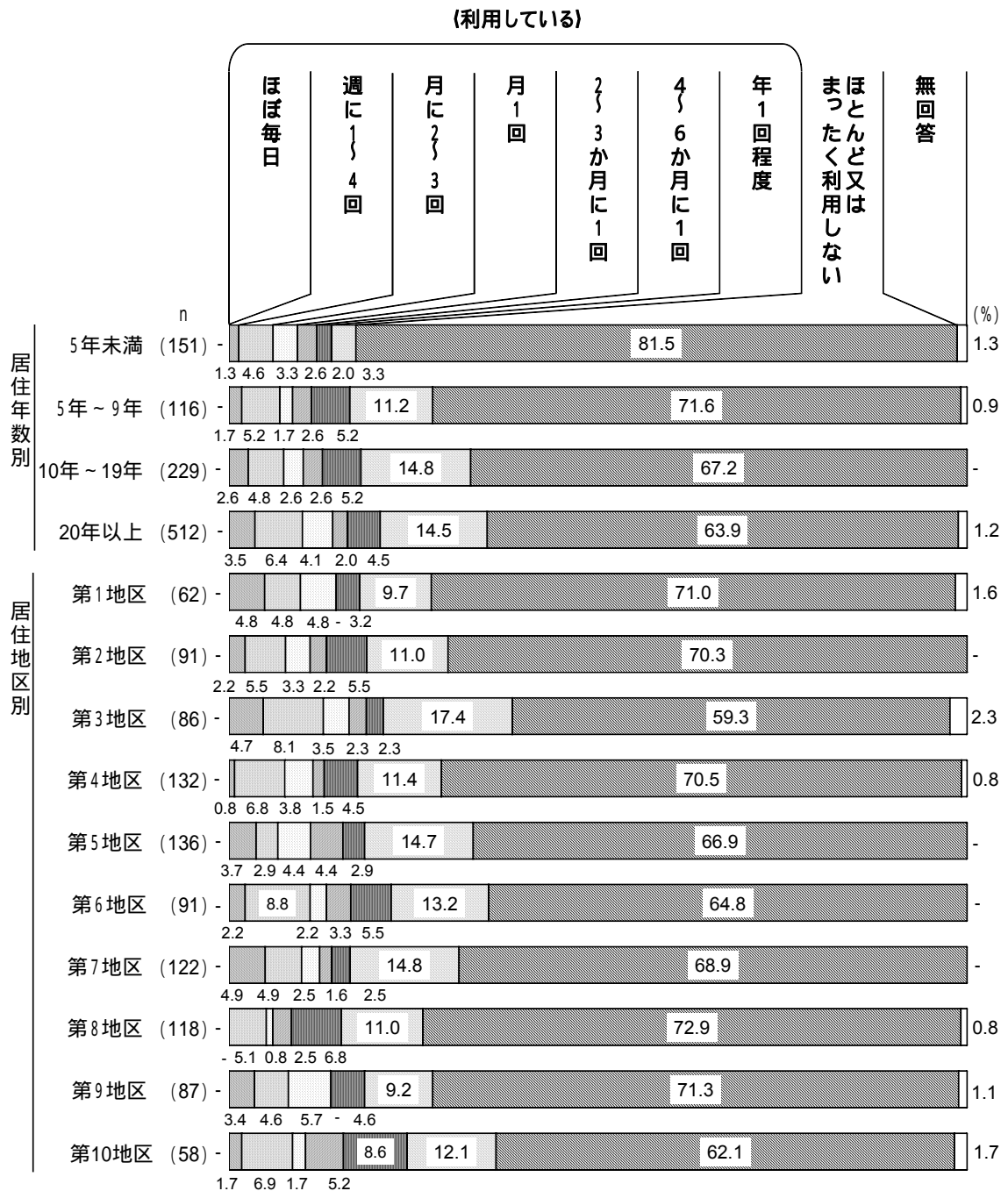


【居住年数別・居住地区別】

居住年数別にみると、《利用している》は年数が長くなるほど割合が多く、20年以上で35.0%、10年～19年で32.6%、5年～9年で27.6%と続いており、もっとも少ない5年未満（17.1%）とは17.9ポイントの差がある。

居住地区別にみると、もっとも多いのは第3地区の38.3%で、次に第10地区で36.2%、第6地区で35.2%と続く。なお、もっとも少ないのは第8地区（26.2%）となっており、第3地区と12.1ポイントの差がある。（図11-3）

< 図11-3 > 居住年数別・居住地区別



(2) 図書館の利用状況

「ほとんど又はまったく利用しない」が46.2%で多く、「年1回程度」が12.8%で続く。

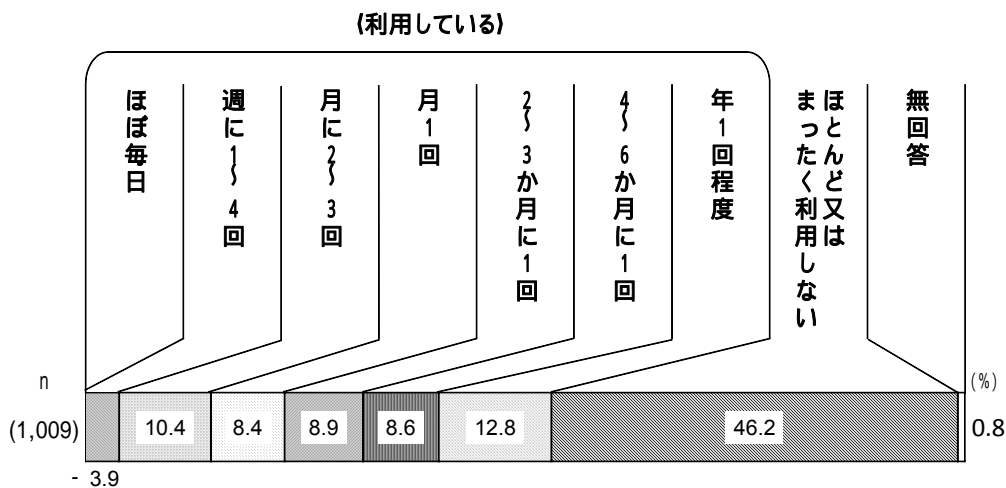
問25 あなたは、地域の図書館をどのくらいの頻度で利用していますか。(は1つ)

[n=1,009]

1. ほぼ毎日	0.0%	5. 2～3か月に1回	8.9
2. 週に1～4回	3.9	6. 4～6か月に1回	8.6
3. 月に2～3回	10.4	7. 年1回程度	12.8
4. 月1回	8.4	8. ほとんど又はまったく利用しない	46.2
		(無回答)	0.8

地域の図書館の利用状況は、「ほとんど又はまったく利用しない」が46.2%、「年1回程度」が12.8%、「月に2～3回」が10.4%、「2～3か月に1回」が8.9%と続く。(図11-4)

< 図11-4 > 図書館の利用状況

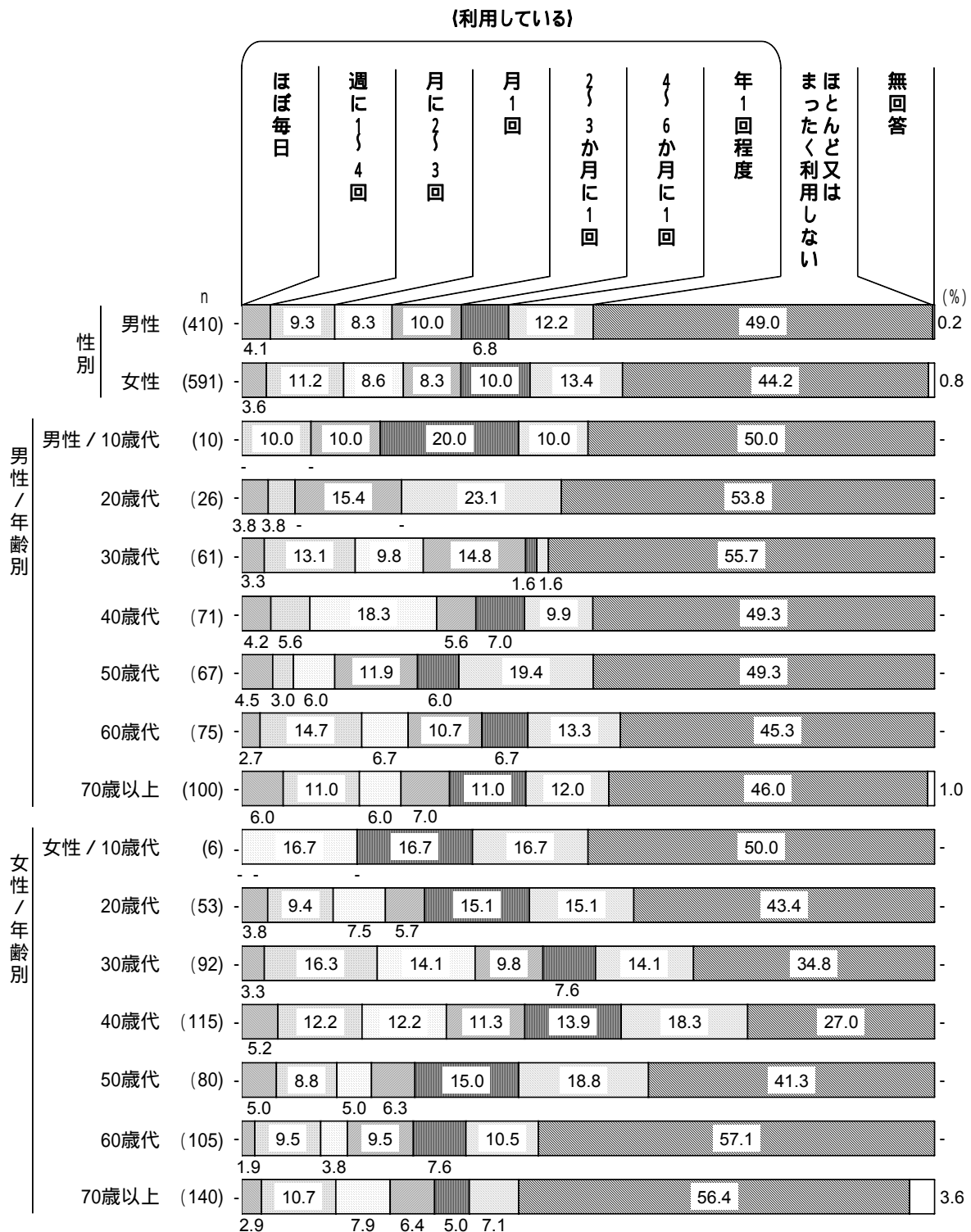


【性別・性 / 年齢別】

性別にみると、《利用している》は男性が50.7%、女性が55.1%となっており、女性が男性を4.4ポイント上回る。《利用していない》についても男性が49.0%、女性44.2%となっており、男性に比べ女性の利用が多いことがわかる。

性・年齢別にみると、《利用している》は、男性の60歳代が54.8%でもっとも多く、次に70歳以上が53.0%で続き、もっとも少ないのは30歳代の44.2%で60歳代とは10.6ポイントの差がある。女性では40歳代が73.1%でもっとも多く、次に30歳代での65.2%、50歳代の58.9%と続き、もっとも少ないのが70歳以上の40.0%で、33.1ポイントの大きな差がみられる。(図11 - 5)

< 図11 - 5 > 性別・性 / 年齢別

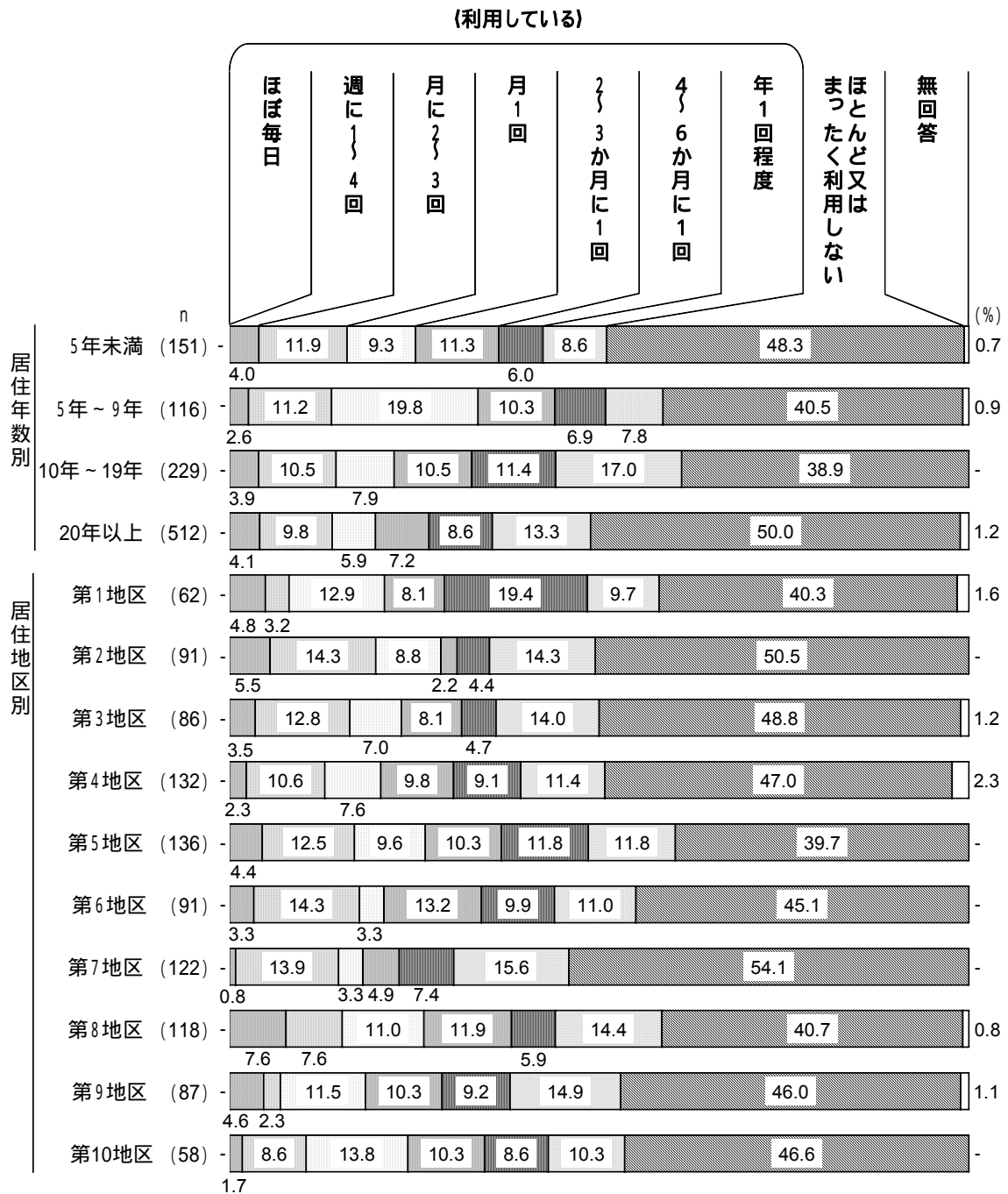


【居住年数別・居住地区別】

居住年数別にみると、《利用している》は、10年～19年で61.2%、次に5年～9年で58.6%と多くなっている。もっとも少ないのは20年以上の48.9%で10年～19年との差は12.3ポイントとなっている。

居住地区別にみると、《利用している》はもっとも多いのが第5地区の60.4%、次に第8地区(58.4%)、第1地区(58.1%)と続く。もっとも少ないのは第7地区の45.9%で、第5地区とは14.5ポイントの差がある。(図11-6)

<図11-6> 居住年数別・居住地区別



(3) 生涯学習活動の頻度

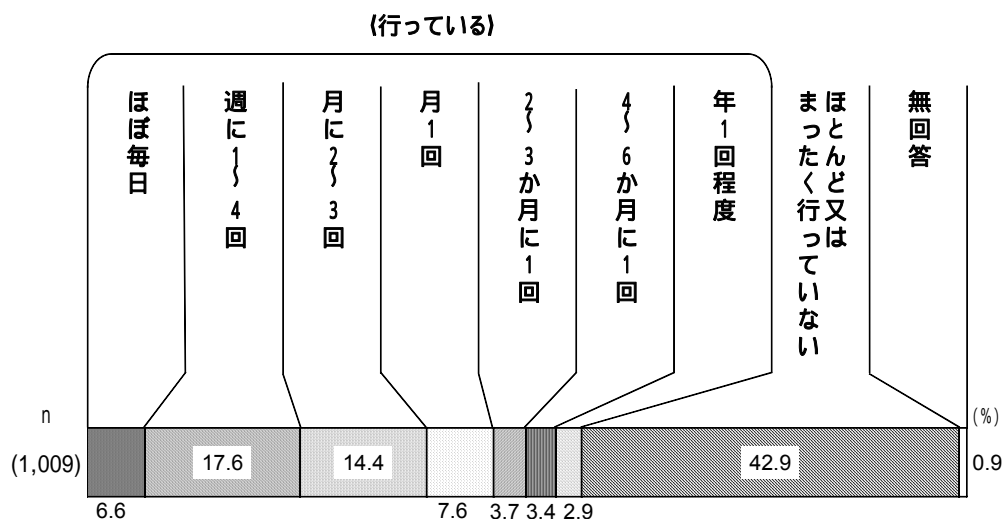
「ほとんど又はまったく行っていない」が42.9%で多く、「週に1～4回」が17.6%と続く。

問26 あなたは、趣味、スポーツ活動、レクリエーション活動、文化活動などの生涯学習活動をどのくらいの頻度で行っていますか。(は1つ)
[n=1,009]

1. ほぼ毎日	6.6%	5. 2～3か月に1回	3.7
2. 週に1～4回	17.6	6. 4～6か月に1回	3.4
3. 月に2～3回	14.4	7. 年1回程度	2.9
4. 月1回	7.6	8. ほとんど又はまったく行っていない	42.9
		(無回答)	0.9

趣味、スポーツ活動、レクリエーション活動、文化活動などの生涯学習活動は、「ほとんど又はまったく行っていない」が42.9%、「週に1～4回」が17.6%、「月に2～3回」が14.4%と続く。一方、「ほぼ毎日」は6.6%となっている。(図11-7)

<図11-7> 生涯学習活動の頻度

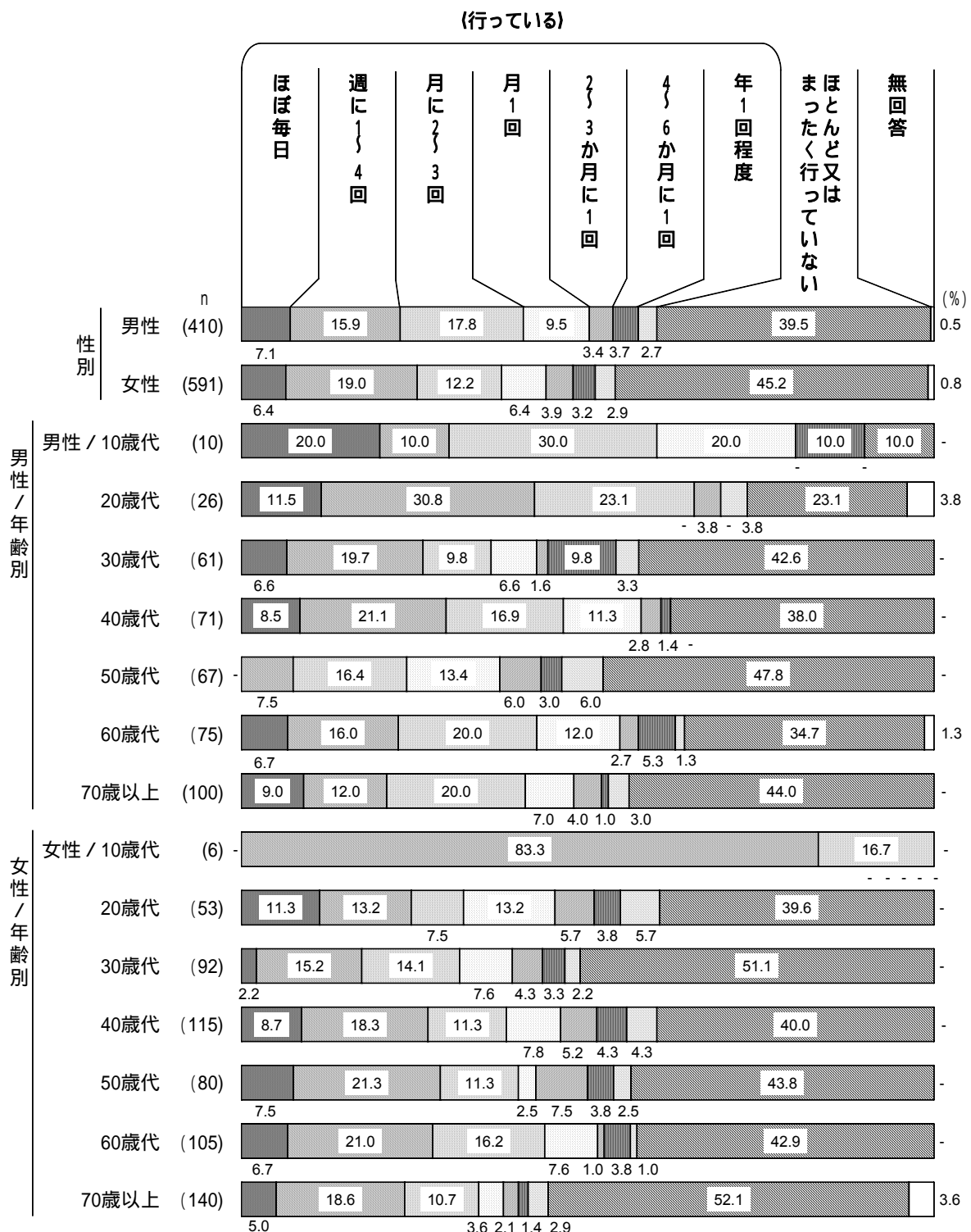


【性別・性 / 年齢別】

性別にみると、《行っている》は男性が60.1%、女性が54.0%となっており、男性が女性を6.1ポイント上回っている。「ほとんど又はまったく行っていない」については男性が39.5%、女性が45.2%となっており、生涯学習の頻度については男性の方が多い。

性・年齢別にみると、《行っている》は男性の20歳代が73.0%と多く、次に60歳代の64.0%、40歳代の62.0%が6割台で続いている。なお、もっとも少ないのは50歳代の52.3%で20歳代とは20.7ポイントの差がある。女性については、20歳代が60.4%、40歳代が59.9%と続いている。なお、もっとも少ないのは70歳以上の44.3%で20歳代との差は16.1ポイントになる。(なお、10歳代の男性は90.0%、女性は100.0%でもっとも多くなっているが、回答者数が少ないため参考とする。(図11 - 8)

< 図11 - 8 > 性別・性 / 年齢別

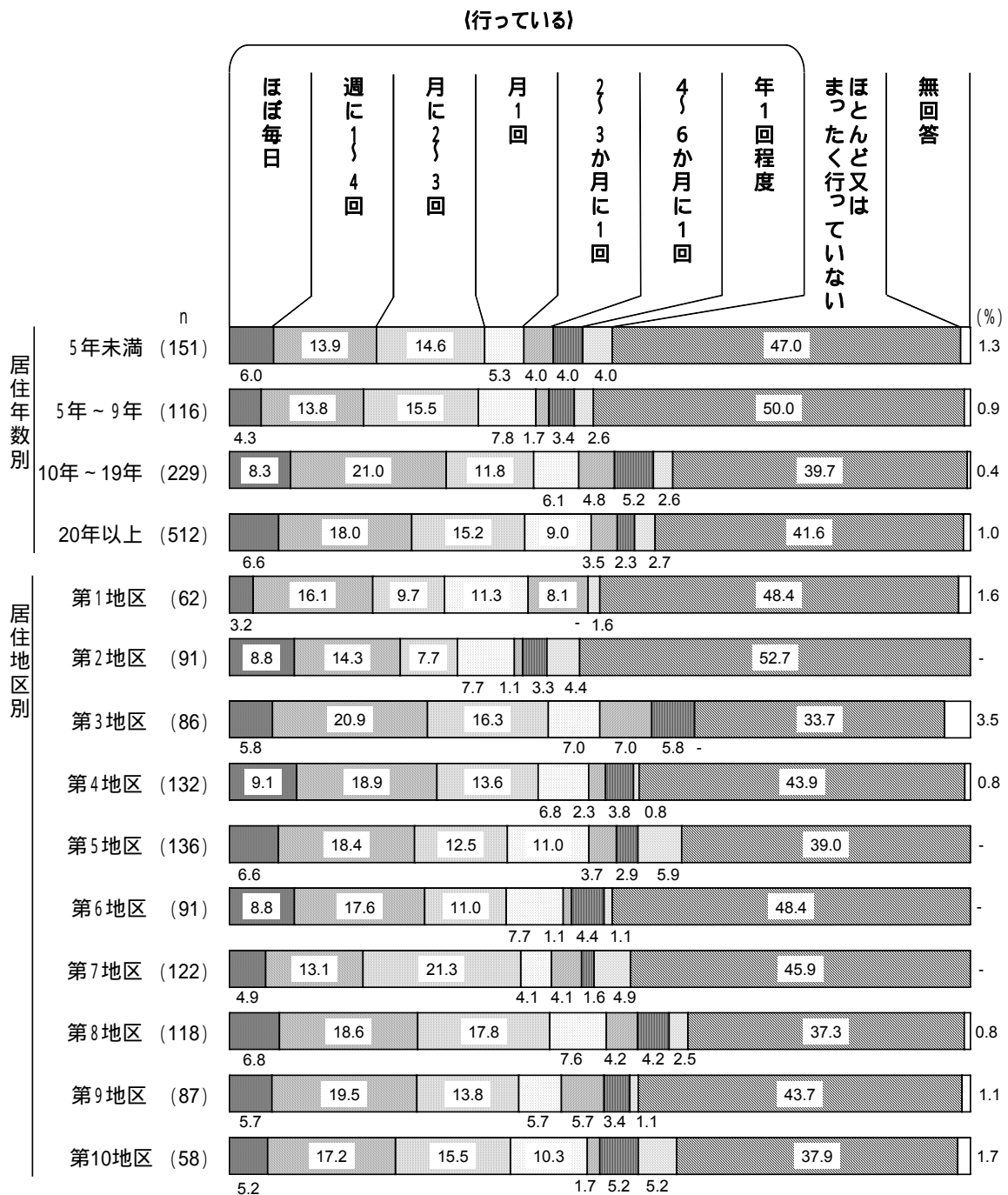


【居住年数別・居住地区別】

居住年数別にみると、《行っている》は10年～19年で最も多く59.8%、次に20年以上が57.3%と続く。一方、「ほとんど又はまったく行っていない」については5年～9年で50.0%ともっとも多くなっている。

居住地区別にみると、《行っている》は第3地区の62.8%が最も多く、次に第8地区(61.7%)、第5地区(61.0%)、第10地区(60.3%)が6割台で続いている。もっとも少ないのは第2地区の47.3%となっており、第3地区と15.5ポイントの差がある。(図11-9)

<図11-9> 居住年数別・居住地区別



12 景観について

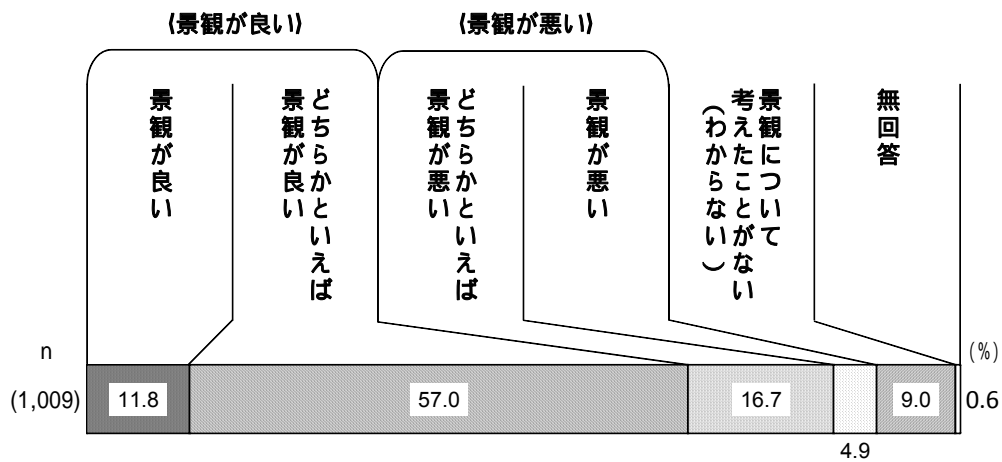
(1) 居住地域の景観について

《景観が良い》が68.8%。《景観が悪い》が21.6%。

問27 あなたがお住まいの地域周辺の景観について、どのように感じていますか。(は1つ)	
〔n=1,009〕	
1. 景観が良い	11.8%
2. どちらかといえば景観が良い	57.0
3. どちらかといえば景観が悪い	16.7
4. 景観が悪い	4.9
5. 景観について考えたことがない(わからない)	9.0
(無回答)	0.6

お住まいの地域周辺の景観について聞いたところ、「景観が良い」が11.8%、「どちらかといえば景観が良い」が57.0%で、これをあわせた《景観が良い》は68.8%となっている。また、《景観が悪い》(「景観が悪い」+「どちらかといえば景観が悪い」)は21.6%となっている。(図12-1)

<図12-1> 居住地域の景観について



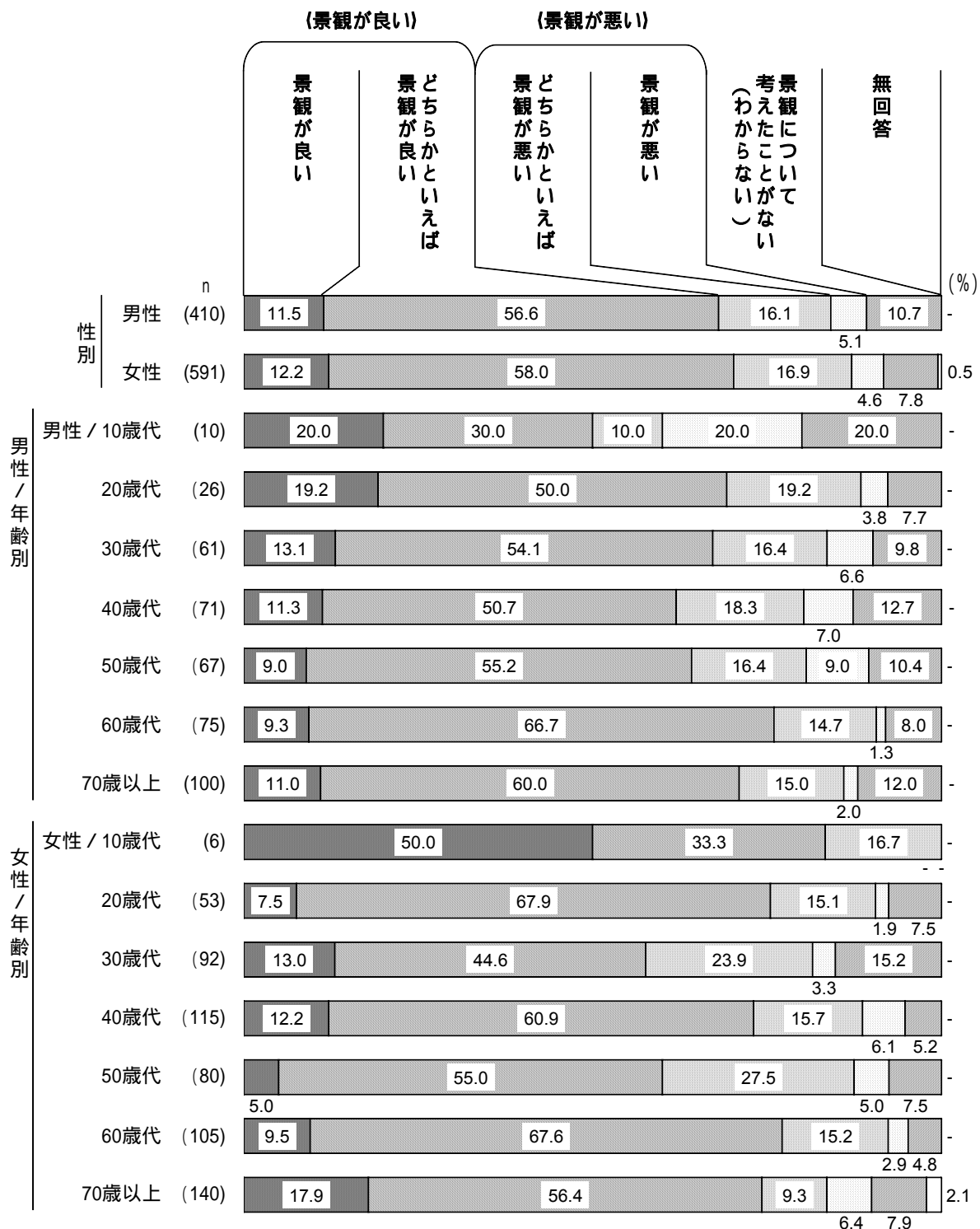
【性別・性 / 年齢別】

性別にみると、《景観が良い》は男性が68.1%、女性が70.2%となっており、僅差で女性が男性を2.1ポイント上回っている。《景観が悪い》は男性（21.2%）と女性（21.5%）では差はみられない。

性・年齢別にみると、《景観が良い》は男性の60歳代が76.0%でもっとも多く、次に70歳以上が71.0%で続いている。女性は60歳代が77.1%で多くなっており、もっとも少ない30歳代の57.6%とは19.5ポイントの差がある。《景観が悪い》は男性の10歳代（30.0%）と女性の50歳代（32.5%）が3割台で多くなっている。（なお、男性、女性の10歳代は《景観が良い》について男性ではもっとも少なく、女性ではもっとも多くなっており対極の結果となっているが、回答者数が少ないため参考とする。）

（図12 - 2）

< 図12 - 2 > 性別・性 / 年齢別

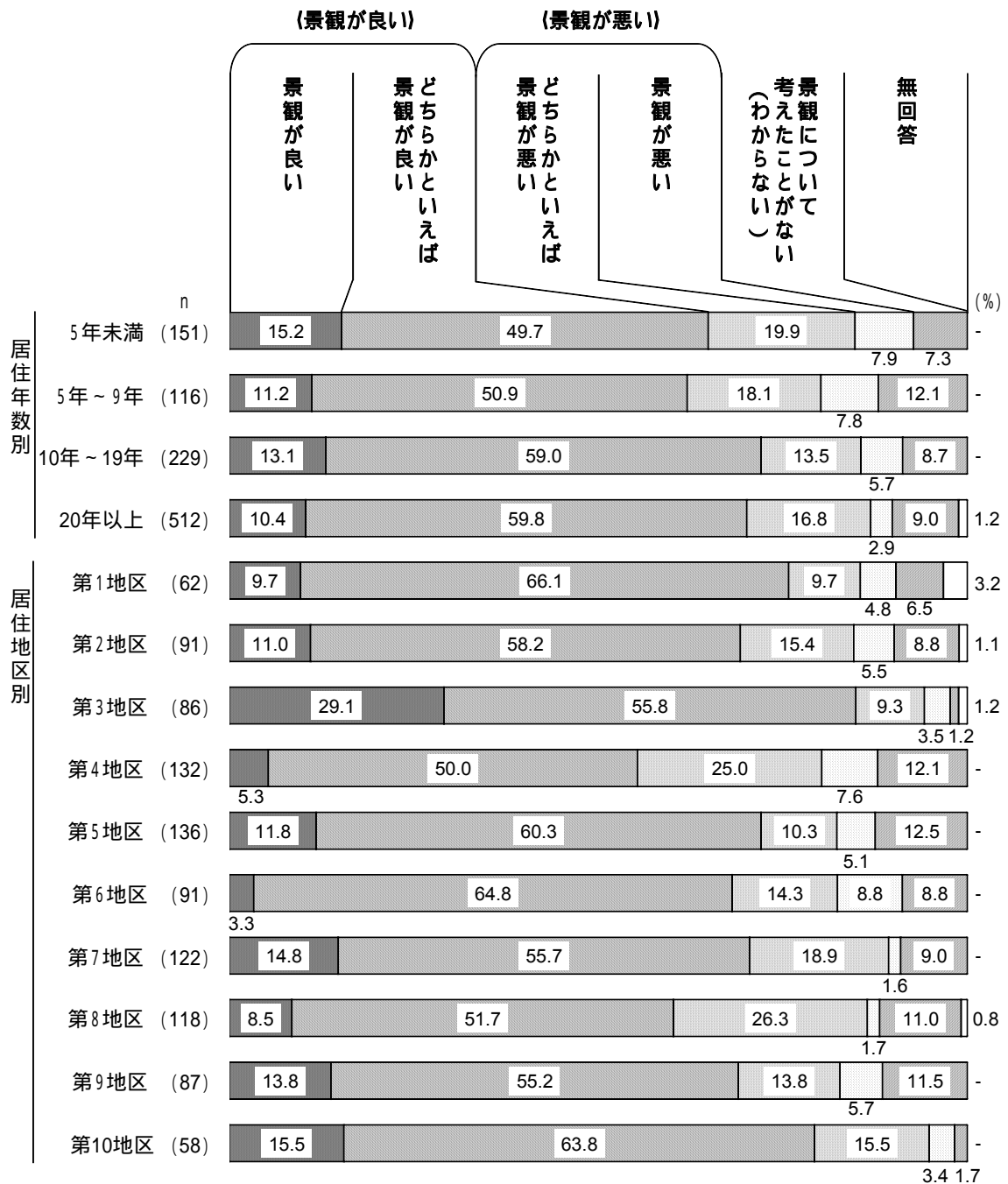


【居住年数別・居住地区別】

居住年数別にみると、《景観が良い》は10年～19年でもっとも多く72.1%となっており、20年以上が70.2%で続く。また、もっとも少ない5年～9年は62.1%となっており、10年～19年とは10.0ポイントの差がある。

居住年数別にみると、《景観が良い》は第3地区が84.9%でもっとも多く唯一の8割台となっている。次に第10地区（79.3%）、第1地区（75.8%）、第5地区（72.1%）、第7地区（70.5%）が7割台で続く。また、もっとも少ないのは第4地区の55.3%で第3地区とは29.6ポイントの差がある。（図12-3）

< 図12-3 > 居住年数別・居住地区別



13 交通安全について

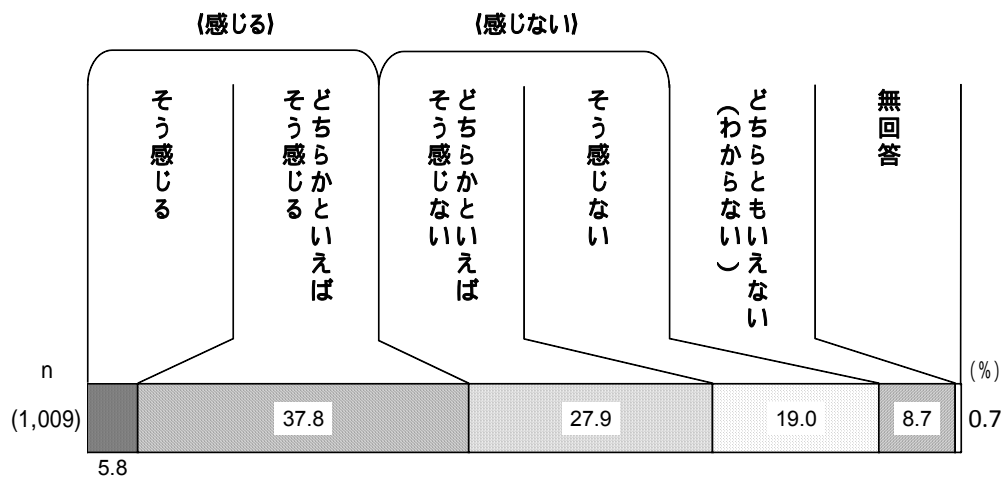
(1) 市内の交通ルールやマナーについて

《感じる》が43.6%。《感じない》が46.9%。

問28 あなたは、小平市内では交通ルールやマナーが守られ、安全に移動できると感じていますか。				
(は1つ)				
[n=1,009]				
1 . そう感じる	5.8%	3 . どちらかといえばそう感じない	27.9	
2 . どちらかといえばそう感じる	37.8	4 . そう感じない	19.0	
		5 . どちらともいえない(わからない)	8.7	
		(無回答)	0.7	

小平市内での交通ルールやマナーが守られ、安全に移動できるか聞いたところ、「そう感じる」が5.8%、「どちらかといえばそう感じる」が37.8%で、これをあわせた《感じる》は43.6%となっているが、《感じない》(「そう感じない」+「どちらかといえばそう感じない」)は46.9%となっており、《感じない》が上回る結果となっている。(図13-1)

<図13-1> 市内の交通ルールやマナーについて

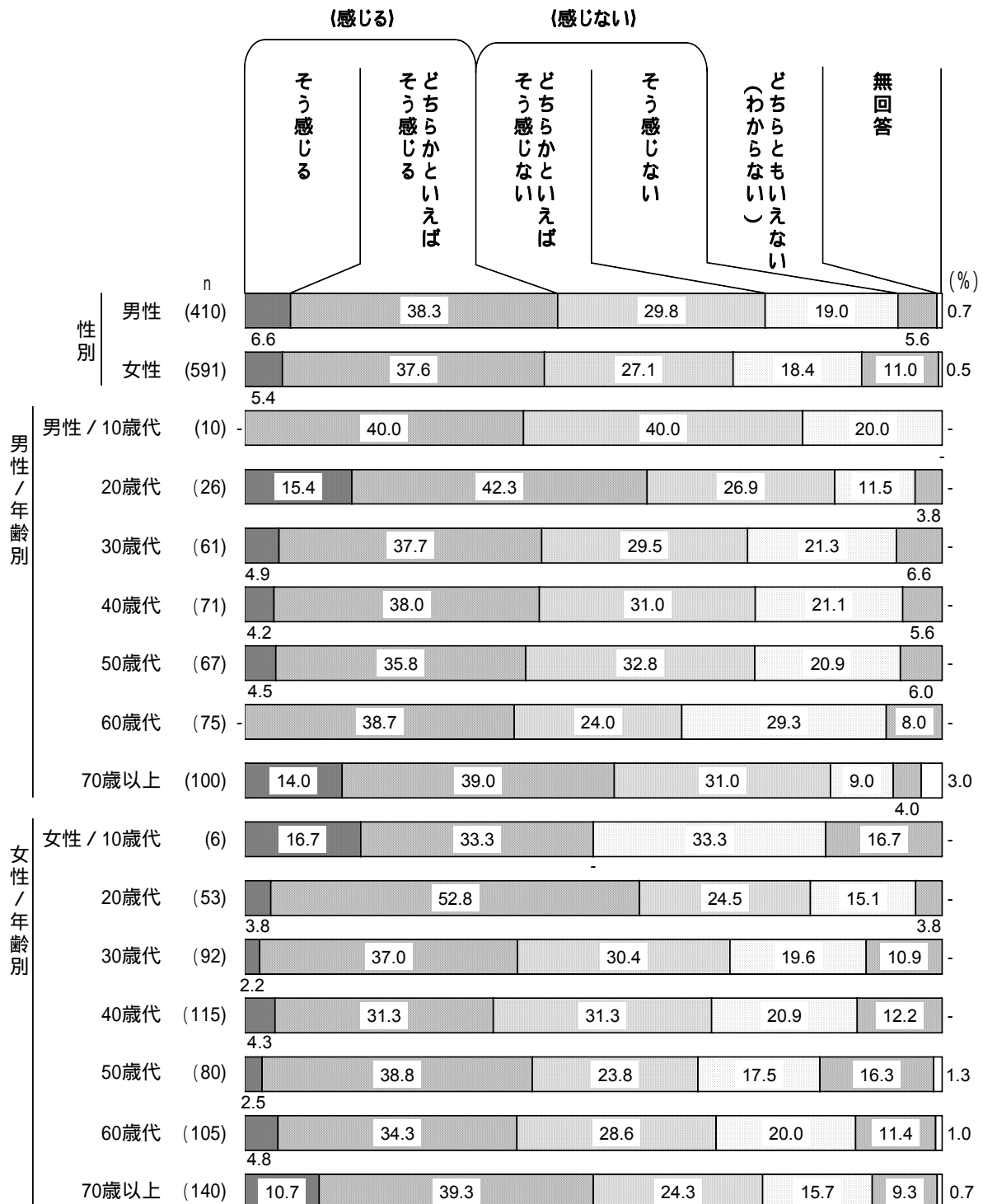


【性別・性 / 年齢別】

性別にみると、《感じる》は男性が44.9%、女性が43.0%となっており、僅差で男性が女性を上回っている。

性・年齢別にみると、《感じる》は男性の20歳代が57.7%でもっとも多く、次に70歳以上が53.0%となっており同じ5割台で続いている。また、もっとも少ないのは60歳代で38.7%となっており、20歳代とは19.0ポイントの差がある。女性については20歳代がもっとも多く56.6%となっており、10歳代と70歳以上がともに50.0%で同じ5割台で続いている。また、もっとも少ないのは40歳代の35.6%で20歳代とは21.0ポイントの差となっている。(図13 - 2)

< 図13 - 2 > 性別・性 / 年齢別



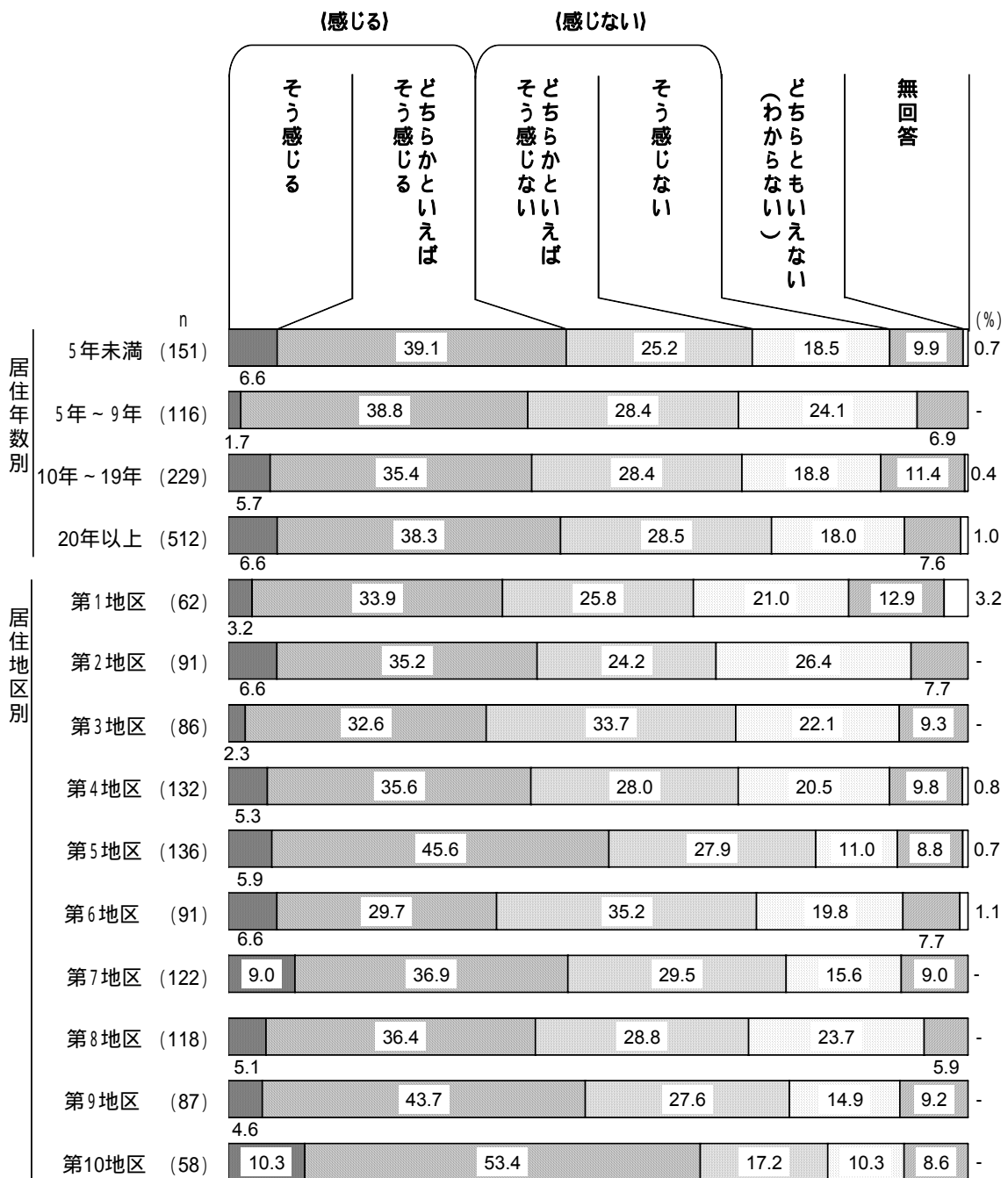
【居住年数別・居住地区別】

居住年数別にみると、《感じる》はすべて4割台となっているが、その中でもっとも多いのは5年未満の45.7%、もっとも少ないのは5年～9年で40.5%となっている。また《感じる》と《感じない》を比較すると、5年未満を除き《感じる》よりも《感じない》が上回っている。

居住地区別にみると、《感じる》は第10地区が63.7%でもっとも多く唯一の6割台となっている。また、もっとも少ないのは第3地区で34.9%となっており、その差は28.8ポイントとなっている。「どちらともいえない(わからない)」は第1地区で12.9%となっており、唯一の1割台となっている。

(図13-3)

<図13-3> 居住年数別・居住地区別



14 商業について

(1) 市内での買い物状況

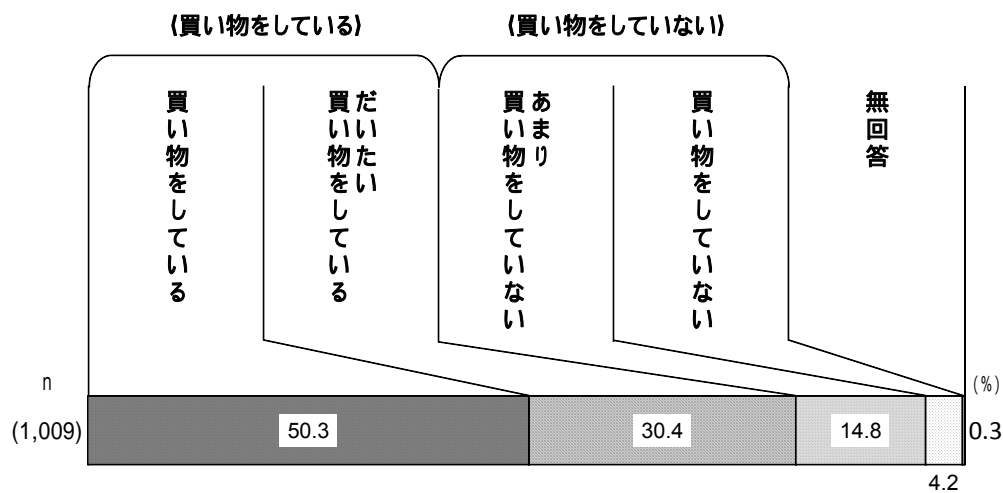
《買い物をしている》が80.7%。《買い物をしていない》が19.0%。

問29 あなたは、日頃、小平市内の店舗で買い物をしていますか。(は1つ)			
[n=1,009]			
1. 買い物をしている	50.3%	3. あまり買い物をしていない	14.8
2. だいたい買い物をしている	30.4	4. 買い物をしていない	4.2
		(無回答)	0.3

小平市内の店舗で買い物をしているかを聞いたところ、「買い物をしている」が50.3%、「だいたい買い物をしている」が30.4%で、これをあわせた《買い物をしている》は80.7%と多くなっている。

また、《買い物をしていない》(「買い物をしていない」+「あまり買い物をしていない」)は19.0%となっている。(図14-1)

<図14-1> 市内での買い物状況

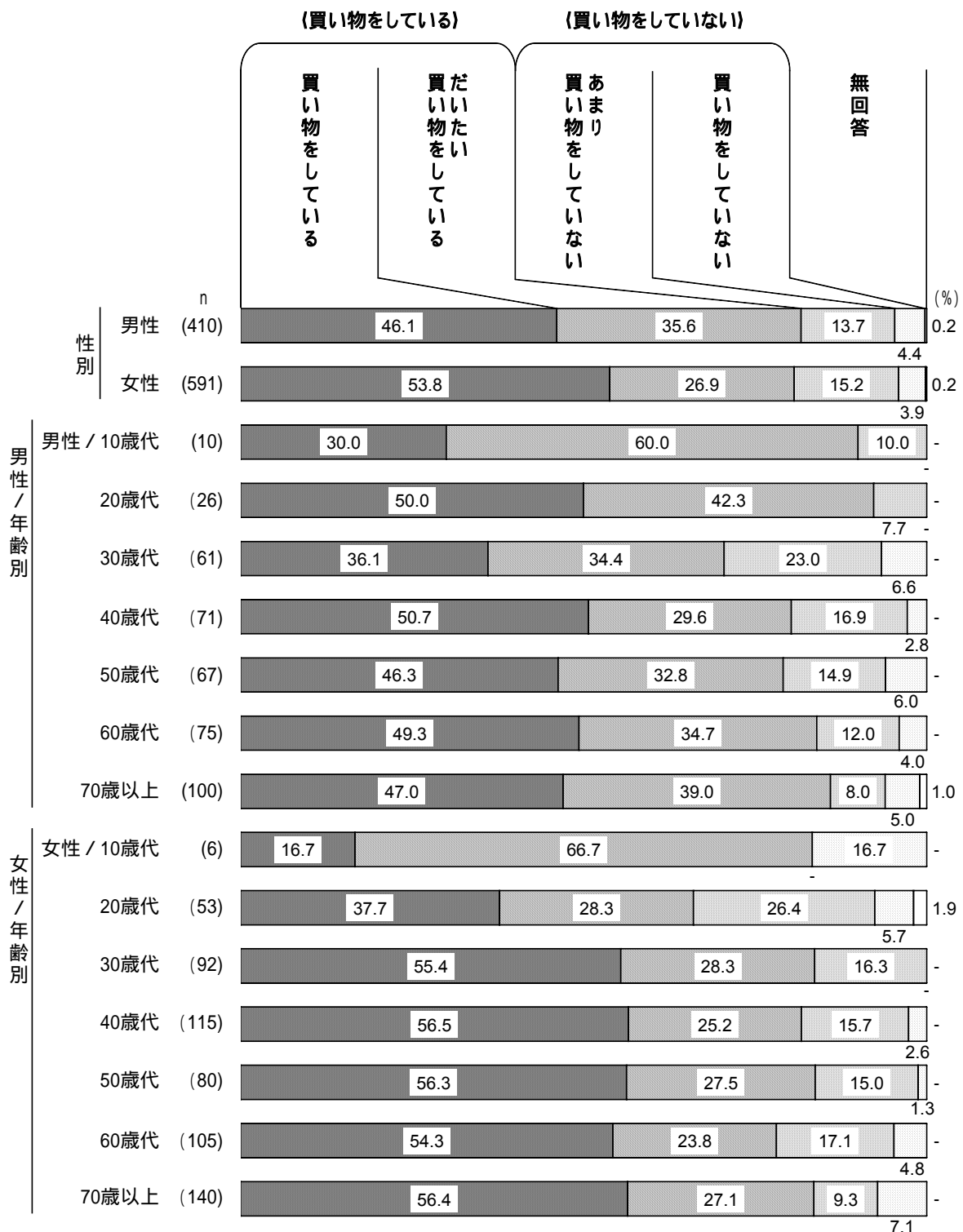


【性別・性 / 年齢別】

性別にみると、《買い物をしている》は男性が81.7%、女性が80.7%となっており、男性、女性ともに8割台となっている。なお、男性が1.0ポイント上回っているが大きな差はみられない。

性・年齢別にみると、《買い物をしている》は男性の20歳代が92.3%でもっとも多くなっている。もっとも少ないのは30歳代で70.5%となっており、20歳代とは21.8ポイントの差がある。女性は50歳代が83.8%でもっとも多く、30歳代(83.7%)、70歳以上(83.5%)、10歳代(83.4%)、40歳代(81.7%)が8割台の僅差で続く。また、もっとも少ないのは20歳代の66.0%となっており、50歳代との差は17.8ポイントとなっている。なお、全体を通してみると、20歳代の男性がもっとも多く、20歳代の女性がもっとも少ないという結果となっている。(図14 - 2)

< 図14 - 2 > 性別・性 / 年齢別

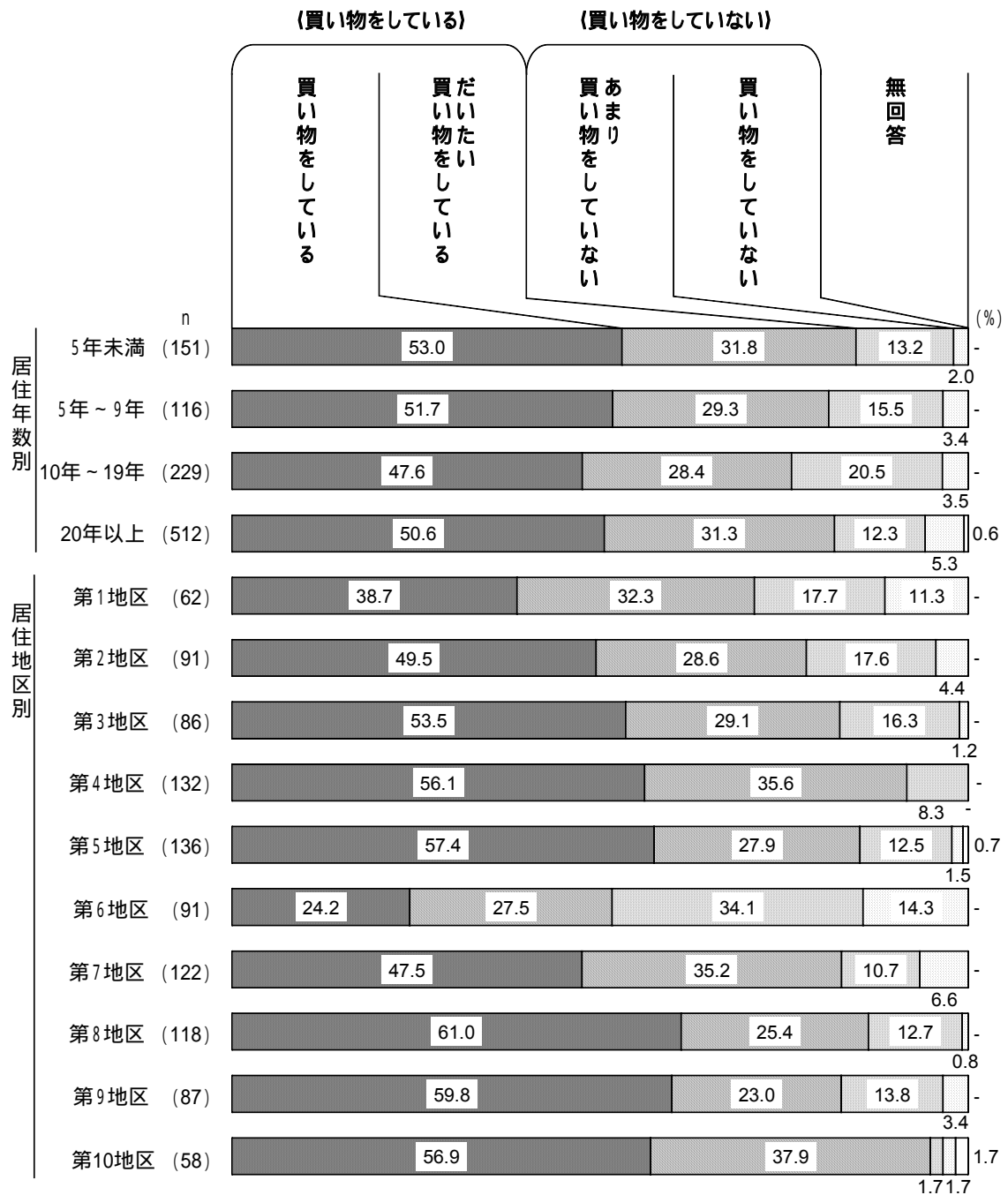


【居住年数別・居住地区別】

居住年数別にみると、《買い物をしている》は5年未満が84.8%もっとも多くなっている。なお、10年～19年が唯一の7割台で76.0%ともっとも少なくなっている。

居住地区別にみると、《買い物をしている》は第10地区が94.8%でもっとも多く、第4地区が91.7%と9割台で続き、第8地区(86.4%)、第5地区(85.3%)、第9地区(82.8%)、第7地区(82.7%)、第3地区(82.6%)が8割台で続いている。もっとも少ないのは第6地区の51.7%で、第10地区とは43.1ポイントの差がある。(図14-3)

< 図14-3 > 居住年数別・居住地区別



(1 - 1) 市内で買い物をしない理由

「近くに店舗がない」が45.5%でもっとも多い。

(問29で「 3 あまり買い物をしていない」「 4 買い物をしていない」と答えた方におたずねします。)

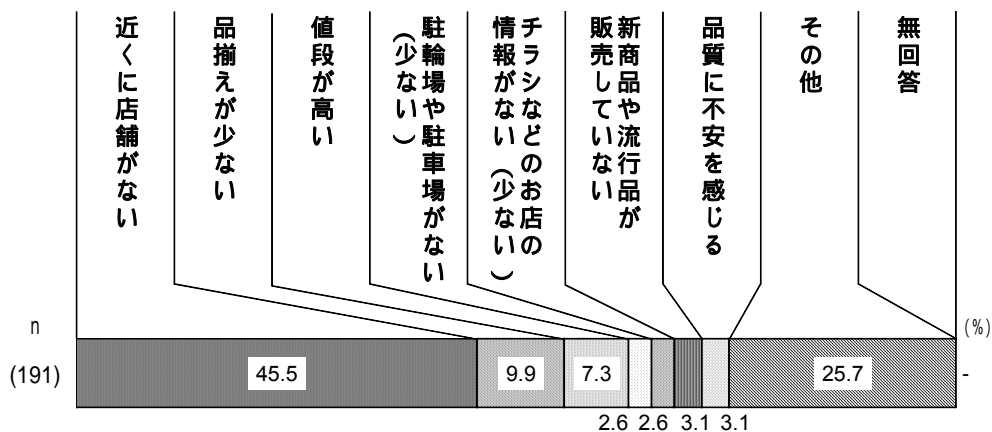
問29 - 1 小平市内の店舗で買い物をしない1番の理由は何ですか。(は1つ)

[n=191]

1. 近くに店舗がない	45.5%	5. チラシなどのお店の情報がない	
2. 品揃えが少ない	9.9	(少ない)	2.6
3. 値段が高い	7.3	6. 新商品や流行品が販売していない	3.1
4. 駐輪場や駐車場がない(少ない)	2.6	7. 品質に不安を感じる	3.1
		8. その他	25.7
		(無回答)	0.0

問29- 1で小平市内の店舗で買い物をしない1番の理由を聞いたところ、「近くに店舗がない」が45.5%でもっとも多く、以下、「品揃えが少ない」(9.9%)、「値段が高い」(7.3%)などが続いている。(図14 - 4)

< 図14 - 4 > 市内で買い物をしない理由

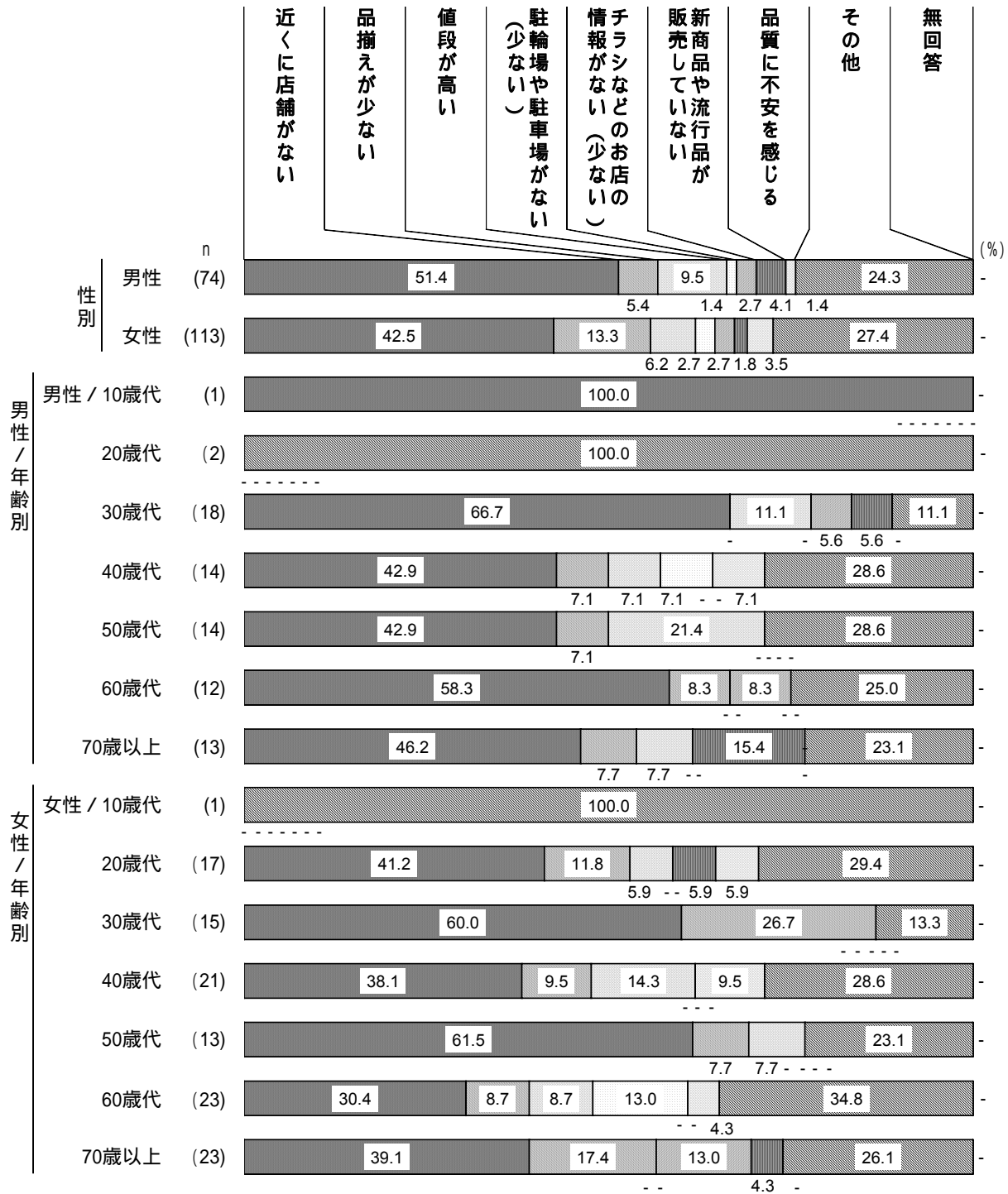


【性別・性 / 年齢別】

性別にみると、多くを占める項目は「近くに店舗がない」で、男性は51.4%、女性は42.5%となっており、男性が女性を8.9ポイント上回る。「品揃えが少ない」については女性(13.3%)が男性(5.4%)を7.9ポイント上回っている。

性・年齢別は、回答者数が少ないため、参考とする。(図14-5)

<図14-5> 性別・性 / 年齢別

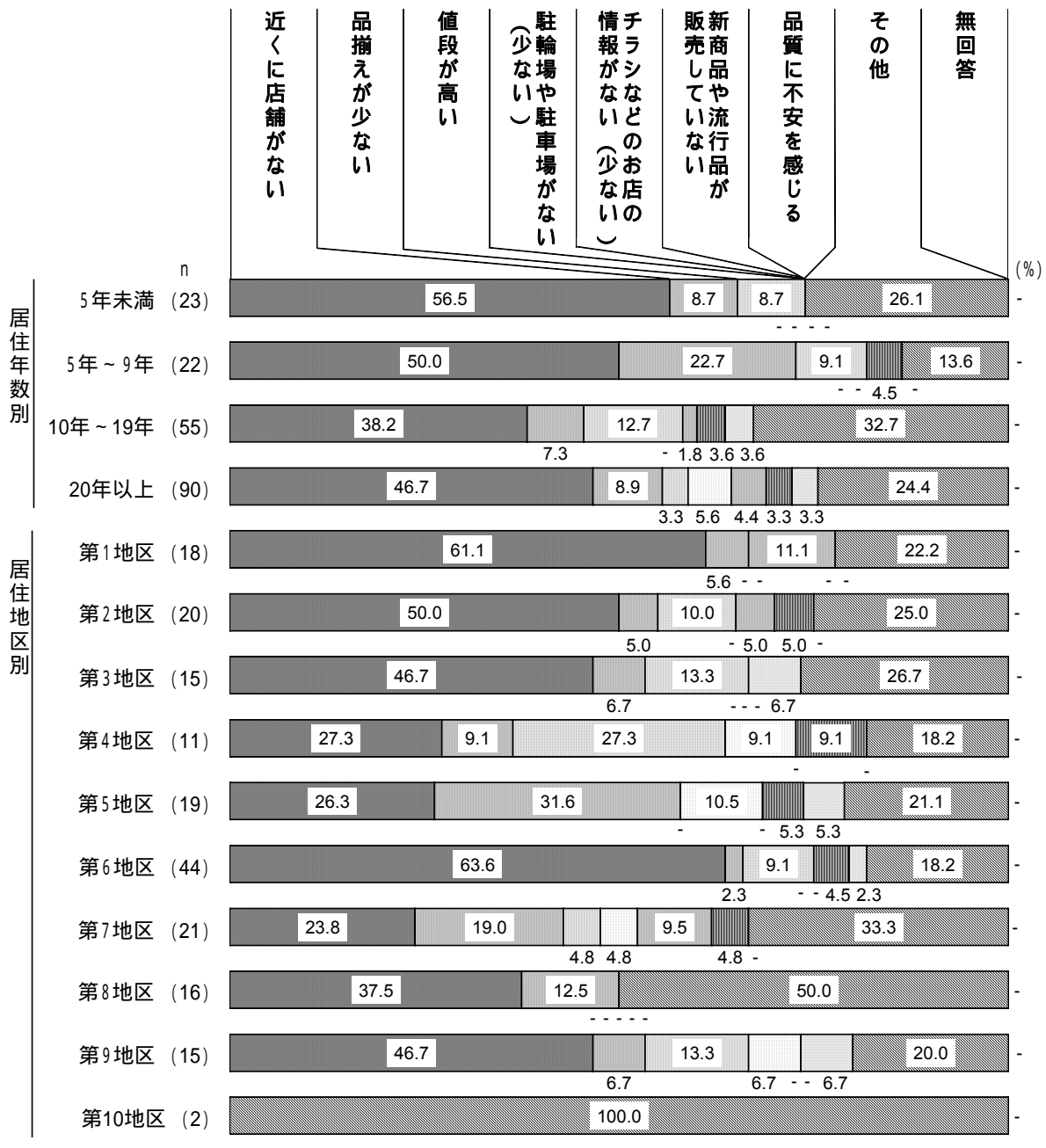


【居住年数別・居住地区別】

居住年数別にみると、多くを占める項目は「近くに店舗がない」で、5年未満でもっとも多く56.5%、5年～9年は50.0%となっており5割台で続く。なお、もっとも少ないのは10年～19年の38.2%となっており、5年未満と18.3ポイントの差がある。

居住地区別にみると、「近くに店舗がない」は第6地区が63.6%でもっとも多く、第1地区の61.1%が6割台で続き、次に第2地区の50.0%が続いている。なお、「品揃えが少ない」は第5地区の31.6%が多く、「値段が高い」は第4地区の27.3%がそれぞれ多くなっている。(図14-6)

<図14-6> 居住年数別・居住地区別



15 農業について

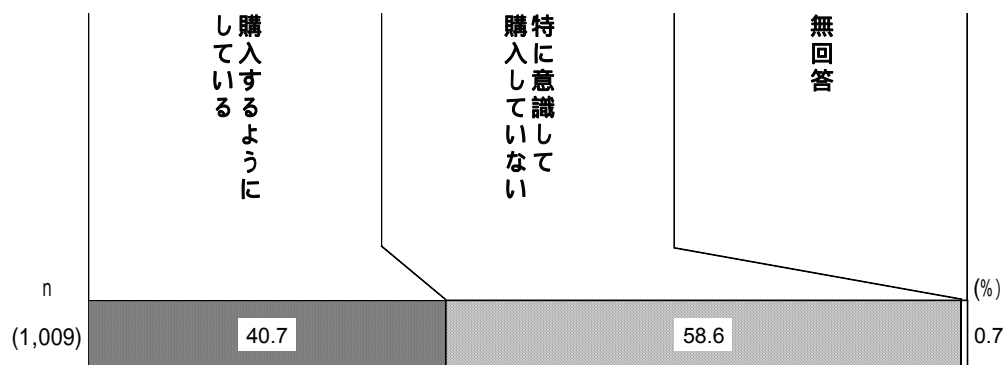
(1) 小平産農産物の購入状況

「購入するようにしている」は40.7%。

問30 あなたは、日頃、小平産の農産物を購入するようにしていますか。(は1つ)	
〔n=1,009〕	
1. 購入するようにしている	40.7%
2. 特に意識して購入していない (無回答)	58.6 0.7

小平産の農産物を購入するかを聞いたところ、「購入するようにしている」が40.7%、「特に意識して購入していない」が58.6%となっている。(図15 - 1)

< 図15 - 1 > 小平産農産物の購入状況

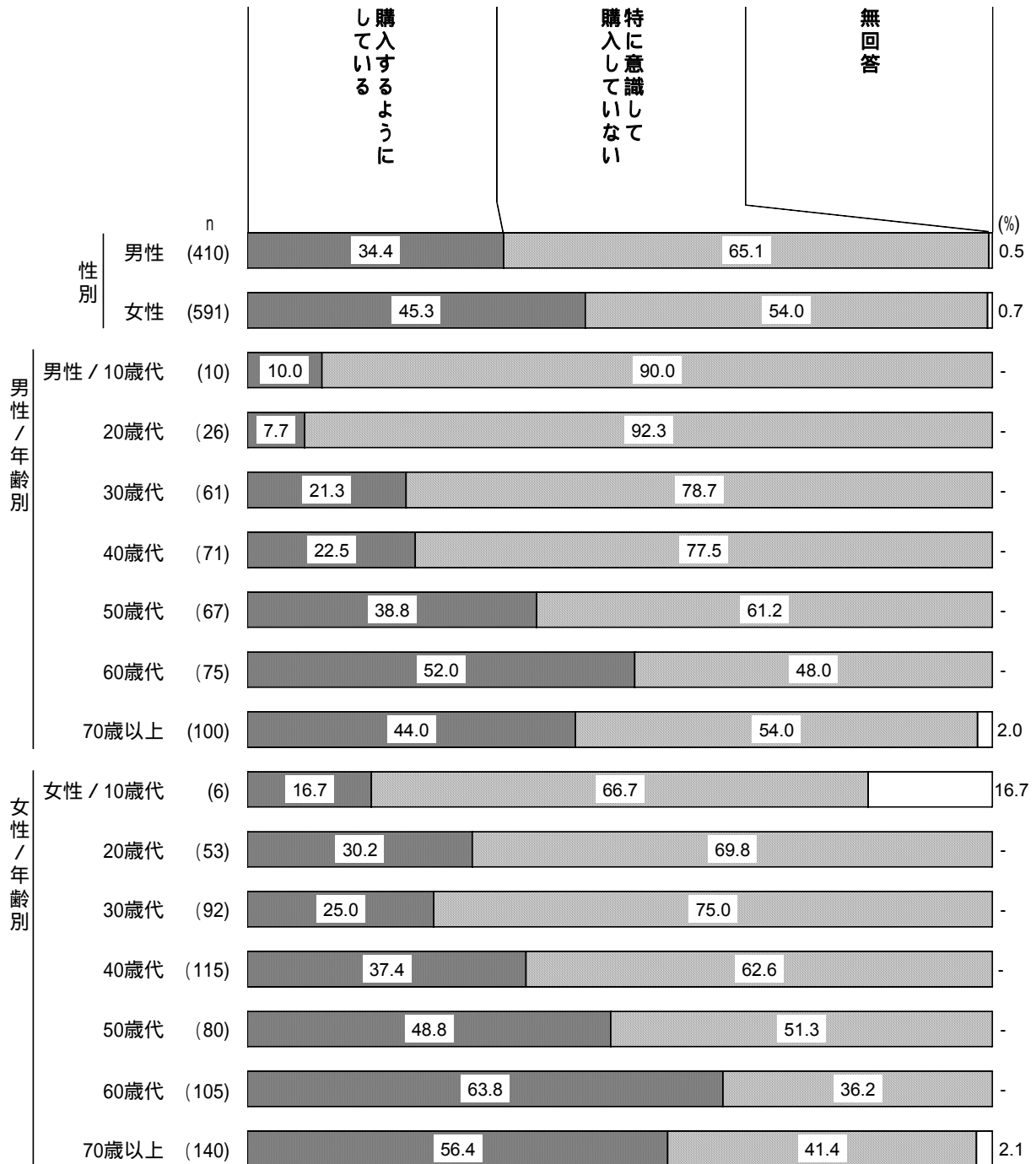


【性別・性 / 年齢別】

性別にみると、「購入するようにしている」は男性が34.4%、女性が45.3%となっており、女性が男性を10.9ポイント上回っている。「特に意識して購入していない」では男性が65.1%、女性が54.0%となっており、男性が女性を11.1ポイント上回る結果となり、女性の意識が高いことがわかる。

性・年齢別にみると、「購入するようにしている」は男性の60歳代がもっとも多く52.0%となっており、もっとも少ない20歳代の7.7%と44.3ポイントの差がある。女性についても60歳代がもっとも多く63.8%となっており、30歳代の25.0%とは38.8ポイントの差がある。(なお、女性についてもっとも少ないのは10歳代の16.7%となっているが、回答者数が少ないため参考とする。)(図15 - 2)

< 図15 - 2 > 性別・性 / 年齢別

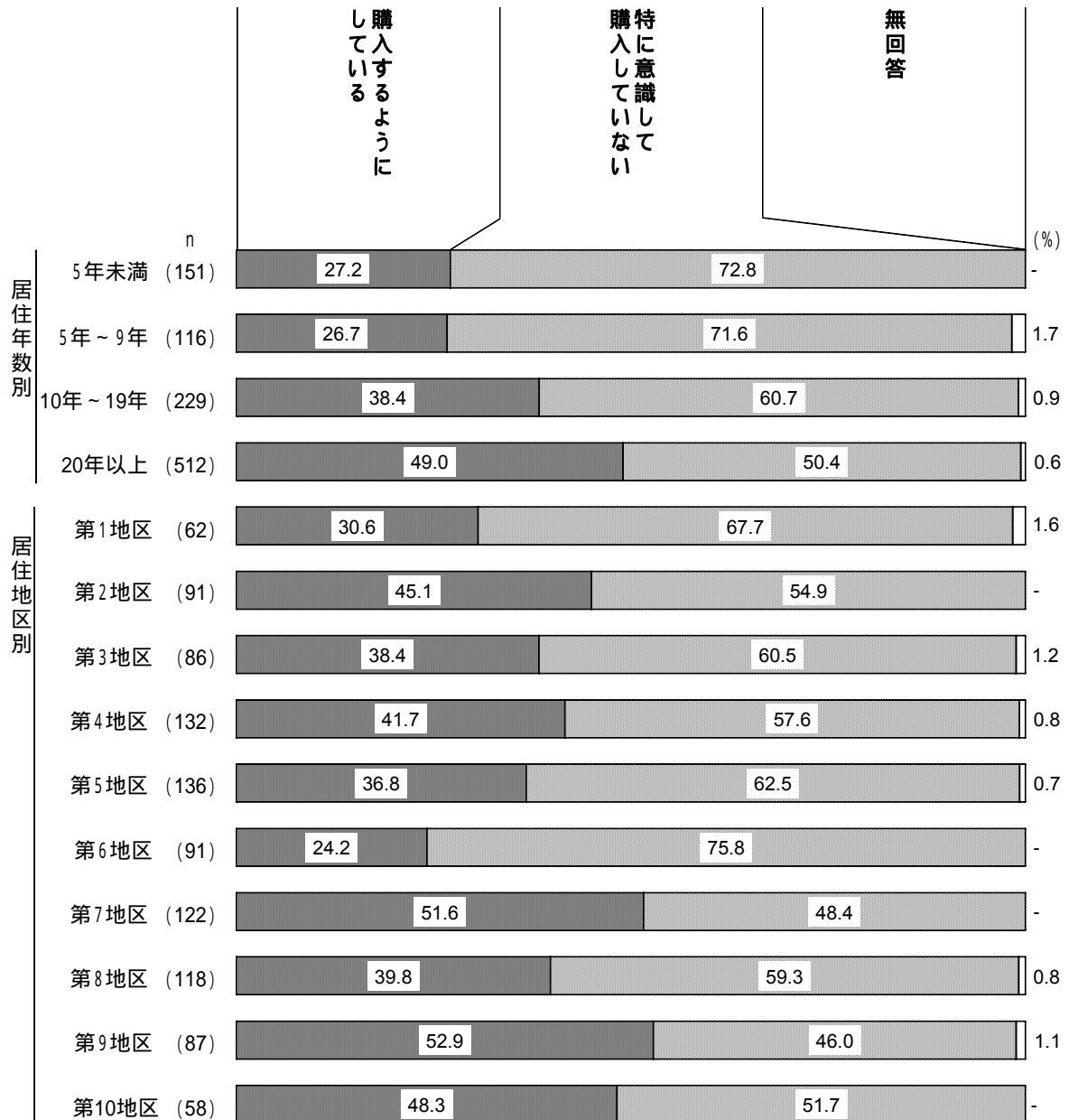


【居住年数別・居住地区別】

居住年数別にみると、「購入するようにしている」は20年以上で49.0%と最も多く、次に10年～19年で38.4%と続いている。最も少ないのは5年～9年の26.7%となっており、20年以上とは22.3ポイントの差がある。

居住地区別にみると、「購入するようにしている」は第9地区の52.9%が最も多く、第7地区が51.6%で同じ5割台、次に第10地区の48.3%、第2地区の45.1%、第4地区の41.7%がそれぞれ4割台で続いている。なお、最も少ないのは第6地区の24.2%で、第9地区とは28.7ポイントの差となっている。(図15-3)

< 図15-3 > 居住年数別・居住地区別



(1 - 1) 小平産農産物を購入しない理由

「販売している場所がわからない」が40.8%が多い。

(問30で「2 特に意識して購入していない」と答えた方におたずねします。)

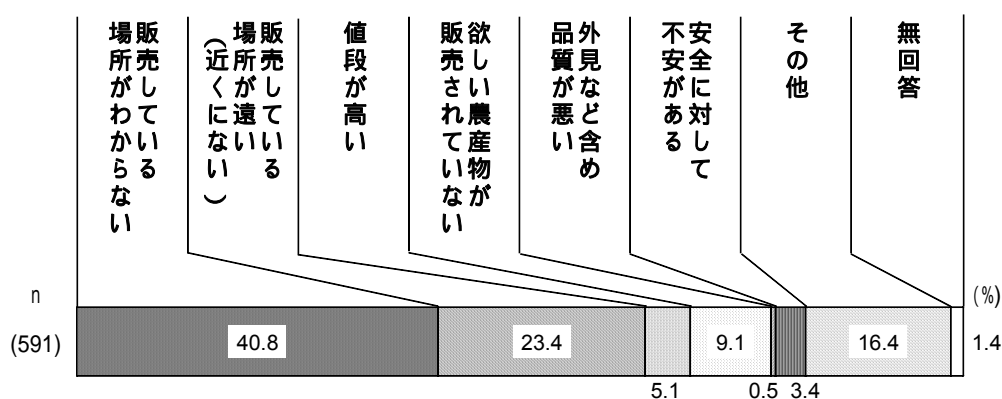
問30 - 1 小平産の農産物を購入していない1番の理由は何ですか。(は1つ)

[n=591]

1. 販売している場所がわからない	40.8%	5. 外見など含め品質が悪い	0.5
2. 販売している場所が遠い (近くにない)	23.4	6. 安全に対して不安がある	3.4
3. 値段が高い	5.1	7. その他	16.4
4. 欲しい農産物が販売されていない	9.1	(無回答)	1.4

小平産農産物を購入しない理由を聞いたところ、「販売している場所がわからない」が40.8%でもっとも多くなっている。次に「販売している場所が遠い(近くにない)」が23.4%、「欲しい農産物が販売されていない」が9.1%と続いている。(図15 - 4)

< 図15 - 4 > 小平産農産物を購入しない理由

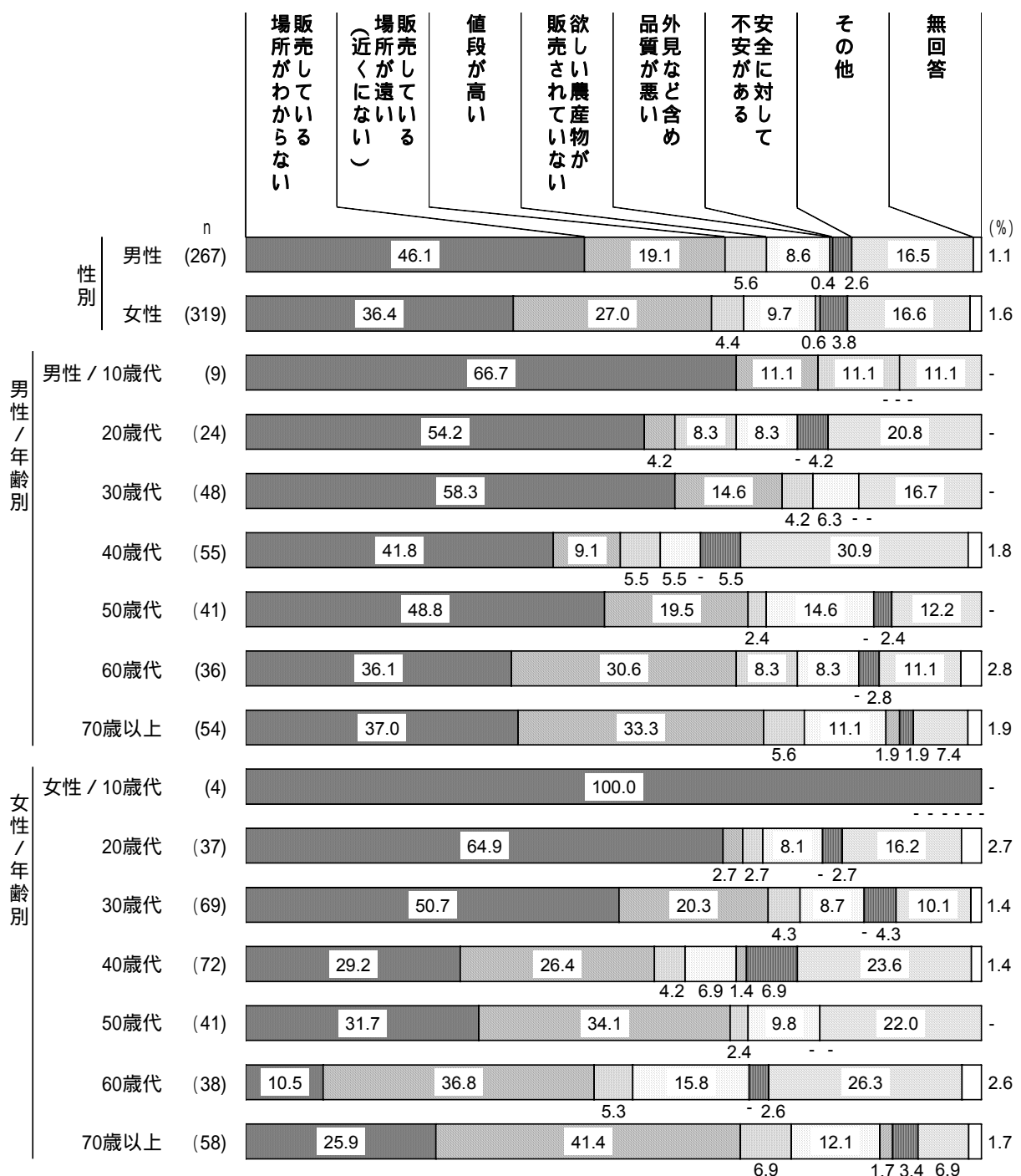


【性別・性 / 年齢別】

性別にみると、多くを占める項目は「販売している場所がわからない」で、男性は46.1%、女性は36.4%となっており、男性が女性を9.7ポイント上回る。なお、次に多くあげられている「販売している場所が遠い(近くにない)」は、男性が19.1%、女性が27.0%となっており、女性が7.9ポイント上回っている。

性・年齢別にみると、「販売している場所がわからない」は男性が30歳代で58.3%と多く、次に20歳代が54.2%で続く。もっとも少ないのは60歳代で36.1%となっており、30歳代とは22.2ポイントの差がある。女性は20歳代が唯一の6割台で64.9%ともっとも多く、次に30歳代の50.7%が続く。もっとも少ないのは60歳代で10.5%となっており、20歳代との差は54.4ポイントと大きな差がある。(「販売している場所がわからない」について、10歳代は男性(66.7%)、女性(100.0%)ともになくなっているが回答者数が少ないため参考とする。)(図15 - 5)

< 図15 - 5 > 性別・性 / 年齢別

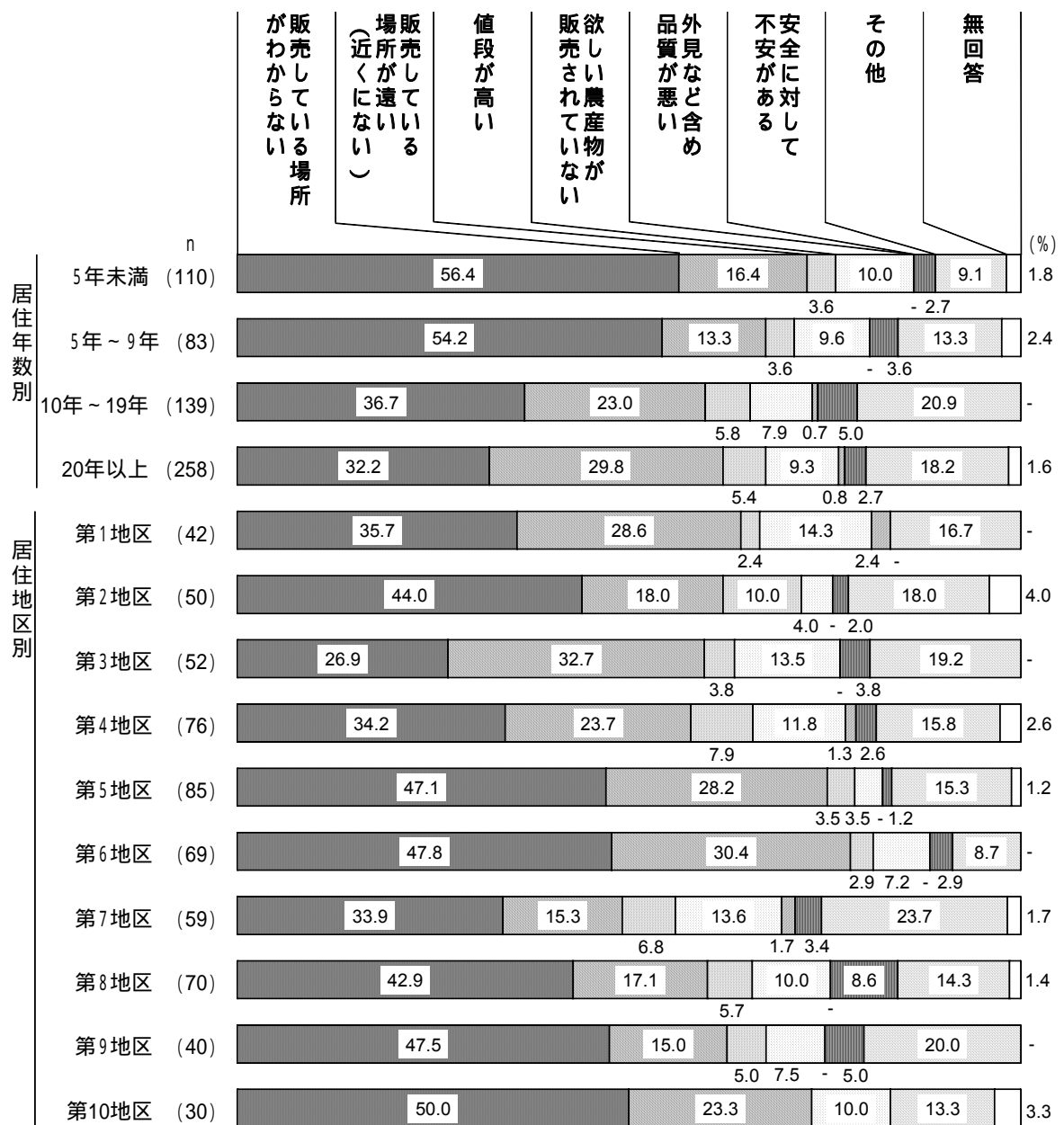


【居住年数別・居住地区別】

居住年数別にみると、「販売している場所がわからない」が多くを占めており、もっとも多いのが5年未満の56.4%で、次に5年～9年が54.2%となっており5割台で続く。もっとも少ないのは20年以上で32.2%となっており、5年未満とは24.2ポイントの差がある。

居住地区別にみると、「販売している場所がわからない」は第10地区が50.0%で唯一の5割台となっており、次に第6地区の47.8%、第9地区の47.5%、第5地区の47.1%が僅差で続き、この他第2地区の44.0%、第8地区の42.9%が4割台となっている。なお、もっとも少ないのは第3地区の26.9%で第10地区とは23.1ポイントの差がある。(図15-6)

< 図15-6 > 居住年数別・居住地区別



16 観光について

(1) おすすめする小平市の見どころ

「小平グリーンロード」が46.0%で多い。

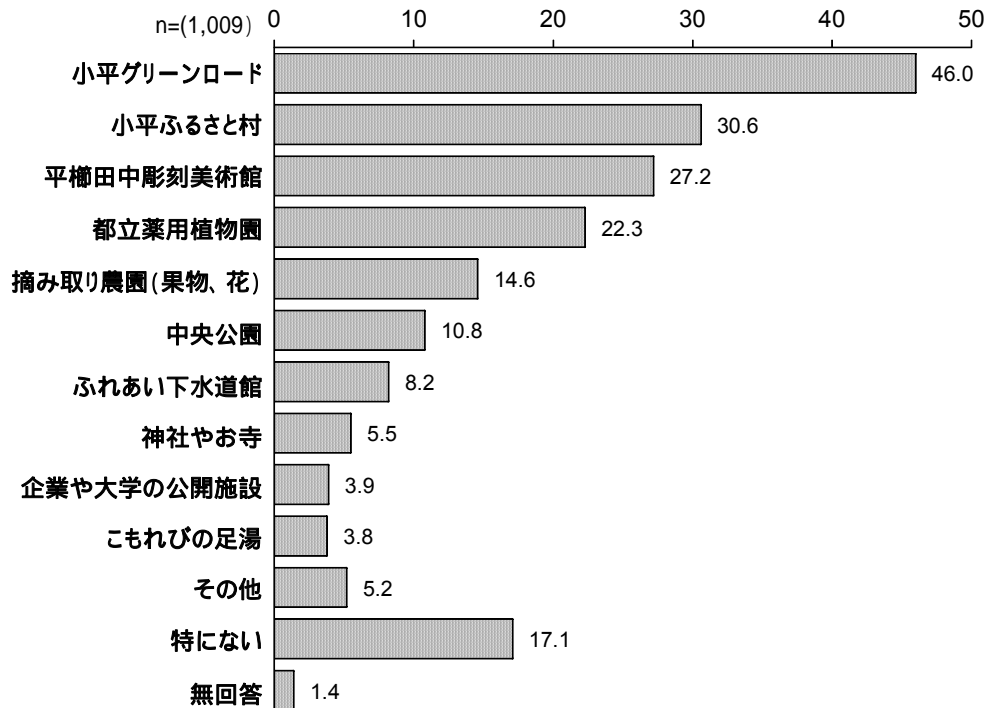
問31 小平市をはじめて訪れる人に対して、「小平市の見どころ」を紹介する場合、あなたが観光面でおすすめしたいのは、次のうちどれでしょうか。(は3つまで)

[n=1,009]

1. 小平ふるさと村	30.6%	7. 企業や大学の公開施設	3.9
2. ふれあい下水道館	8.2	8. 摘み取り農園(果物、花)	14.6
3. 平櫛田中彫刻美術館	27.2	9. こもれびの足湯	3.8
4. 小平グリーンロード	46.0	10. 神社やお寺	5.5
5. 都立薬用植物園	22.3	11. その他	5.2
6. 中央公園	10.8	12. 特にない	17.1
		(無回答)	1.4

「小平市の見どころ」を紹介する場合、観光面でおすすめしたい場所は、「小平グリーンロード」が46.0%でもっとも多く、以下、「小平ふるさと村」(30.6%)、「平櫛田中彫刻美術館」(27.2%)、「都立薬用植物園」(22.3%)などが続いている。(図16-1)

<図16-1> おすすめする小平市の見どころ

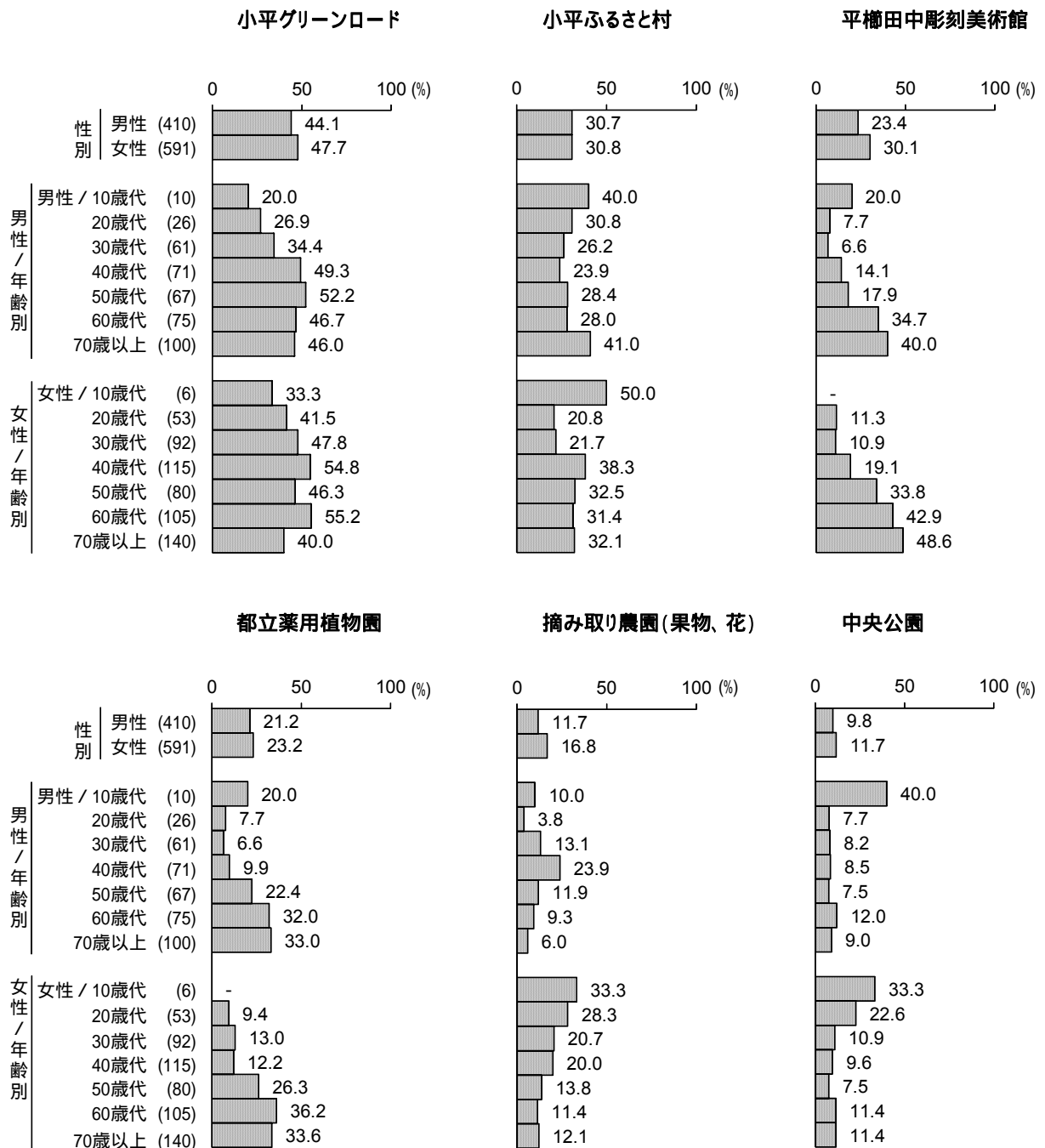


【性別・性 / 年齢別】

性別にみると、上位6項目は男性、女性ともに同順となっており、いずれも女性が男性を上回る。なお、男性と女性の差が比較的大きいものは「平櫛田中彫刻美術館」の6.7ポイント、「摘み取り農園（果物、花）」の5.1ポイント、「小平グリーンロード」の3.6ポイントがあげられる。

性・年齢別にみると、「小平グリーンロード」は男性の50歳代がもっとも多く52.2%で唯一の5割台となっている。女性では60歳代の55.2%がもっとも多く、同程度で40歳代が54.8%と続いている。なお、10歳代が男性、女性ともにもっとも少なくなっており、男性が20.0%、女性が33.3%となっている。「小平ふるさと村」では男性の70歳以上が41.0%で多く、次に同程度で10歳代が40.0%で続く。なおもっとも少ないのは40歳代の23.9%となっており、70歳以上とは17.1ポイントの差がある。女性でも10歳代が半数の50.0%を占め、もっとも少ないのは20歳代の20.8%となっている。「平櫛田中彫刻美術館」については、男性、女性ともに70歳以上で多くなっており、男性は40.0%、女性は48.6%となっており、年齢区分が上がるごとに割合も多くなる結果となっている。(図16 - 2)

< 図16 - 2 > 性別・性 / 年齢別

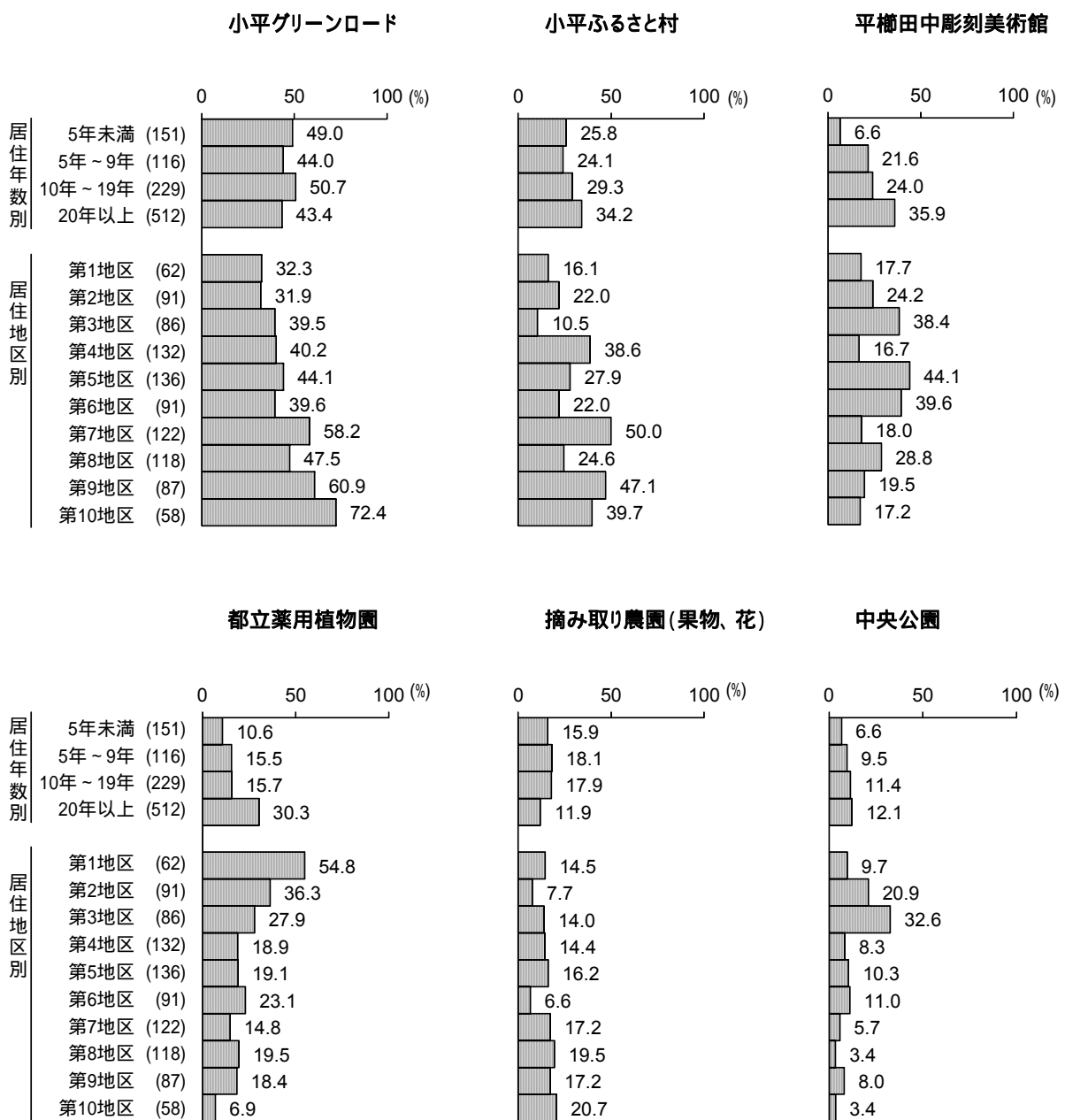


【居住年数別・居住地区別】

居住年数別にみると、いずれの居住年数においても「小平グリーンロード」がもっとも多く、10年～19年では唯一の5割台となっており、次に5年未満が49.0%で続く。「小平ふるさと村」では20年以上が34.2%で最も多く、「平櫛田中彫刻美術館」では20年以上（35.9%）と5年未満（6.6%）の差が29.3ポイントで大きくなっている。「都立薬用植物園」においても、20年以上（30.3%）と5年未満（10.6%）の差が19.7ポイントで大きくなっている。

居住地区別にみると、「小平グリーンロード」は第10地区で特に多く72.4%となっている。次に多い第9地区（60.9%）とも11.5ポイントの差があり、もっとも少ない第2地区（31.9%）とは40.5ポイントの差がある。他の項目について、「都立薬用植物園」は第1地区で54.8%、「摘み取り農園（果物、花）」は第10地区で20.7%、「中央公園」は第3地区で32.6%がそれぞれ他の地区にくらべ多くなっている。（図16-3）

< 図16-3 > 居住年数別・居住地区別



(2) 小平市をPRするために必要な取り組み

「見どころやイベント情報の発信」が38.3%で多い。

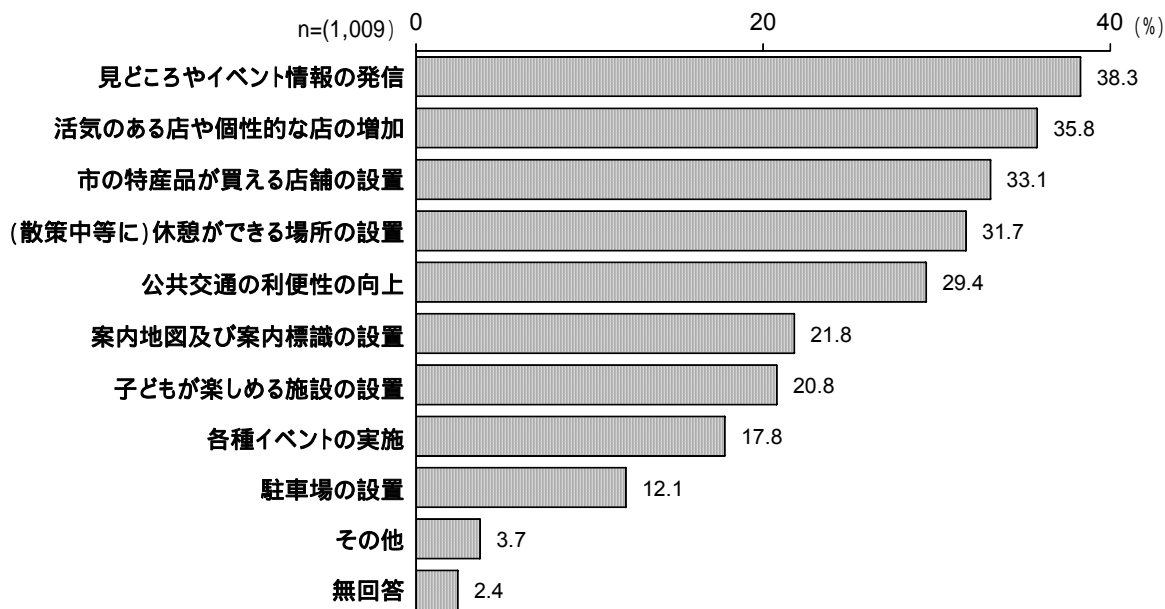
問32 小平市を訪れる人に対して、「小平市のいいところ」を知ってもらうために、今後、必要な取り組みはどれだと思いますか。次のうち、重要だと思うものを選んでください。
(は3つまで)

[n=1,009]

1. 見どころやイベント情報の発信	38.3%
2. 各種イベントの実施	17.8
3. 案内地図及び案内標識の設置	21.8
4. 市の特産品が買える店舗の設置	33.1
5. 駐車場の設置	12.1
6. (散策中等に) 休憩ができる場所の設置	31.7
7. 子どもが楽しめる施設の設置	20.8
8. 活気のある店や個性のある店の増加	35.8
9. 公共交通の利便性の向上	29.4
10. その他	3.7
(無回答)	2.4

小平市をPRするために必要な取り組みは、「見どころやイベント情報の発信」が38.3%でもっとも多く、以下、「活気のある店や個性のある店の増加」(35.8%)、「市の特産品が買える店舗の設置」(33.1%)、「(散策中等に) 休憩ができる場所の設置」(31.7%)などが続いている。(図16-4)

<図16-4> 小平市をPRするために必要な取り組み

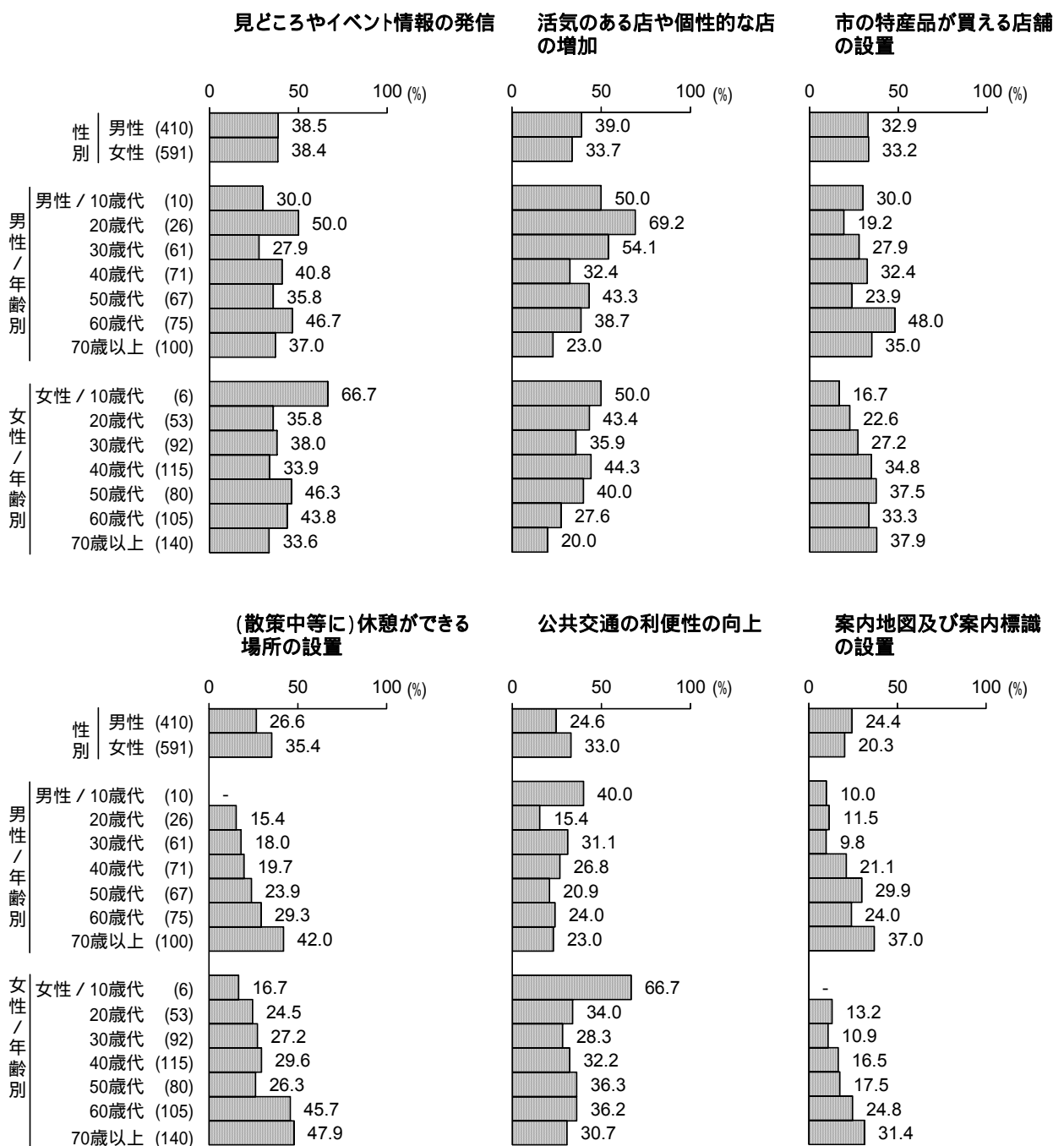


【性別・性 / 年齢別】

性別にみると、上位6項目のうち、「見どころやイベント情報の発信」、「活気のある店や個性的な店の増加」、「案内地図及び案内標識の設置」は男性が上回り、「市の特産品が買える店舗の設置」、「(散策中等に)休憩ができる場所の設置」、「公共交通の利便性の向上」は女性が上回り、差が大きいものとして、「(散策中等に)休憩ができる場所の設置」が8.8ポイント、「公共交通の利便性の向上」が8.4ポイントいずれも女性が上回り、「活気のある店や個性的な店の増加」は男性が5.3ポイント上回っている。

性・年齢別にみると、「見どころやイベント情報の発信」は女性の10歳代が66.7%で多く、「活気のある店や個性的な店の増加」は男性の20歳代で69.2%と多い。「市の特産品が買える店舗の設置」については男性の60歳代で48.0%と多くなっており、女性の60歳以上では「(散策中等に)休憩ができる場所の設置」を多くあげていることがわかる。(図16-5)

< 図16-5 > 性別・性 / 年齢別

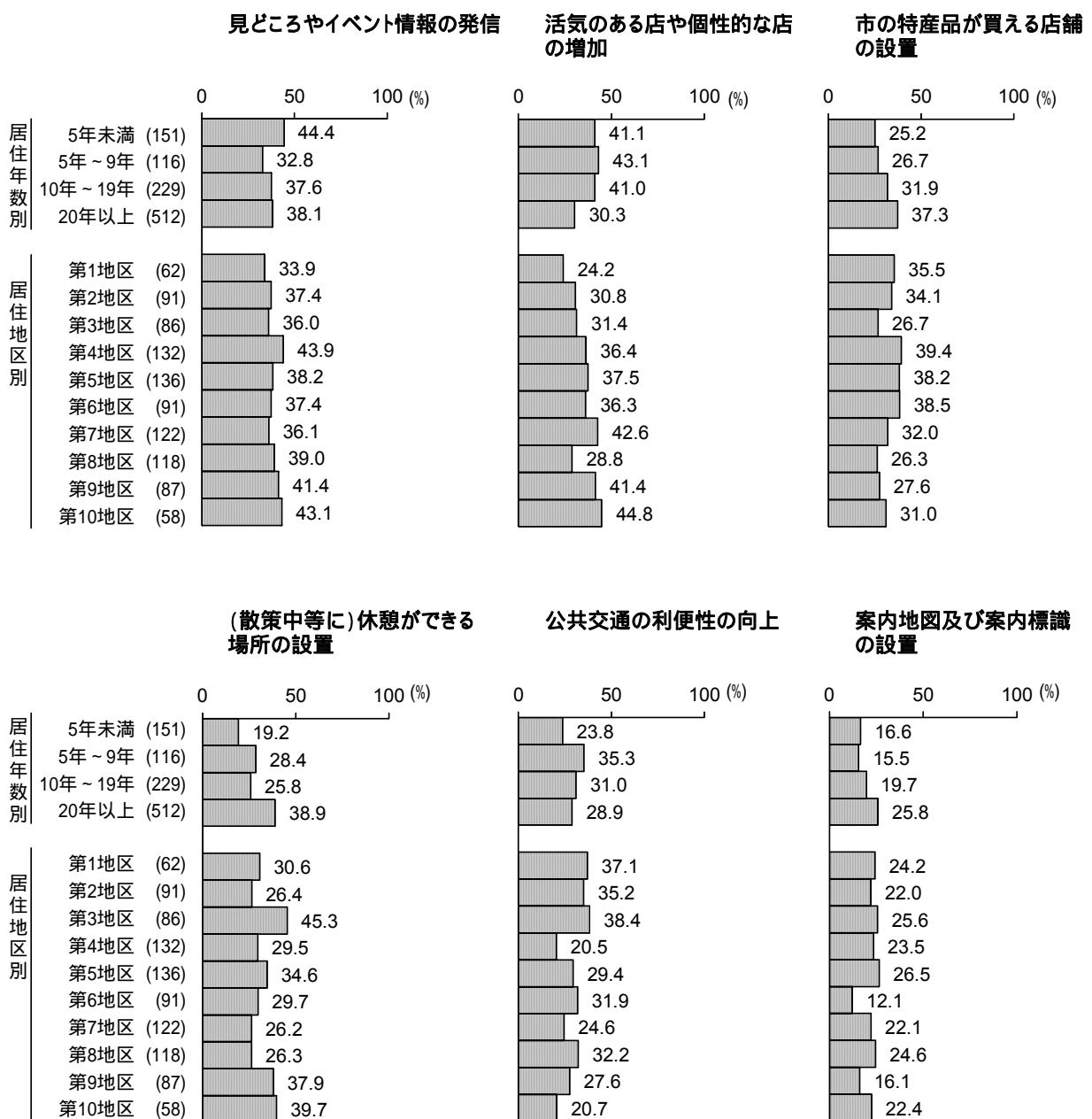


【居住年数別・居住地区別】

居住年数別にみると、「見どころやイベント情報の発信」はいずれの年数でも3割以上となっており、特に5年未満では44.4%と多くなっている。「活気のある店や個性的な店の増加」は5年～9年で43.1%となっており、20年以上の30.3%とは12.8ポイントの差がある。「市の特産品が買える店舗の設置」は居住年数が増えるごとに多くなり20年以上で37.3%となっている。「(散策中等に)休憩ができる場所の設置」は20年以上が38.9%でもっとも多く、もっとも少ない5年未満とは19.7ポイントの差がある。

居住地区別にみると、「見どころやイベント情報の発信」は第4地区が43.9%でもっとも多く同程度で第10地区が43.1%で続く。「活気のある店や個性的な店の増加」は第10地区(44.8%)、第7地区(42.6%)、第9地区(41.4%)が4割台で続き、もっとも少ないのは第1地区の24.2%となっており、第10地区との差は20.6ポイントとなっている。なお、「(散策中等に)休憩ができる場所の設置」は第3地区において45.3%となっており唯一の4割台となっている。(図16-6)

< 図16-6 > 居住年数別・居住地区別



17 情報提供について

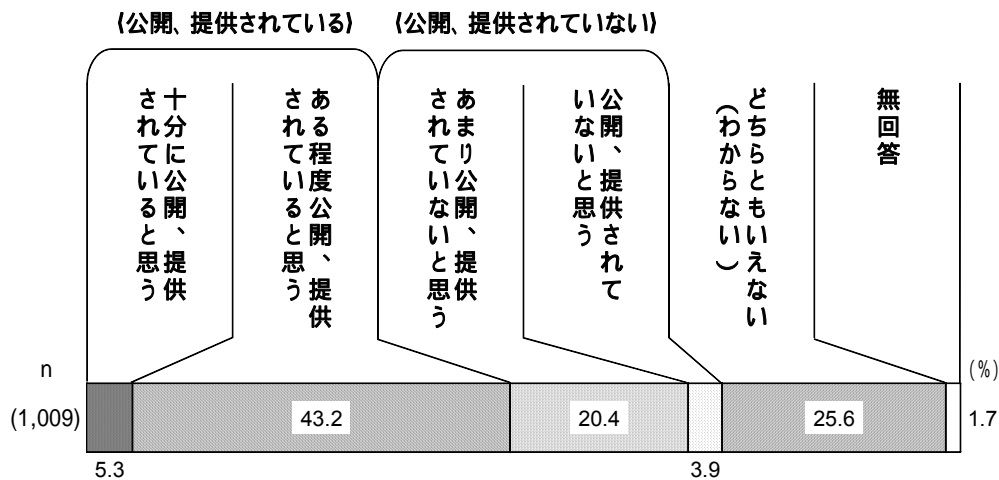
(1) 市の情報の公開、提供状況

《公開、提供されている》が48.5%。《公開、提供されていない》が24.3%。

問33 あなたは、小平市政に関する情報は十分に公開、提供されていると思いますか。		(は1つ)
[n=1,009]		
1.十分に公開、提供されていると思う		5.3%
2.ある程度公開、提供されていると思う		43.2
3.あまり公開、提供されていないと思う		20.4
4.公開、提供されていないと思う		3.9
5.どちらともいえない(わからない)		25.6
(無回答)		1.7

市の情報が十分に公開、提供されていると思うか聞いたところ、「十分に公開、提供されていると思う」が5.3%、「ある程度公開、提供されていると思う」が43.2%で、これをあわせた《公開、提供されている》は48.5%となっている。また、《公開、提供されていない》(「公開、提供されていないと思う」+「あまり公開、提供されていないと思う」)は24.3%となっている。(図17-1)

<図17-1>市の情報の公開、提供状況

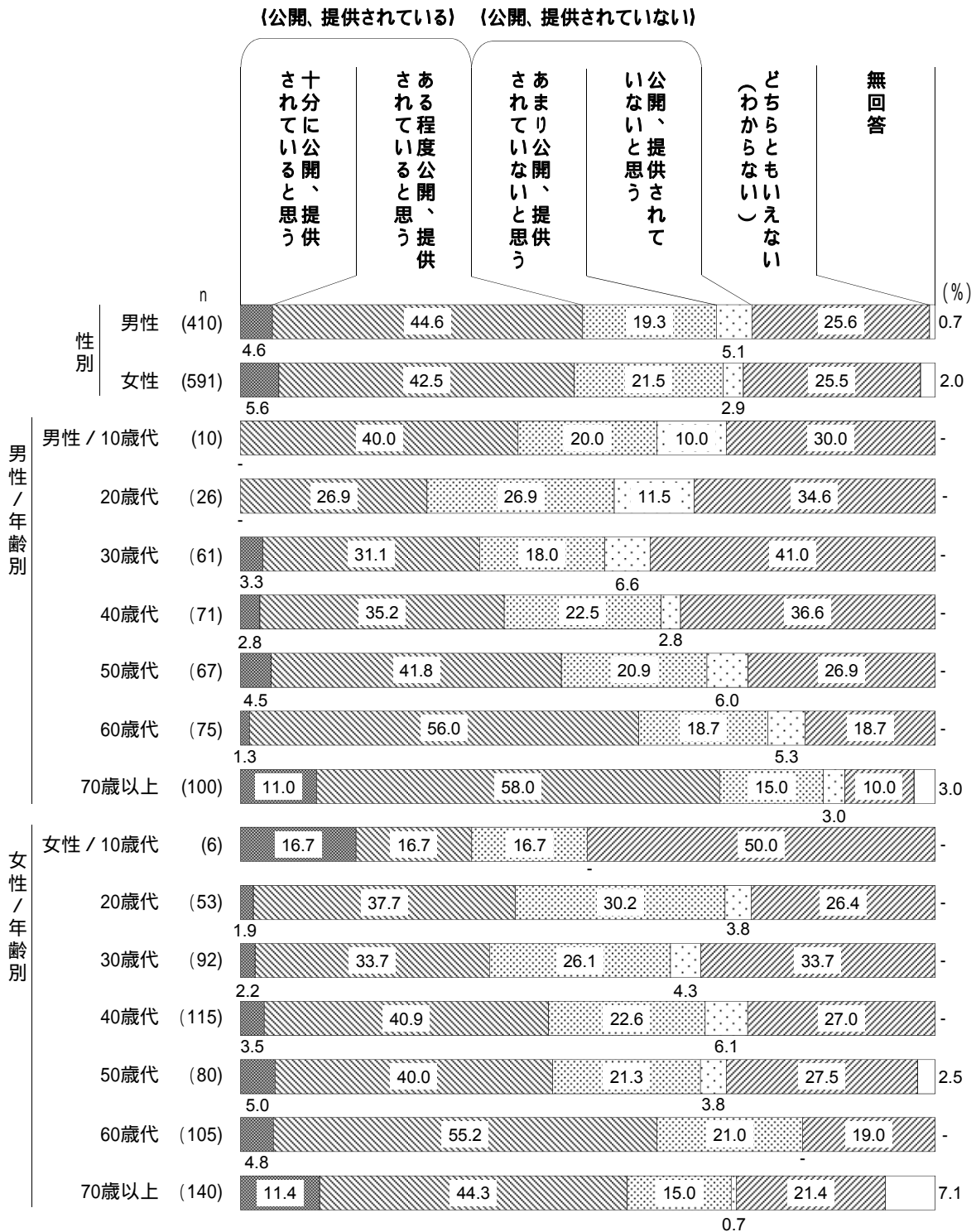


【性別・性/年齢別】

性別にみると、《公開、提供されている》は男性が49.2%、女性が48.1%となっており男性が僅差で女性を上回る。《公開、提供されていない》については男性、女性ともに24.4%になっており、性別による差はみられない。

性・年齢別にみると、《公開、提供されている》は男性の70歳以上で69.0%ともっとも多く、次に60歳代の57.3%が続く。女性は、60歳代が60.0%でもっとも多く、次に70歳以上が55.7%で続いている。《公開、提供されていない》は男性、女性ともに20歳代以下で比較的多くなっている。(図17-2)

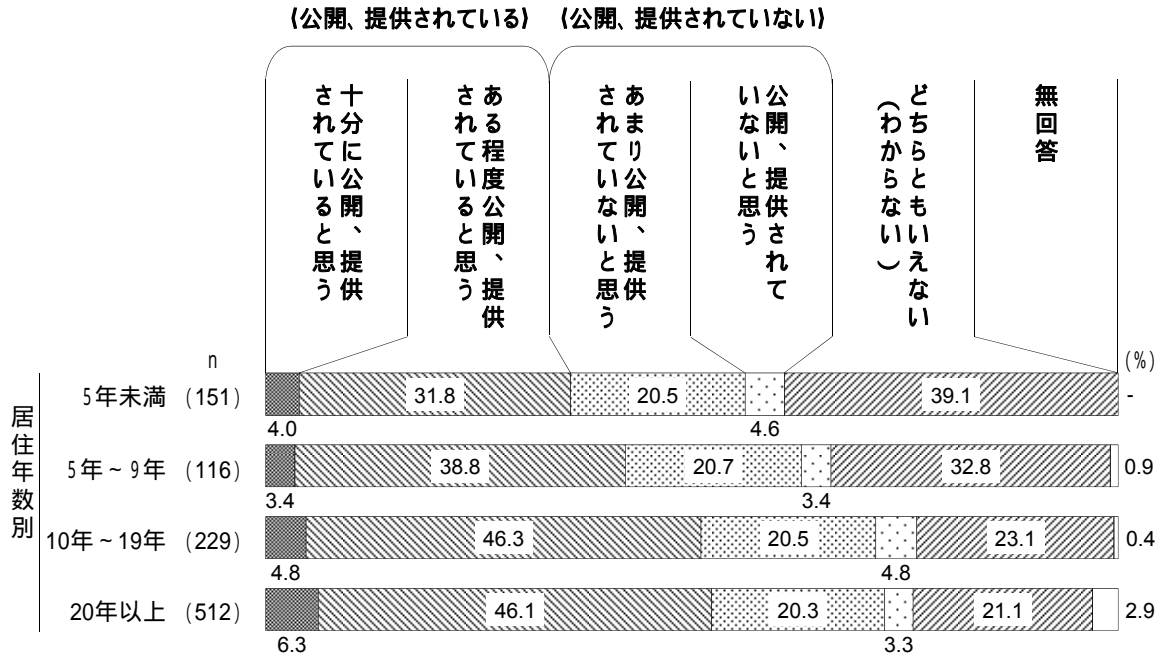
< 図17-2 > 性別・性/年齢別



【居住年数別】

居住年数別にみると、《公開、提供されている》は居住年数が長くなるほど多く、20年以上で52.4%、10年～19年で51.1%となっている。(図17 - 3)

< 図17 - 3 > 居住年数別



(2) 市政情報の入手方法

「市報こだいら」が81.0%で特に多く、「市議会だより」が24.3%で続く。

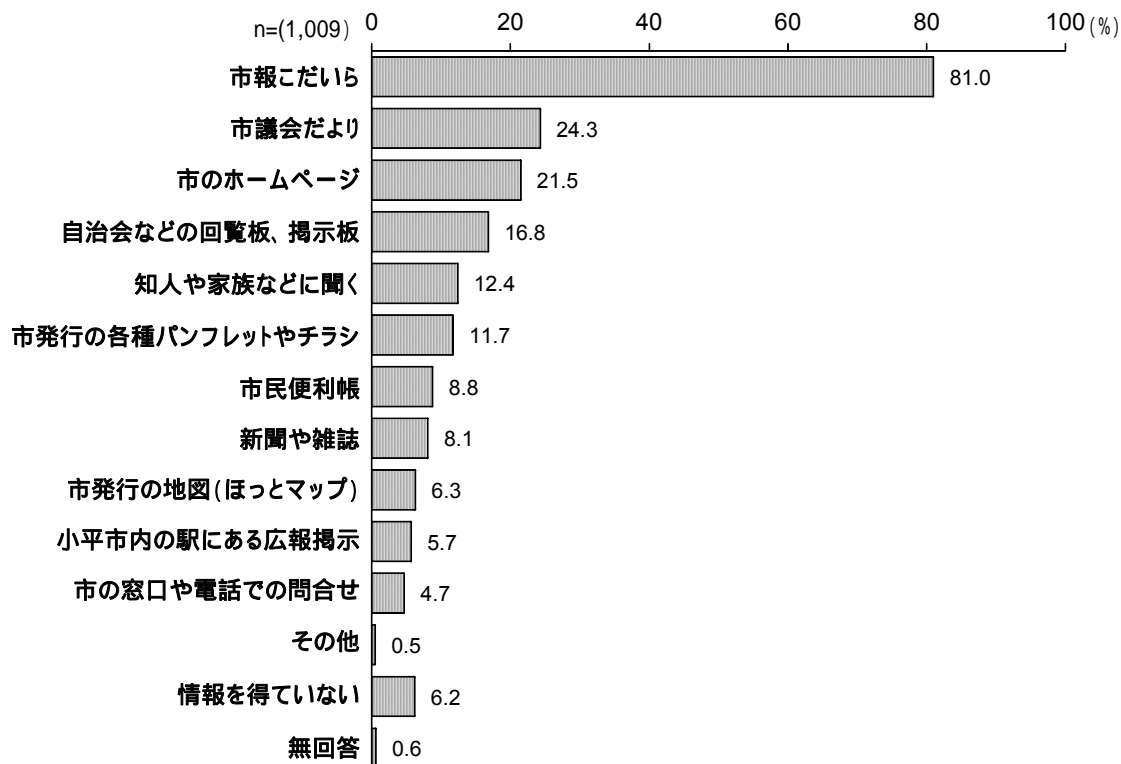
問34 あなたは、小平市からの情報は主にどこから得ていますか。(はいくつでも可)

[n=1,009]

1. 市報こだいら	81.0%	8. 市の窓口や電話での問合せ	4.7
2. 市のホームページ	21.5	9. 自治会などの回覧板、掲示板	16.8
3. 市議会だより	24.3	10. 新聞や雑誌	8.1
4. 市民便利帳	8.8	11. 知人や家族などに聞く	12.4
5. 市発行の地図(ほっとマップ)	6.3	12. その他	0.5
6. 市発行の各種パンフレットやチラシ	11.7	13. 情報を得ていない	6.2
7. 小平市内の駅にある広報掲示	5.7	(無回答)	0.6

市からの情報を主にどこから得ているか聞いたところ、「市報こだいら」が81.0%で特に多くなっている。以下、「市議会だより」(24.3%)、「市のホームページ」(21.5%)、「自治会の回覧板、掲示板」(16.8%)と続いている。(図17-4)

< 図17-4 > 市政情報の入手方法

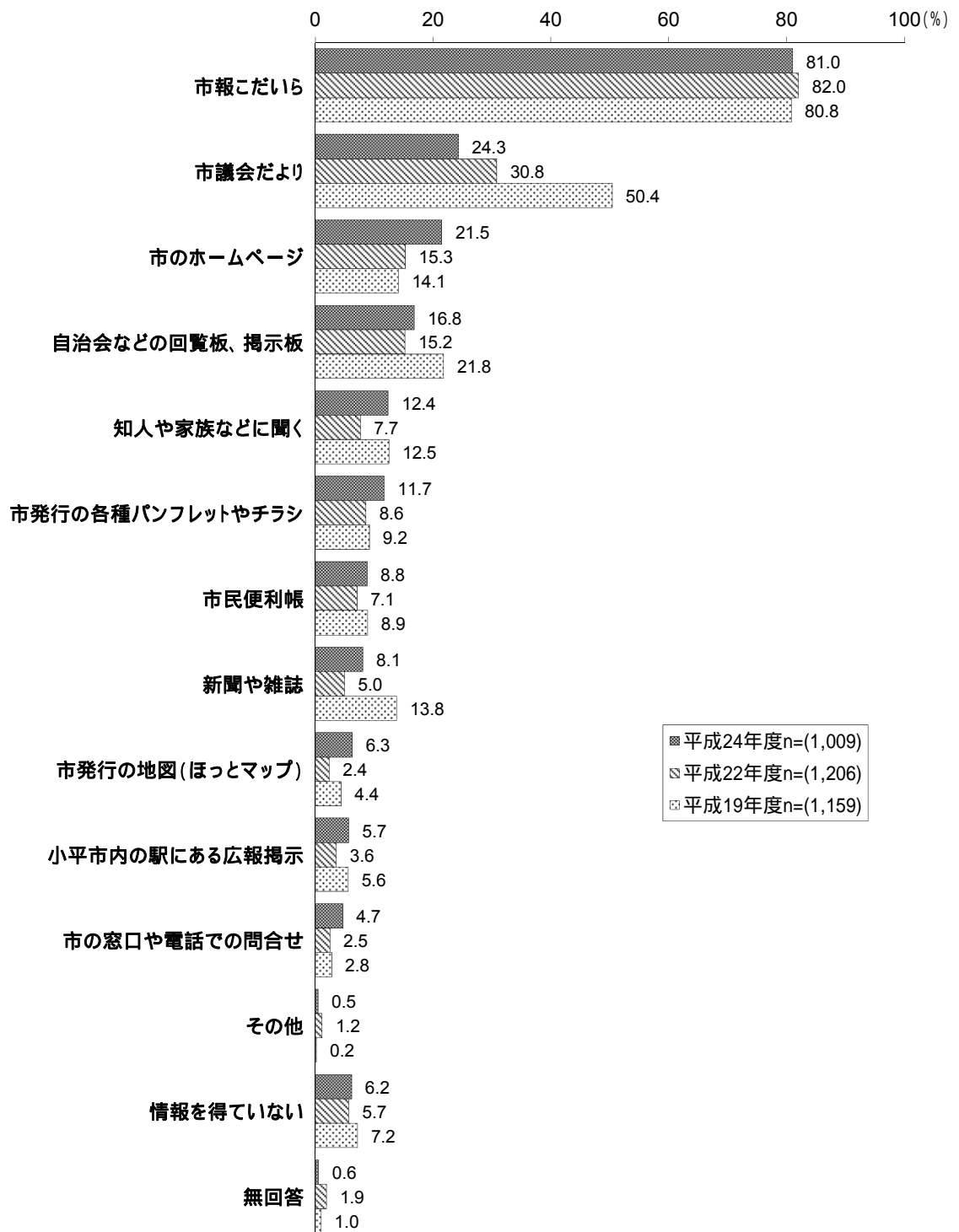


【時系列比較】

時系列で比較すると、「市報こだいら」が市政情報を得る手段として81.0%と、すべての項目の中でもっとも多くあげられているが、前回調査(平成22年度)にくらべ、1.0ポイントの減少となっている。次に「市議会だより」が24.3%で多くあげられているが、前回調査とくらべ6.5ポイントの減少となっている。

増加傾向となっている項目は「市のホームページ」が6.2ポイント、「知人や家族などに聞く」が4.7ポイント、「市発行の地図(ほっとマップ)」が3.9ポイント、「市発行の各種パンフレットやチラシ」と「新聞や雑誌」はともに3.1ポイントの増加となっている。(図17-5)

<図17-5>時系列比較

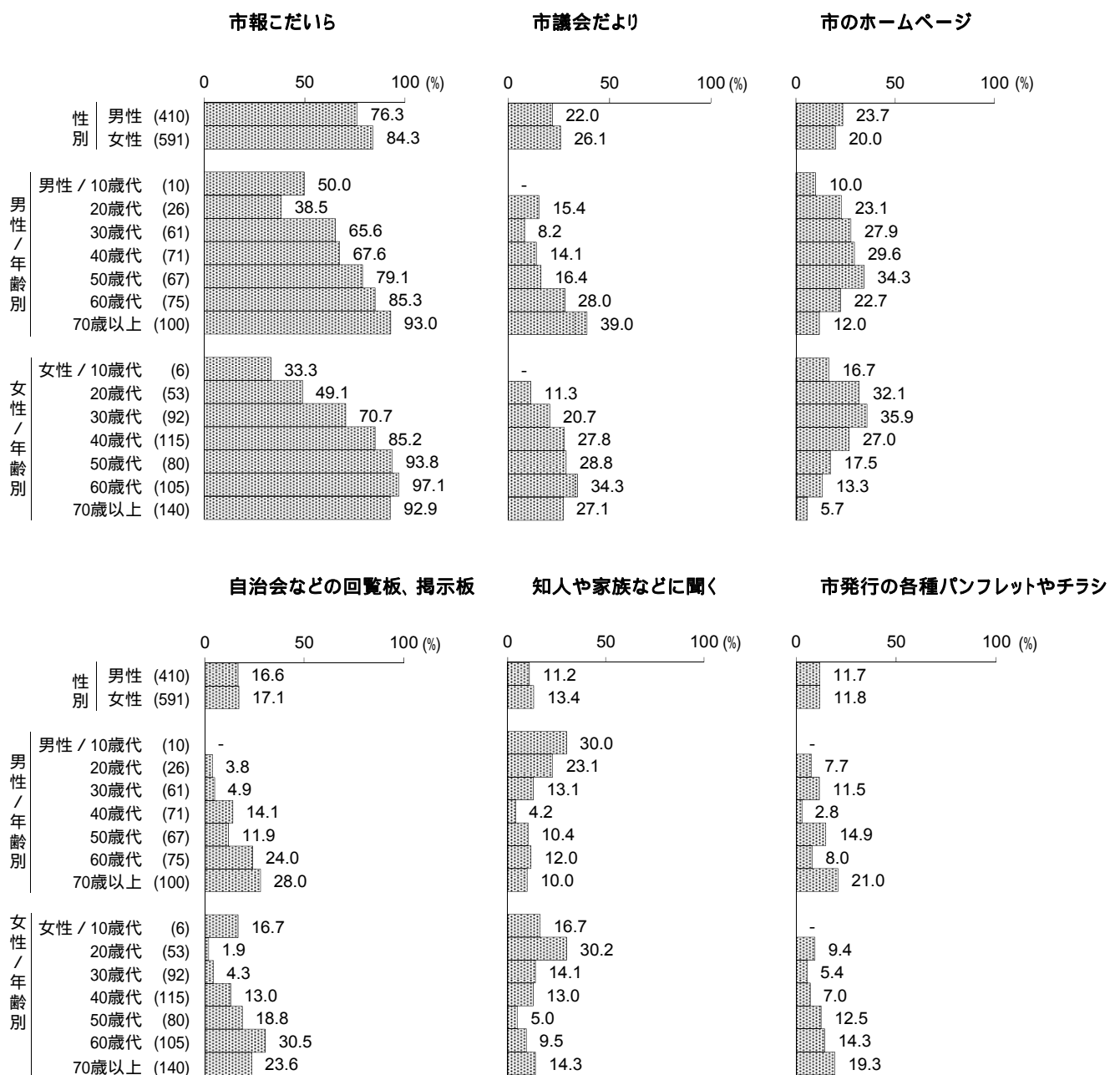


【性別・性 / 年齢別】

性別にみると、上位6項目のうち「市報こだいら」が男性、女性ともに多くを占め、男性76.3%、女性84.3%となっており、女性が男性を8.0ポイント上回る。また「市のホームページ」を除く5項目で女性が男性を上回り、「市議会だより」では4.1ポイント、「知人や家族に聞く」は2.2ポイントそれぞれ上回る。なお、「市のホームページ」については男性（23.7%）が女性（20.0%）を3.7ポイント唯一上回る。

性・年齢別にみると、「市報こだいら」は男性では70歳以上で93.0%ともっとも多く、女性では60歳代の97.1%がもっとも多く、次に50歳代の93.8%、70歳以上の92.9%が9割台で続いている。「市議会だより」は男性の70歳以上で39.0%、女性の60歳代で34.3%が多く、「市のホームページ」は男性の50歳代で34.3%、女性の30歳代で35.9%が多くなっている。（図17 - 6）

< 図17 - 6 > 性別・性 / 年齢別

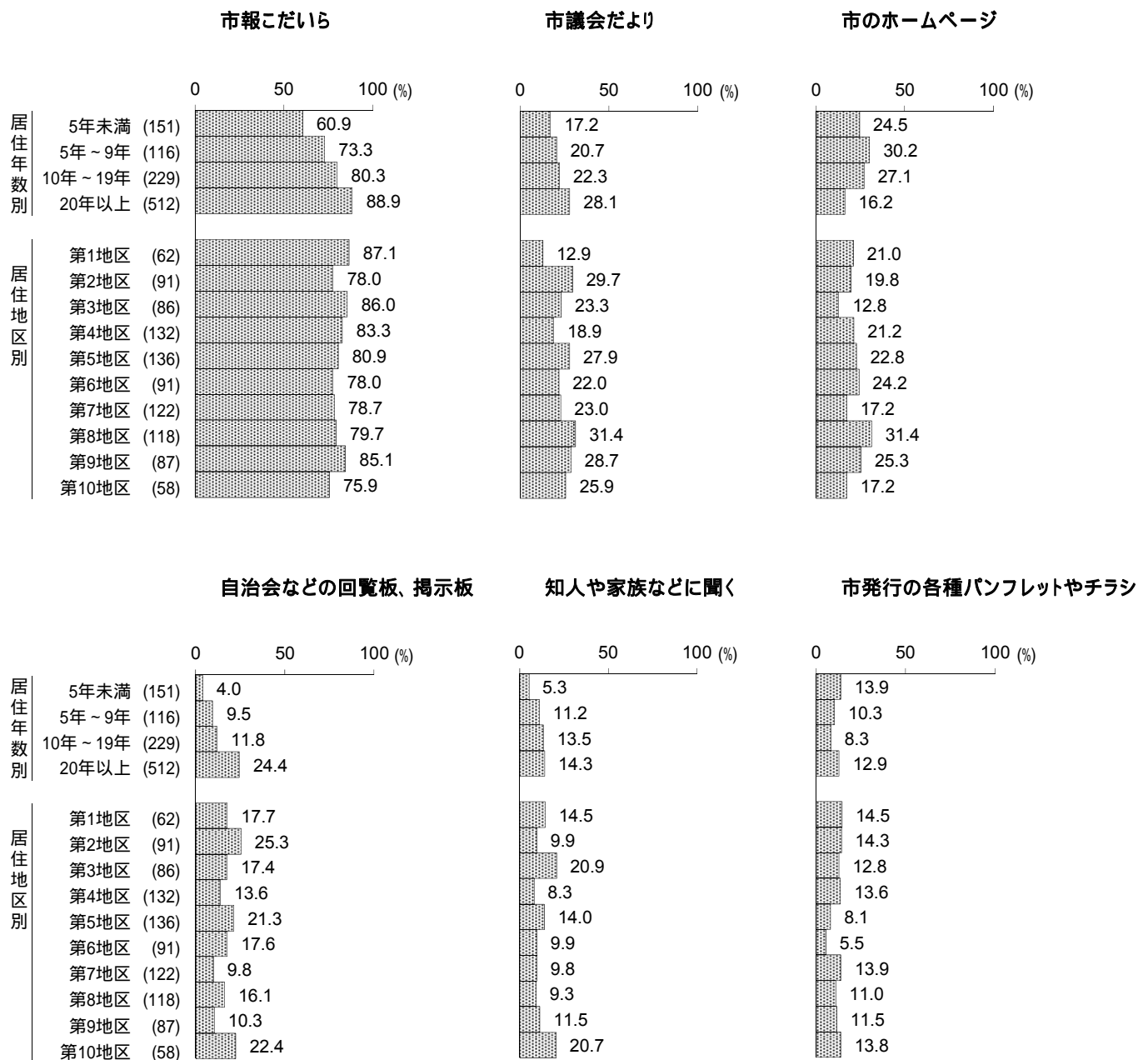


【居住年数別・居住地区別】

居住年数別にみると、「市報こだいら」は20年以上が88.9%でもっとも多く、次に10年～19年が80.3%で続く。「市議会だより」についても20年以上が28.1%でもっとも多く、もっとも少ない5年未満の17.2%とは10.9ポイントの差となっている。「市のホームページ」は5年～9年が30.2%で唯一の3割台となっており、20年以上（16.2%）とは14.0ポイントの差がある。「自治会などの回覧板、掲示板」では20年以上が特に多く24.4%で5年未満の4.0%とは20.4ポイントの差がある。

居住地区別にみると、いずれの居住地区でも「市報こだいら」が多くを占めており、もっとも多いのが第1地区の87.1%で、次に第3地区の86.0%、第9地区の85.1%が続いている。「市議会だより」は第8地区の31.4%が唯一の3割台で多く、第2地区の29.7%、第9地区の28.7%、第5地区の27.9%が続く。「市のホームページ」はもっとも多いのが唯一の3割台である第8地区の31.4%で、もっとも少ない第3地区の12.8%とは18.6ポイントの差がある。（図17-7）

< 図17-7 > 居住年数別・居住地区別



(3) 情報提供のわかりやすさ

《わかりやすい》が66.0%。《わかりにくい》が29.0%。

問35 あなたは、小平市からの情報提供の表現が、わかりやすいと思いますか。(は1つ)
(市報・ホームページ・チラシ類)

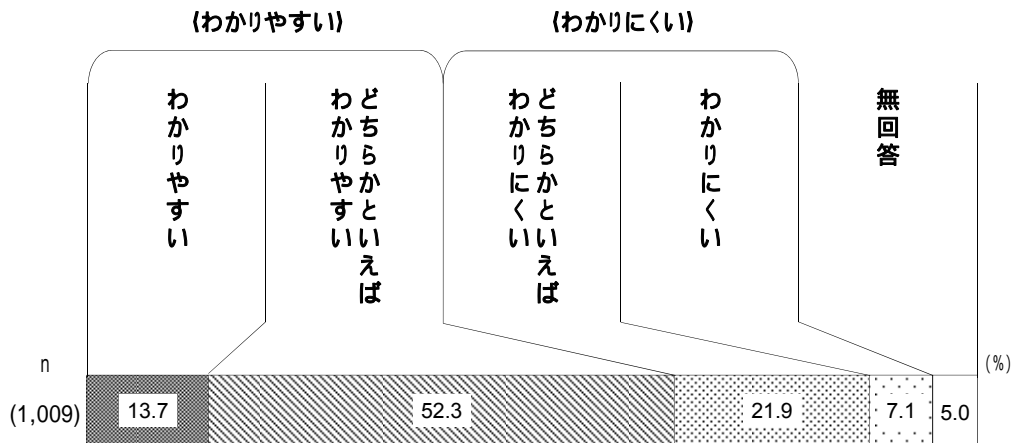
[n=1,009]

1. わかりやすい	13.7%	3. どちらかといえばわかりにくい	21.9
2. どちらかといえばわかりやすい	52.3	4. わかりにくい	7.1
		(無回答)	5.0

小平市からの情報提供の表現がわかりやすいか聞いたところ、「わかりやすい」が13.7%、「どちらかといえばわかりやすい」が52.3%で、これをあわせた《わかりやすい》は66.0%となっている。

一方、《わかりにくい》(「わかりにくい」+「どちらかといえばわかりにくい」)は29.0%となっている。(図17-8)

<図17-8> 情報提供のわかりやすさ

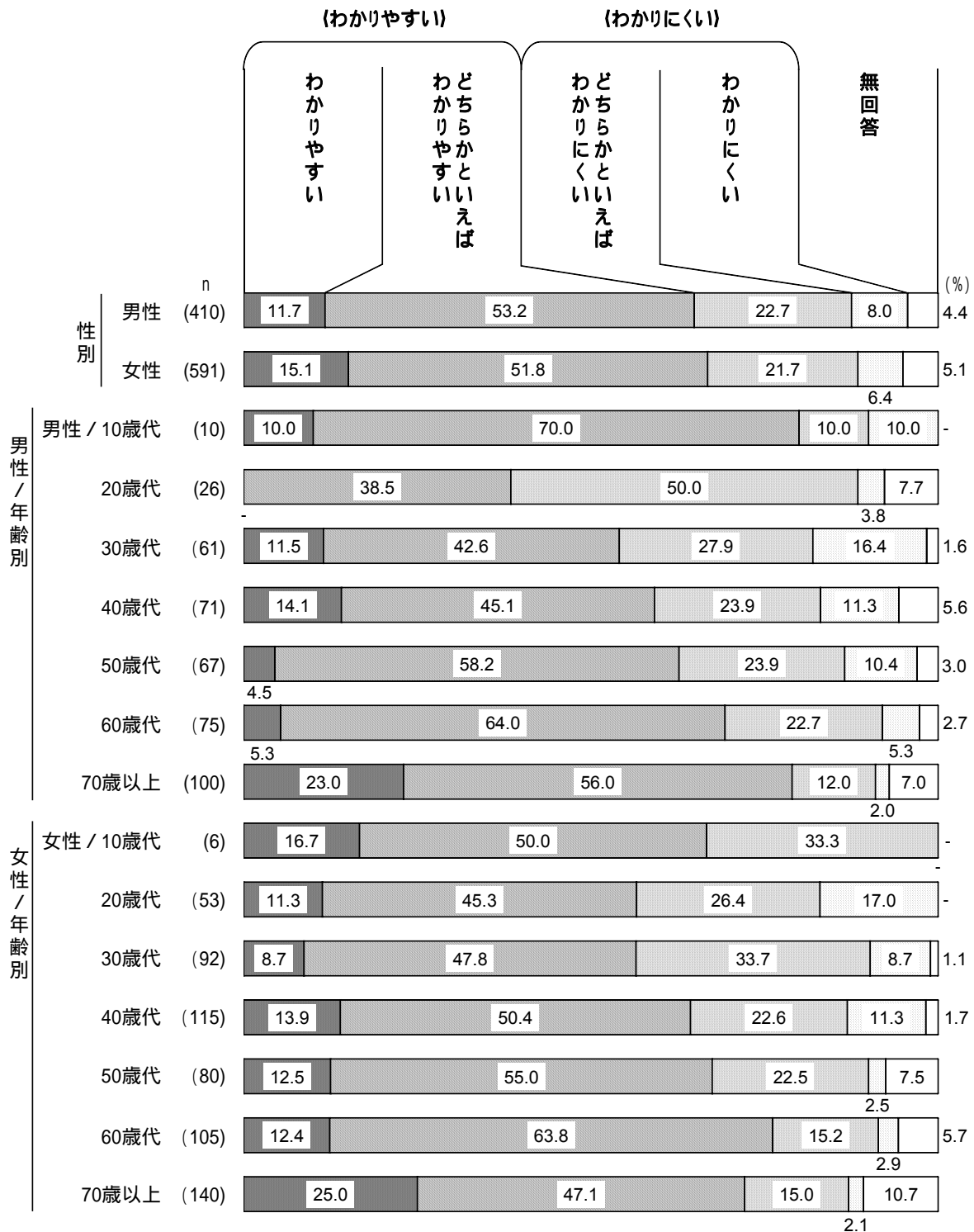


【性別・性 / 年齢別】

性別・性 / 年齢別にみると、《わかりやすい》は男性64.9%、女性66.9%となっており、ともに6割台となっているが、女性が2.0ポイント上回っている。

性・年齢別にみると、《わかりやすい》は男性の70歳以上が79.0%で多く、次に60歳代の69.3%、50歳代の62.7%が6割台で続く。なおもっとも少ないのは20歳代の38.5%で70歳以上とは40.5ポイントの差がある。なお、10歳代は80.0%でもっとも多くなっているが、回答者数が少ないため参考とする。女性は60歳以上が76.2%で多く、次に70歳以上が72.1%で続き、もっとも少ないのは30歳代の56.5%（同程度で20歳代が56.6%）となっており、60才以上との差は19.7ポイントになっている。（図17 - 9）

< 図17 - 9 > 性別・性 / 年齢別

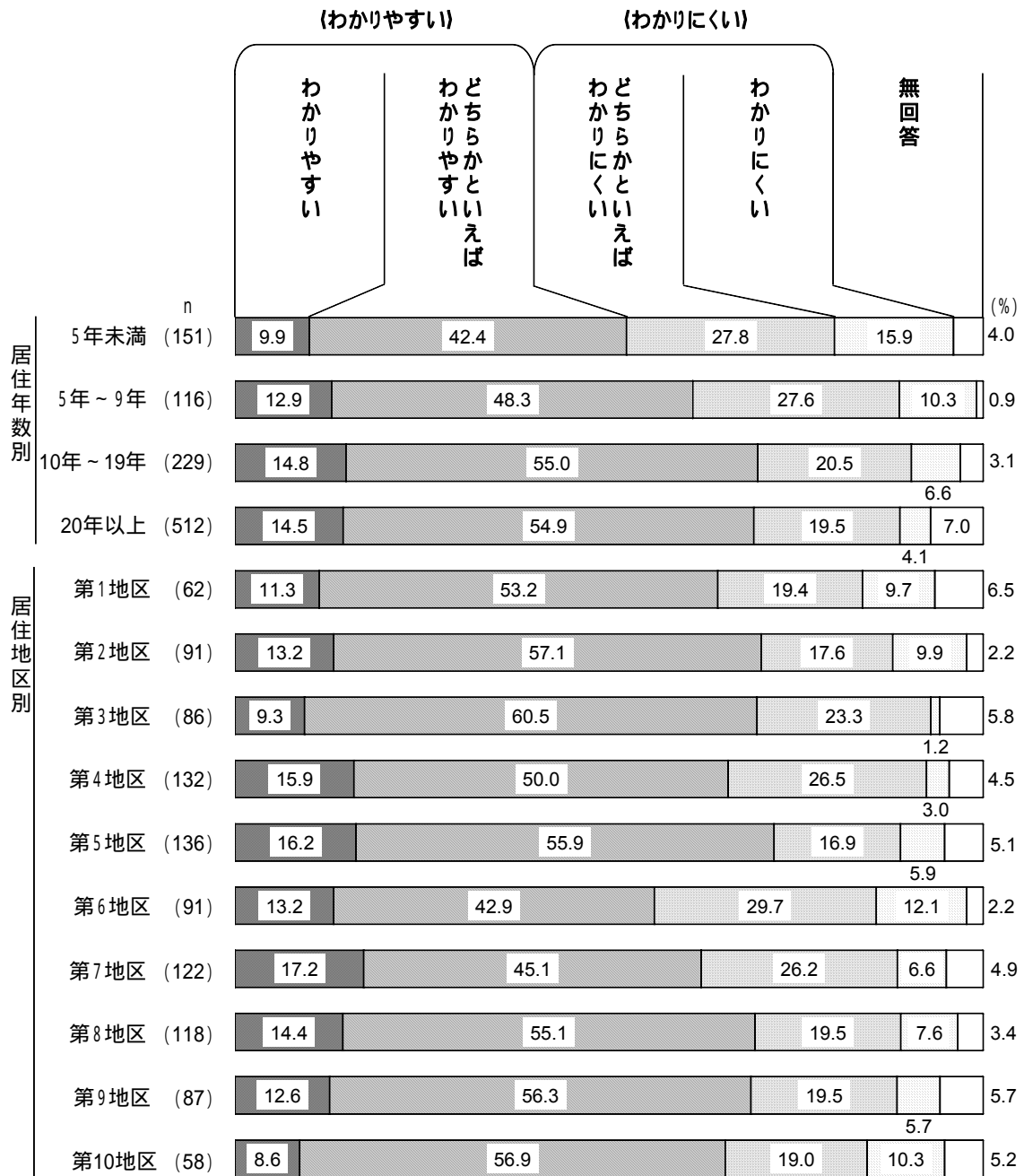


【居住年数別・居住地区別】

居住年数別にみると、《わかりやすい》は10年～19年で69.8%（同程度で20年以上が69.4%）となっている。また、もっとも少ないのは5年未満の52.3%で、10年～19年とは17.5ポイントの差となっている。

居住地区別にみると、《わかりやすい》は第5地区の72.1%がもっとも多く、次に第2地区の70.3%が7割台で続く。もっとも少ないのは第6地区の56.1%で第5地区とは16.0ポイントの差が見られる。（図17-10）

< 図17-10 > 居住年数別・居住地区別



18 公共施設について

(1) 市内の公共施設の今後のあり方

充実の希望は“図書館”と“児童館”が多い。

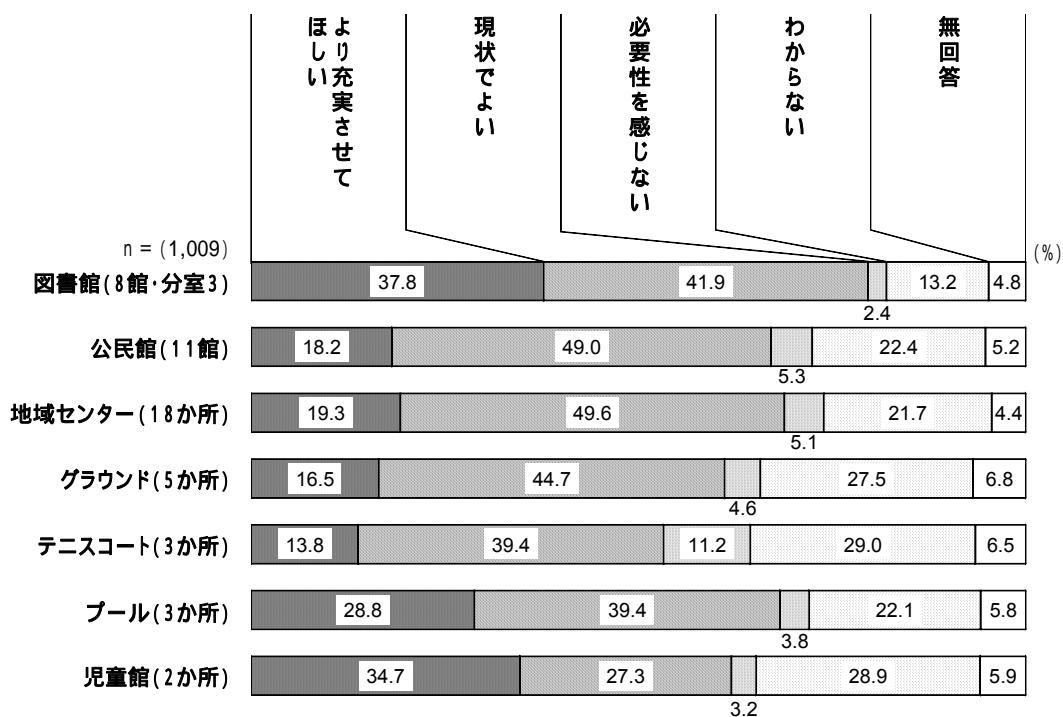
問36 小平市内には次のような様々な公共施設がありますが、今後どのようにあるべきだと思いますか。(は各設問に1つ)

[n=1,009]

	より充実 させて ほしい	現状で よい	必要性を 感じない	わから ない	無回答
図書館(8館・分室3)	37.8%	41.9	2.4	13.2	4.8
公民館(11館)	18.2	49.0	5.3	22.4	5.2
地域センター(18か所)	19.3	49.6	5.1	21.7	4.4
グラウンド(5か所)	16.5	44.7	4.6	27.5	6.8
テニスコート(3か所)	13.8	39.4	11.2	29.0	6.5
プール(3か所)	28.8	39.4	3.8	22.1	5.8
児童館(2か所)	34.7	27.3	3.2	28.9	5.9

市内の公共施設が今後どうあるべきか聞いたところ、「より充実させてほしい」との希望は、“図書館”が37.8%でもっとも多い。また、“児童館”は唯一「より充実させてほしい」が「現状でよい」を上回っている。「現状でよい」は、“地域センター”(49.6%)、“公民館”(49.0%)、“グラウンド”(44.7%)で4割台、“テニスコート”(39.4%)、“プール”(39.4%)で3割台となっている。また、「必要性を感じない」はいずれも少ないが、“テニスコート”が11.2%とやや多くなっている。(図18-1)

<図18-1> 市内の公共施設の今後のあり方



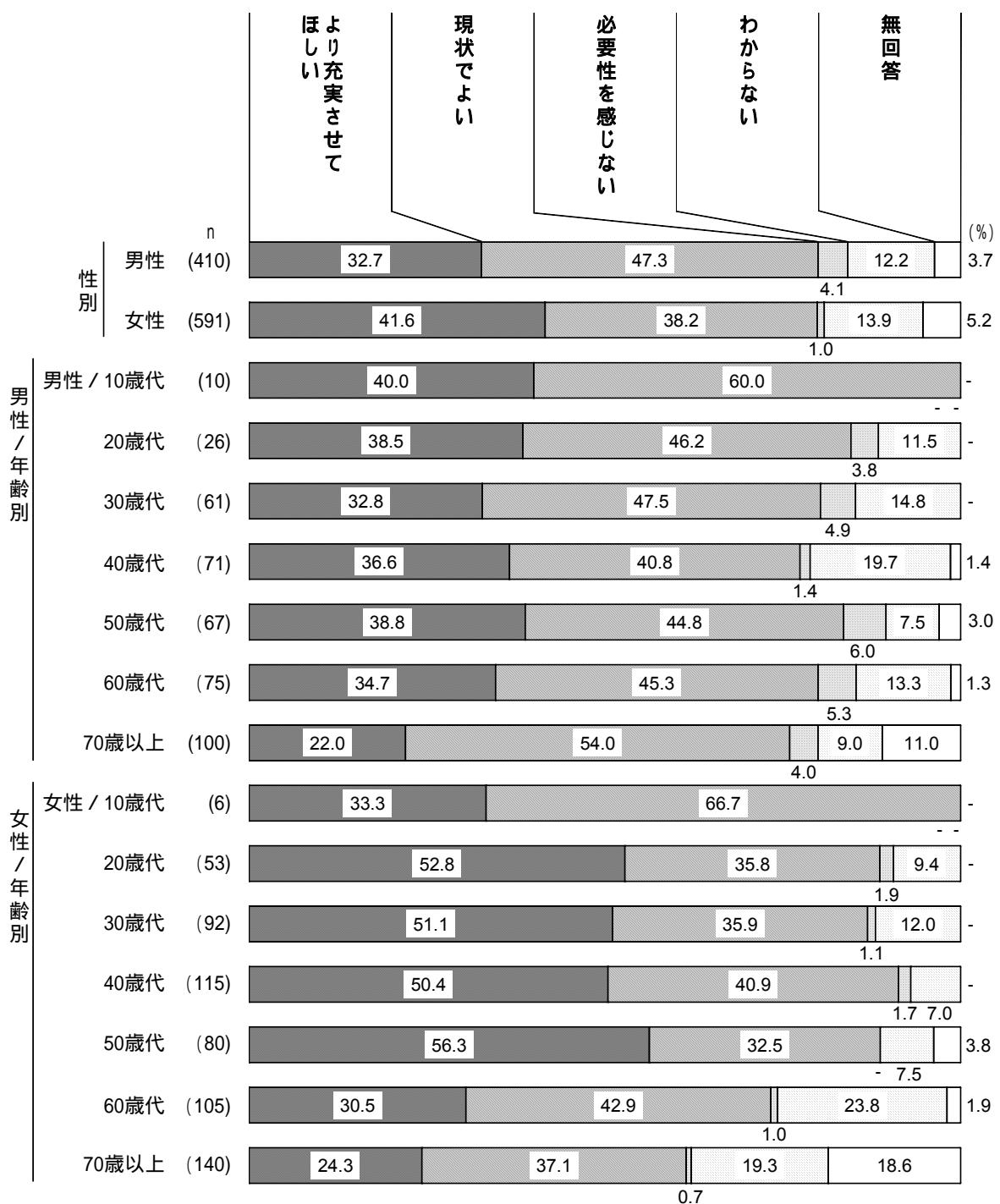
図書館（8館・分室3）

【性別・性／年齢別】

性別にみると、「現状でよい」は、男性が47.3%、女性が38.2%となっており、男性が女性を9.1ポイント上回る。「より充実させてほしい」は男性が32.7%、女性は41.6%となっており、女性が男性を8.9ポイント上回る。また、「より充実させてほしい」と「現状でよい」の差をみると、男性は「現状でよい」が14.6ポイント上回り、女性は「より充実させてほしい」が3.4ポイント上回る。

性・年齢別にみると、「現状でよい」は男性の70歳以上が54.0%で多く、もっとも少ないのは40歳代（40.8%）で70歳以上とは13.2ポイントの差がある。女性は60歳代で42.9%と多くなっており、もっとも少ない50歳代（32.5%）とは10.4ポイントの差がある。「より充実させてほしい」は男性では50歳代が38.8%で多く（20歳代が同程度の38.5%）、女性は50歳代が56.3%が多くなっている。（男女とも10歳代は回答者数が少ないため参考とする。）（図18 - 2）

< 図18 - 2 > 性別・性／年齢別

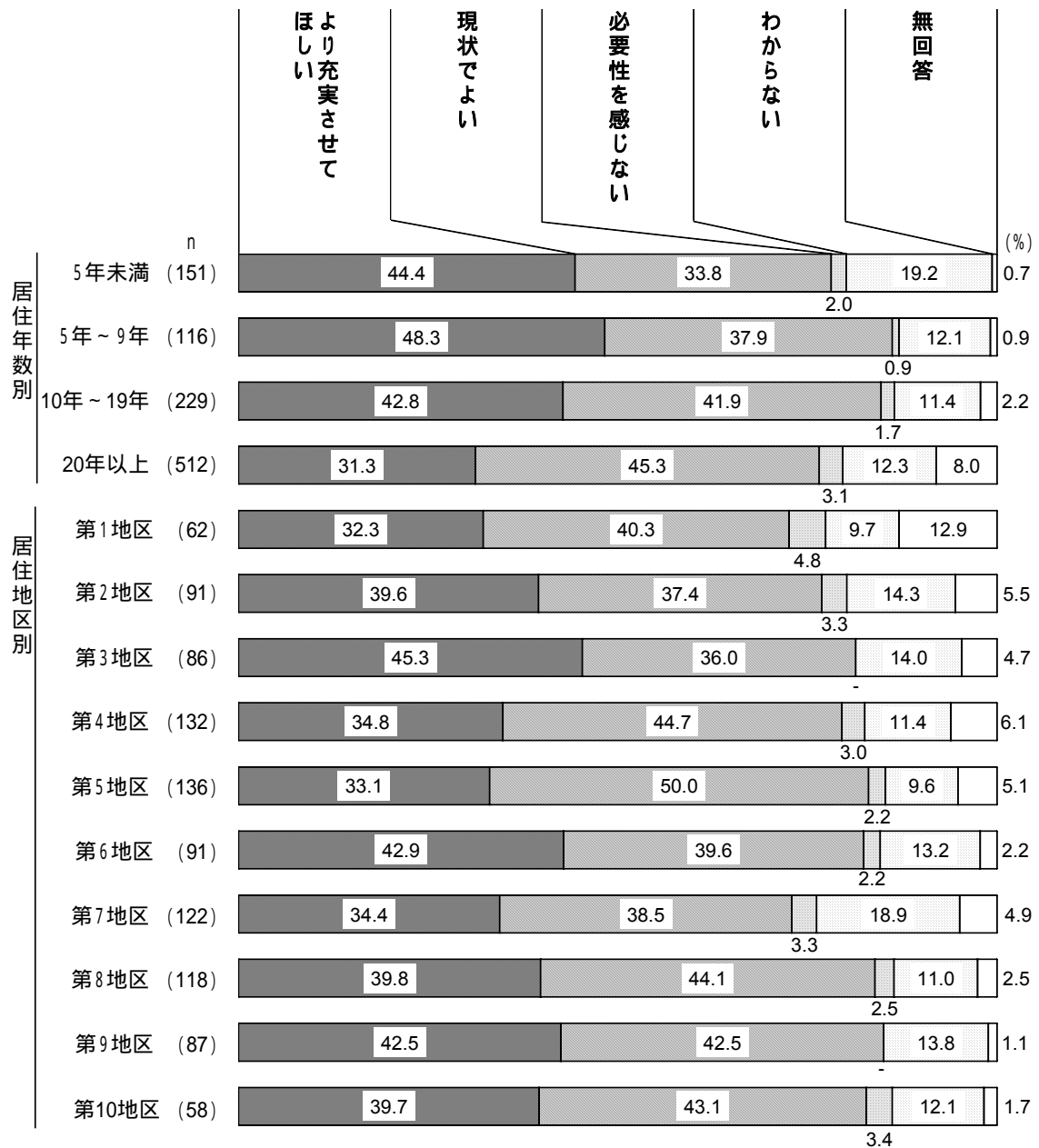


【居住年数別・居住地区別】

居住年数別にみると、「現状でよい」は20年以上が45.3%でもっとも多く、もっとも少ない5年未満の33.8%とは11.5ポイントの差がある。「より充実させてほしい」は5年～9年が48.3%でもっとも多く、20年以上（31.3%）とは17.0ポイントの差がある。

居住地区別にみると、「現状でよい」は第5地区が50.0%でもっとも多く、続いて第4地区の44.7%、第8地区の44.1%となっている。もっとも少ないのは第3地区で36.0%となっており、第5地区との差は14.0ポイントとなっている。「より充実させてほしい」は第3地区の45.3%、次に第6地区の42.9%、第9地区の42.5%が4割台で続いている。（図18 - 3）

< 図18 - 3 > 居住年数別・居住地区別



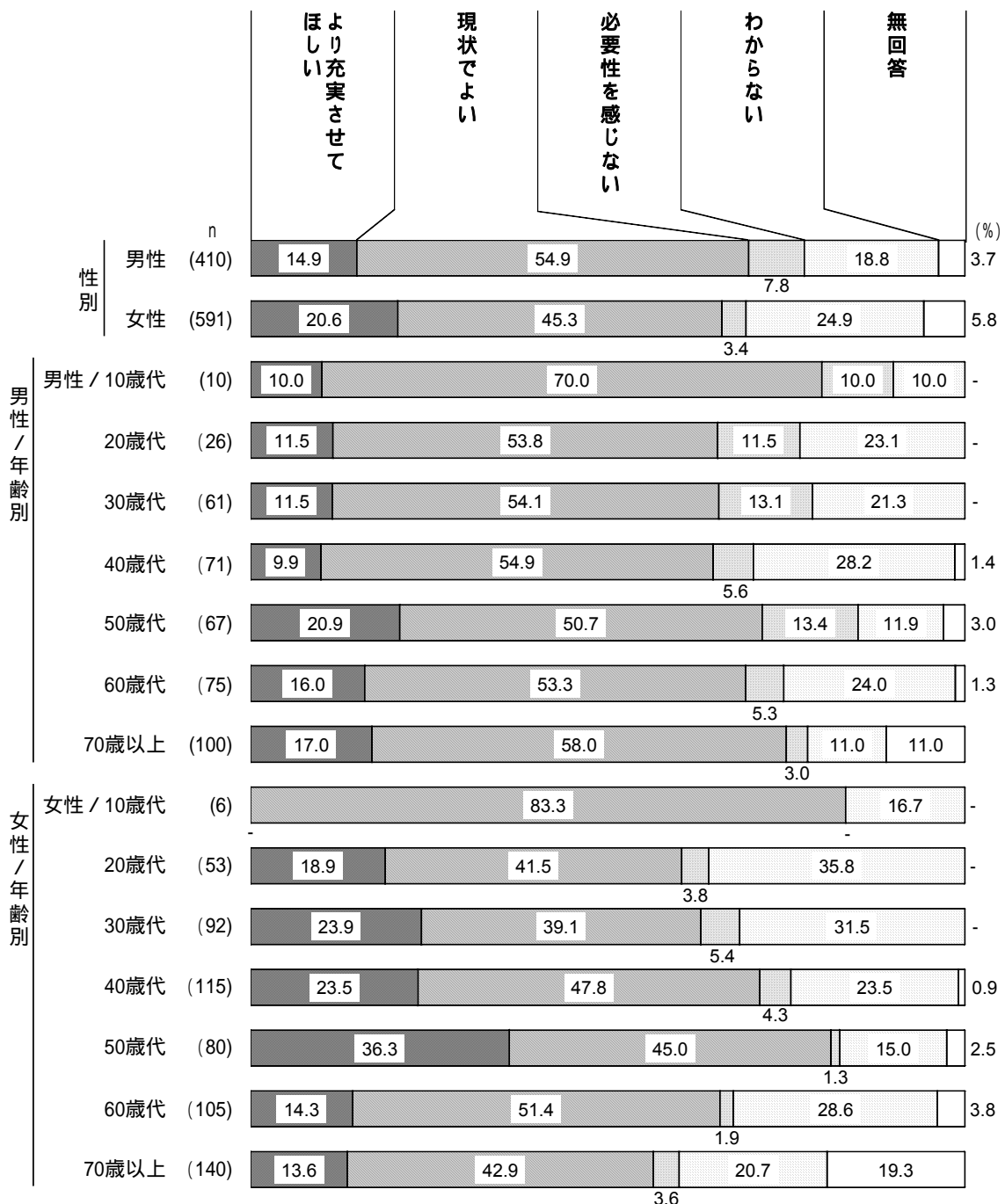
公民館（11館）

【性別・性／年齢別】

性別にみると、「現状でよい」が他の項目にくらべて多くを占めている。なお、男性が54.9%、女性が45.3%となっており、男性が女性を9.6ポイント上回る。「より充実させてほしい」は男性が14.9%、女性は20.6%となっており、女性が男性を5.7ポイント上回る。また、「より充実させてほしい」と「現状でよい」の差をみると、男性、女性ともに「現状でよい」が男性は40.0ポイント、女性は24.7ポイントそれぞれ上回っている。

性・年齢別にみると、「現状でよい」は男性の70歳以上が58.0%で多く、もっとも少ないのは50歳代の50.7%となっているが、10歳代を除き5割台で推移している。女性は60歳代で51.4%と多くなっており、もっとも少ない30歳代（39.1%）とは12.3ポイントの差がある。「より充実させてほしい」は男性、女性ともに50歳代で多く、男性は20.9%、女性は36.3%となっている。（男女とも10歳代は回答者数が少ないため参考とする。）（図18 - 4）

< 図18 - 4 > 性別・性／年齢別

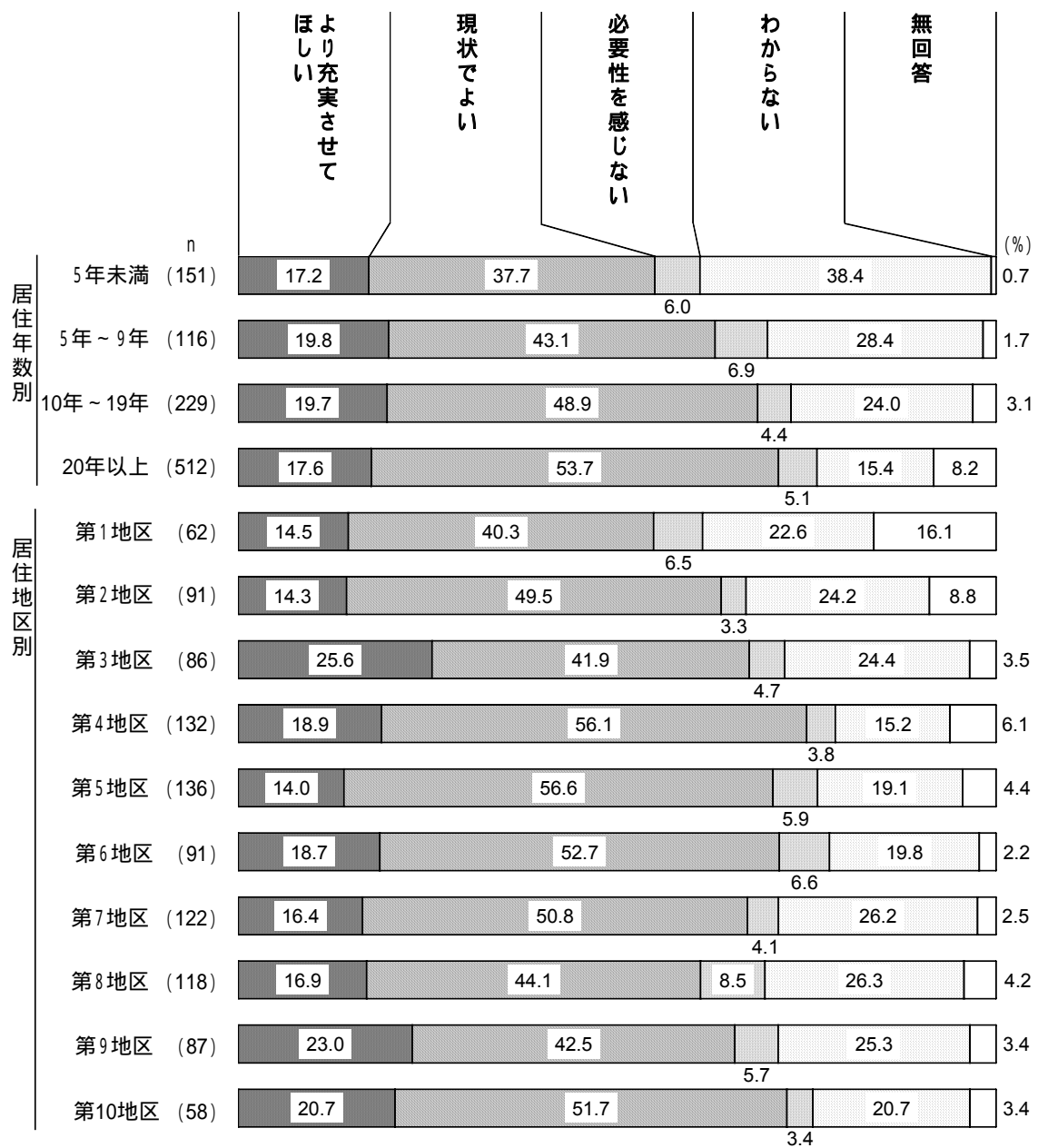


【居住年数別・居住地区別】

居住年数別にみると、「現状でよい」は20年以上が53.7%でもっとも多く、もっとも少ない5年未満の37.7%とは16.0ポイントの差がある。「より充実させてほしい」は5年～9年が19.8%（同程度で10年～19年が19.7%）で多くなっているが、居住年数別ではあまり差がみられない。

居住地区別にみると、「現状でよい」は第5地区が56.6%（同程度で第4地区が56.1%）でもっとも多くなっている。もっとも少ないのは第1地区の40.3%で、第5地区とは16.3ポイントの差がある。「より充実させてほしい」は第3地区でもっとも多く25.6%となっており、少ないのは第5地区の14.0%（同程度で第1地区が14.5%、第2地区が14.3%）となっており、第3地区とは11.6ポイントの差がある。（図18 - 5）

< 図18 - 5 > 居住年数別・居住地区別



地域センター（18か所）

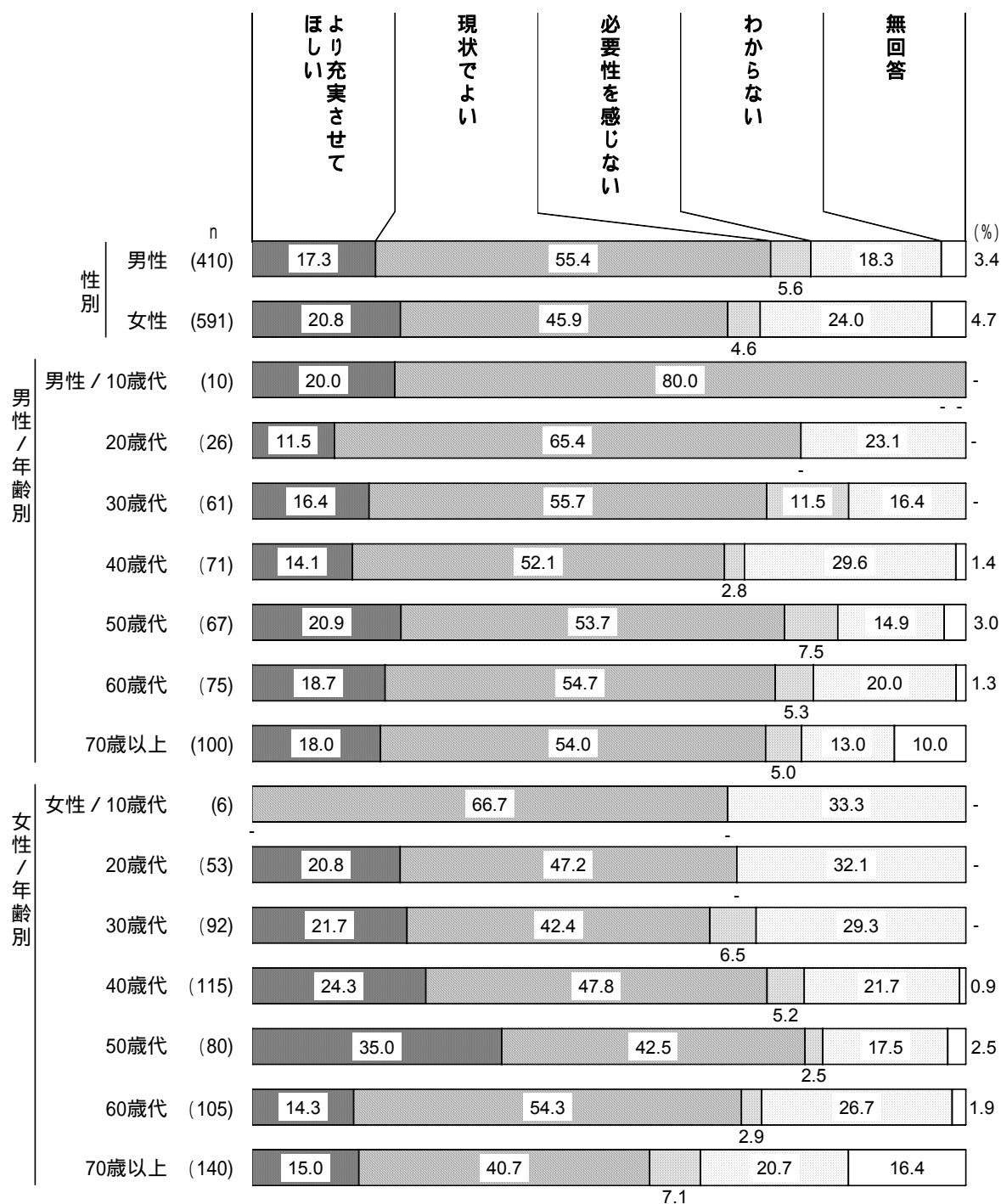
【性別・性／年齢別】

性別にみると、「現状でよい」が他の項目にくらべて多くを占めている。なお、男性は55.4%、女性は45.9%となっており、その差は男性が女性を9.5ポイント上回っている。「より充実させてほしい」では男性が17.3%、女性が20.8%となっており、女性が男性を3.5ポイント上回る。

性・年齢別にみると、「現状でよい」は男性の20歳代が65.4%と多く、もっとも少ない40歳代（52.1%）と13.3ポイントの差がある。女性では60歳代で54.3%と多く、70歳以上（40.7%）と13.6ポイントの差がある。「より充実させてほしい」は男性の50歳代で20.9%ともっとも多く、女性では50歳代が35.0%でもっとも多くなっている。（男女とも10歳代は回答者数が少ないため参考とする。）

（図18 - 6）

< 図18 - 6 > 性別・性／年齢別

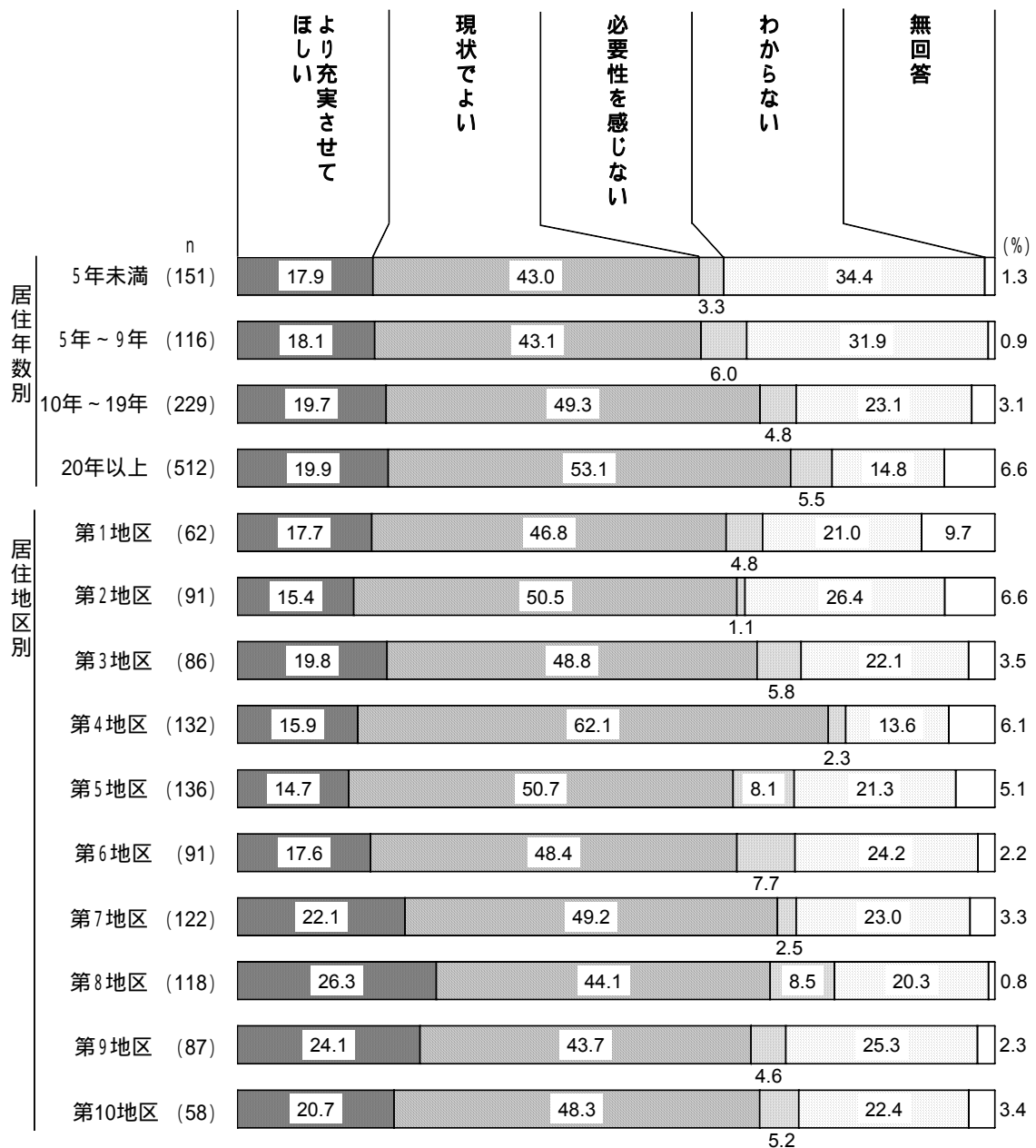


【居住年数別・居住地区別】

居住年数別にみると、「現状でよい」は20年以上が唯一の5割台の53.1%でもっとも多く、もっとも少ない5年未満の43.0%とは10.1ポイントの差がある。なお、5年～9年も5年未満と同程度の43.1%と少なくなっている。「より充実させてほしい」については大きな差はみられない。

居住地区別にみると、「現状でよい」は第4地区でもっとも多く62.1%となっており、続いて第5地区の50.7%、第2地区の50.5%となっている。もっとも少ないのは第9地区の43.7%となっており、第4地区との差は18.4ポイントになっている。なお、第4地区は他の地区とくらべても多く、次に続く第5地区とも11.4ポイントの差がある。また「より充実させてほしい」は第8地区でもっとも多く26.3%となっており、もっとも少ない第2地区（15.4%）とは10.9ポイントの差がある。（図18-7）

< 図18-7 > 居住年数別・居住地区別



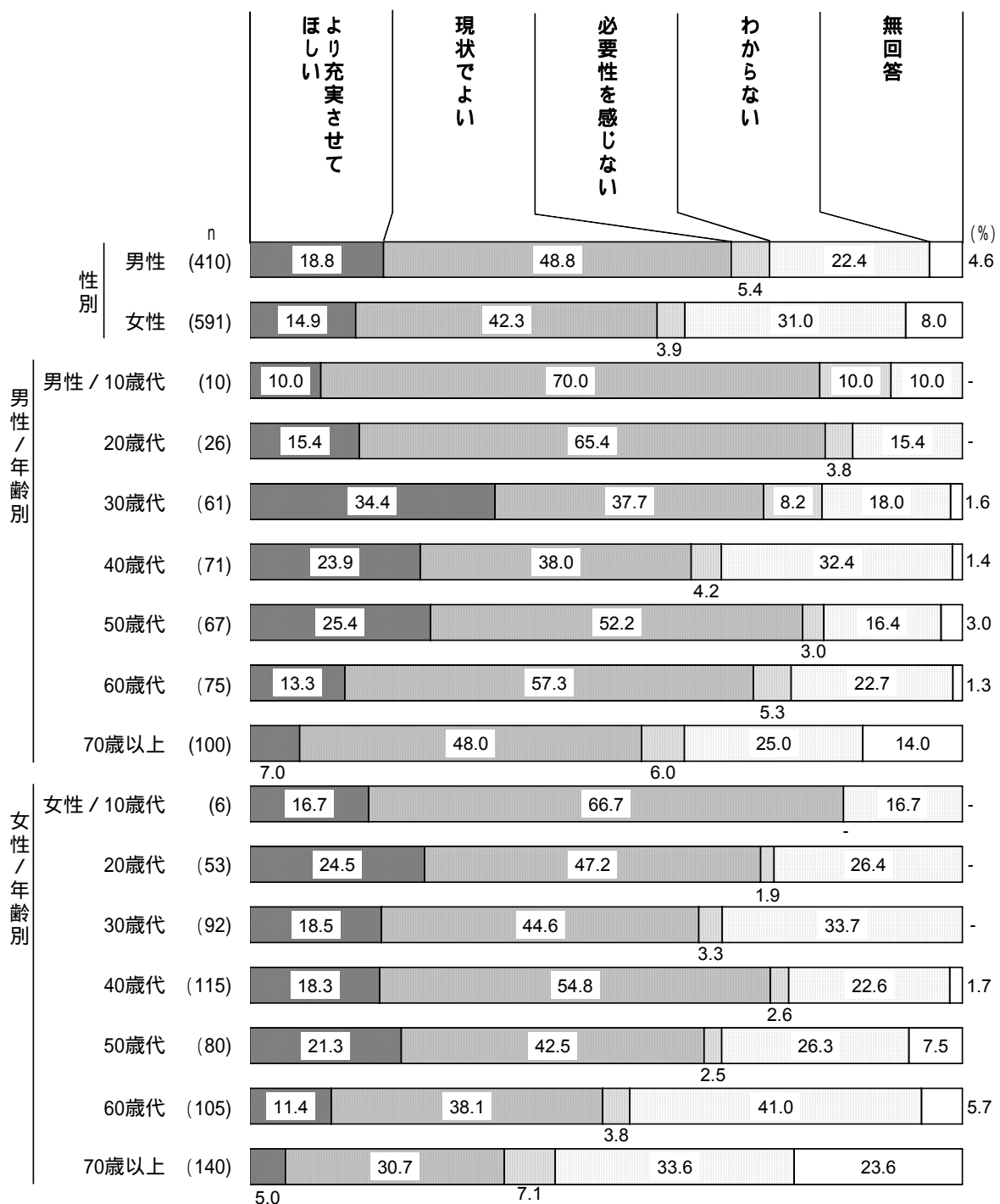
グラウンド(5か所)

【性別・性/年齢別】

性別にみると、「現状でよい」が他の項目にくらべて多くを占めている。なお、男性が48.8%、女性が42.3%となっており、その差は男性が女性を6.5ポイント上回っている。「より充実させてほしい」では男性が18.8%、女性は14.9%となっており、男性が女性を3.9ポイント上回っている。

性・年齢別にみると、「現状でよい」は男性の20歳代が65.4%と多く、次に60歳代(57.3%)、50歳代(52.2%)が続く。もっとも少ないのは30歳代の37.7%で、20歳代とは27.7ポイントの差がある。女性では40歳代が54.8%と多くなっており、もっとも少ない70歳以上(30.7%)と24.1ポイントの差がある。「より充実させてほしい」は男性では30歳代が34.4%でもっとも多く、女性では20歳代が24.5%でもっとも多くなっている。(男女とも10歳代は回答者数が少ないため参考とする。)(図18-8)

<図18-8>性別・性/年齢別

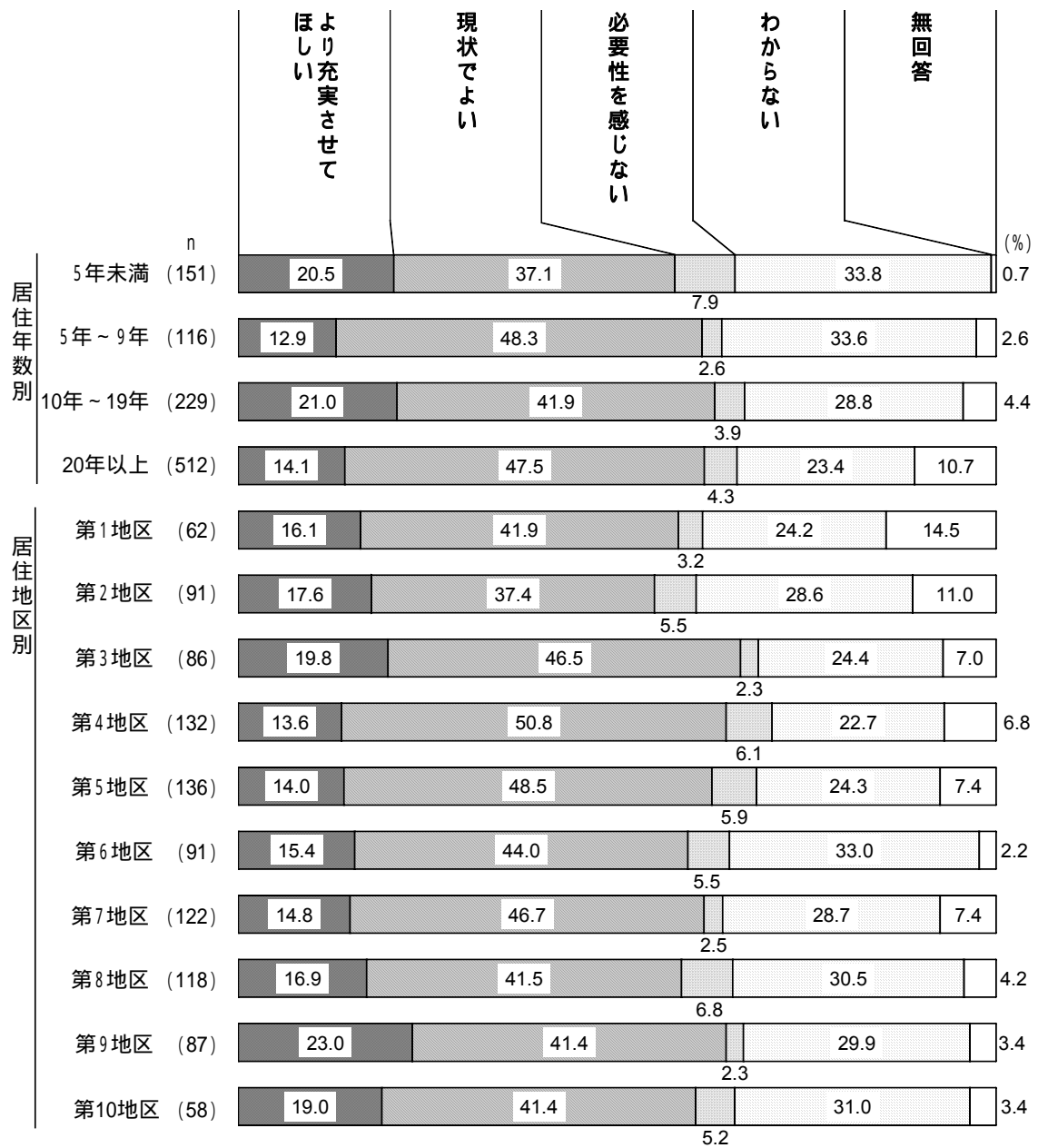


【居住年数別・居住地区別】

居住年数別にみると、「現状でよい」は5年～9年が48.3%、続いて20年以上が47.5%で多くなっている。もっとも少ない5年未満(37.1%)と5年～9年では11.2ポイントの差がある。「より充実させてほしい」は10年～19年(21.0%)と5年未満(20.5%)が多くなっている。

居住地区別にみると、「現状でよい」は第4地区が50.8%で唯一の5割台となっており、唯一の3割台である第2地区(37.4%)とは13.4ポイントの差がある。「より充実させてほしい」は第9地区の23.0%がもっとも多く、もっとも少ないのは第4地区(13.6%)で、その差は9.4ポイントとなっている。「必要性を感じない」についても第8地区(6.8%)とともに第4地区(6.1%)が他の地区にくらべ多くなっている。(図18-9)

< 図18-9 > 居住年数別・居住地区別



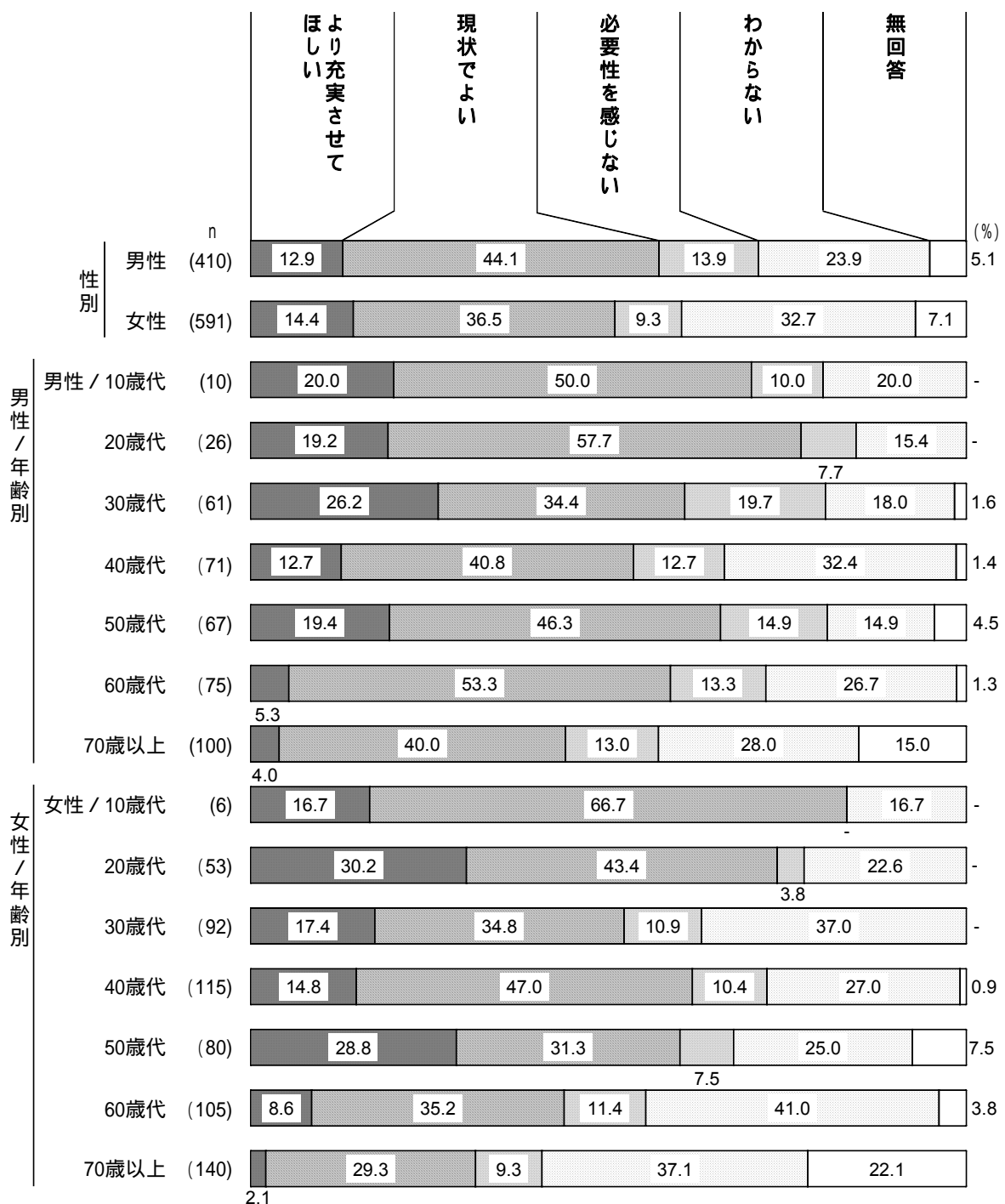
テニスコート（3か所）

【性別・性／年齢別】

性別にみると、「現状でよい」が他の項目にくらべて多くを占めている。なお、男性が44.1%、女性が36.5%となっており、その差は男性が女性を7.6ポイント上回っている。「必要性を感じない」については男性が13.9%、女性は9.3%となっており、男性が女性を4.6ポイント上回り、「より充実させてほしい」については男性が12.9%、女性は14.4%となっており、女性が男性を僅差で上回る。

性・年齢別にみると、「現状でよい」は男性の20歳代が57.7%で多く、もっとも少ない30歳代(34.4%)と23.3ポイントの差がある。女性では40歳代が47.0%と多くなっており、70歳以上(29.3%)と17.7ポイントの差がある。「より充実させてほしい」は男性では30歳代(26.2%)がもっとも多く、女性では20歳代(30.2%)でもっとも多く、僅差で50歳代(28.8%)が続く。(男女とも10歳代は回答者数が少ないため参考とする。)(図18-10)

< 図18 - 10 > 性別・性／年齢別

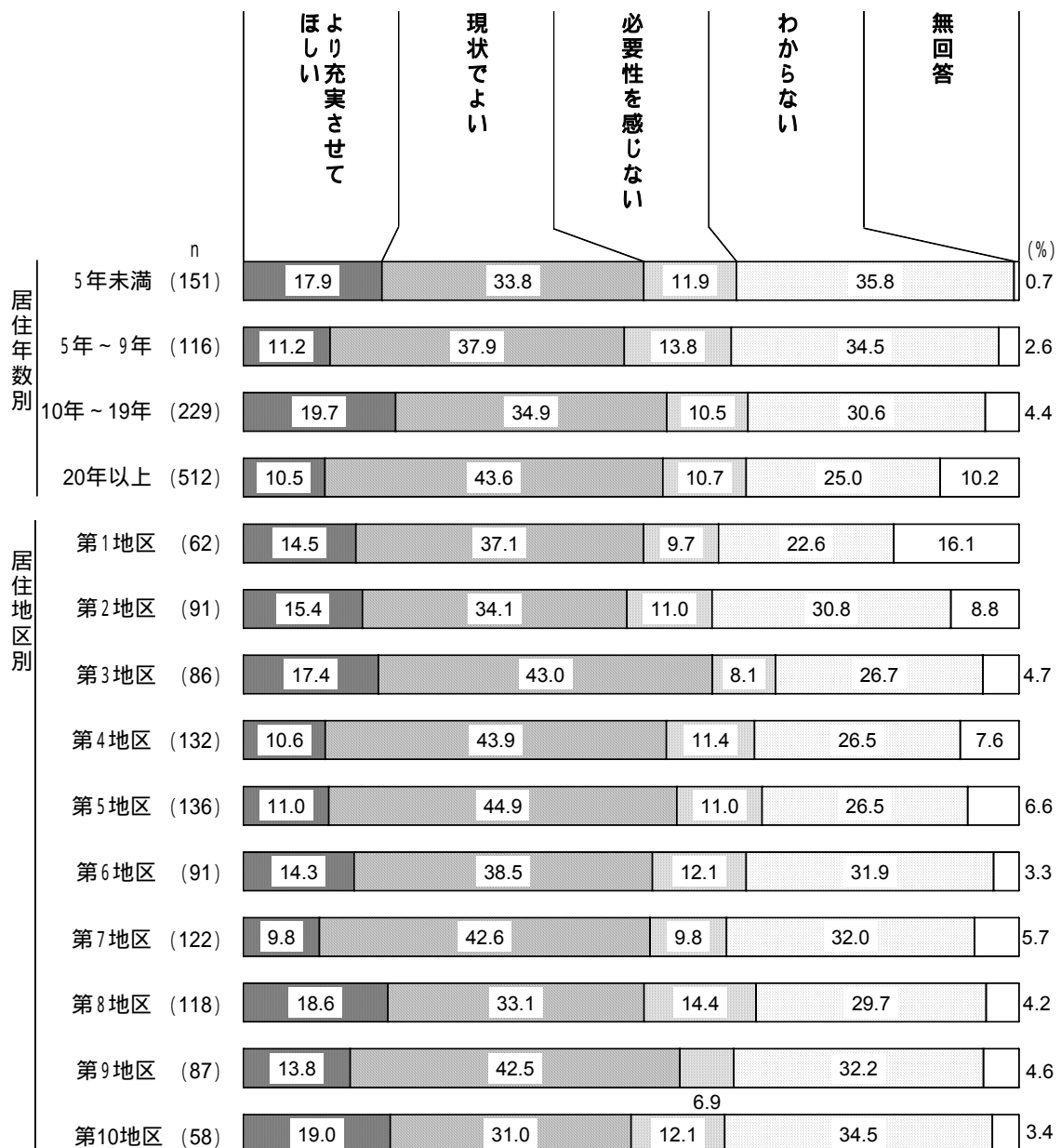


【居住年数別・居住地区別】

居住年数別にみると、「現状でよい」は20年以上で43.6%と最も多く、最も少ない5年未満の33.8%とは9.8ポイントの差がある。「より充実させてほしい」は10年～19年が19.7%で最も多く、20年以上（10.5%）と9.2ポイントの差がある。

居住地区別にみると、「現状でよい」は第5地区が44.9%で最も多く、続いて第4地区の43.9%、第3地区の43.0%となっている。最も少ないのは第10地区で31.0%となっており、第5地区との差は13.9ポイントとなっている。「より充実させてほしい」は第10地区の19.0%が比較的多く、僅差で第8地区（18.6%）、第3地区（17.4%）が続く。（図18 - 11）

< 図18 - 11 > 居住年数別・居住地区別



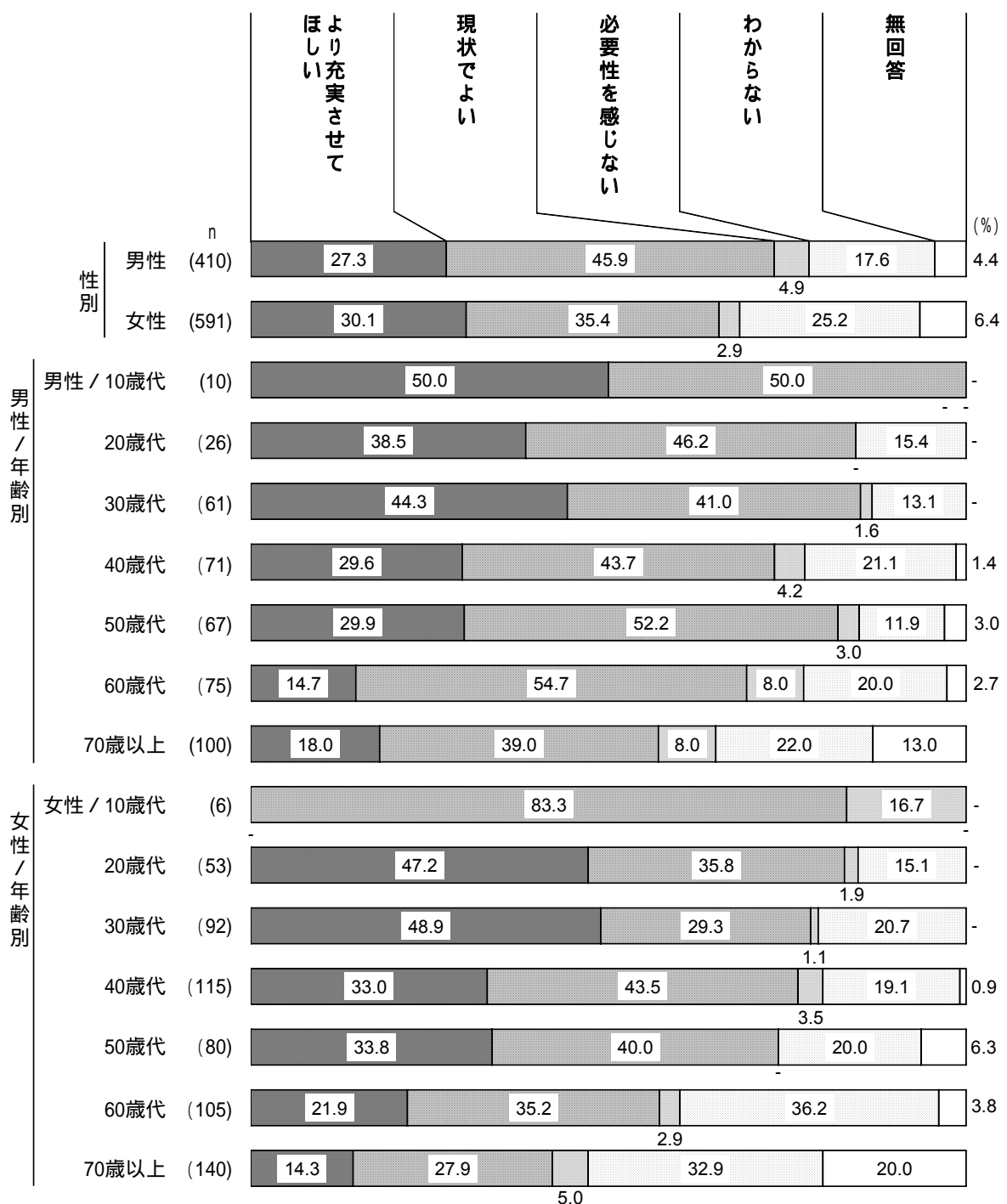
プール(3か所)

【性別・性/年齢別】

性別にみると、「現状でよい」が他の項目にくらべて多くを占めている。なお、男性が45.9%、女性が35.4%となっており、その差は男性が女性を10.5ポイント上回っている。次に「より充実させてほしい」については男性が27.3%、女性は30.1%となっており、女性が男性を2.8ポイント上回る。

性・年齢別にみると、「現状でよい」は男性の60歳代が54.7%で多く、50歳代が52.2%で続き、もっとも少ない70歳以上(39.0%)と男性の60歳代では15.7ポイントの差がある。女性は40歳代で43.5%と多くなっており、70歳以上(27.9%)とは15.6ポイントの差がある。「より充実させてほしい」は男性、女性ともに30歳代が多くなっており、男性は44.3%、女性は48.9%となっている。(男女とも10歳代は回答者数が少ないため参考とする。)(図18-12)

<図18-12> 性別・性/年齢別

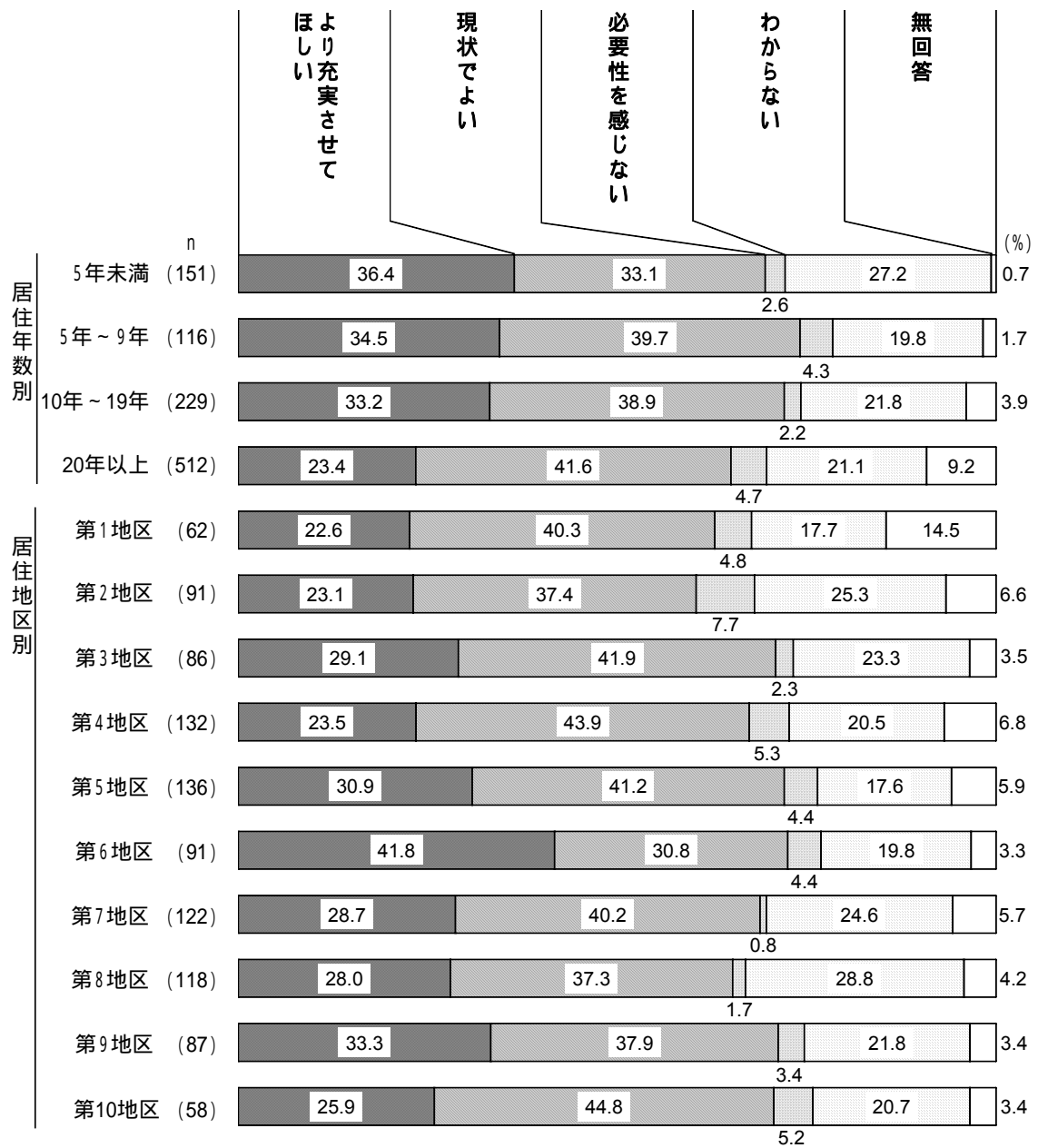


【居住年数別・居住地区別】

居住年数別にみると、「現状でよい」は20年以上で41.6%ともっと多く、次に5年～9年の39.7%が僅差で続く。「より充実させてほしい」は5年未満が36.4%でもっとも多く、もっとも少ない20年以上(23.4%)と13.0ポイントの差がある。

居住地区別にみると、「現状でよい」は第10地区が44.8%でもっとも多く、続いて第4地区(43.9%)、第3地区(41.9%)、第5地区(41.2%)となっている。もっとも少ないのは第6地区の30.8%となっており、第10地区との差は14.0ポイントとなっている。「より充実させてほしい」は第6地区の41.8%が唯一の4割台でとくに多く、もっとも少ない第1地区(22.6%)との差は19.2ポイントとなっている。(図18-13)

< 図18-13 > 居住年数別・居住地区別



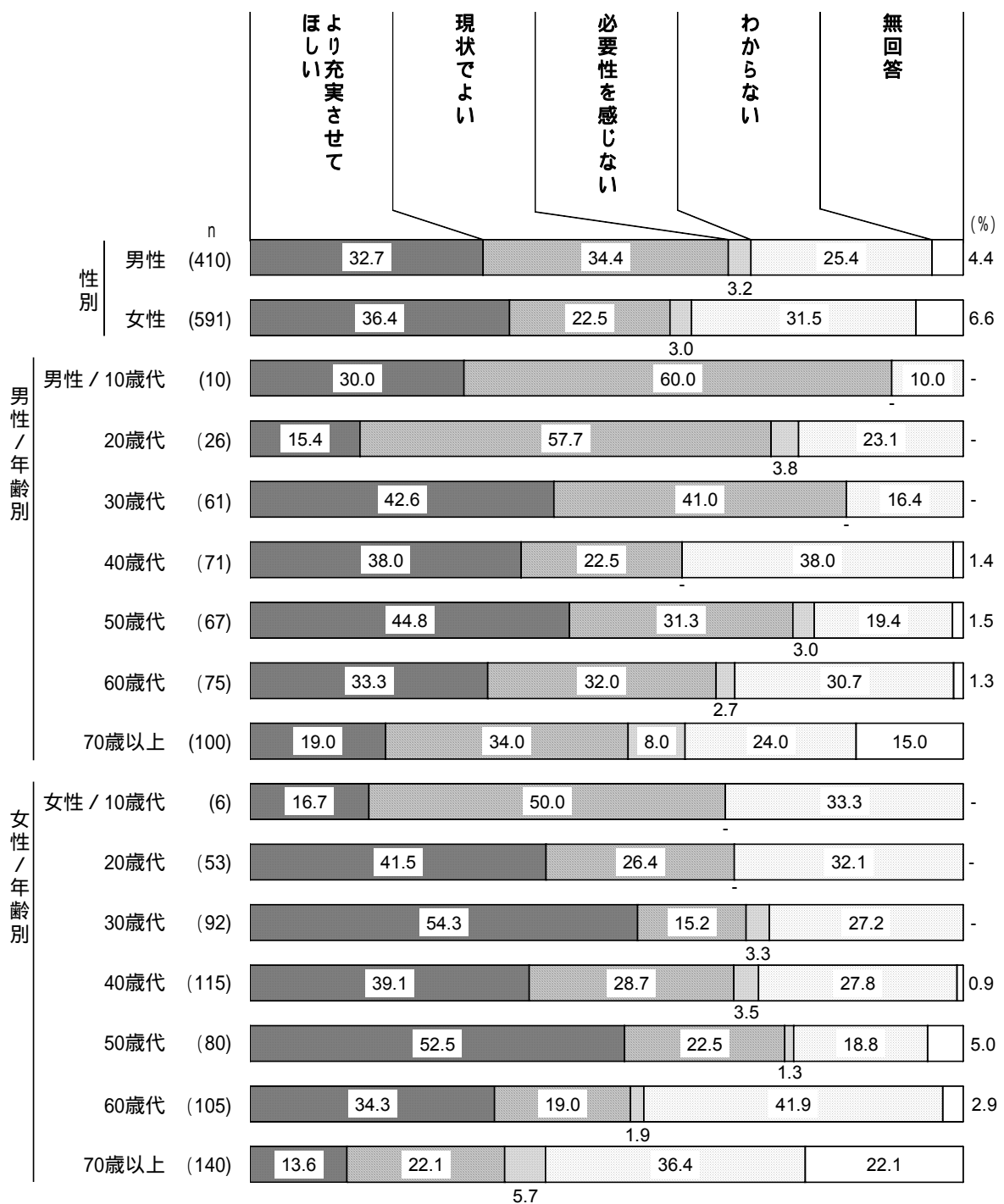
児童館（2か所）

【性別・性 / 年齢別】

性別にみると、「現状でよい」は男性が34.4%、女性が22.5%となっており、男性が女性を11.9ポイント上回る。「より充実させてほしい」は男性が32.7%、女性は36.4%となっており、女性が男性を3.7ポイント上回る。また、「より充実させてほしい」と「現状でよい」の差をみると、男性は「現状でよい」が1.7ポイント上回り、女性は「より充実させてほしい」が13.9ポイント上回る。

性・年齢別にみると、「現状でよい」は男性の20歳代が57.7%で多く、もっとも少ないのは40歳代（22.5%）で35.2ポイントの差がある。女性は40歳代で28.7%と多くなっており、もっとも少ない30歳代（15.2%）とは13.5ポイントの差がある。「より充実させてほしい」は男性では50歳代が44.8%で多く、女性は30歳代が54.3%で多くなっており、僅差で50歳代が52.5%で続く。（男女とも10歳代は回答者数が少ないため参考とする。）（図18 - 14）

< 図18 - 14 > 性別・性 / 年齢別

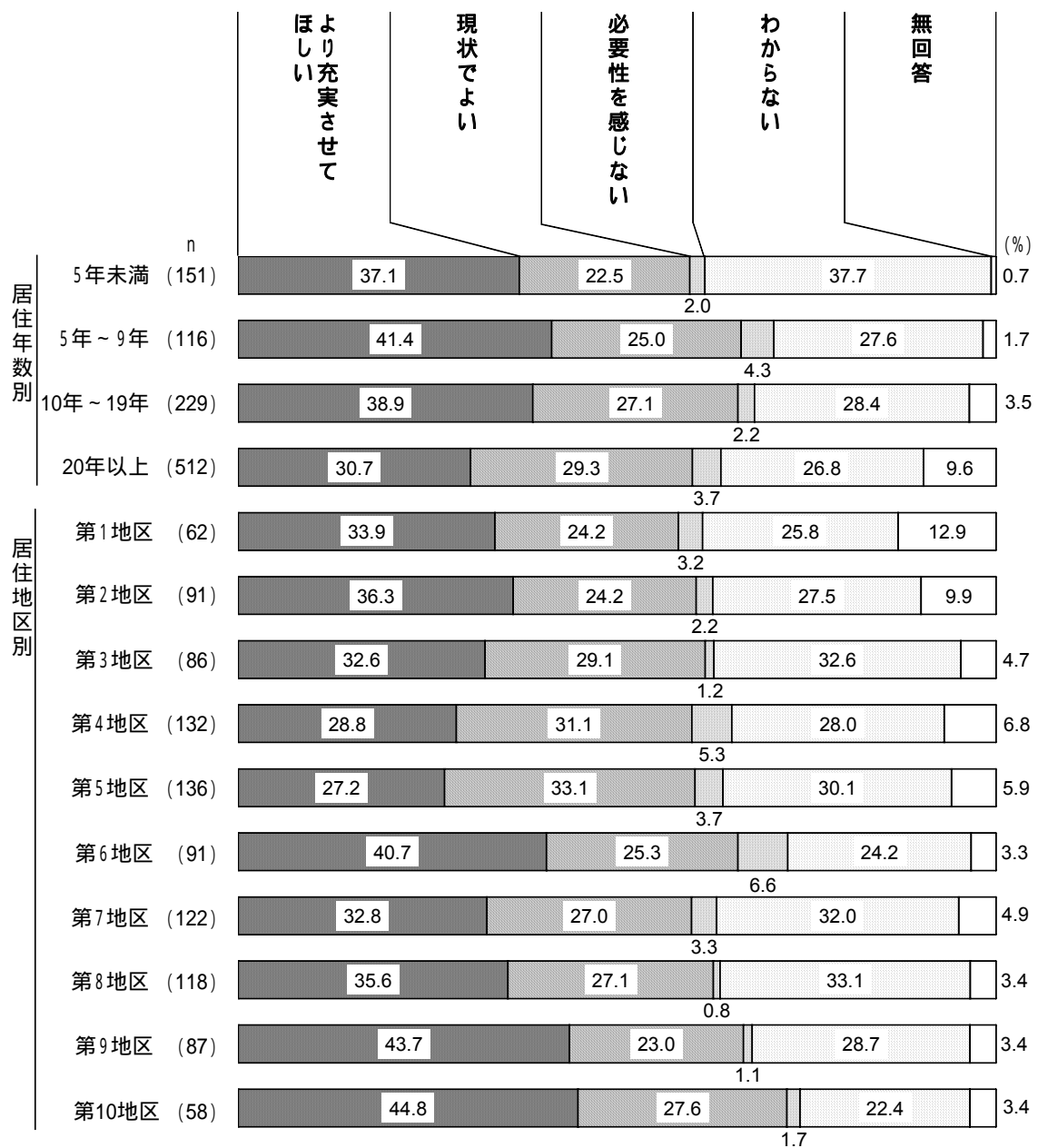


【居住年数別・居住地区別】

居住年数別にみると、「現状でよい」は20年以上で29.3%と最も多く、次に10年～19年の27.1%が僅差で続く。「より充実させてほしい」は5年～9年が41.4%で最も多く、もっとも少ない20年以上（30.7%）と10.7ポイントの差がある。

居住地区別にみると、「現状でよい」は第5地区が33.1%で最も多く、続いて第4地区が31.1%となっている。もっとも少ないのは第9地区で23.0%となっており、第5地区との差は10.1ポイントとなっている。「より充実させてほしい」は第10地区の44.8%が多く、次に第9地区（43.7%）、第6地区（40.7%）が4割台で続いている。もっとも少ないのは第5地区の27.2%で、第10地区との差は17.6ポイントとなっている。（図18 - 15）

< 図18 - 15 > 居住年数別・居住地区別



19 行政サービスの向上・改善について

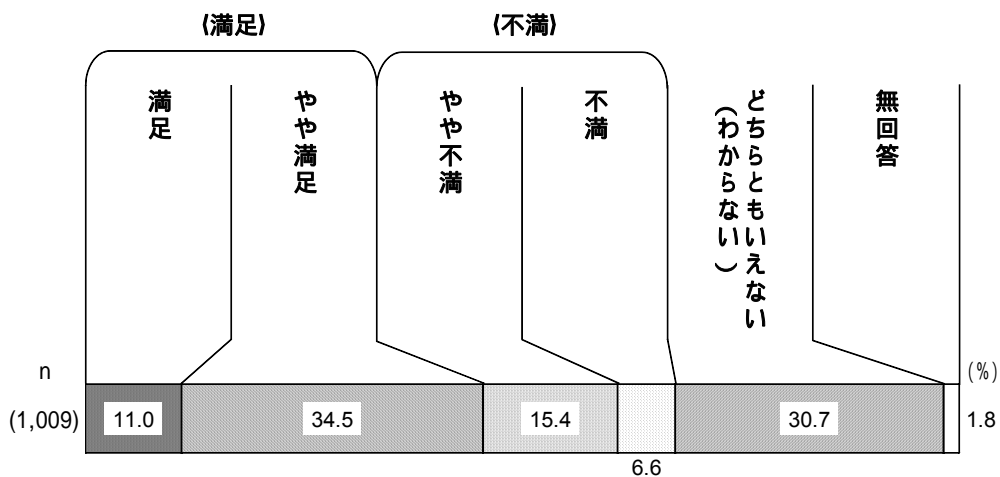
(1) 市職員への評価

《満足》が45.5%。《不満》が22.0%。

問37 あなたは、小平市職員の仕事や対応に満足していますか。(は1つ)			
[n=1,009]			
1. 満足	11.0%	3. やや不満	15.4
2. やや満足	34.5	4. 不満	6.6
		5. どちらともいえない(わからない)	30.7
		(無回答)	1.8

市職員への評価は、「満足」が11.0%、「やや満足」が34.5%で、これをあわせた《満足》は45.5%となっている。また、《不満》(「不満」+「やや不満」)は22.0%、「どちらともいえない(わからない)」は30.7%となっている。(図19 - 1)

<図19 - 1> 市職員への評価

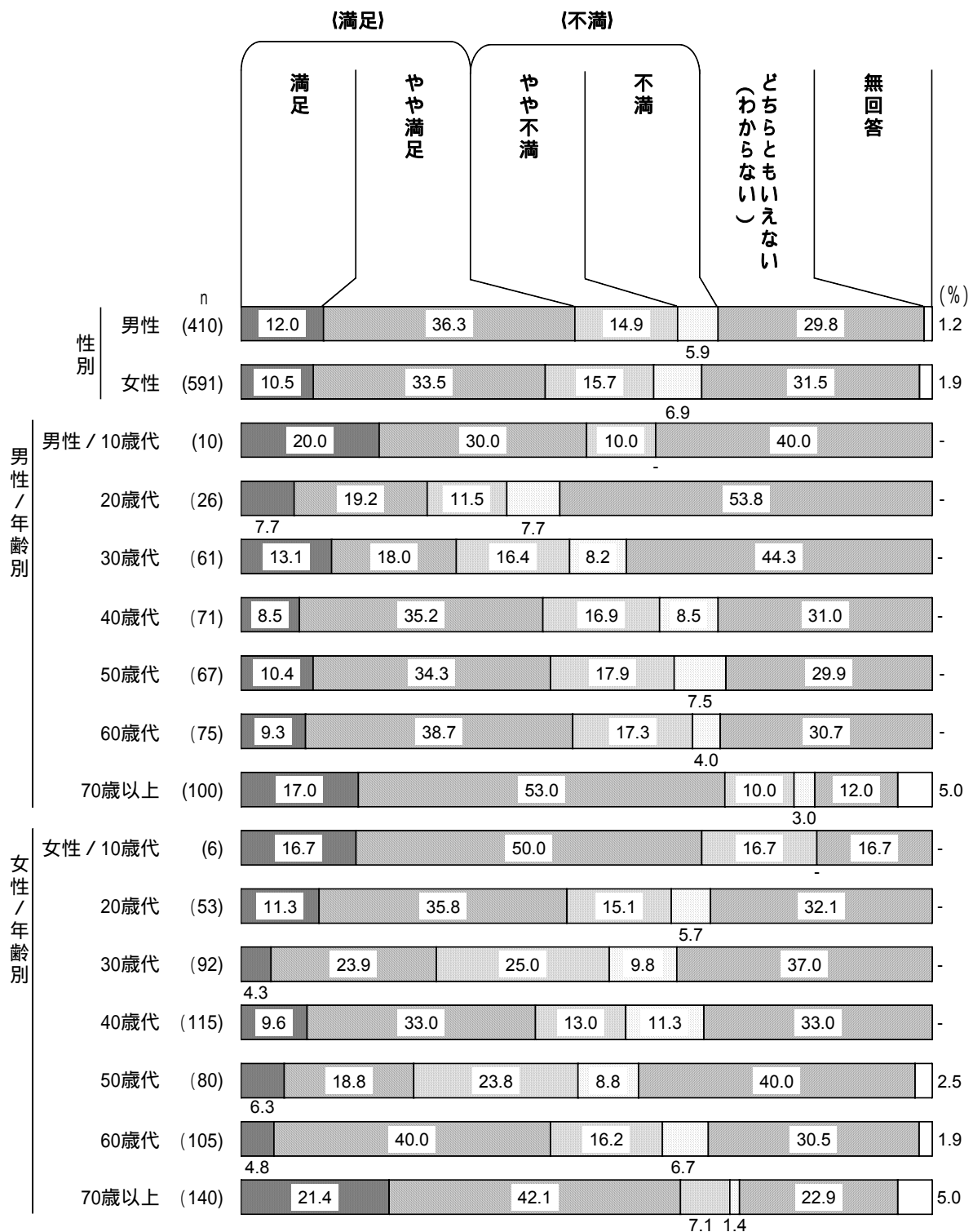


【性別・性 / 年齢別】

性別にみると、《満足》は男性が48.3%、女性が44.0%になっており、男性が女性を4.3ポイント上回っている。

性・年齢別にみると、《満足》は男性の70歳以上が70.0%でもっとも多くなっており、もっとも少ない20歳代（26.9%）とは43.1ポイントの差がある。女性についても70歳以上が63.5%でもっとも多くなっており、もっとも少ない50歳代（25.1%）とは38.4ポイントの差がある。なお、《不満》については女性の30歳代（34.8%）と50歳代（32.6%）で3割台となっており、他の年齢に比べ多くなっている。（図19 - 2）

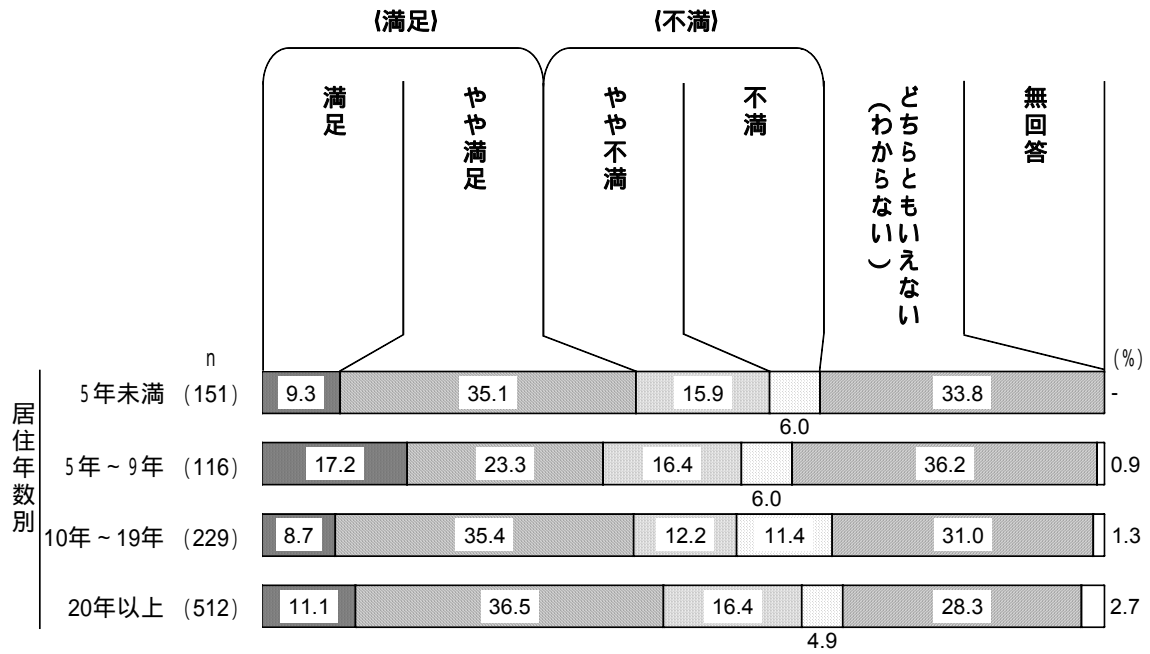
< 図19 - 2 > 性別・性 / 年齢別



【居住年数別】

居住年数別にみると、《満足》は20年以上が47.6%でもっとも多く、次に5年未満（44.4%）、10年～19年（44.1%）と続く。《不満》は大きな差はみられないものの、10年～19年が23.6%で多くなっている。「どちらともいえない（わからない）」は5年～9年で他居住年数にくらべ36.2%とやや多くなっている。（図19-3）

< 図19-3 > 居住年数別



(2) 市職員に必要な能力・資質

「市民の言葉を聴く姿勢」が45.5%でもっとも多い。

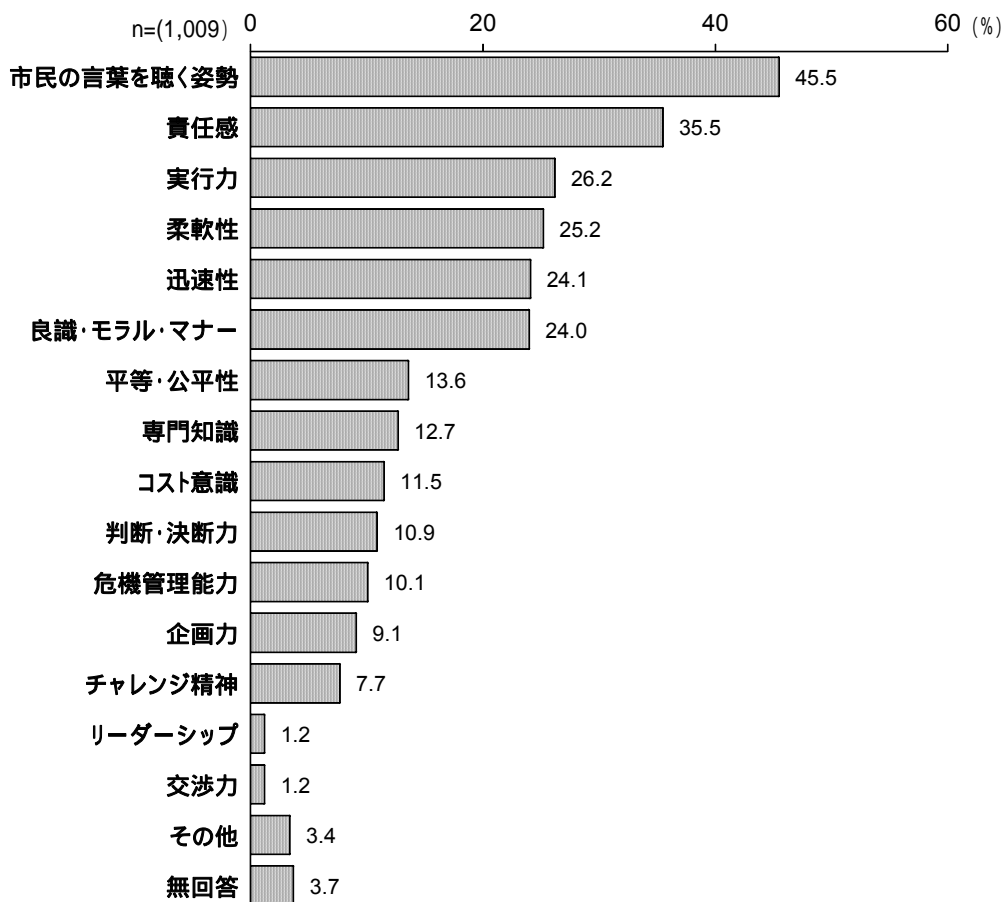
問38 小平市職員に必要な能力・資質は次のうちどれだと思いますか。(は3つまで)

[n=1,009]

1. 責任感	35.5%	9. 良識・モラル・マナー	24.0
2. 実行力	26.2	10. 危機管理能力	10.1
3. 判断・決断力	10.9	11. 平等・公平性	13.6
4. 市民の言葉を聴く姿勢	45.5	12. リーダーシップ	1.2
5. 企画力	9.1	13. コスト意識	11.5
6. 迅速性	24.1	14. 交渉力	1.2
7. 柔軟性	25.2	15. チャレンジ精神	7.7
8. 専門知識	12.7	16. その他	3.4
		(無回答)	3.7

市職員に必要な能力・資質について聞いたところ、「市民の言葉を聴く姿勢」が45.5%でもっとも多く、以下「責任感」(35.5%)が3割台、「実行力」(26.2%)、「柔軟性」(25.2%)、「迅速性」(24.1%)、「良識・モラル・マナー」(24.0%)が2割台で続いている。(図19-4)

<図19-4> 市職員に必要な能力・資質

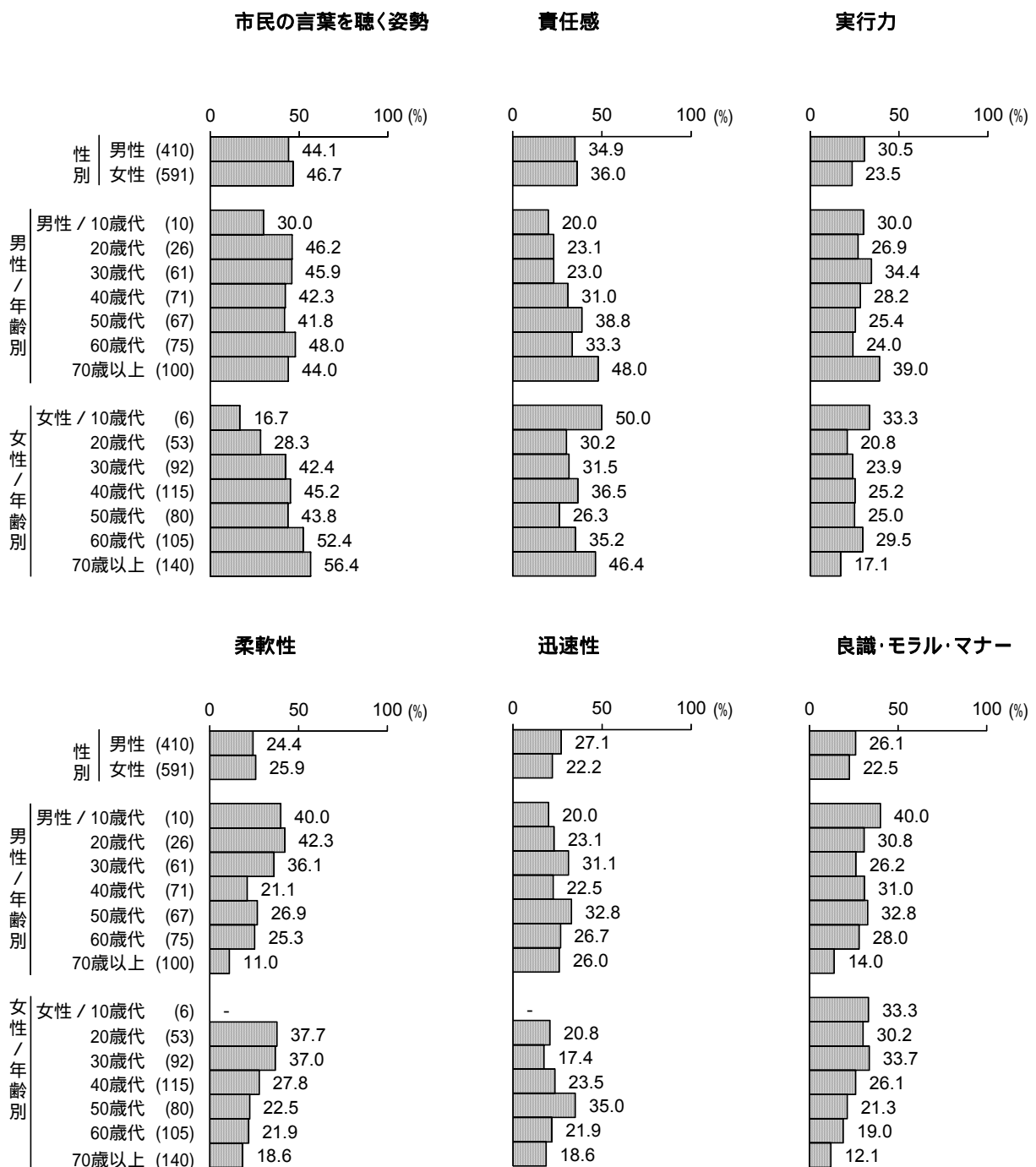


【性別・性 / 年齢別】

性別にみると、「市民の言葉を聴く姿勢」、「責任感」、「柔軟性」については女性が男性を上回っており、「実行力」、「迅速性」、「良識・モラル・マナー」については男性が女性を上回っており、「実行力」については男性が女性を7.0ポイント上回り比較的差が大きくなっている。

性・年齢別にみると、「市民の言葉を聴く姿勢」は女性において年齢層が高くなるにしたがい多くなり、70歳以上で56.4%ともっとも多い。「責任感」は男性、女性ともに70歳以上で多く、男性は48.0%、女性は46.4%となっている。この他、「実行力」は男性の70歳以上で39.0%、「柔軟性」は男性の20歳代で42.3%、「迅速性」は女性の50歳代で35.0%、「良識・モラル・マナー」は女性の30歳代で33.7%がそれぞれ多くなっている。(男女とも10歳代は回答者数が少ないため参考とする。)(図19 - 5)

< 図19 - 5 > 性別・性 / 年齢別



(3) 市が提供するサービスの向上や改善状況

《そう思う》が30.9%。《そう思わない》が24.4%。

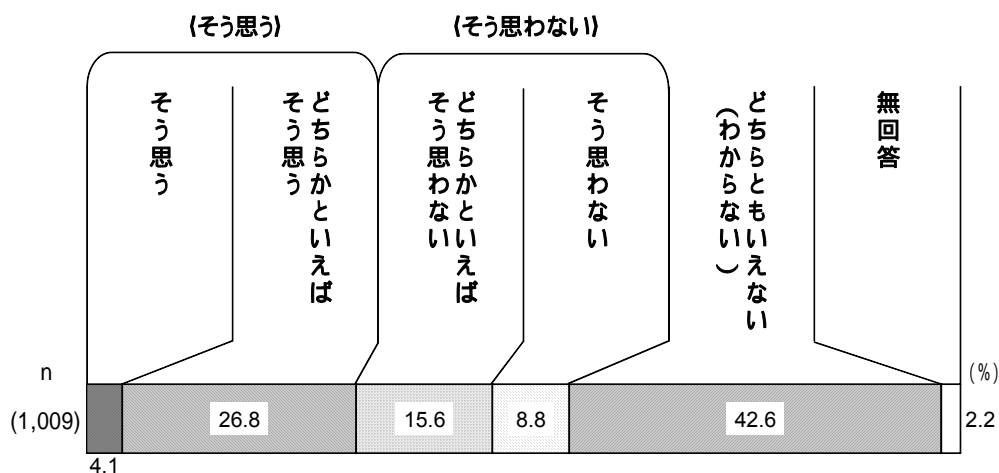
問39 あなたは、小平市で行っているサービスについて、向上や改善が進んでいると思いますか。
(は1つ)

[n=1,009]

1. そう思う	4.1%	3. どちらかといえばそう思わない	15.6
2. どちらかといえばそう思う	26.8	4. そう思わない	8.8
		5. どちらともいえない(わからない) (無回答)	42.6 2.2

市が提供するサービスの向上や改善が進んでいるか聞いたところ、「そう思う」が4.1%、「どちらかといえばそう思う」が26.8%で、これをあわせた《そう思う》は30.9%となっており、《そう思わない》(「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」)は24.4%となっている。(図19-6)

<図19-6> 市が提供するサービスの向上や改善状況

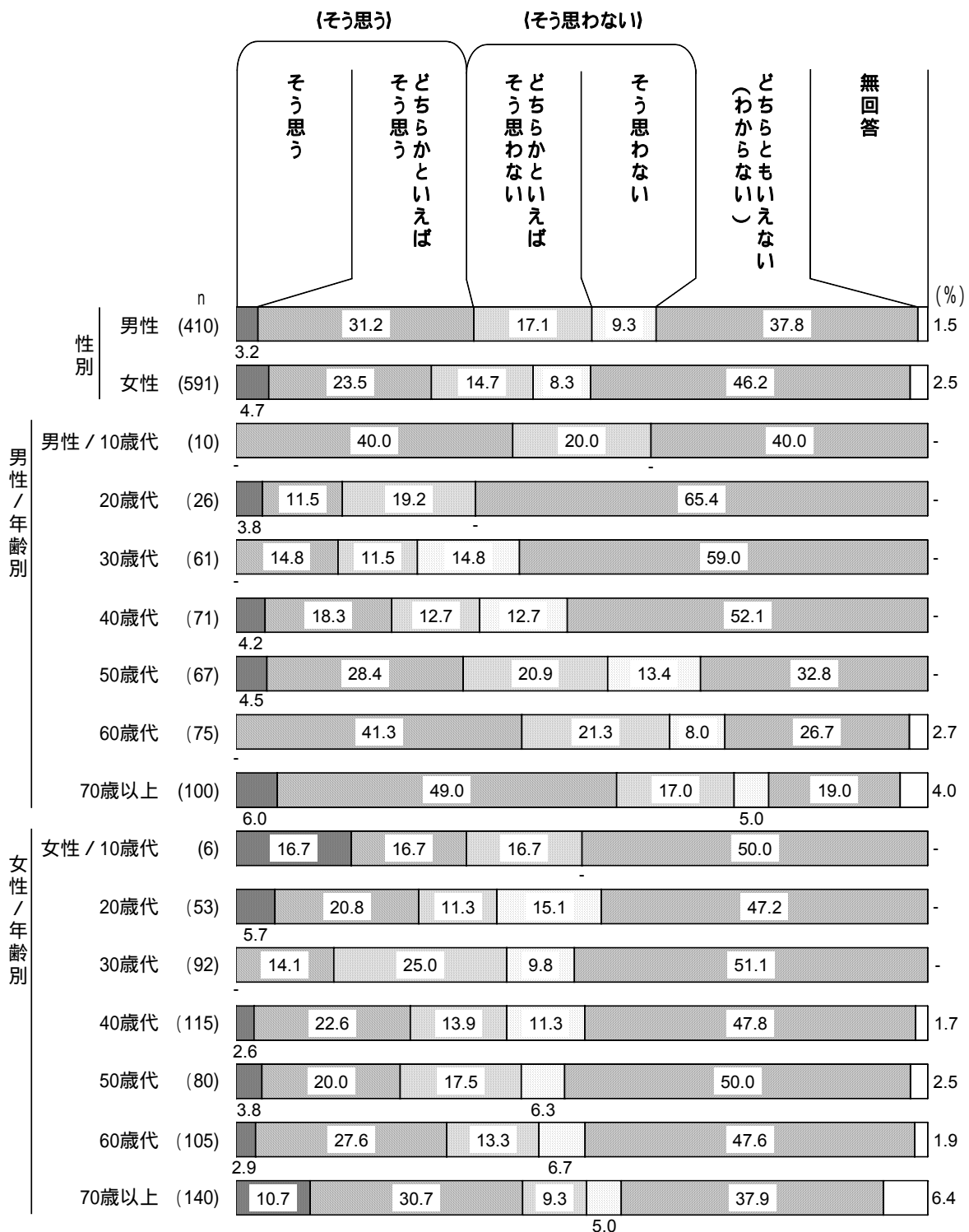


【性別・性 / 年齢別】

性別にみると、《そう思う》は男性が34.4%、女性が28.2%となっており、男性が女性を6.2ポイント上回る。また、《そう思わない》については男性が26.4%、女性が23.0%となっており、男性が女性を3.4ポイント上回る。「どちらともいえない(わからない)」については女性が8.4ポイント上回っている。

性・年齢別にみると、《そう思う》は男性の70歳以上でもっとも多く55.0%となっており、もっとも少ない30歳代(14.8%)と40.2ポイントの差がある。女性についても70歳以上が41.4%でもっとも多く、もっとも少ない30歳代(14.1%)と27.3ポイントの差がある。なお、《そう思わない》は男性が50歳代でもっとも多く34.3%、女性が30歳代の34.8%でもっとも多くなっている。(図19-7)

<図19-7> 性別・性 / 年齢別



20 市議会について

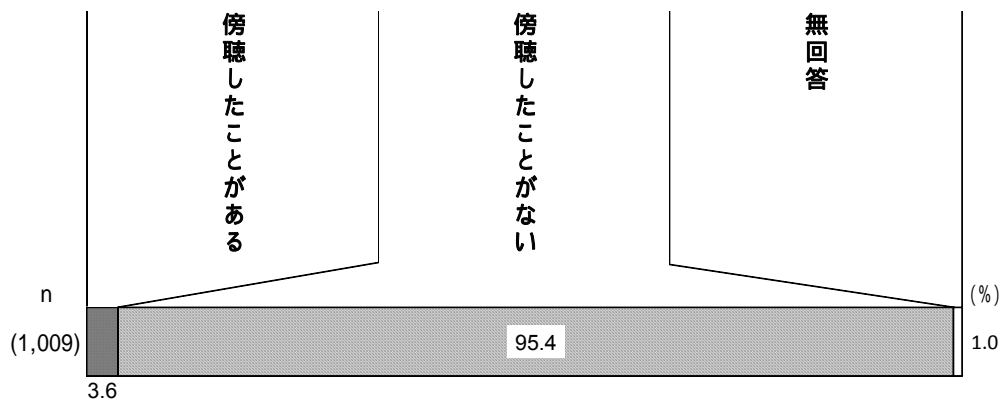
(1) 市議会の傍聴経験の有無

「傍聴したことがない」が95.4%。

問40 あなたは、市議会本会議を議場で傍聴したことがありますか。(は1つ)			
[n=1,009]			
1. 傍聴したことがある	3.6%	2. 傍聴したことがない	95.4
		(無回答)	1.0

市議会本会議の傍聴経験は、「傍聴したことがない」が95.4%と多数を占め、「傍聴したことがある」は3.6%にとどまっている。(図20 - 1)

<図20 - 1> 市議会の傍聴経験の有無

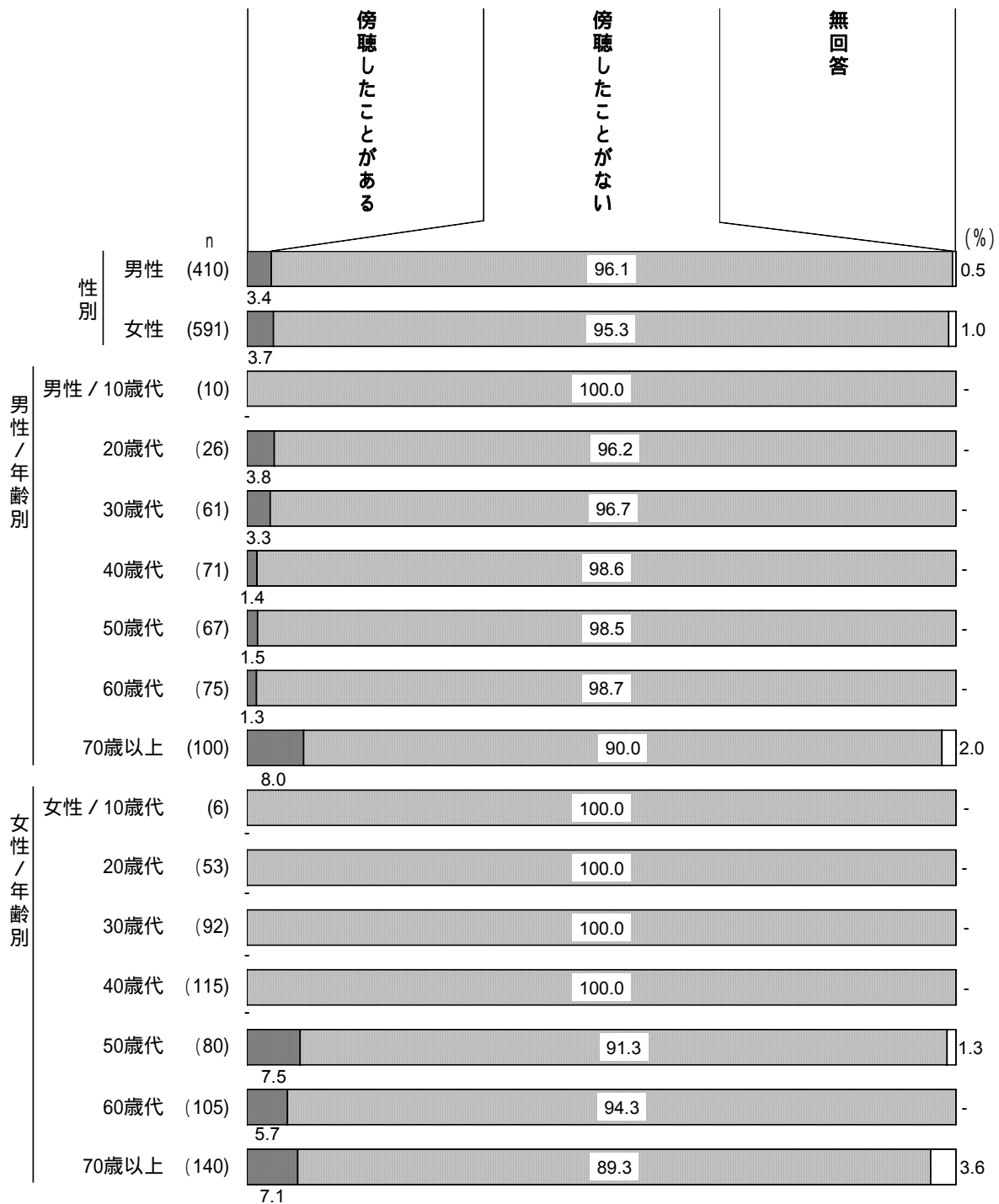


【性別・性 / 年齢別】

性別にみると、男性、女性ともに「傍聴したことがない」が多くを占め、男性が96.1%、女性が95.3%となっている。なお、性別による大きな差はみられない。

性・年齢別にみると、「傍聴したことがない」は女性の70歳以上の89.3%で8割台となっているが、男性、女性ともに他年齢区分では9割以上で、特に女性の40歳代以下で全数となっている。なお、「傍聴したことがある」と回答があったものでは、男性では70歳以上で8.0%、女性では50歳代で7.5%（同程度で70歳以上が7.1%）となっている。（図20 - 2）

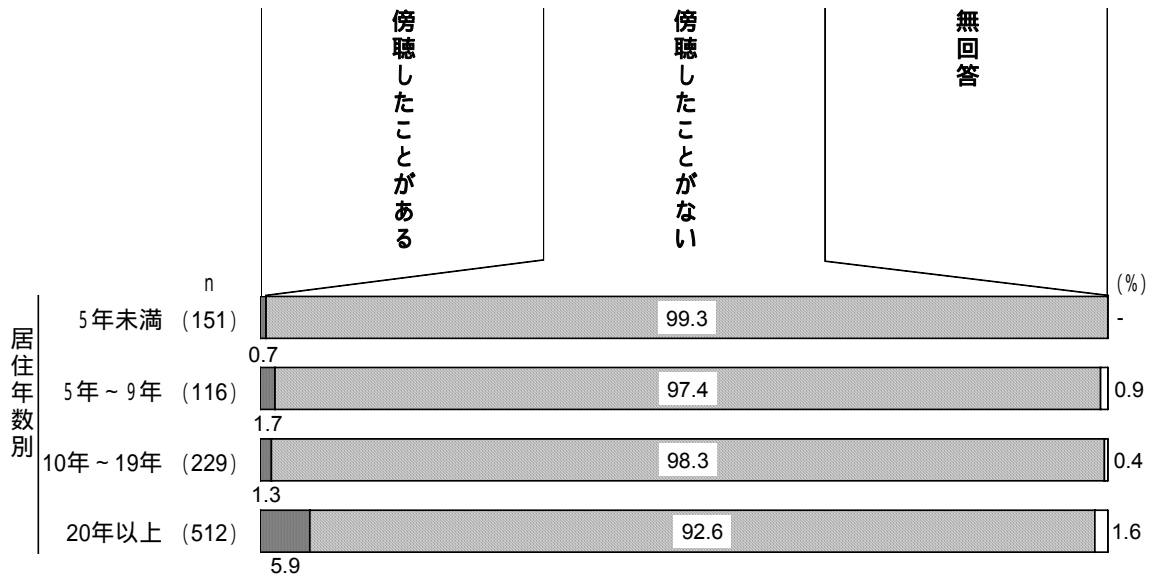
< 図20 - 2 > 性別・性 / 年齢別



【居住年数別】

居住年数別にみると、「傍聴したことがない」はいずれの年数でも9割台と多く、5年未満では99.3%となっている。「傍聴したことがある」と回答があったものでは、20年以上で5.9%となっている。
(図20 - 3)

< 図20 - 3 > 居住年数別



(1 - 1) 市議会の傍聴をしたことがない理由

「関心がない」が34.1%と多い。

(問40で「 2 傍聴したことがない」と答えた方におたずねします。)

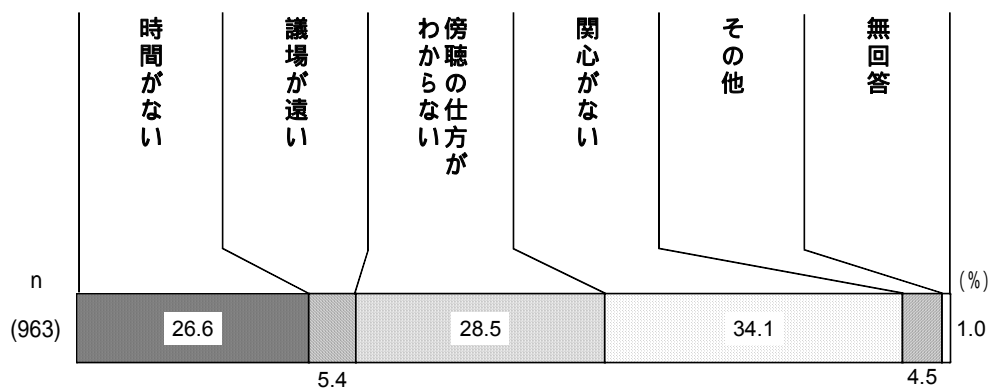
問40- 1 傍聴したことがない一番の理由は何ですか。(は1つ)

[n=963]

1 . 時間がない	26.6%	4 . 関心がない	34.1
2 . 議場が遠い	5.4	5 . その他	4.5
3 . 傍聴の仕方がわからない	28.5	(無回答)	1.0

傍聴をしたことがない理由を聞いたところ、「関心がない」が34.1%でもっとも多く、続いて、「傍聴の仕方がわからない」が28.5%、「時間がない」が26.6%で続いている。(図20 - 4)

< 図20 - 4 > 市議会の傍聴をしたことがない理由

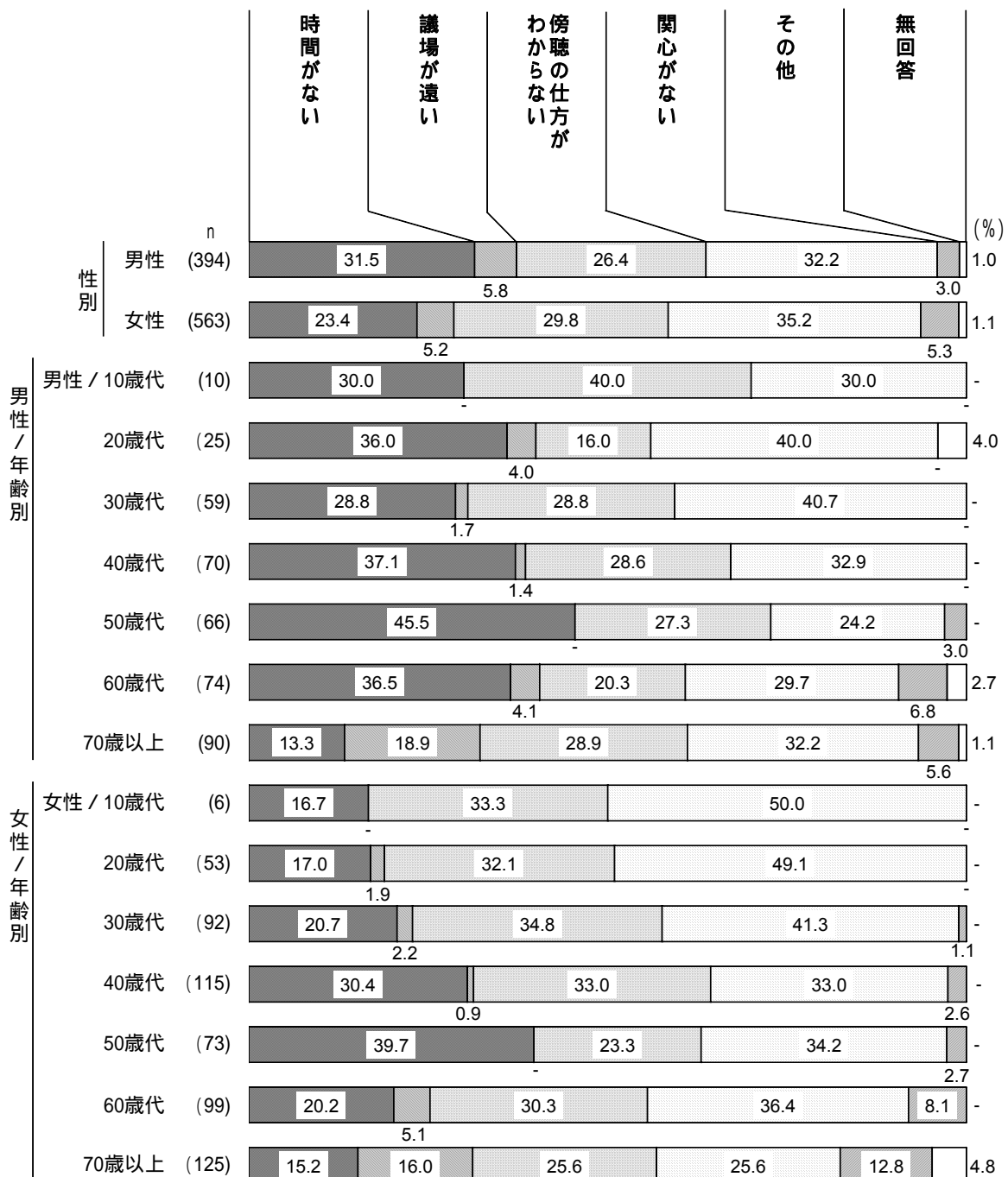


【性別・性 / 年齢別】

性別にみると、男性は「関心がない」がもっとも多く32.2%、次に「時間がない」が31.5%、「傍聴の仕方がわからない」が26.4%と続く。女性についても「関心がない」がもっとも多く35.2%、次に「傍聴の仕方がわからない」が29.8%、「時間がない」が23.4%と続いており、「時間がない」は男性が8.1ポイント、「傍聴の仕方がわからない」は女性が3.4ポイント、「関心がない」は女性が3.0ポイント、それぞれ上回っている。

性・年齢別にみると、「時間がない」は男性、女性ともに50歳代で多くなっており、男性は45.5%、女性は39.7%となっている。また、もっとも少ないのは男性、女性ともに70歳以上で、男性は13.3%、女性は15.2%となっており、その差は男性が32.2ポイント、女性が24.5ポイントとなっている。「傍聴の仕方がわからない」は男性70歳以上が28.9%（同程度で30歳代が28.8%、40歳代が28.6%）が多く、女性では30歳代が34.8%で多い。「関心がない」は男性が30歳代の40.7%で多く、女性では20歳代が49.1%と多くなっている。（男女とも10歳代は回答者数が少ないため参考とする。）（図20 - 5）

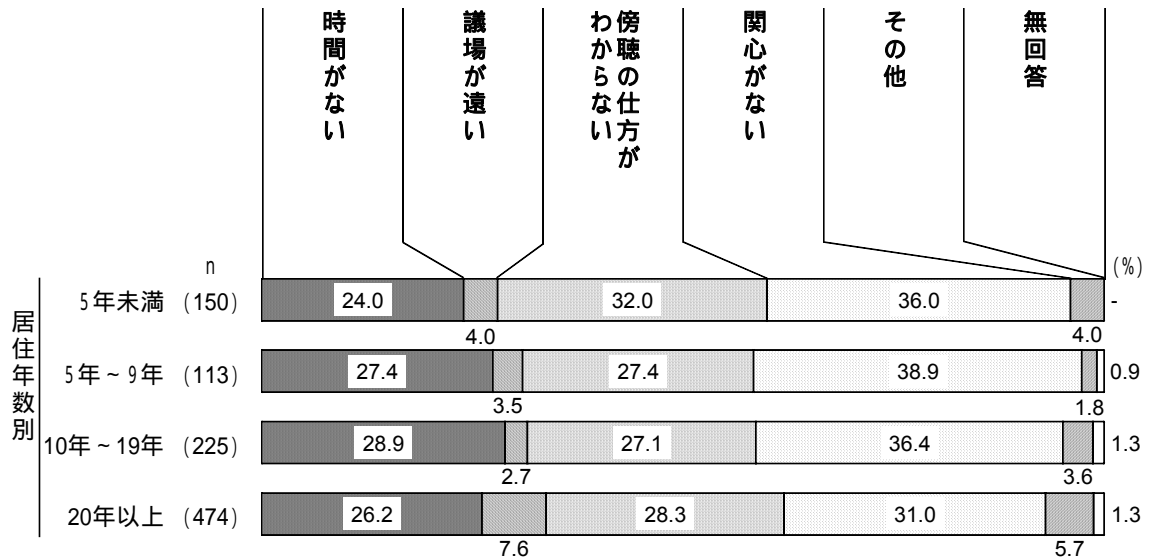
< 図20 - 5 > 性別・性 / 年齢別



【居住年数別】

居住年数別にみると、「時間がない」は10年～19年で多く28.9%、少ないのは5年未満の24.0%でその差は4.9ポイント、「傍聴の仕方がわからない」は5年未満で多く32.0%で、少ないのは10年～19年の27.1%でその差は4.9ポイント、「関心がない」は5年～9年で多く38.9%、少ないのは10年～19年の27.1%でその差は7.9ポイントになっている。(図20 - 6)

< 図20 - 6 > 居住年数別



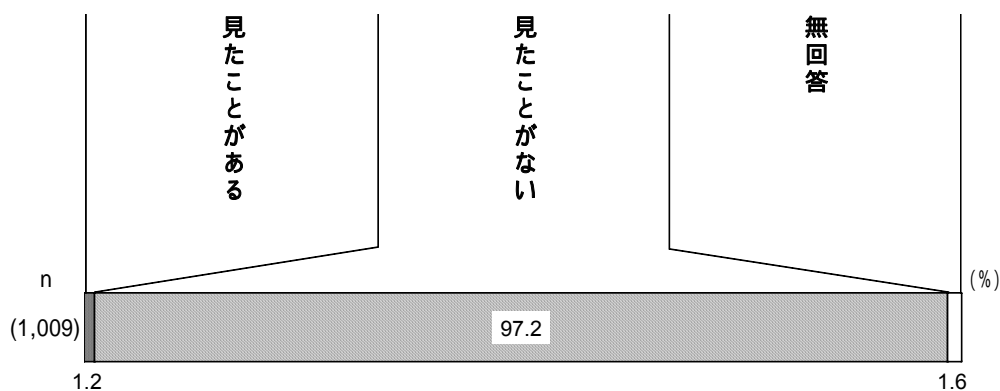
(2) 市議会のインターネット録画中継の視聴状況

「見たことがない」が97.2%。

問41 あなたは、市議会本会議のインターネット録画中継を見たことがありますか。(は1つ)			
〔n=1,009〕			
1. 見たことがある	1.2%	2. 見たことがない (無回答)	97.2 1.6

市議会のインターネット録画中継の視聴状況を聞いたところ、「見たことがない」が97.2%と多数を占め、「見たことがある」は1.2%にとどまっている。(図20-7)

<図20-7> 市議会のインターネット録画中継の視聴状況

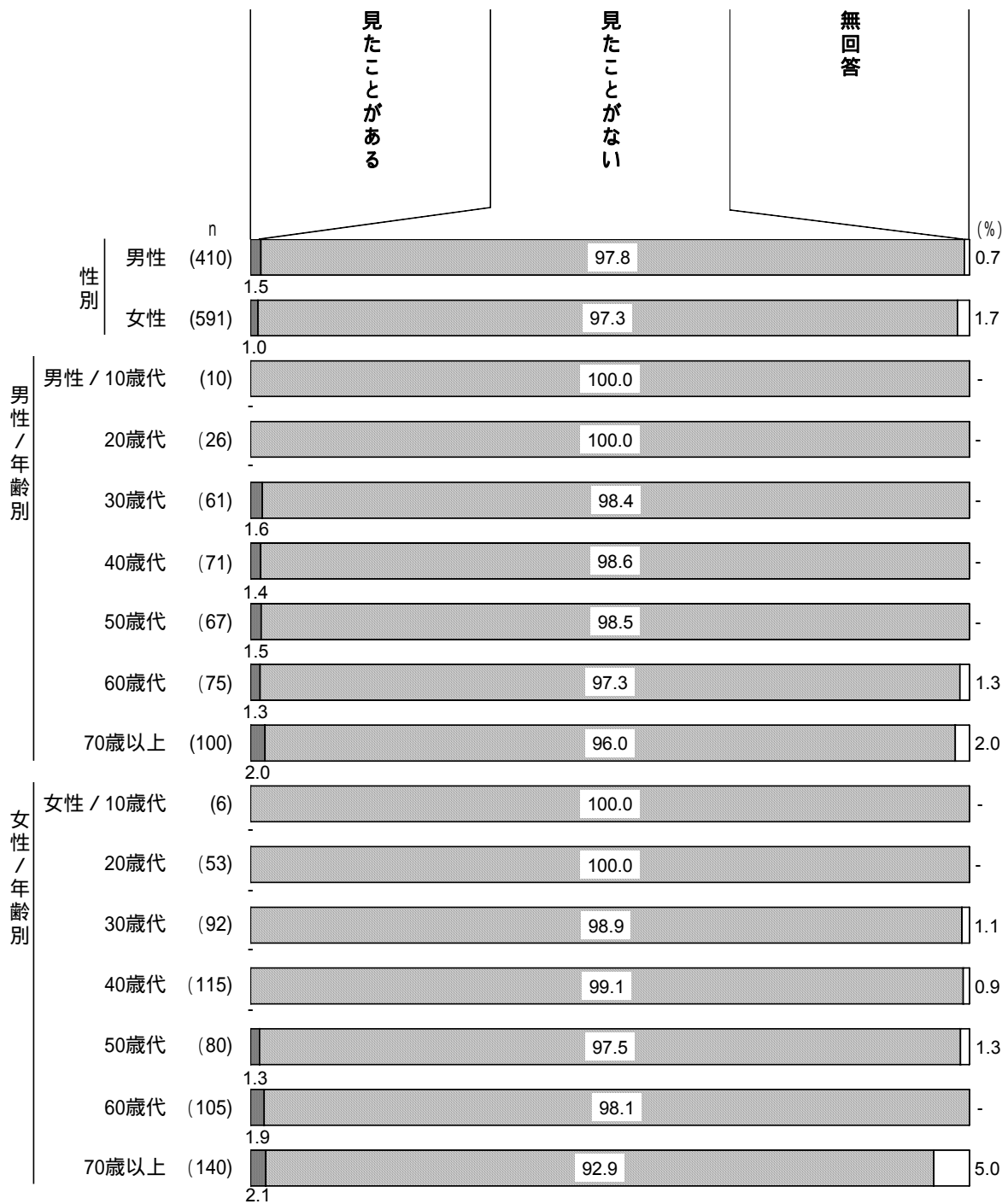


【性別・性 / 年齢別】

性別にみると、男性、女性ともに「見たことがない」が多くを占め、男性が97.8%、女性が97.3%となっている。なお、性別による大きな差はみられない。

性・年齢別にみると、「見たことがない」が多くを占めており、特に男性、女性ともに20歳代以下では全数となっている。なお、「見たことがある」と回答があったものが多いのは、男性、女性ともに70歳以上で男性が2.0%、女性が2.1%となっている。(図20 - 8)

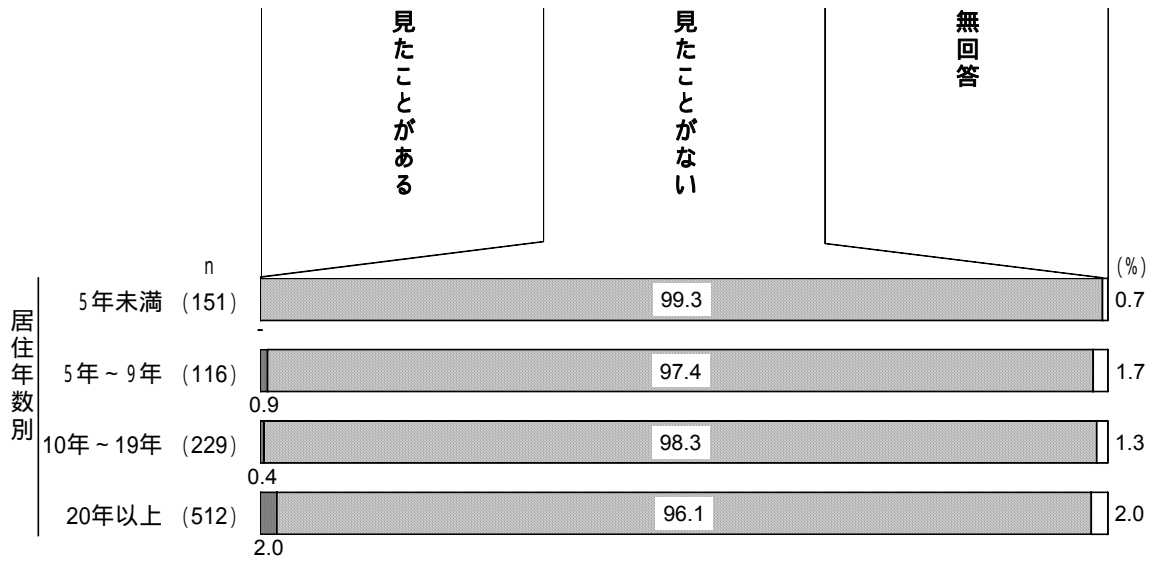
< 図20 - 8 > 性別・性 / 年齢別



【居住年数別】

居住年数別にみると、「見たことがない」はいずれの年数でも9割台と多く、5年未満では99.3%となっている。「見たことがある」は20年以上で2.0%となっている。(図20 - 9)

< 図20 - 9 > 居住年数別



21 今後の市政について

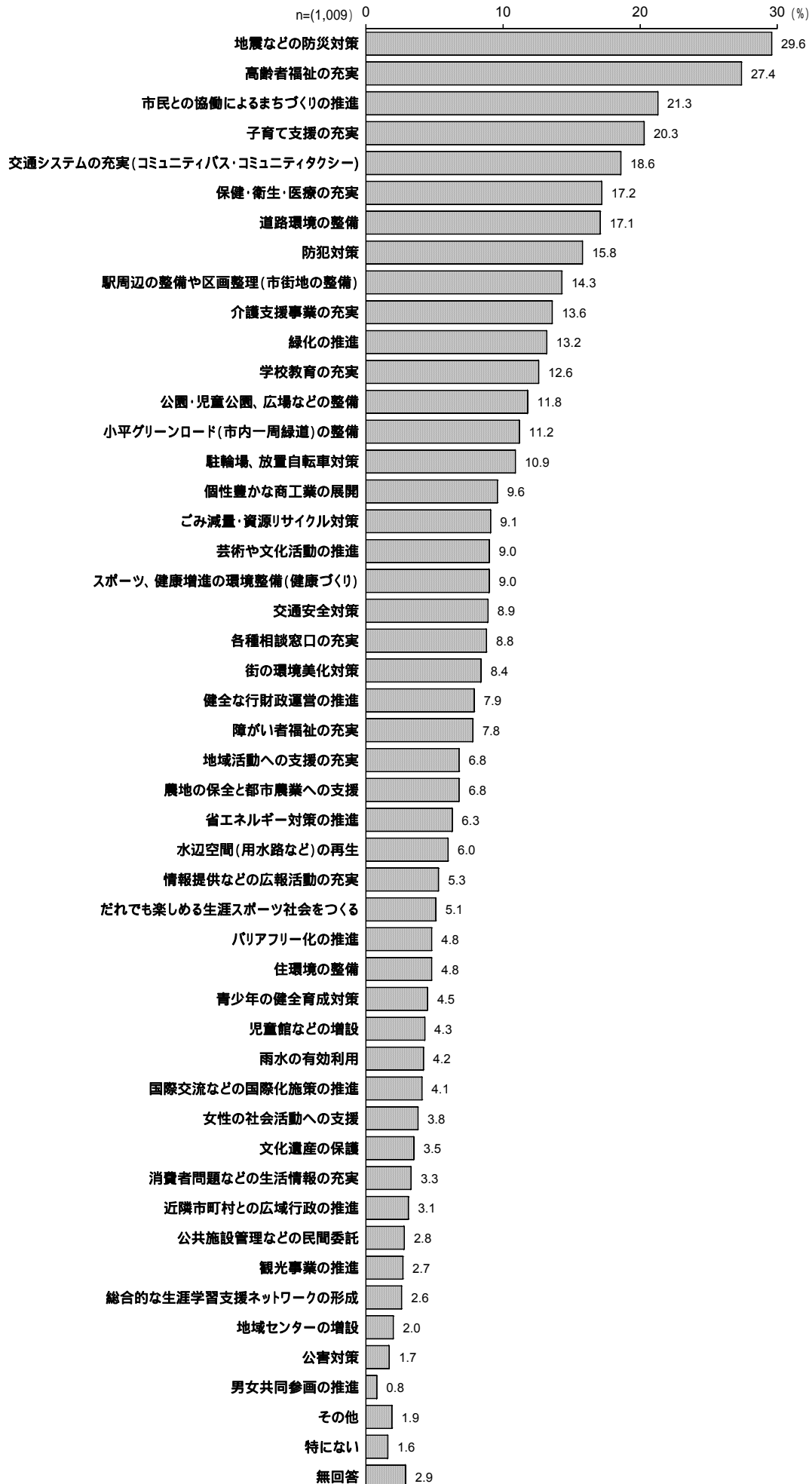
(1) 市の将来都市像実現のための政策

「地震などの防災対策」が29.6%でもっとも多い。

問42 小平市の将来都市像「躍動をかたちに 進化するまち こだいら」をめざすには、どのような政策を重点的に進めればよいと思いますか。(は5つまで)		
〔n=1,009〕		
1. 市民との協働によるまちづくりの推進	21.3%	26. 女性の社会活動への支援 3.8
2. 地域活動への支援の充実	6.8	27. 保健・衛生・医療の充実 17.2
3. 地域センターの増設	2.0	28. スポーツ、健康増進の環境整備(健康づくり) 9.0
4. 地震などの防災対策	29.6	29. 高齢者福祉の充実 27.4
5. 防犯対策	15.8	30. 障がい者福祉の充実 7.8
6. 各種相談窓口の充実	8.8	31. 介護支援事業の充実 13.6
7. 消費者問題などの生活情報の充実	3.3	32. バリアフリー化の推進 4.8
8. 情報提供などの広報活動の充実	5.3	33. 学校教育の充実 12.6
9. 国際交流などの国際化施策の推進	4.1	34. 総合的な生涯学習支援ネットワークの形成 2.6
10. 文化遺産の保護	3.5	35. だれでも楽しめる生涯スポーツ社会をつくる 5.1
11. 芸術や文化活動の推進	9.0	36. 駅周辺の整備や区画整理(市街地の整備) 14.3
12. 水辺空間(用水路など)の再生	6.0	37. 道路環境の整備 17.1
13. 雨水の有効利用	4.2	38. 住環境の整備 4.8
14. 公園・児童公園、広場などの整備	11.8	39. 交通システムの充実(コミュニティバス・コミュニティタクシー) 18.6
15. 小平グリーンロード(市内一周緑道)の整備	11.2	40. 交通安全対策 8.9
16. 観光事業の推進	2.7	41. 駐輪場、放置自転車対策 10.9
17. 省エネルギー対策の推進	6.3	42. 個性豊かな商工業の展開 9.6
18. 緑化の推進	13.2	43. 農地の保全と都市農業への支援 6.8
19. ごみ減量・資源リサイクル対策	9.1	44. 健全な行財政運営の推進 7.9
20. 街の環境美化対策	8.4	45. 公共施設管理などの民間委託 2.8
21. 公害対策	1.7	46. 近隣市町村との広域行政の推進 3.1
22. 子育て支援の充実	20.3	47. その他 1.9
23. 児童館などの増設	4.3	48. 特にない 1.6
24. 青少年の健全育成対策	4.5	(無回答) 2.9
25. 男女共同参画の推進	0.8	

小平市の将来都市像をめざすために重点的に進めるべき政策は、「地震などの防災対策」が29.6%でもっとも多く、以下、「高齢者福祉の充実」(27.4%)、「市民との協働によるまちづくりの推進」(21.3%)、「子育て支援の充実」(20.3%)が2割台、「交通システムの充実(コミュニティバス・コミュニティタクシー)」(18.6%)、「保健・衛生・医療の充実」(17.2%)、「道路環境の整備」(17.1%)が続いている。(図21-1)

< 図21 - 1 > 市の将来都市像実現のための政策



【時系列比較】

時系列で比較すると、前回（平成22年度）調査で1位となっていた「高齢者福祉の充実」は3.4ポイント減少し今回調査（27.4%）では2位にあげられている。「保健・衛生・医療の充実」が前回（27.9%）2位であったが今回（17.2%）は10.7ポイント減少し6位にあげられている。「ごみ減量・資源リサイクル対策」は前回（17.0%）8位にあげられていたが、今回（9.1%）は7.9ポイント減少し17位、「防犯対策」は前回（19.3%）5位にあげられていたが、今回（15.8%）は3.5ポイント減少し8位となっている。

次に前回とくらべ増加したものは「地震などの防災対策」が前回（21.5%）で4位にあげられていたが、今回は29.6%で8.1ポイント増加し1位にあげられている。「市民との協働によるまちづくりの推進」は前回（15.8%）10位にあげられていたが、今回は21.3%で5.5ポイント増加し3位にあげられており、「道路環境の整備」は前回（13.3%）12位にあげられていたが、今回は17.1%で3.8ポイント増加し7位にあげられている。なお、前回15位の「健全な行財政運営の推進」と19位の「障がい者福祉の充実」は今回圏外となり、代わって16位に「個性豊かな商工業の展開」、20位に「交通安全対策」となっている。（表2）

<表2> 時系列比較

順位	平成24年度（n=1,009）		順位	平成22年度（n=1,206）	
1	地震などの防災対策	29.6	1	高齢者福祉の充実	30.8
2	高齢者福祉の充実	27.4	2	保健・衛生・医療の充実	27.9
3	市民との協働によるまちづくりの推進	21.3	3	子育て支援の充実	22.1
4	子育て支援の充実	20.3	4	地震などの防災対策	21.5
5	交通システムの充実	18.6	5	防犯対策	19.3
6	保健・衛生・医療の充実	17.2	6	交通システムの充実	18.6
7	道路環境の整備	17.1	7	駅周辺の整備や区画整理	17.3
8	防犯対策	15.8	8	ごみ減量・資源リサイクル対策	17.0
9	駅周辺の整備や区画整理	14.3	9	介護支援事業の充実	16.1
10	介護支援事業の充実	13.6	10	市民との協働によるまちづくりの推進	15.8
11	緑化の推進	13.2	11	小平グリーンロードの整備	14.0
12	学校教育の充実	12.6	12	道路環境の整備	13.3
13	公園・児童公園、広場などの整備	11.8	13	緑化の推進	12.5
14	小平グリーンロードの整備	11.2	14	学校教育の充実	12.1
15	駐輪場、放置自転車対策	10.9	15	健全な行財政運営の推進	11.4
16	個性豊かな商工業の展開	9.6	16	公園・児童公園、広場などの整備	10.8
17	ごみ減量・資源リサイクル対策	9.1	17	スポーツ、健康増進の環境整備	10.4
18	芸術や文化活動の推進	9.0	18	駐輪場、放置自転車対策	9.5
	スポーツ、健康増進の環境整備		19	障がい者福祉の充実	8.2
20	交通安全対策	8.9	20	芸術や文化活動の推進	7.7

【性別・性 / 年齢別】

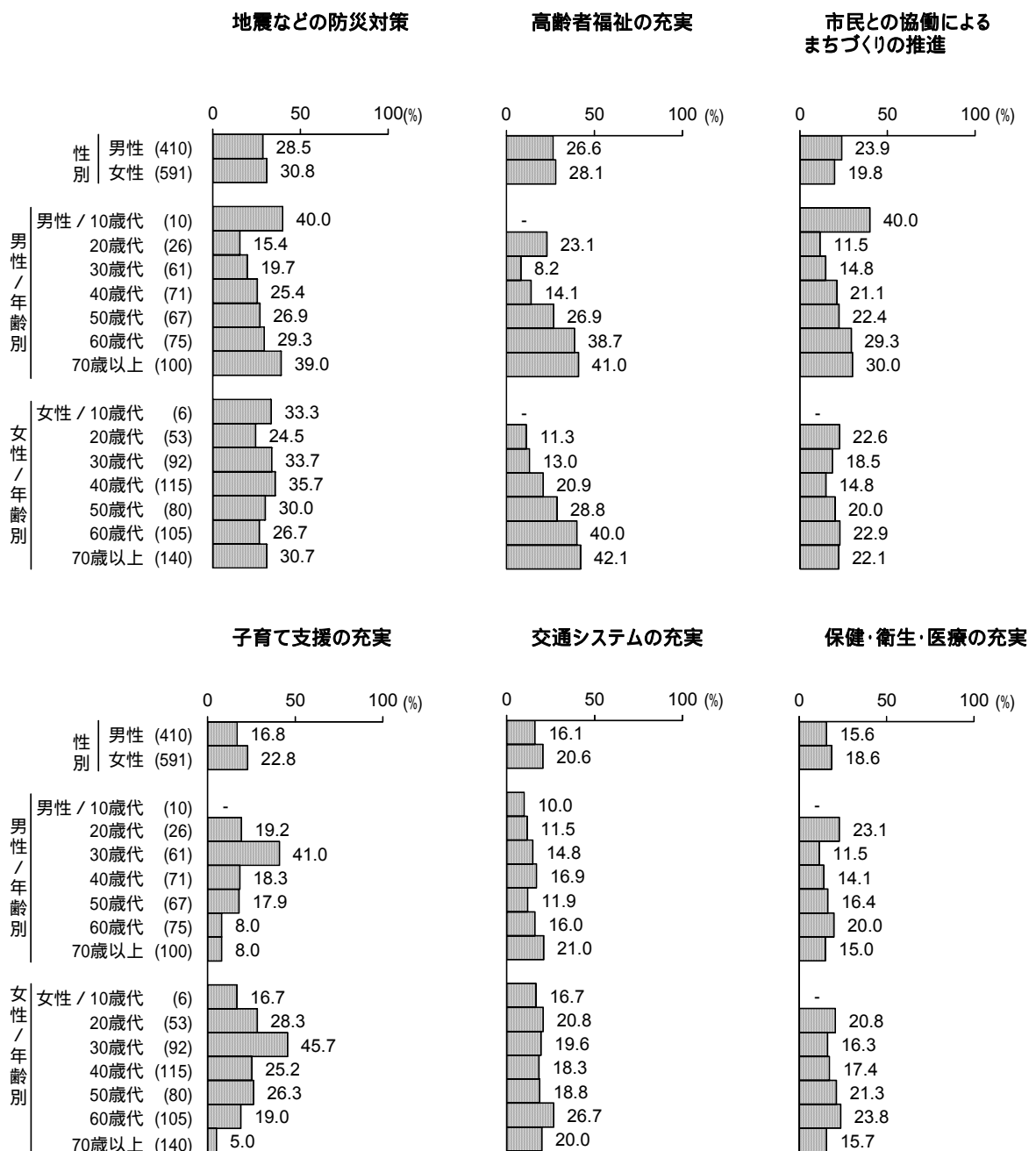
性別にみると、上位6項目のうち5項目で女性が男性を上回り、「地震などの防災対策」は2.3ポイント、「高齢者福祉の充実」は1.5ポイント、「子育て支援の充実」は6.0ポイント、「交通システムの充実」は4.5ポイント、「保健・衛生・医療の充実」は3.0ポイント、それぞれ上回っている。

「市民との協働によるまちづくりの推進」については男性が23.9%、女性が19.8%で唯一女性を上回る項目となっており、その差は4.1ポイントとなっている。

性・年齢別にみると、「地震などの防災対策」は男性の70歳以上(39.0%)と女性の40歳代(35.7%)で多くなっており、「高齢者福祉の充実」は男性、女性ともに70歳以上で多く、男性が41.0%、女性が42.1%となっている。「市民との協働によるまちづくりの推進」は男性の70歳以上で30.0%(同程度で60歳代が29.3%)、女性は60歳代で22.9%(同程度で20歳代が22.6%)と多くなっている。なお、「子育て支援の充実」は男性、女性ともに30歳代で多く、男性が41.0%、女性が45.7%となっている。また、「交通システムの充実」は女性の60歳代で26.7%、「保健・衛生・医療の充実」は女性の60歳代で23.8%で、それぞれ多くなっている。(男女とも10歳代は回答者数が少ないため参考とする。)

(図21 - 2)

< 図21 - 2 > 性別・性 / 年齢別



(2) 自由意見

問43 これからの小平市のまちづくりについて、ご意見・アイデア等ございましたら、ご自由にご記入ください。

まちづくりについての、意見やアイデアを自由に記述していただいた。その結果、234人から延べ393件の回答が寄せられた。ここでは、記述された内容から〈まちづくり〉、〈都市基盤〉、〈公共施設〉、〈生活環境〉、〈医療・保健・福祉〉、〈市政〉、〈広報活動〉、〈地域活動〉、〈子育て・教育・文化〉、〈アンケートに関して〉、〈その他〉へと分類し、その件数を掲載する。

なお、一人の回答が複数の内容にわたる場合には、複数回答として、それぞれを各テーマに分類している。

まちづくり

97

自然環境の整備について	26
駅周辺・商店街の開発・整備	19
小平市の充実したまちづくり	15
商業施設の充実	13
活性化するためのまちづくり	10
住環境の整備について	5
地域の特産品・PRについて	5
安全なまちづくり	4

都市基盤

92

道路・歩道の整備について	47
交通機関について	37
街灯・防犯灯の設置	4
駐車場の整備について	2
駐輪場の整備について	1
電信柱の整備について	1

公共施設

29

公共施設全般について	11
公園の整備について	6
図書館について	6
公民館について	3
地域センターについて	2
その他	1

生活環境 11

ゴミ収集に関して	6
環境整備の対策	5

医療・保健・福祉 21

高齢者対策	6
福祉全般について	5
健康管理・健康診断について	4
障がい者対策	4
医療機関について	2

市政 74

市役所の取り組み	31
市政全般	17
市職員の対応について	8
市政への市民参画について	8
税金について	6
財政	2
その他	2

広報活動 9

広報・市のホームページについて	9
-----------------	---

地域活動 17

地域活動の支援	10
お祭り・イベント	5
ボランティア活動について	1
自治会・町内会について	1

子育て・教育・文化 36

子育て支援の充実	17
社会的マナー啓発	8
スポーツ施設について	4
学校・教育について	3
文化・芸術活動の促進	2
教育行政のありかたについて	2

アンケートに関して 4

その他 3
